札幌市立大学

年報 VOL.5

平成22年度

SAPPORO CITY UNIVERSITY
Administrative Office／School of Design
Geijutsu-no-mori 1, Minami-ku, Sapporo 005-0864 Japan
School of Nursing
Kita 11 Nishi 13, Chuo-ku, Sapporo 060-0011 Japan

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報
平成22年度

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

はじめに　―大学院のスタート―

平成22年4月、念願の、大学院デザイン研究科ならびに看護学研究科、助産学専攻科を開設し修士課程1期生を迎え入れた。本学の特色であるデザイン学部と看護学部の連携教育として推進してきた1年次の「スタートアップ演習」と3年次後期からの「学部連携演習」は順調に進み、大学院においても連携プロジェクト演習がスタートした。平成23年3月には、学部第二期生が卒業を迎えた。デザイン学部では、就職希望者61名で就職率85.2％、進学希望者18名で進学率100％。看護学部では、就職希望者77名で就職率100％、進学希望者5名で進学率100％であった。平成22年度の入学者選抜状況は、デザイン学部受験者は前期136名（2.52倍）、後期98名（7.00倍）、特別選抜は40名（3.33倍）で、看護学部受験者は前期148名（3.08倍）、特別選抜89名（2.78倍）であった。また、編入学者選抜試験では、デザイン学部13名、看護学部10名が入学した。本学大学院1期生では、デザイン研究科受験者数は、18名（1.00倍）、看護学研究科受験者数は、21名（1.17倍）、助産学専攻科受験者数は、28名（2.80倍）であった。

研究活動面では、学内研究費配分として、学術奨励研究9件、学内共同研究6件を採択した。学外研究費は、科学研究費補助金20件（デザイン学部5件で教員34名での取得率は15％、看護学部15件で教員42名での取得率は36％）。ここで科学研究費補助金取得件数が大学の研究水準の一般的な評価指標となっていることを考えると、全教員数76名に対して、取得数20件（取得率26％）の状況は本学の大きな課題である。一方で、受託研究費14件、研究補助金2件、寄附金6件を得た。海外研修は40件実施した。個人研究業績の総件数は、デザイン学部延べ253件、看護学部延べ397件であった。

社会活動面では、受託研究12件、高大連携活動等24件、公開講座31件、本年報に報告している、学生参加事業を含むその他の地域貢献諸活動は延べ95件、専門職支援・セミナー講師等は延べ117件（デザイン学部23件、看護学部94件）であった。中でも本学の地域連携研究活動はようやく地域に根を下ろした長期プロジェクトとして動き始めた。

開学5年度目、「学社連携による循環型就業力育成プログラム」が文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）」として採択されたのはうれしいニュースであった。また、平成22年度自己点検・評価報告書（平成19－20年度）を刊行した。これまで試行的に実施してきた教員評価制度について検証するとともに、見直しを行い、平成21年度の個人業績に基づく教員評価を本格実施した。大学院設置特別委員会において、平成24年4月の大学院博士課程設置へ向けて文科省の認可申請のための準備を進めた。平成23年3月には、芸術の森キャンパスの前身である札幌市立高等専門学校の2年制専攻科が最後の修了生を送り出して、「札幌市立高専」は惜しまれながら閉校した。

本学は現在大学院建設の途上にあるが、北海道における新たな「知と創造の拠点」として地域社会との連携を強化しつつ、複眼的思考を有する人材を育成すべく「人間重視」と「地域貢献」を理念とした教育体制を構築しつつある。日本は、平成23年3月11日には東日本大震災により空前の被害をこうむることとなったが、このような災害の経験から、自然の力に対する新たな恐怖の念と、サスティナブルな住環境維持のために、あらためて異分野の連携の重要さとともに、ヒトのこころの連携の大切さを認識することとなった。大学を構成する学生・教職員、そして市民、道民、すべての人たちにとって、健康とこころの安心を託される大学の構築を目指したい。

札幌市立大学学長　原　田　　昭

目　次

はじめに

Ⅰ　概要

1　大学設置の経緯 …… 1
2　デザイン学部の概要 …… 3
3　看護学部の概要 …… 4
4　デザイン研究科の概要 …… 6
5　看護学研究科の概要 …… 7
6　助産学専攻科の概要 …… 8
7　中間評価 …… 9
8　行事 …… 10

Ⅱ　教育活動

1　教育活動概要 …… 11
2　共通教育・連携教育 …… 12
3　デザイン学部 …… 14
4　看護学部 …… 24
5　デザイン研究科 …… 39
6　看護学研究科 …… 43
7　助産学専攻科 …… 47

Ⅲ　研究活動

1　研究活動概要 …… 51
2　個人研究費による研究一覧 …… 51
3　学内公募研究課題一覧 …… 54
4　学外からの研究費、研究補助金などの受入状況 …… 55
5　寄附金の受入状況 …… 57
6　海外出張記録 …… 57

Ⅳ　社会活動

1　地域貢献諸活動 …… 61
2　公開講座開催実績 …… 71
3　社会における活動 …… 73
4　専門職支援・セミナー講師等 …… 77
5　国際交流実績 …… 83
6　サテライトキャンパスの利用状況 …… 83

Ⅴ　キャリア支援活動

1　デザイン学部 …… 85
2　看護学部 …… 89

Ⅵ　平成２３年度入学者選抜結果
1　デザイン学部・看護学部 …… 93
2　大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科　修士課程 …… 98
3　助産学専攻科 …… 101
Ⅶ　附属図書館
1　概要 …… 103
2　利用状況 …… 104
Ⅷ　役員会、経営審議会及び教育研究審議会
1　役員会及び審議会の審議状況 …… 105
2　役員及び審議会委員名簿 …… 107
Ⅸ　学内運営の概要
1　平成２２年度公立大学法人札幌市立大学　組織図 …… 109
2　部局長会議 …… 109
3　企画戦略会議 …… 110
4　教授会 …… 111
5　附属図書館 …… 111
6　地域連携研究センター …… 111
7　アドミッションセンター …… 112
8　キャリア支援センター …… 113
9　学内委員会 …… 113
10　FD・SD活動 …… 120
Ⅹ　資料
1　平成２２年度年度計画 …… 125
2　平成２２年度決算 …… 136
3　教職員数 …… 137
4　管理職一覧表 …… 137
5　教員一覧表 …… 138
6　学生定員及び学生数 …… 139
7　授業料等 …… 140
8　奨学金貸与・授業料減額免除実施状況 …… 140
9　学生の入選・受賞 …… 141
10　学生の課外活動 …… 142
11　後援会 …… 143
12　教育･研究刊行物一覧 …… 144
13　施設 …… 144
14　大学への交通アクセス …… 150
15　札幌市立大学　大学歌『みらいの手』 …… 151
Ⅺ　教員業績一覧 …… 153

編集後記

Ⅰ　概要

1　大学設置の経緯

環境問題や少子高齢化、高度情報化、国際化などの進展に伴い、社会構造がますます複雑化する中で、学術研究の高度化、学際化とともに、社会では高い資質と能力を持った職業人が強く求められている。特に、札幌市においては、公共事業の削減が進む中、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取り組みが特に重要であり、こうした取り組みに対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

また、今後も当分の間、看護職の不足が続くと予測されているにもかかわらず、看護職養成機関の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。そうした中、在宅医療を支える訪問看護等の需要増加を始めとして、今後は、患者の生活の質向上を目指したケアを行うことができる、広範で高度な看護能力を有する看護職の確保が求められている。

一方、今日の高等教育機関には、その高度な教育研究機能を通じて、これまで以上に地域社会への貢献を果たすことが大きな社会的要請となっている。

平成3年に開校した札幌市立高等専門学校は、中学卒業時から5年間の早期一貫教育を行うデザイン系高等教育機関として、実践的職業人を数多く輩出してきたほか、企業や行政からの受託研究などを通じて、産業の振興や市民生活の向上に貢献してきた。

また、昭和40年に開校した札幌市立高等看護学院は、高校卒業後の3年課程の専修学校として、市立札幌病院を始めとする札幌市内の医療機関に看護職を多数輩出し、市民の健康支援に貢献してきた。

このような状況の中で、先の地域課題への対応や社会的要請にこたえるために、札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院の大学化の必要性と方向性について幅広い論議を行うべく、平成13年11月、「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」を設置した。

大学化検討懇話会は、市民論議の中心的役割を担う立場から、インターネットを始め、さまざまな形で寄せられる市民の意見に耳を傾け、審議経過を逐次公開しながら検討を進め、平成14年12月、約1年間にわたる市民論議の集大成として、「札幌市立高等専門学校と札幌市立高等看護学院が社会構造の変化に的確に対応し、かつ、地域社会の要請にこたえていくためには、4年制大学化によるレベルアップをできるだけ早期に図る必要がある。」とした「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」をまとめた。

こうした市民論議の経過を踏まえて、札幌市では、平成15年9月に「(仮称)札幌市立大学基本構想」を策定し、平成18年春の札幌市立大学の開学を目指すこととした。

そして、この基本構想に盛り込まれた方向性を具体化するために、平成15年11月に大学教育の専門家を中心とする「(仮称)札幌市立大学設置準備委員会」を設置して調査・審議を進め、学部・学科や教育課程、学生の受け入れ、校地・校舎のあり方といった事項について準備委員会における検討内容を踏まえて、平成16年7月に「(仮称)札幌市立大学基本計画」を策定し、平成17年4月に札幌市立大学の設置認可申請を行った。同年12月に大学の設置が認可され、「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を理念とした札幌市立大学を平成18年4月に開学した。

また、デザインと看護の学部での教育を基盤として、より高度な専門的知識を有する高度専門職業人及び研究者・教育者の育成を目的として大学院修士課程を設置することとした。

大学院修士課程は大学院基本計画に基づき1期生の卒業時期に合わせた開設が計画され、平成21年5月に「札幌市立大学大学院設置認可申請書」を文部科学省に提出、10月に大学院の設置が認可され、平成22年4月に札幌市立大学大学院を開設した。

大学院の開設と合わせて、より高度な能力を持った助産師の養成が必要とする社会的要請を受け、本学に助産学専攻科を設置して助産師の養成を行うこととした。

沿革

昭和40年4月	札幌市立高等看護学院　開校
平成3年4月	札幌市立高等専門学校　開校
平成8年4月	札幌市立高等専門学校専攻科　開設 札幌市立高等専門学校附属研究所　開設
平成13年11月	「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化検討懇話会」設置
平成14年12月	同懇話会による「市立高等専門学校・高等看護学院の大学化に関する提言」
平成15年9月	「（仮称）札幌市立大学基本構想」策定
平成15年11月	「（仮称）札幌市立大学設置準備委員会」設置
平成16年7月	「（仮称）札幌市立大学基本計画」策定
平成17年12月	大学設置認可
平成18年3月	公立大学法人札幌市立大学　設立認可
平成18年4月	公立大学法人札幌市立大学　開学
平成18年10月	サテライトキャンパス　開設
平成19年4月	地域連携研究センター　開設 アドミッションセンター　開設
平成20年3月	札幌市立高等看護学院　閉校
平成20年4月	キャリア支援センター　開設
平成20年8月	認定看護管理者制度サードレベル教育課程　開講
平成21年3月	札幌市立高等専門学校本科　閉校
平成21年10月	大学院設置認可
平成21年12月	助産学専攻科の助産師学校指定通知
平成22年4月	デザイン研究科・看護学研究科・助産学専攻科　開設
平成23年3月	札幌市立高等専門学校専攻科　閉科

2　デザイン学部の概要

1)　特色

デザイン学部では、大学の特色を踏まえ、幅広い職業人の育成を行うことを基盤とし、デザインという特定の専門分野の教育研究を通じて、社会に貢献することを特色としている。具体的には、優秀で創造的な人材を社会に輩出するほか、企業との共同研究や受託研究といった産学連携、個人の創造性・スキルに基盤を置き、知的資産によって価値を生み出す創造的な産業の振興などを通じて社会に貢献するものである。

したがって、デザイン学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、デザインという「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2)　教育目的

デザイン学部では、次のような人材の育成を目的とする。

①　幅広いデザイン能力を持った人材の育成
デザインの基礎的な理論や技術について幅広く教育を行い、高度な職業人に必要なデザイン能力を持った人材を育成する。

②　人間中心の視点に立ったデザインに取り組める人材の育成
造形の基盤となる芸術的要素に機能の基盤となる工学的要素を融合させ、人にやさしいデザインや使いやすいデザインなど、人間中心の視点に立ったデザインに取り組むことのできる人材を育成する。

③　地域社会に貢献できる人材の育成
時代や社会の要請を的確に捉えた教育研究に取り組むとともに、地域産業や芸術・文化の振興を始め、都市機能や都市景観の向上など、まちづくり全体に幅広く貢献する人材を育成する。

3)　育成する人材像

札幌市においては、IT産業に代表される札幌の産業特性に対応したデザイン分野や、積雪寒冷という札幌の気候風土に着目したデザイン分野など、地域社会に密着した産業の振興への取組が特に重要視されており、こうした取組に対応できる幅広いデザイン能力を持った職業人が求められている。

デザイン学部では、そうした社会の人材需要にこたえるとともに、教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

①　高いコミュニケーション能力
的確に意思疎通を図り、豊かな人間関係を形成することができる能力のほか、海外とのコミュニケーションに必要な実用的な英語能力、高度情報化社会に不可欠な情報処理能力を養う。

②　課題探求能力と問題解決能力
社会の課題やニーズを自ら探求する能力と、その問題をデザインによって解決することのできる能力を養う。

③　デザインの基礎となる表現力
豊かな感性を涵養するとともに、創造的な発想と豊かな表現力を養う。

④　人間や環境に配慮したデザイン能力
人間にとって使いやすいデザインや環境への負荷に配慮したデザインを行う能力を養う。

⑤　新たな価値を発見する柔軟な発想
固定観念にとらわれず、さまざまな視点からデザインに取り組むことのできる柔軟な発想を養う。

⑥　企画力や管理・運営能力
デザインを実践的に活用することのできる企画力や管理・運営能力を養う。

3　看護学部の概要

1)　特色

看護学部では、幅広い職業人の育成を行うことを基盤として、看護学という特定の専門的分野の教育研究を通じて、社会貢献を果たしていくことを特色としている。具体的には、確実な看護実践力を持ち、高い資質を有する看護職を輩出するとともに、保健・医療・福祉行政や関係機関などと連携し、地域看護の充実や市民の健康の保持増進につながる研究を通して社会に貢献するものである。

したがって、看護学部では、平成17年1月中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」にある七つの機能のうち、「幅広い職業人養成」を主軸とするほか、看護という「特定の専門的分野の教育・研究」及び「社会貢献機能」に比重を置いて教育研究に取り組むことを特色としている。

2)　教育目的

看護学部では、看護職として活躍する次のような人材の育成を目的とする。

①　的確な実践力を有する人材の育成

看護は、看護の理論や知識を基盤とした看護実践を通して研鑽を重ねつつ専門性を深める学問である。

高度・専門化する医療、多様化する看護ニーズに対応するためには、緻密な観察に基づく的確な判断能力と技術力、さらにこれらを基盤とした問題解決能力が求められる。また、人々がより高い水準の健康を維持・獲得するためには、科学的根拠に基づいた専門的知識・技術を用いて、自律的にケアを推進する実践的な援助能力が求められる。

このため、あらゆる健康レベルや場において、人々が快適で安全に安心して生活できるよう、理論・知識・根拠に基づき的確に看護を実践できる技術と能力を有する看護職を育成する。

②　人間性を尊重した対人関係形成能力を備えた人材の育成

看護の援助過程は、看護職と看護を必要とする人との人間関係形成により進行するものである。看護職は、人間の尊厳を重視し、安心感を与える態度・態様が求められるとともに、看護行為を実施する上では、すべての人に対する人権の擁護と倫理的判断ができるよう常に志向することが肝要である。

また、医療施設における看護はもとより、福祉施設や在宅における看護、地域における看護など看護職に求められる能力、期待される役割が増大しているとともに、高度化する医療は、さまざまな職種の医療従事者を必要としており、看護職や他の従事者と連携・協働し、対象である人間を中心とする視点に立った医療・看護を提供することが重要である。

このため、対象あるいは医療従事者間との意思疎通を図り、対人関係の形成のために、身体的側面だけではなく、心理的、社会的側面から人間を理解し、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備えた看護職を育成する。

③　地域社会に貢献できる人材の育成

市民の健康に対するニーズの増大や価値観の多様化などに伴い、看護職に対する需要は増大、複雑化してきており、本学では、このような地域の看護需要に対応することが必須になる。

このため、保健・医療・福祉などの学びに加えて、幅広い分野・職種と連携し、創造的、主体的に学習することで、積極的に地域社会における市民の健康の保持増進に貢献できる人材を育成する。また、看護職に対する需要は、それぞれの地域ごとに異なっており、札幌市はもとより、北海道内、あるいは全国的な視点から看護の発展に寄与できる看護職を育成する。

3)　育成する人材像

札幌市には、多くの高度・専門的医療機関が立地し、北海道における高度、先進的医療技術の中核的役割を担っている。少子高齢化が急速に進行し、さらに、独居老人世帯数、高齢夫婦世帯数も

増加しており、このような社会情勢に的確に対応した看護職が求められている。

しかし、看護職は今後も当分の間、不足が続くことが予測されているにもかかわらず、看護職の養成機関の廃止や定員の削減に伴う新卒看護職の減少が懸念されている。

このため、看護学部では、医療機関における高度・専門的医療を担う看護職を育成することはもとより、在宅の高齢者等に対する看護、保健指導など地域の看護需要に対応できる看護職を育成することとし、こうした社会の人材需要の充足と教育目的を達成するため、次の能力を備えた人材を育成する。

① 対人関係形成能力
豊かな人間性と倫理的判断力を備え、安心感を与える的確な意思疎通により対人関係を形成できる能力を養う。

② 権利擁護・安全なケア提供能力
さまざまな健康レベル、あらゆる発達段階、さまざまな場において、対象の権利を擁護し、安全なケアを提供できる能力を養う。

③ 的確な判断能力と問題解決能力に基づく看護実践技術力
緻密な観察と科学的知識に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践技術力を養う。

④ 医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力
看護対象者の視点から保健・医療・福祉を追究し、各分野における看護の専門性と役割を認識の上、医療従事者間の調整や指導的役割を担うための基礎的な能力を養う。

⑤ 課題解決力を高めるための自己研鑽能力
主体的・創造的に課題探求に取り組み、解決する力を高めるために継続的に自己研鑽できる能力を養う。

4　デザイン研究科の概要

1）　特色

デザイン研究科は、デザインの役割が拡張し、従来のように造形や視覚表現にととまらず、社会や地域、産業等の複雑な問題をデザイン課題として受け止め、人間や環境に配慮したデザインを提案し、その解決策を実現できる高度なデザイン能力を有する人材が必要となっている中で、よりよい地域社会の実現に貢献できる高度専門職業人及び研究者・教育者を育成するため、以下の能力を修得することを特色とする。

①　デザインに関連する複合的かつ複雑な課題・問題を解決する「課題解決能力」の修得。
②　デザインを通じて新たな価値を生み出す「創造力」の修得。
③　課題・問題の発見、分析から具体的事業化までを一貫したデザインプロセスとしてまとめる「企画調整能力」の修得。
④　課題・問題をデザインの立場から調査、分析、判断、行動、評価、提案までを具体化する「実践能力」の修得。

また、平成17年9月中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の四つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組む。

2）　教育目的

デザイン研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業、芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としている。

3）　育成する人材像

デザイン研究科では、次のような人材の育成を目的とする。

①　屋内外の様々な空間を対象とする空間デザイン分野において、人間の生活や自然環境に配慮しつつ、建築デザインや環境デザインに関する高度なデザイン能力を有する人材。
②　人間生活に欠かせない多様な製品並びにそれを支えるインタフェース（操作性）について、人間中心の生活システムとしての製品やそのインタフェースをデザインできる高度なデザイン能力を有する人材。
③　人々の豊かなコミュニケーション活動を支えるコンテンツの制作と、多様なコンテンツのメディア展開を企画・構築し、運営に至るプロセスをプロデュースできる高度なデザイン能力を有する人材。

5　看護学研究科の概要

1)　特色

近年、看護分野は専門分化しており、これに対応する卓越した実践能力を有する看護職及び統合的な調整能力を有する看護管理者の育成が急務となっている。

また、これら卓越した臨床能力及び看護の専門性のさらなる向上には、看護の未来を見据えた洞察力・創造力を有し、学問的理念を基盤として研究を推進する自立した教育者・研究者の果たす役割が大きい。

看護学研究科は、このような社会の要請に応える人材を育成し、ここ札幌を発信源に、21世紀の看護の一端を担い、これを保健・医療・福祉分野へ発信できる、看護のバランス感覚に優れた人材の育成を目指している。

なお、看護学研究科では、平成17年9月5日中央教育審議会答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」の四つの「大学院に求められる人材養成機能」のうち「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」及び「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」に比重を置いて教育・研究に取り組むこととする。

2)　教育目的

看護学研究科では、以下の能力の修得を通して、広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学を発展させることのできる研究者・教育者や様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。

①　正確性・緻密性及び独創性を有する高度な臨床看護実践能力
少子高齢社会の渦中にあり、多様な価値観を持つ人々に対し、正確性、緻密性及び独創性を兼ね備えた高度な看護実践能力を養う。

②　高度な倫理観に基づき、専門看護分野において分析・判断・行動・評価ができる能力
人権意識や倫理観が厳格に問われるとともに複雑化する社会において、専門看護分野において柔軟に対応し、高い倫理観を持って自ら分析・判断・行動・評価する能力を養う。

③　他職種と協働し、看護における将来展望に資する統合・調整ができる能力
医療従事者間における調整・指導のための基礎的能力をさらに高め、保健・医療・福祉分野でリーダーシップを発揮できる能力とともに、看護の各専門領域において看護の将来展望を視野に入れた変革・統合・調整・教育能力を養う。

④　積雪寒冷地における健康づくり支援に取り組む能力
積雪寒冷地においてライフサイクルに応じた健康づくりに関する課題を探求し、課題解決に向けた能力を養う。

3)　育成する人材像

保健・医療・福祉が日々新たな課題を抱える中、様々な人々の健康レベルに対応できる卓越した高度看護実践者、専門化・複雑化及び高度化した看護の質の向上に必須な看護管理者、看護の質を確保する看護技術の開発・評価を担う看護者あるいは科学的知識と学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる研究者、次世代の看護の基礎教育・継続教育の中心的担い手としての教育者を育成する必要がある。また、今後は、研究能力を有した看護実践者及び臨床能力を有する研究者・教育者の育成がより一層求められている。

このため、看護学研究科においては、次の能力を備えた人材を育成する。

①　保健・医療の中核を担う高度臨床看護実践者の育成（専門看護師を含む）
②　総合的に看護ケアをマネジメントする看護管理者の育成
③　地域や在宅において健康な生活と福祉の向上に率先して貢献する看護職の育成
④　看護の学問的基盤をもとに実践知、経験知を統合できる看護研究者の育成

⑤　次世代の看護教育の中心的担い手としての教育者の育成
⑥　看護技術の開発及び評価能力を備える人材の育成
⑦　幅広い視野のもとで新しい看護システムや制度の開発に資する人材の育成

6　助産学専攻科の概要

1）　特色

助産学専攻科では、学士課程4年間において培った自己研鑽力が発揮できる教育課程を特色としている。

その一つとして、選択科目を設定せず、学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創っている。加えて、この学びの更なる発展に向け文献研究を行う。

また、1年間の学修では助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、ハイリスク事例に対応できるよう高度な知識・技術を、熟練した助産師と専門医のもとで学修する。この学修では看護師資格が大いに役立っている。

2）　教育目的

札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤に、各種助産技術能力の正確な修得を目指し、次のような教育を目的とする。

①　助産師に必要な基本的かつ高度な知識が修得できる。
②　助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術が修得できる。
③　助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアが実践できる。

3）　育成する人材像

北海道、札幌市においては、需給見通しで助産師の不足が見込まれる一方、産科医師の減少などにより、さらに助産師の需要が増加する可能性がある。また、少子高齢化が急速に進行する中で、より一層安全で安心な分娩介助が求められるとともに、思春期や更年期への相談など、助産師が担う役割は広範化・高度化する傾向にある。

このため、助産学専攻科においては、次のような人材を育成する。

①　助産に関する幅広く、高度な知識と正確な技術を有する助産師
②　地域社会における母子保健の向上に貢献できる助産師
③　人間性豊かな助産師

7　中間評価

開学から5年目を迎え、中期目標の達成に向けた中期計画の実施状況と課題を確認する観点から、これまでの中期目標、中期計画の達成状況についての総合的な自己点検・自己評価と、それに基づく札幌市地方独立行政法人評価委員会による中間評価が実施されることとなった。

中間評価については、中期目標期間の4年間が終了した日を基準日として行われることとされ、平成18年度から平成21年度までの取り組みについて、中期計画の記載項目ごとの進捗について自己点検・評価を行った後、評価委員会による評価が書面及び法人に対するヒアリング等を通じて行われた。

中間評価業務実績報告書は、中間計画の記載項目ごとに、次に掲げるⅠ～Ⅳの段階で進捗状況を示すとともに、判断理由及び中期計画の達成に向けた課題、解決のための方策が記載された。

Ⅳ：中期計画を上回って達成できる見込みである。
Ⅲ：中期計画を十分に達成できる見込みである。
Ⅱ：中期計画を十分に実施できない見込みである。
Ⅰ：中期計画を実施していない。

評価委員会による評価は、中期計画の大項目の進捗状況の評価及び項目別評価の結果等を踏まえた「項目別評価」及び中期計画の進捗状況全体について、総合的に評価を行う「全体評価」により行われた。

評価結果としては、「業務全般にわたってほぼ順調に取り組まれており、現時点の達成状況は概ね満足できると判断される。」との全体評価を受けた。

また、
・共通教育・学部の専門教育を通じた、積極的な人材育成
・教育GPの獲得や認定看護管理者サードレベル教育機関の認定
・公開講座の積極的な開催
・大学院（デザイン研究科、看護学研究科）の設置認可（開設は平成22年4月）
などは、4年間の特筆すべき成果として評価を受けた。

一方、
・産業界との連携強化
・留学生の受入れなど大学の国際化の推進
などは、達成状況が不十分との評価を受けた。

8　行事

前期開始	4月1日
春季休業	4月1日～2日
入学式・後援会総会	4月3日
前期ガイダンス	4月3日・5日
前期授業開始	4月6日
前期履修登録期間	4月6日～19日
健康診断	4月23日
第1回オープンキャンパス	6月26日
デザイン学部編入学試験	7月24日
前期定期試験期間	8月3日～11日
夏季休業	8月12日～9月8日
看護学部編入学試験	9月11日
助産学専攻科入学試験	9月11日
第2回オープンキャンパス	9月25日
前期終了	9月30日
後期ガイダンス	9月30日
後期開始	10月1日
後期授業開始	10月1日
後期履修登録期間	10月1日～14日
大学院デザイン研究科入学試験	10月2日・3日
大学院看護学研究科入学試験	10月2日
大学祭	10月9日・10日
特別選抜入学試験（推薦入学・社会人）	11月20日
冬季休業	12月23日～1月5日
後期定期試験期間	2月8日～18日
大学院デザイン研究科入学試験（2次募集）	2月11日
一般選抜入学試験（前期日程）	2月25日
特別選抜入学試験（私費外国人留学生）	2月25日
大学院看護学研究科入学試験（2次募集）	3月6日
春季休業	3月8日～31日
一般選抜入学試験（後期日程）	3月12日
大学院デザイン研究科入学試験（3次募集）	3月15日
一般選抜入学試験（後期日程・追試験）	3月18日
卒業式	3月19日
後期終了	3月31日

Ⅱ　教育活動

1　教育活動概要

「共通教育科目」は、デザインと看護の両学部共通とし、両学部に共通する「人間重視」の考え方を基本に、両学部の学生が一緒に学習することにより、学部間の交流を深め、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう体系化した。また、「共通教育科目」は、①大学における心構えや履修方法、あるいは基本的な学習の進め方や研究方法を学ぶ「導入科目」、②文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、③語学などのコミュニケーション･ツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」の3つの区分で構成した。

デザイン学部の「専門教育科目」は、デザインの基礎的な理論や技術から、より専門性の高い知識や技術、実践的・発展的な知識やデザインの方法までを体系的に理解できるよう、①「基本科目」、②「展開科目」、③「発展科目」の3つの科目群で構成した。また、学芸員の資格を取得するために必要となる科目を「自由科目」という区分で開講した。その他、専門教育科目を履修する上で必要となる技術や知識を補完する目的で「デザインアイデア発想法（XB法）実践ワークショップ」､「AdobeCS4によるデザインワークショップ」といった特別講義を実施した。

デザイン研究科の授業科目は、幅広い視野を身につけ、デザインと看護に共通する関連領域の基礎的素養を涵養するため、看護学研究科と合同で行う「研究科連携科目」とデザイン分野における高度専門職業人及び研究者･教育者に必要な専門知識･技術、研究方法を修得するための「専門教育科目」の2つに区分し、「専門教育科目」はさらに「基本科目」、「展開科目」、「実践科目」及び「修了研究」の4つの科目群で構成し、学生がデザインの高度かつ専門的な知識・技術を学ぶことができるよう体系化した。

2　共通教育・連携教育

1）　教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）
★印：非常勤講師

授業科目	授業形態・時数	担当教員
スタートアップ演習	演　習　60時間	◎原　俊彦　杉　哲夫　町田　佳世子 大渕　一博　柿山　浩一郎　小宮　加容子 松井　美穂　上田　裕文　片山　めぐみ 須之内　元洋　坂倉　恵美子　守村　洋 菊地　ひろみ　保田　玲子　杉田　久子 山内　まゆみ　山本　真由美　太田　晴美 原井　美佳　渕本　雅昭
哲学と倫理	講　義　30時間	★中島　孝一
体のしくみ	講　義　30時間	小宮　加容子
人間関係を考える	講　義　30時間	★椿　武愛子
札幌を学ぶ	講　義　30時間	原　俊彦
英語ⅠA	演　習　30時間	★大野　拓恵　★佐川　萌東子　★清水　香
英語ⅠB	演　習　30時間	町田　佳世子　★白土　淳子　★向井　千和子
英語ⅠC	演　習　30時間	★マッマドヴァ・セヴィンジ　★山田　パトリシア
日本語表現法	演　習　30時間	★千葉　孝一
基礎カウンセリング	演　習　30時間	★小坂　守孝
情報リテラシーⅠ（デザイン学部）	演　習　30時間	大渕　一博
情報リテラシーⅠ（看護学部）	演　習　30時間	石田　勝也
情報リテラシーⅡ（デザイン学部）	演　習　30時間	大渕　一博
情報リテラシーⅡ（看護学部）	演　習　30時間	石田　勝也
宗教と思想	講　義　30時間	★堀　雅彦
芸術と文化	講　義　30時間	★浅沼　敬子
心のしくみ	講　義　30時間	★藤本　愉
現代社会と家族	講　義　30時間	原　俊彦
現代社会と経済	講　義　30時間	★近藤　公彦
統計の世界	講　義　30時間	原　俊彦
英語ⅡA	演　習　30時間	町田　佳世子　★大野　拓恵　★佐川　萌東子 ★清水　香
英語ⅡB	演　習　30時間	松井　美穂　★白土　淳子　★向井　千和子
英語ⅡC	演　習　30時間	★マッマドヴァ・セヴィンジ　★山田　パトリシア
プレゼンテーション	演　習　30時間	◎武田　亘明　柿山　浩一郎
対人コミュニケーション	演　習　30時間	町田　佳世子

授業科目	授業形態・時数	担当教員
手話	演　習　　30時間	★高 橋　　浄
環境を考える	講　義　　30時間	矢 部　和 夫
ジェンダーを考える	講　義　　30時間	松 井　美 穂
健康とスポーツ	講　義　　30時間	★布 上　恭 子
現代社会と国際関係	講　義　　30時間	★先川　信一郎
ボランティア活動を考える	講　義　　30時間	★小 沼　春 日
中国語（デザイン学部）	演　習　　30時間	★照井　はるみ
ロシア語（デザイン学部）	演　習　　30時間	★ジダーノフ　ウラジーミル　★ジダーノワ　ナターリア
グループ・ダイナミックス	演　習　　30時間	★鹿 内　啓 子
実践英語A	演　習　　30時間	町田　佳世子　松 井　美 穂
実践英語B	演　習　　30時間	★マッマドヴァ・セヴィンジ　★山田　パトリシア
中国語（看護学部）	演　習　　30時間	★照井　はるみ
ロシア語（看護学部）	演　習　　30時間	★ジダーノフ　ウラジーミル　★ジダーノワ　ナターリア
教育を考える	講　義　　30時間	★竹 中　　健
韓国語	演　習　　30時間	★松 田　由 紀

3　デザイン学部

1）　平成２２年度時間割

①１年前期

<table>
<tr><th></th><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td>1</td><td>9:00
～
10:30</td><td colspan="2">情報リテラシーⅡ</td><td colspan="2">デザイン原論</td><td>情報リテラシーⅠ</td><td>体のしくみ</td><td>人間関係を考える</td></tr>
<tr><td>2</td><td>10:40
～
12:10</td><td colspan="2">情報リテラシーⅡ</td><td colspan="2">色彩設計論</td><td>情報リテラシーⅠ</td><td>日本語表現法
英語ⅠA
英語ⅠB
英語ⅠC</td><td>哲学と倫理</td></tr>
<tr><td>3</td><td>13:10
～
14:40</td><td colspan="2">デザイン史</td><td rowspan="2">造形基礎
実習Ⅰ</td><td rowspan="2">表現基礎
実習
※2010年度
入学生のみ</td><td>英語ⅠA
英語ⅠB
英語ⅠC</td><td>日本語表現法
英語ⅠA
英語ⅠB
英語ⅠC</td><td>札幌を学ぶ</td></tr>
<tr><td>4</td><td>14:50
～
16:20</td><td rowspan="2">造形基礎
実習Ⅰ</td><td rowspan="2">表現基礎
実習
※2010年度
入学生のみ</td><td>英語ⅠA
英語ⅠB
英語ⅠC</td><td rowspan="2">スタートアップ演習</td><td>基礎カウンセリング
英語ⅠA
英語ⅠB
英語ⅠC</td></tr>
<tr><td>5</td><td>16:30
～
18:00</td><td colspan="2">リメディアル</td><td>リメディアル</td><td>基礎カウンセリング
英語ⅠA
英語ⅠB
英語ⅠC</td></tr>
</table>

②１年後期

<table>
<tr><th></th><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td>1</td><td>9:00
～
10:30</td><td colspan="2">プログラミングⅠ</td><td colspan="2">デザイン方法論</td><td>現代社会と家族</td><td>工学基礎
※2010年度入学生のみ</td><td>手話</td></tr>
<tr><td>2</td><td>10:40
～
12:10</td><td colspan="2">プログラミングⅠ</td><td colspan="2">感性科学</td><td>心のしくみ</td><td>芸術と文化</td><td>手話</td></tr>
<tr><td>3</td><td>13:10
～
14:40</td><td rowspan="2">コンピュータ
基礎実習Ⅰ</td><td rowspan="2">造形基礎
実習Ⅱ</td><td rowspan="2">コンピュータ
基礎実習Ⅰ</td><td rowspan="2">造形基礎
実習Ⅱ</td><td>英語ⅡA
英語ⅡB
英語ⅡC</td><td>プレゼンテーション
英語ⅡA
英語ⅡB
英語ⅡC</td><td>英語ⅡA
英語ⅡB
英語ⅡC
対人コミュニケーション</td></tr>
<tr><td>4</td><td>14:50
～
16:20</td><td>英語ⅡA
英語ⅡB
英語ⅡC</td><td>プレゼンテーション
英語ⅡA
英語ⅡB
英語ⅡC</td><td>英語ⅡA
英語ⅡB
英語ⅡC
対人コミュニケーション</td></tr>
<tr><td>5</td><td>16:30
～
18:00</td><td colspan="2">日本美術史（※特別講義）</td><td colspan="2"></td><td>宗教と思想</td><td>統計の世界</td><td>現代社会と経済</td></tr>
</table>

③２年前期

		月		火	水	木		金
1	9:00 ～ 10:30	デザイン材料加工実習Ⅰ	コンピュータ基礎実習ⅡA（3D）	ジェンダーを考える	デザイン法規	創造産業論		デザイン解析論
2	10:40 ～ 12:10			環境を考える ロシア語 実践英語A 実践英語B	設計製図基礎 ※2009年度以降入学生	現代芸術論		感性デザイン論
3	13:10 ～ 14:40	プログラミングⅡ		実践英語A 実践英語B ロシア語	中国語	デザイン材料加工実習Ⅰ	コンピュータ基礎実習ⅡA（3D）	ユニバーサルデザイン論
4	14:50 ～ 16:20	ヒューマンファクターズ入門		現代社会と国際関係 健康とスポーツ	中国語			認知科学
5	16:30 ～ 18:00	近現代建築史 ※2009年度以降入学生		グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える		キャリアガイダンス		

④２年後期

		月		火	水		木		金
							第1 ～ 7.5週	第7.5 ～第15週	
1	9:00 ～ 10:30	広告デザイン 製品造形論		教育を考える	コンピュータ基礎実習ⅡB（ムービー）	デザイン材料加工実習Ⅱ	メディアビジネス	家具・インテリアデザイン	コンピュータグラフィクス ヒューマンファクターズ
2	10:40 ～ 12:10	空間デザイン論 製品デザイン論 コンテンツデザイン論 メディアデザイン論		エコロジーデザイン論					コンピュータグラフィクス
3	13:10 ～ 14:40	視聴覚教育メディア論	博物館概論	情報社会論	コンピュータ基礎実習ⅡB（ムービー）		コンピュータ基礎実習ⅡC（CAD）	デザイン材料加工実習Ⅱ	ダイナミックオブジェクトデザイン 空間デザイン史 広告デザイン
4	14:50 ～ 16:20	デザイン総合実習Ⅰ		実践英語A					韓国語
5	16:30 ～ 18:00			生涯学習概論	博物館概論		キャリアガイダンス		

⑤３年前期

		月		火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30			学外実習A(インターンシップ) ※事前研修 学外実習B(フィールドスタディ) ※事前研修	物語デザイン論		
2	10:40 ～ 12:10	博物館実習		製品計画論 アニメーションⅠ	環境計画論 マルチメディア コンテンツデザイン	インタラクションデザイン メディア文化史	
3	13:10 ～ 14:40	博物館資料論		プロトタイプシミュレーションⅠ コンテンツ制作システム論	博物館資料論	感性情報学 都市計画論	景観デザイン論 ブランド構築
4	14:50 ～ 16:20	博物館 経営論	博物館 情報論	知的財産権論		出版メディアデザイン 建築計画論	デザイン総合実習Ⅱ
5	16:30 ～ 18:00						

⑥３年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30	寒冷地デザイン論	バーチャルリアリティ		インターネットメディアデザイン	
2	10:40 ～ 12:10	観光とデザイン	アニメーションⅡ 空間デザイン法規	建築構法	プロトタイプシミュレーションⅡ アートマネジメント論	構造力学 デジタルアーカイブ
3	13:10 ～ 14:40	デジタル映像史			構造・材料実験 メカトロニクス	製品デザイン史 メディア芸術論
4	14:50 ～ 16:20	デジタル映像コンテンツデザイン	学部連携演習	地場産業振興論	構造・材料実験 感性インタラクションデザイン	デザイン総合実習Ⅲ
5	16:30 ～ 18:00					

⑦４年前期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30		デジタル音響デザイン			
2	10:40 ～ 12:10		デザインマネジメント	デザイン英語	放送メディアデザイン ヒューマンケア機器デザイン	
3	13:10 ～ 14:40		住宅論 ネットワークシステムデザイン	卒業研究	ロボティクス コンテンツ流通技術	建築設備計画
4	14:50 ～ 16:20					起業論
5	16:30 ～ 18:00		学部連携演習			

⑧４年後期

		月	火	水	木	金
1	9:00 ～ 10:30					
2	10:40 ～ 12:10					
3	13:10 ～ 14:40			卒業研究		
4	14:50 ～ 16:20			卒業研究		
5	16:30 ～ 18:00					

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
共通教育科目	導入科目		スタートアップ演習	2			1年前期	2単位
共通教育科目	教養科目	文化に対する理解	哲学と倫理		2		1年前期	4単位以上
			宗教と思想		2		1年後期	
			芸術と文化		2		1年後期	
			環境を考える		2		2年前期	
			教育を考える		2		2年後期	
		人間に対する理解	心のしくみ		2		1年後期	4単位以上
			体のしくみ		2		1年前期	
			ジェンダーを考える		2		2年前期	
			人間関係を考える		2		1年前期	
			健康とスポーツ		2		2年前期	
		社会に対する理解	現代社会と家族		2		1年後期	6単位以上
			現代社会と国際関係		2		2年前期	
			現代社会と経済		2		1年後期	
			札幌を学ぶ		2		1年前期	
			ボランティア活動を考える		2		2年前期	
			統計の世界	2			1年後期	
	コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1			1年前期	8単位以上
			英語ⅠB	1			1年前期	
			英語ⅠC	1			1年前期	
			英語ⅡA	1			1年後期	
			英語ⅡB	1			1年後期	
			英語ⅡC	1			1年後期	
			実践英語A		1		2年	
			実践英語B		1		2年前期	
			韓国語		1		2年後期	
			中国語		1		2年前期	
			ロシア語		1		2年前期	
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現法		1		1年前期	4単位以上
			プレゼンテーション	1			1年後期	
			基礎カウンセリング		1		1年前期	
			対人コミュニケーション		1		1年後期	
			グループ・ダイナミックス		1		2年前期	
			手話		1		1年後期	
			情報リテラシーⅠ	1			1年前期	
			情報リテラシーⅡ	1			1年前期	
合計								24単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数	
専門教育科目	基本科目	デザイン基礎	デザイン原論	2			1年前期	16単位以上	さらに基本科目から10単位以上
			デザイン史	2			1年前期		
			デザイン方法論	2			1年後期		
			色彩設計論	2			1年前期		
			感性科学	2			1年後期		
			工学基礎		2		1年後期		
			感性デザイン論	2			2年前期		
			ユニバーサルデザイン論	2			2年前期		
			創造産業論	2			2年前期		
			現代芸術論		2		2年前期		
			デザイン解析論		2		2年前期		
			ヒューマンファクターズ入門		2		2年前期		
			近現代建築史		2		2年前期		
			設計製図基礎		2		2年前期		
			認知科学		2		2年前期		
			デザイン法規		2		2年前期		
			エコロジーデザイン論		2		2年後期		
			情報社会論		2		2年後期		
		造形基礎	造形基礎実習Ⅰ	2			1年前期	6単位以上	
			表現基礎実習	2			1年前期		
			造形基礎実習Ⅱ	2			1年後期		
			デザイン材料加工実習Ⅰ		2		2年前期		
			デザイン材料加工実習Ⅱ		2		2年後期		
		情報基礎	コンピュータ基礎実習Ⅰ	2			1年後期	8単位以上	
			コンピュータ基礎実習ⅡA（3D）		2		2年前期		
			コンピュータ基礎実習ⅡB（ムービー）		2		2年後期		
			コンピュータ基礎実習ⅡC（CAD）		2		2年後期		
			プログラミングⅠ	2			1年後期		
			プログラミングⅡ		2		2年前期		
合計								40単位以上	

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	展開科目	空間デザイン系	空間デザイン論		2		2年後期	展開科目から一つの系の全科目を含め34単位以上を修得
			空間デザイン史		2		2年後期	
			景観デザイン論		2		3年前期	
			都市計画論		2		3年前期	
			空間デザイン法規		2		3年後期	
			構造力学		2		3年後期	
			建築構法		2		3年後期	
			構造・材料実験		2		3年後期	
			建築設備計画		2		4年前期	
			建築計画論		2		3年前期	
			環境計画論		2		3年前期	
			家具・インテリアデザイン		2		2年後期	
			住宅論		2		4年前期	
		製品デザイン系	製品デザイン論		2		2年後期	
			製品デザイン史		2		3年後期	
			製品造形論		2		2年後期	
			製品計画論		2		3年前期	
			感性情報学		2		3年前期	
			ヒューマンファクターズ		2		2年後期	
			インタラクションデザイン		2		3年前期	
			メカトロニクス		2		3年後期	
			ロボティクス		2		4年前期	
			感性インタラクションデザイン		2		3年後期	
			プロトタイプシミュレーションⅠ		2		3年前期	
			プロトタイプシミュレーションⅡ		2		3年後期	
			ヒューマンケア機器デザイン		2		4年前期	
		コンテンツデザイン系	コンテンツデザイン論		2		2年後期	
			デジタル映像史		2		3年後期	
			コンテンツ制作システム論		2		3年前期	
			物語デザイン論		2		3年前期	
			バーチャルリアリティ		2		3年後期	
			コンピュータグラフィクス		2		2年後期	
			アニメーションⅠ		2		3年前期	
			アニメーションⅡ		2		3年後期	
			デジタル音響デザイン		2		4年前期	
			ダイナミックオブジェクトデザイン		2		2年後期	
			マルチメディアコンテンツデザイン		2		3年前期	
			デジタル映像コンテンツデザイン		2		3年後期	
			ネットワークシステムデザイン		2		4年前期	
		メディアデザイン系	メディアデザイン論		2		2年後期	
			メディア文化史		2		3年前期	
			知的財産権論		2		3年前期	
			メディア芸術論		2		3年後期	
			アートマネジメント論		2		3年後期	
			広告デザイン		2		2年後期	
			ブランド構築		2		3年前期	
			デジタルアーカイブ		2		3年後期	
			コンテンツ流通技術		2		4年前期	
			メディアビジネス		2		2年後期	
			出版メディアデザイン		2		3年前期	
			インターネットメディアデザイン		2		3年後期	
			放送メディアデザイン		2		4年前期	
合計								34単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	発展科目	デザイン応用	一般構造		2		3年前期	8単位以上
			寒冷地デザイン論		2		3年後期	
			観光とデザイン		2		3年後期	
			地場産業振興論		2		3年後期	
			建築生産		2		3年後期	
			デザインマネジメント		2		4年前期	
			起業論		2		4年前期	
			デザイン英語		2		4年前期	
			構造力学Ⅱ		2		4年前期	
			学外実習A（インターンシップ）		2		3年前期	
			学外実習B（フィールドスタディ）		2		3年前期	
		学部連携	学部連携演習	2			3年後期	2単位
		デザイン総合実習	デザイン総合実習Ⅰ	2			2年後期	6単位
			デザイン総合実習Ⅱ	2			3年前期	
			デザイン総合実習Ⅲ	2			3年後期	
		卒業研究	卒業研究	6			4年	6単位
合計								22単位以上

区分		授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
自由科目	学芸員課程関連科目 ※この他に共通教育科目の「教育を考える」の単位修得が必要	生涯学習概論			1	2年後期	（11単位）
		博物館概論			2	2年後期	
		博物館経営論			1	3年前期	
		博物館資料論			2	3年前期	
		博物館情報論			1	3年前期	
		博物館実習			3	3年前期	
		視聴覚教育メディア論			1	2年後期	

② 卒業要件

区分	必修	選択	合計
共通教育科目	13	15	28
専門教育科目	40	56	96
（基本科目）	(26)	(14)	(40)
（展開科目）	−	(34)	(34)
（発展科目）	(14)	(8)	(22)
合計	53	71	124

3） 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）
★印：非常勤講師

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン原論	講　義　30時間	◎吉田　惠介　原田　昭　武邑　光裕
デザイン史	講　義　30時間	★今村　信隆
色彩設計論	講　義　30時間	★中井　和子
造形基礎実習Ⅰ	実　習　60時間	◎石﨑　友紀　★外崎　由香
表現基礎実習	実　習　60時間	◎齋藤　利明　杉　哲夫　片山　めぐみ
デザイン方法論	講　義　30時間	酒井　正幸
感性科学	講　義　30時間	張　浦華
造形基礎実習Ⅱ	実　習　60時間	◎上遠野　敏　上田　裕文　須之内　元洋
コンピュータ基礎実習Ⅰ	実　習　60時間	◎吉田　和夫　★児玉　潤二郎
プログラミングⅠ	演　習　30時間	大渕　一博
工学基礎	講　義　30時間	◎斉藤　雅也　細谷　多聞　★菊池　規雄 ★和田　義則
感性デザイン論	講　義　30時間	張　浦華
ユニバーサルデザイン論	講　義　30時間	酒井　正幸
創造産業論	講　義　30時間	武邑　光裕
現代芸術論	講　義　30時間	上遠野　敏
デザイン解析論	講　義　30時間	中原　宏
ヒューマンファクターズ入門	講　義　30時間	小宮　加容子
デザイン法規	講　義　30時間	★津幡　笑
認知科学	講　義　30時間	片山　めぐみ
デザイン材料加工実習Ⅰ	実　習　60時間	◎上遠野　敏　石﨑　友紀　齋藤　利明
コンピュータ基礎実習ⅡA（3D）	実　習　60時間	◎細谷　多聞　★増田　直也
プログラミングⅡ	演　習　30時間	城間　祥之

授業科目	授業形態・時数	担当教員
近現代建築史	講　義　30時間	◎羽深　久夫　那須　聖　山田　良 ★池上　重康　★小澤　丈夫　★武田　明純 ★中渡　憲彦
設計製図基礎	演　習　30時間	◎山田　良　那須　聖
エコロジーデザイン論	講　義　30時間	矢部　和夫
情報社会論	講　義　30時間	武田　亘明
デザイン材料加工実習Ⅱ	実　習　30時間	◎石﨑　友紀　★川上　りえ
コンピュータ基礎実習ⅡB（ムービー）	実　習　60時間	望月　澄人　★田辺　達也
コンピュータ基礎実習ⅡC（CAD）	実　習　60時間	◎城間　祥之　那須　聖
空間デザイン論	講　義　30時間	◎吉田　惠介　那須　聖　山田　良
空間デザイン史	講　義　30時間	羽深　久夫
家具・インテリアデザイン	講義＋演習　30時間	◎那須　聖　★中村　昇　★長谷川　演
製品デザイン論	講　義　30時間	杉　哲夫
製品造形論	講　義　30時間	石﨑　友紀
ヒューマンファクターズ	講義＋演習　30時間	小宮　加容子
コンテンツデザイン論	講　義　30時間	◎望月　澄人　齋藤　利明　城間　祥之 細谷　多聞　福田　大年
コンピュータグラフィクス	講義＋演習　30時間	福田　大年
ダイナミックオブジェクトデザイン	演　習　30時間	◎齋藤　利明　城間　祥之
メディアデザイン論	講　義　30時間	◎武邑　光裕　吉田　和夫　上遠野　敏 武田　亘明　須之内　元洋
広告デザイン	講義＋演習　30時間	吉田　和夫
メディアビジネス	演　習　30時間	ライト　デーヴィッド
デザイン総合実習Ⅰ （空間デザインコース）	実　習　60時間	◎那須　聖　吉田　惠介　中原　宏 羽深　久夫　矢部　和夫　斉藤　雅也 山田　良　上田　裕文　片山　めぐみ
デザイン総合実習Ⅰ （製品デザインコース）	実　習　60時間	◎杉　哲夫　石﨑　友紀　張　浦華 柿山　浩一郎　小宮　加容子　三谷　篤史
デザイン総合実習Ⅰ （コンテンツデザインコース）	実　習　60時間	◎細谷　多聞　齋藤　利明　城間　祥之 望月　澄人　大渕　一博　福田　大年
デザイン総合実習Ⅰ （メディアデザインコース）	実　習　60時間	◎武邑　光裕　上遠野　敏　吉田　和夫 須之内　元洋
生涯学習概論	講　義　15時間	★木村　純
景観デザイン論	講　義　30時間	◎吉田　惠介　★井上　剛宏　★小松　正史 ★庄司　達　★中野　美代子　★三宅　理一 ★宮前　保子
都市計画論	講　義　30時間	中原　宏

授業科目	授業形態・時数	担当教員
建築計画論	講　義　30時間	那須　聖
環境計画論	講　義　30時間	◎斉藤　雅也　矢部　和夫　吉田　惠介
製品計画論	講　義　30時間	柿山　浩一郎
感性情報学	講　義　30時間	張　浦華
インタラクションデザイン	講義＋演習　30時間	柿山　浩一郎
プロトタイプシミュレーションⅠ	演　習　30時間	三谷　篤史
コンテンツ制作システム論	講　義　30時間	福田　大年
物語デザイン論	講　義　30時間	望月　澄人
アニメーションⅠ	講義＋演習　30時間	望月　澄人
マルチメディアコンテンツデザイン	演　習　30時間	細谷　多聞
メディア文化史	講　義　30時間	武田　亘明
知的財産権論	講　義　30時間	◎★安河内　正文　★北尾　知道　★野呂　洋子 ★濱口　英樹　★林　幹浩
ブランド構築	講義＋演習　30時間	武邑　光裕
出版メディアデザイン	演　習　30時間	◎吉田　和夫　★橘　匡子
学外実習A（インターンシップ）	実　習　60時間	◎中原　宏　杉　哲夫　武田　亘明 福田　大年
学外実習B（フィールドスタディ）	演　習　60時間	◎齋藤　利明　武邑　光裕　吉田　惠介 三谷　篤史
デザイン総合実習Ⅱ （空間デザインコース）	実　習　60時間	◎那須　聖　中原　宏　羽深　久夫 矢部　和夫　吉田　惠介　斉藤　雅也 山田　良　上田　裕文　片山　めぐみ
デザイン総合実習Ⅱ （製品デザインコース）	実　習　60時間	◎張　浦華　石﨑　友紀　杉　哲夫 柿山　浩一郎　小宮　加容子　三谷　篤史
デザイン総合実習Ⅱ （コンテンツデザインコース）	実　習　60時間	◎城間　祥之　齋藤　利明
デザイン総合実習Ⅱ （メディアデザインコース）	実　習　60時間	◎武邑　光裕　上遠野　敏　吉田　和夫 須之内　元洋
空間デザイン法規	講　義　30時間	★小林　宏
構造力学	講　義　30時間	★石丸　修二
建築構法	講義＋演習　30時間	羽深　久夫
構造・材料実験	実　習　60時間	羽深　久夫
製品デザイン史	講　義　30時間	杉　哲夫
メカトロニクス	講義＋演習　30時間	三谷　篤史
感性インタラクションデザイン	演　習　30時間	◎三谷　篤史　張　浦華
プロトタイプシミュレーションⅡ	演　習　30時間	◎酒井　正幸　柿山　浩一郎

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デジタル映像史	講　義　30時間	武邑　光裕
バーチャルリアリティ	講　義　30時間	細谷　多聞
アニメーションⅡ	講義＋演習　30時間	福田　大年
デジタル映像コンテンツデザイン	演　習　30時間	福田　大年
メディア芸術論	講　義　30時間	武邑　光裕
アートマネジメント論	講　義　30時間	上遠野　敏
デジタルアーカイブ	講義＋演習　30時間	須之内　元洋
インターネットメディアデザイン	演　習　30時間	須之内　元洋
寒冷地デザイン論	講　義　30時間	◎斉藤　雅也　山田　良
観光とデザイン	演　習　30時間	◎上田　裕文　★井原　縁　★小野　有五 ★敷田　麻美　★高崎　邦子
地場産業振興論	講　義　30時間	◎★小早川　護　★内田　純一
学部連携演習 （平成20年度入学生）	演　習　60時間	◎武田　亘明　矢部　和夫　張　浦華 小宮　加容子　斉藤　雅也　福田　大年 山田　良　上田　裕文　片山　めぐみ 須之内　元洋　◎山本　勝則　大野　夏代 菅原　美樹　田中　広美　新納　美美 藤井　瑞恵　村松　真澄　照井　レナ
デザイン総合実習Ⅲ （空間デザインコース）	実　習　60時間	◎山田　良　中原　宏　吉田　惠介 羽深　久夫　矢部　和夫　斉藤　雅也 那須　聖　片山　めぐみ
デザイン総合実習Ⅲ （製品デザインコース）	実　習　60時間	◎石﨑　友紀　杉　哲夫　張　浦華 柿山　浩一郎　小宮　加容子　三谷　篤史
デザイン総合実習Ⅲ （コンテンツデザインコース）	実　習　60時間	◎望月　澄人　齋藤　利明　城間　祥之 細谷　多聞　大渕　一博　福田　大年
デザイン総合実習Ⅲ （メディアデザインコース）	実　習　60時間	◎武邑　光裕　上遠野　敏　吉田　和夫 武田　亘明
建築設備計画	講義＋演習　30時間	斉藤　雅也
住宅論	講　義　30時間	山田　良
ロボティクス	講義＋演習　30時間	三谷　篤史
ヒューマンケア機器デザイン	演　習　30時間	◎小宮　加容子　張　浦華
デジタル音響デザイン	講義＋演習　30時間	◎★久保　壽光　★伊藤　博之
ネットワークシステムデザイン	演　習　30時間	大渕　一博
コンテンツ流通技術	講義＋演習　30時間	◎石田　勝也　須之内　元洋
放送メディアデザイン	演　習　30時間	◎武邑　光裕　ライト　デーヴィド　須之内　元洋
デザインマネジメント	演　習　30時間	杉　哲夫
起業論	講　義　30時間	★佐々木　信

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン英語	演　習　30時間	松井　美穂
学部連携演習 （平成19年度入学生）	演　習　60時間	◎酒井　正幸　武田　亘明　張　浦華 細谷　多聞　斉藤　雅也　那須　聖 福田　大年　三谷　篤史　山田　良 上田　裕文　須之内　元洋　◎スーディ神崎　和代 樋之津　淳子　清水　光子　須田　恭子 吉川　由希子　星　美和子　渡邉　由加利 河村　奈美子　櫻井　繭子　進藤　ゆかり 三上　智子
卒業研究（空間デザインコース）	演　習　90時間	◎中原　宏　羽深　久夫　矢部　和夫 吉田　恵介　斉藤　雅也　那須　聖 山田　良
卒業研究（製品デザインコース）	演　習　90時間	◎杉　哲夫　酒井　正幸　石崎　友紀 張　浦華　柿山　浩一郎　三谷　篤史
卒業研究 （コンテンツデザインコース）	演　習　90時間	◎齋藤　利明　城間　祥之　望月　澄人 細谷　多聞　大渕　一博　福田　大年
卒業研究 （メディアデザインコース）	演　習　90時間	◎武邑　光裕　上遠野　敏　吉田　和夫 武田　亘明
博物館概論	講　義　30時間	◎矢部　和夫　★奥岡　茂雄　★高橋　信裕 ★山田　悟郎
視聴覚教育メディア論	講　義　15時間	◎武田　亘明　★江川　克之
博物館経営論	講　義　15時間	◎矢部　和夫　★金子　啓明　★佐藤　幸宏
博物館資料論	講　義　30時間	◎古沢　仁　★亀谷　隆　★佐藤　幸宏
博物館情報論	講　義　15時間	武邑　光裕
博物館実習	実　習　90時間	◎矢部　和夫　★石井　淳　★佐藤　幸宏 ★吉崎　元章

4　看護学部

1）　平成２２年度時間割

①１年前期

		月		火	水	木	金
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）				
1	9:00～10:30				情報リテラシーⅠ	体のしくみ	人間関係を考える
2	10:40～12:10			看護観察技術論	情報リテラシーⅠ	日本語表現法 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠA 英語ⅠC	哲学と倫理
3	13:10～14:40	形態機能学Ⅰ		看護観察技術論	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 英語ⅠC	日本語表現法 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠA 英語ⅠC	札幌を学ぶ
4	14:50～16:20	形態機能学Ⅰ			英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠC 英語ⅠC	スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠC
5	16:30～18:00	看護学原論	地域保健学概論	人間発達援助論		スタートアップ演習	基礎カウンセリング 英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅠB 英語ⅠC

※集中講義：看護初期実習　6/7（月）～6/11（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

②１年後期

		月		火		水	木	金
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）			
1	9:00～10:30	病理病態学		薬理学	看護過程論	現代社会と家族		情報リテラシーⅡ 手話
2	10:40～12:10	病理病態学		看護理論	看護過程論	心のしくみ	芸術と文化	情報リテラシーⅡ 手話
3	13:10～14:40	基礎看護技術論		形態機能学Ⅱ		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 英語ⅡC	プレゼンテーション 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション
4	14:50～16:20	基礎看護技術論		形態機能学Ⅱ		英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC 英語ⅡC	プレゼンテーション 英語ⅡA 英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡC	英語ⅡA 英語ⅡB 英語ⅡB 英語ⅡC 対人コミュニケーション
5	16:30～18:00	感染予防論				宗教と思想	統計の世界	現代社会と経済

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅰ　10/18（月）～10/22（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

③２年前期

		月		火	水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30	成人看護学概論	人間工学	ジェンダーを考える	生命科学	公衆衛生学	精神看護学概論	環境保健	老年看護学概論	
2	10:40～12:10	疾病治療学B		環境を考える 実践英語A 実践英語B	医療情報		疾病治療学概論		臨床栄養学	
3	13:10～14:40	公衆衛生学 4/12～5/10	家族社会学	実践英語A 実践英語B	生命倫理		疾病治療学A		症状マネジメント論	
4	14:50～16:20	公衆衛生学 4/12～5/10	成人看護援助論	現代社会と国際関係 健康とスポーツ		社会福祉学			症状マネジメント論	
5	16:30～18:00		成人看護援助論	グループ・ダイナミクス ボランティア活動を考える						

※集中講義：基礎看護学臨地実習Ⅱ　5/24（月）～6/4（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

④２年後期

		月		火	水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30	在宅看護学概論	精神看護援助論	教育を考える	臨床心理学		臨床薬理学		援助的人間関係論	在宅看護援助論
2	10:40～12:10	母性看護学概論	精神看護援助論	実践英語B	韓国語		小児看護学概論	看護倫理学	援助的人間関係論	在宅看護援助論
3	13:10～14:40	感染管理論		中国語 ロシア語	疾病治療学C			がん看護学	老年看護援助論	
4	14:50～16:20			中国語 ロシア語				がん看護学	老年看護援助論	
5	16:30～18:00			チーム医療論						

※集中講義：成人看護臨地実習Ⅰ　10/25（月）～11/12（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑤３年前期

		月		火		水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30	認知症ケア		小児看護援助論		在宅看護技術論		保健統計 4/8～4/22		保健統計 5/21～6/18	
2	10:40～12:10	認知症ケア		小児看護援助論		在宅看護技術論		保健統計 4/8～4/22		保健統計 5/21～6/18	
3	13:10～14:40	母性看護援助論				保健医療福祉制度論		リハビリテーション看護学		精神看護技術論	
4	14:50～16:20	母性看護援助論		成人看護技術論		保健医療福祉制度論		リハビリテーション看護学		精神看護技術論	
5	16:30～18:00			成人看護技術論						地域看護学概論	

※集中講義：老年看護学臨地実習Ⅰ　5/10（月）～5/14（金）
　　成人看護学臨地実習Ⅱ、精神看護学臨地実習、在宅看護学臨地実習　6/21（月）～7/30（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑥３年後期

		月		火		水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30	研究方法論		健康教育指導法		看護教育学		地域看護援助論		小児看護技術論	
2	10:40～12:10	研究方法論		健康教育指導法		透析ケア		地域看護援助論		小児看護技術論	
3	13:10～14:40	重症集中ケア						老年看護技術論		救急看護学	
4	14:50～16:20	地域看護援助論		学部連携演習 ※一部集中で開講します。				老年看護技術論		母性看護技術論	
5	16:30～18:00	地域看護援助論		学部連携演習 ※一部集中で開講します。				放射線医療管理論		母性看護技術論	

※集中講義：母性看護学臨地実習、小児看護学臨地実習、老年看護学臨地実習Ⅱ　11/22（火）～12/17（金）、1/17（月）～1/28（金）
　　母性看護学臨地実習の一部　12/20（月）～12/24（金）、1/31（月）～2/4（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑦４年前期

		月		火		水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30	国際保健学		国際看護学		看護管理学				ヘルスプロモーション活動論	
2	10:40～12:10	現代専門職論		災害看護学		看護管理学				ヘルスプロモーション活動論	
3	13:10～14:40	地域看護技術論		医療経営学		看護情報学		卒業研究		医療安全管理論	
4	14:50～16:20	地域看護技術論						卒業研究			
5	16:30～18:00			学部連携演習							

※集中講義：地域看護学臨地実習　6/14（月）～7/23（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

⑧４年後期

		月		火		水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30										
2	10:40～12:10										
3	13:10～14:40							卒業研究			
4	14:50～16:20							卒業研究			
5	16:30～18:00										

※集中講義：ヘルスケアマネジメント実習　9/27（月）～10/15（金）
※看護学部専門教育科目は、開講曜日時間を週によって変更する場合がある。

2） カリキュラム

① 授業科目一覧

平成２１年度以降入学生用

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
共通教育科目	導入科目		スタートアップ演習	2			1年前期	2単位
共通教育科目	教養科目	文化に対する理解	哲学と倫理		2		1年前期	4単位以上
			宗教と思想		2		1年後期	
			芸術と文化		2		1年後期	
			環境を考える		2		2年前期	
			教育を考える		2		2年後期	
		人間に対する理解	心のしくみ		2		1年後期	4単位以上
			体のしくみ		2		1年前期	
			ジェンダーを考える		2		2年前期	
			人間関係を考える		2		1年前期	
			健康とスポーツ		2		2年前期	
		社会に対する理解	現代社会と家族		2		1年後期	6単位以上
			現代社会と国際関係		2		2年前期	
			現代社会と経済		2		1年後期	
			札幌を学ぶ		2		1年前期	
			ボランティア活動を考える		2		2年前期	
			統計の世界	2			1年後期	
	コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1			1年前期	8単位以上
			英語ⅠB	1			1年前期	
			英語ⅠC	1			1年前期	
			英語ⅡA	1			1年後期	
			英語ⅡB	1			1年後期	
			英語ⅡC	1			1年後期	
			実践英語A		1		2年前期	
			実践英語B		1		2年	
			韓国語		1		2年後期	
			中国語		1		2年後期	
			ロシア語		1		2年後期	
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現法		1		1年前期	4単位以上
			プレゼンテーション		1		1年後期	
			基礎カウンセリング		1		1年前期	
			対人コミュニケーション		1		1年後期	
			グループ・ダイナミックス		1		2年前期	
			手話		1		1年後期	
			情報リテラシーⅠ	1			1年前期	
			情報リテラシーⅡ	1			1年後期	
合計								28単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門基礎科目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2			1年前期	5単位以上
			形態機能学Ⅱ	2			1年後期	
			生命科学		1		2年前期	
			生命倫理		1		2年前期	
			環境保健		1		2年前期	
			人間工学		1		2年前期	
		健康と健康障害と予防	薬理学	1			1年後期	10単位
			臨床薬理学	1			2年後期	
			臨床栄養学	1			2年前期	
			病理病態学	2			1年後期	
			疾病治療学概論	1			2年前期	
			疾病治療学A	1			2年前期	
			疾病治療学B	1			2年後期	
			疾病治療学C	1			2年後期	
			感染予防論	1			1年後期	
		保健と医療と福祉	公衆衛生学	1			2年前期	7単位以上
			社会福祉学	1			2年前期	
			家族社会学		1		2年前期	
			チーム医療論		1		2年後期	
			感染管理論		1		2年後期	
			臨床心理学		1		2年後期	
			地域保健学概論	1			1年前期	
			保健医療福祉行政論	1			3年前期	
			保健統計	1			3年前期	
			医療情報	1			2年前期	
合計								22単位以上

区分				授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門科目	看護の基盤となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	1			1年前期	7単位
				看護理論	1			1年後期	
				援助的人間関係論	1			2年後期	
				人間発達援助論	1			1年前期	
				看護初期実習	1			1年前期	
				看護倫理学	1			2年後期	
				健康教育指導法	1			3年後期	
			看護の基本的展開	看護過程論	1			1年後期	10単位
				看護観察技術論	1			1年前期	
				症状マネジメント論	2			2年前期	
				基礎看護技術論	2			1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅰ	1			1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅱ	2			2年前期	
				研究方法論	1			3年後期	
		健康レベルに応じて生活を援助するもの	小児	小児看護学概論	1			2年後期	5単位
				小児看護援助論	1			3年前期	
				小児看護技術論	1			3年後期	
				小児看護学臨地実習	2			3年後期	
			母性	母性看護学概論	1			2年後期	5単位
				母性看護援助論	1			3年前期	
				母性看護技術論	1			3年後期	
				母性看護学臨地実習	2			3年後期	
			成人	成人看護学概論	1			2年前期	8単位
				成人看護援助論	1			2年前期	
				成人看護技術論	1			3年前期	
				成人看護学臨地実習Ⅰ	3			2年後期	
				成人看護学臨地実習Ⅱ	2			3年前期	
			老年	老年看護学概論	1			2年前期	6単位
				老年看護援助論	1			2年後期	
				老年看護技術論	1			3年後期	
				老年看護学臨地実習Ⅰ	1			3年前期	
				老年看護学臨地実習Ⅱ	2			3年後期	
			精神	精神看護学概論	1			2年前期	5単位
				精神看護援助論	1			2年後期	
				精神看護技術論	1			3年前期	
				精神看護学臨地実習	2			3年前期	
			在宅	在宅看護学概論	1			2年後期	5単位
				在宅看護援助論	1			2年後期	
				在宅看護技術論	1			3年前期	
				在宅看護学臨地実習	2			3年前期	
			健康問題への対応	リハビリテーション看護学	1			3年前期	5単位以上
				がん看護学	1			2年後期	
				認知症ケア	1			3年前期	
				透析ケア		1		3年後期	
				重症集中ケア		1		3年後期	
				救急看護学		1		3年後期	
				放射線医療管理論		1		3年後期	
				ペリネイタルケア		1		4年前期	
				バリアティブケア		1		4年前期	
				寒冷地医療		1		4年前期	
		コミュニティケアに関するもの		地域看護学概論	1			3年前期	9単位
				地域看護援助論	2			3年後期	
				地域看護技術論	1			4年前期	
				ヘルスプロモーション活動論	1			4年前期	
				地域看護学臨地実習Ⅰ	2			4年前期	
				地域看護学臨地実習Ⅱ	2			4年前期	
		発展・統合に関するもの		看護管理学	1			4年前期	11単位以上
				看護教育学	1			3年後期	
				卒業研究	4			4年	
				ヘルスケアマネジメント実習	3			4年後期	
				看護情報学		1		4年前期	
				災害看護学		1		4年前期	
				国際看護学		1		4年前期	
				国際保健学		1		4年前期	
				医療経営学		1		4年前期	
				医療安全管理論		1		4年前期	
				現代専門職論		1		4年前期	
		学部連携		学部連携演習	2			3年後期	2単位
合計									78単位以上

平成２０年度入学生用（編入学生は２２年度）入学生用

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
共通教育科目	導入科目		スタートアップ演習	2			1年前期	２単位
共通教育科目	教養科目	文化に対する理解	哲学と倫理		2		1年前期	４単位以上
			宗教と思想		2		1年後期	
			芸術と文化		2		1年後期	
			環境を考える		2		2年後期	
			教育を考える		2		2年後期	
		人間に対する理解	心のしくみ		2		1年後期	４単位以上
			体のしくみ		2		1年前期	
			ジェンダーを考える		2		2年前期	
			人間関係を考える		2		1年前期	
			健康とスポーツ		2		2年前期	
		社会に対する理解	現代社会と家族		2		1年後期	６単位以上
			現代社会と国際関係		2		2年前期	
			現代社会と経済		2		1年後期	
			札幌を学ぶ		2		1年前期	
			ボランティア活動を考える		2		2年前期	
			統計の世界	2			1年後期	
	コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1			1年前期	８単位以上
			英語ⅠB	1			1年前期	
			英語ⅠC	1			1年前期	
			英語ⅡA	1			1年後期	
			英語ⅡB	1			1年後期	
			英語ⅡC	1			1年後期	
			実践英語A		1		2年	
			実践英語B		1		2年前期	
			韓国語		1		2年後期	
			中国語		1		2年前期	
			ロシア語		1		2年前期	
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現法		1		1年前期	４単位以上
			プレゼンテーション		1		1年後期	
			基礎カウンセリング		1		1年前期	
			対人コミュニケーション		1		1年後期	
			グループ・ダイナミックス		1		2年前期	
			手話		1		1年後期	
			情報リテラシーⅠ	1			1年前期	
			情報リテラシーⅡ	1			1年後期	
合計								28単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門基礎科目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2			1年前期	５単位以上
			形態機能学Ⅱ	2			1年後期	
			生命科学		1		2年前期	
			生命倫理		1		2年前期	
			環境保健		1		2年前期	
			人間工学		1		2年前期	
		健康と健康障害と予防	薬理学	1			1年後期	10単位
			臨床薬理学	1			2年後期	
			臨床栄養学	1			2年前期	
			病理病態学	2			1年後期	
			疾病治療学概論	1			2年前期	
			疾病治療学A	1			2年前期	
			疾病治療学B	1			2年前期	
			疾病治療学C	1			2年後期	
			感染予防論	1			1年後期	
		保健と医療と福祉	公衆衛生学	1			2年前期	6単位以上
			社会福祉学		1		2年前期	
			家族社会学		1		2年前期	
			チーム医療論		1		2年後期	
			感染管理論		1		2年後期	
			臨床心理学		1		2年後期	
			地域保健学概論	1			1年前期	
			保健医療福祉制度論	1			3年前期	
			保健統計	1			3年前期	
			医療情報	1			2年前期	
合計								21単位以上

区分				授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門科目	看護の基盤となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	1			1年前期	７単位
				看護理論	1			1年後期	
				援助的人間関係論	1			2年後期	
				人間発達援助論	1			1年後期	
				看護初期実習	1			1年前期	
				看護倫理学	1			2年後期	
				健康教育指導法	1			3年後期	
			看護の基本的展開	看護過程論	1			1年後期	10単位
				看護観察技術論	1			1年前期	
				症状マネジメント論	2			2年前期	
				基礎看護技術論	2			1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅰ	1			1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅱ	2			2年前期	
				研究方法論	1			3年後期	
		健康レベルに応じて生活を援助するもの	小児	小児看護学概論	1			2年後期	５単位
				小児看護援助論	1			3年前期	
				小児看護技術論	1			3年後期	
				小児看護学臨地実習	2			3年後期	
			母性	母性看護学概論	1			2年後期	５単位
				母性看護援助論	1			3年前期	
				母性看護技術論	1			3年後期	
				母性看護学臨地実習	2			3年後期	
			成人	成人看護学概論	1			2年前期	８単位
				成人看護援助論	1			2年前期	
				成人看護技術論	1			3年前期	
				成人看護学臨地実習Ⅰ	3			2年後期	
				成人看護学臨地実習Ⅱ	2			3年前期	
			老年	老年看護学概論	1			2年前期	６単位
				老年看護援助論	1			2年後期	
				老年看護技術論	1			3年後期	
				老年看護学臨地実習Ⅰ	1			3年前期	
				老年看護学臨地実習Ⅱ	2			3年後期	
			精神	精神看護学概論	1			2年前期	５単位
				精神看護援助論	1			2年後期	
				精神看護技術論	1			3年前期	
				精神看護学臨地実習	2			3年前期	
			在宅	在宅看護学概論	1			2年後期	５単位
				在宅看護援助論	1			2年後期	
				在宅看護技術論	1			3年前期	
				在宅看護学臨地実習	2			3年前期	
			健康問題への対応	リハビリテーション看護学	1			3年前期	５単位以上
				がん看護学	1			2年後期	
				認知症ケア	1			3年前期	
				透析ケア		1		3年後期	
				重症集中ケア		1		3年後期	
				救急看護学		1		3年後期	
				放射線医療管理論		1		3年後期	
				ペリネイタルケア		1		4年前期	
				バリアティブケア		1		4年前期	
				寒冷地医療		1		4年前期	
		コミュニティケアに関するもの		地域看護学概論	1			3年前期	８単位
				地域看護援助論	2			3年後期	
				地域看護技術論	1			4年前期	
				ヘルスプロモーション活動論	1			4年前期	
				地域看護学臨地実習	3			4年前期	
		発展・統合に関するもの		看護管理学	1			4年前期	11単位以上
				看護教育学	1			3年後期	
				卒業研究	4			4年	
				ヘルスケアマネジメント実習	3			4年後期	
				看護情報学		1		4年前期	
				災害看護学		1		4年前期	
				国際看護学		1		4年前期	
				国際保健学		1		4年前期	
				医療経営学		1		4年前期	
				医療安全管理論		1		4年前期	
				現代専門職論		1		4年前期	
		学部連携		学部連携演習	2			3年後期	２単位
合計									77単位以上

平成１９年度入学生用（編入学生は２１年度）入学生用

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
共通教育科目	導入科目		スタートアップ演習	2			1年前期	2単位
共通教育科目	教養科目	文化に対する理解	哲学と倫理		2		1年前期	4単位以上
			宗教と思想		2		1年後期	
			芸術と文化		2		1年後期	
			環境を考える		2		2年後期	
			教育を考える		2		2年後期	
		人間に対する理解	心のしくみ		2		1年後期	4単位以上
			体のしくみ		2		1年前期	
			ジェンダーを考える		2		2年前期	
			人間関係を考える		2		1年前期	
			健康とスポーツ		2		2年前期	
		社会に対する理解	現代社会と家族		2		1年後期	6単位以上
			現代社会と国際関係		2		2年前期	
			現代社会と経済		2		1年後期	
			札幌を学ぶ		2		1年前期	
			ボランティア活動を考える		2		2年前期	
			統計の世界	2			1年後期	
	コミュニケーション科目	外国語	英語ⅠA	1			1年前期	8単位以上
			英語ⅠB	1			1年前期	
			英語ⅠC	1			1年前期	
			英語ⅡA	1			1年後期	
			英語ⅡB	1			1年後期	
			英語ⅡC	1			1年後期	
			実践英語A		1		2年	
			実践英語B		1		2年前期	
			韓国語		1		2年後期	
			中国語		1		2年前期	
			ロシア語		1		2年前期	
		コミュニケーション・情報技術	日本語表現法		1		1年前期	4単位以上
			プレゼンテーション		1		1年後期	
			基礎カウンセリング		1		1年前期	
			対人コミュニケーション		1		1年後期	
			グループ・ダイナミックス		1		2年前期	
			手話		1		1年後期	
			情報リテラシーⅠ	1			1年前期	
			情報リテラシーⅡ	1			1年後期	
合計								28単位以上

区分			授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門基礎科目	人間と命	形態機能学Ⅰ	2			1年前期	5単位以上
			形態機能学Ⅱ	2			1年後期	
			生命科学		1		2年前期	
			生命倫理		1		2年前期	
			環境保健		1		2年前期	
			人間工学		1		2年前期	
		健康と健康障害と予防	薬理学	1			1年後期	10単位
			臨床薬理学	1			2年後期	
			臨床栄養学	1			2年前期	
			病理病態学	2			1年後期	
			疾病治療学概論	1			2年前期	
			疾病治療学A	1			2年前期	
			疾病治療学B	1			2年前期	
			疾病治療学C	1			2年後期	
			感染予防論	1			1年後期	
		保健と医療と福祉	公衆衛生学	1			2年前期	6単位以上
			社会福祉学		1		2年前期	
			家族社会学		1		2年前期	
			チーム医療論		1		2年後期	
			感染管理論		1		2年後期	
			臨床心理学		1		2年後期	
			地域保健学概論	1			1年前期	
			保健医療福祉制度論	1			3年前期	
			保健統計	1			3年前期	
			医療情報	1			2年前期	
合計								21単位以上

区分				授業科目の名称	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次	修得単位数
専門教育科目	専門科目	看護の基盤となるもの	ヒューマンケアの基本	看護学原論	1			1年前期	7単位
				看護理論	1			1年後期	
				援助的人間関係論	1			2年後期	
				人間発達援助論	1			1年後期	
				看護初期実習	1			1年前期	
				看護倫理学	1			2年後期	
				健康教育指導法	1			3年後期	
			看護の基本的展開	看護過程論	1			1年後期	10単位
				看護観察技術論	1			1年前期	
				症状マネジメント論	2			2年前期	
				基礎看護技術論	2			1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅰ	1			1年後期	
				基礎看護学臨地実習Ⅱ	2			2年前期	
				研究方法論	1			3年後期	
		健康レベルに応じて生活を援助するもの	小児	小児看護学概論	1			2年後期	5単位
				小児看護援助論	1			3年前期	
				小児看護技術論	1			3年後期	
				小児看護学臨地実習	2			3年後期	
			母性	母性看護学概論	1			2年後期	5単位
				母性看護援助論	1			3年前期	
				母性看護技術論	1			3年後期	
				母性看護学臨地実習	2			3年後期	
			成人	成人看護学概論	1			2年前期	8単位
				成人看護援助論	1			2年前期	
				成人看護技術論	1			3年前期	
				成人看護学臨地実習Ⅰ	3			2年後期	
				成人看護学臨地実習Ⅱ	2			3年前期	
			老年	老年看護学概論	1			2年前期	6単位
				老年看護援助論	1			2年後期	
				老年看護技術論	1			3年後期	
				老年看護学臨地実習Ⅰ	1			3年前期	
				老年看護学臨地実習Ⅱ	2			3年後期	
			精神	精神看護学概論	1			2年前期	5単位
				精神看護援助論	1			2年後期	
				精神看護技術論	1			3年前期	
				精神看護学臨地実習	2			3年前期	
			在宅	在宅看護学概論	1			2年後期	5単位
				在宅看護援助論	1			2年後期	
				在宅看護技術論	1			3年前期	
				在宅看護学臨地実習	2			3年前期	
			健康問題への対応	リハビリテーション看護学	1			3年前期	5単位以上
				がん看護学	1			2年後期	
				認知症ケア	1			3年前期	
				透析ケア		1		3年後期	
				重症集中ケア		1		3年後期	
				救急看護学		1		3年後期	
				放射線医療管理論		1		3年後期	
				ペリネイタルケア		1		3年後期	
				バリアティブケア		1		3年後期	
				寒冷地医療		1		3年後期	
		コミュニティケアに関するもの		地域看護学概論	1			3年前期	8単位
				地域看護援助論	2			3年後期	
				地域看護技術論	1			4年前期	
				ヘルスプロモーション活動論	1			4年前期	
				地域看護学臨地実習	3			4年前期	
		発展・統合に関するもの		看護管理学	1			4年前期	11単位以上
				看護教育学	1			3年後期	
				卒業研究	4			4年	
				ヘルスケアマネジメント実習	3			4年後期	
				看護情報学		1		4年前期	
				災害看護学		1		4年前期	
				国際看護学		1		4年前期	
				国際保健学		1		4年前期	
				医療経営学		1		4年前期	
				医療安全管理論		1		4年前期	
				現代専門職論		1		4年前期	
		学部連携		学部連携演習	2			3後～4前	2単位
合計									77単位以上

② 卒業要件

※平成１８～２０年度（編入学生は２０～２２年度）入学生用

区分		必修	選択	合計
共通教育科目		12	16	28
専門教育科目		92	6	98
	（専門基礎科目）	(19)	(2)	(21)
	（専門科目）	(73)	(4)	(77)
合計		104	22	126

※平成２１年度以降入学生用

区分		必修	選択	合計
共通教育科目		12	16	28
専門教育科目		94	6	100
	（専門基礎科目）	(20)	(2)	(22)
	（専門科目）	(74)	(4)	(78)
合計		106	22	128

3） 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）
★印：非常勤講師

授業科目	授業形態・時数	担当教員
形態機能学Ⅰ	演　習　60時間	★高野　廣子
地域保健学概論	講　義　15時間	◎清水　光子　新納　美美　保田　玲子
看護学原論	講　義　15時間	◎定廣　和香子　河野　總子
看護初期実習	実　習　45時間	◎守村　洋　大野　夏代　清水　光子 須田　恭子　吉川　由希子　菊地　ひろみ 菅原　美樹　杉田　久子　田中　広美 新納　美美　藤井　瑞恵　星　美和子 村松　真澄　保田　玲子
看護観察技術論	演　習　30時間	◎大野　夏代　杉田　久子　田中　広美 星　美和子
人間発達援助論	演　習　30時間	◎山本　勝則　内田　雅子　坂倉　恵美子 松浦　和代　宮﨑　みち子
形態機能学Ⅱ	演　習　60時間	★高野　廣子
薬理学	講　義　15時間	★富樫　廣子
病理病態学	演　習　60時間	★小林　正伸
感染予防論	講　義　15時間	富樫　武弘

授業科目	授業形態・時数	担当教員
看護理論	講　義　15時間	定廣　和香子
看護過程論	演　習　30時間	◎大野　夏代　杉田　久子　田中　広美
基礎看護技術論	演　習　60時間	◎杉田　久子　樋之津　淳子　大野　夏代 田中　広美　鶴木　恭子　檜山　明子
基礎看護学臨地実習Ⅰ	実　習　45時間	◎杉田　久子　定廣　和香子　樋之津　淳子 大野　夏代　田中　広美　太田　晴美 神島　滋子　河村　奈美子　進藤　ゆかり 照井　レナ　原井　美佳　渕本　雅昭 松村　寛子　三上　智子　工藤　京子 鶴木　恭子　檜山　明子
生命科学	講　義　15時間	★山田　恵子
生命倫理	講　義　15時間	★村上　友一
環境保健	講　義　15時間	◎加藤　登紀子　★齋藤　健
人間工学	講　義　15時間	◎樋之津　淳子　★佐藤　秀一
臨床栄養学	演　習　30時間	★高野　良子
疾病治療学概論	演　習　30時間	◎★福島　直樹　★真尾　秀樹
疾病治療学A	演　習　30時間	◎★柳澤　克之　★福田　洋之　★本村　文宏
疾病治療学B	演　習　30時間	★向井　正也
公衆衛生学	演　習　30時間	◎★片倉　洋子　★池野　多美子
社会福祉学	講　義　15時間	★大内　高雄
家族社会学	講　義　15時間	◎原　俊彦　吉川　由希子
医療情報	演　習　30時間	★小笠原　克彦
症状マネジメント論	演　習　60時間	◎菅原　美樹　須田　恭子　藤井　瑞恵 星　美和子　村松　真澄　神島　滋子 渕本　雅昭
基礎看護学臨地実習Ⅱ	実　習　90時間	◎大野　夏代　定廣　和香子　樋之津　淳子 杉田　久子　田中　広美　太田　晴美 神島　滋子　河村　奈美子　櫻井　繭子 進藤　ゆかり　照井　レナ　原井　美佳 渕本　雅昭　三上　智子　工藤　京子 鶴木　恭子　檜山　明子
成人看護学概論	講　義　15時間	◎内田　雅子　中村　恵子
成人看護援助論	演　習　30時間	◎内田　雅子　須田　恭子　菅原　美樹 藤井　瑞恵　神島　滋子　渕本　雅昭 工藤　京子
老年看護学概論	講　義　15時間	坂倉　恵美子
精神看護学概論	講　義　15時間	山本　勝則
臨床薬理学	演　習　30時間	★唯野　貢司

授業科目	授業形態・時数	担当教員
疾病治療学C	演　習　30時間	★三澤　一仁
チーム医療論	講　義　15時間	◎河野　總子　星　美和子　太田　晴美
感染管理論	講　義　15時間	◎スーディー神崎　和代　★石角　鈴華
臨床心理学	講　義　15時間	◎山本　勝則　★菊池　浩光
援助的人間関係論	演　習　30時間	◎守村　洋　山本　勝則　須田　恭子 杉田　久子　藤井　瑞恵
看護倫理学	講　義　15時間	宮崎　みち子
小児看護学概論	講　義　15時間	松浦　和代
母性看護学概論	講　義　15時間	◎宮崎　みち子　山本　真由美
成人看護学臨地実習Ⅰ	実　習　135時間	◎藤井　瑞恵　内田　雅子　菅原　美樹 太田　晴美　神島　滋子　河村　奈美子 櫻井　繭子　進藤　ゆかり　照井　レナ 原井　美佳　渕本　雅昭　松村　寛子 三上　智子　工藤　京子　鶴木　恭子 檜山　明子
老年看護援助論	演　習　30時間	◎村松　真澄　坂倉　恵美子　進藤　ゆかり 原井　美佳　★川人　由美子
精神看護援助論	演　習　30時間	◎守村　洋　河村　奈美子　★安田　素次
在宅看護学概論	講　義　15時間	スーディ神崎　和代
在宅看護援助論	演　習　30時間	◎菊地　ひろみ　スーディ神崎　和代　照井　レナ ★工藤　和子　★石崎　剛
がん看護学	演　習　30時間	◎樋之津　淳子　松浦　和代　村松　真澄 ★松山　茂子
保健医療福祉制度論	演　習　30時間	★館石　宗隆
保健統計	演　習　30時間	◎★片倉　洋子　★槙　洋一
小児看護援助論	演　習　30時間	◎吉川　由希子　三上　智子　富樫　武弘
母性看護援助論	演　習　30時間	◎山本　真由美　多賀　昌江　★内田　亜紀子
成人看護技術論	演　習　30時間	◎藤井　瑞恵　須田　恭子　菅原　美樹 神島　滋子　渕本　雅昭
成人看護学臨地実習Ⅱ	実　習　90時間	◎菅原　美樹　内田　雅子　須田　恭子 藤井　瑞恵　神島　滋子　渕本　雅昭 工藤　京子
老年看護学臨地実習Ⅰ	実　習　45時間	◎原井　美佳　坂倉　恵美子　村松　真澄 進藤　ゆかり
精神看護技術論	演　習　30時間	◎河村　奈美子　山本　勝則　守村　洋
精神看護学臨地実習	実　習　90時間	◎守村　洋　山本　勝則　河村　奈美子
在宅看護技術論	演　習　30時間	◎照井　レナ　スーディ神崎　和代　菊地　ひろみ

授業科目	授業形態・時数	担当教員
在宅看護学臨地実習	実　習　90時間	◎菊地　ひろみ　スーディ神崎　和代　照井　レナ
リハビリテーション看護学	演　習　30時間	◎神島　滋子　★石鍋　圭子　★奥宮　暁子 ★平山　光久
認知症ケア	演　習　30時間	スーディ神崎　和代
地域看護学概論	講　義　15時間	◎清水　光子　加藤　登紀子
健康教育指導法	演　習　30時間	◎保田　玲子　清水　光子　新納　美美 櫻井　繭子　松村　寛子
研究方法論	演　習　30時間	◎松浦　和代　内田　雅子　樋之津　淳子
小児看護技術論	演　習　30時間	◎吉川　由希子　松浦　和代　三上　智子
小児看護学臨地実習	実　習　90時間	◎吉川　由希子　松浦　和代　三上　智子
母性看護技術論	演　習　30時間	◎多賀　昌江　山内　まゆみ　山本　真由美
母性看護学臨地実習	実　習　90時間	◎山本　真由美　宮﨑　みち子　山内　まゆみ 多賀　昌江
老年看護技術論	演　習　30時間	◎進藤　ゆかり　村松　真澄　原井　美佳
老年看護学臨地実習Ⅱ	実　習　90時間	◎村松　真澄　坂倉　恵美子　進藤　ゆかり 原井　美佳
透析ケア	講　義　15時間	◎内田　雅子　★城下　弘　★佐藤　奈津子
重症集中ケア	講　義　15時間	◎菅原　美樹　中村　惠子　渕本　雅昭 ★小山　昭人
救急看護学	講　義　15時間	◎渕本　雅昭　中村　惠子　菅原　美樹 ★三上　剛人
放射線医療管理論	講　義　15時間	◎★池田　光　★宮崎　知保子
地域看護援助論	演　習　60時間	◎清水　光子　新納　美美　保田　玲子 櫻井　繭子　松村　寛子
看護教育学	講　義　15時間	定廣　和香子
学部連携演習	演　習　60時間	◎山本　勝則　河野　總子　大野　夏代 菅原　美樹　田中　広美　新納　美美 藤井　瑞恵　村松　真澄　神島　滋子 照井　レナ　◎武田　亘明　矢部　和夫 張　浦華　小宮　加容子　齊藤　雅也 福田　大年　山田　良　上田　裕文 片山　めぐみ　須之内　元洋
地域看護技術論	演　習　30時間	◎櫻井　繭子　清水　光子　新納　美美 保田　玲子
ヘルスプロモーション活動論	演　習　30時間	◎新納　美美　清水　光子　保田　玲子 櫻井　繭子　松村　寛子
地域看護学臨地実習	実　習　135時間	◎新納　美美　清水　光子　保田　玲子 櫻井　繭子　松村　寛子

授業科目	授業形態・時数	担当教員
看護管理学	演　習　30時間	◎河野　總子　星　美和子　太田　晴美
看護情報学	講　義　15時間	★佐藤　ひとみ
災害看護学	講　義　15時間	◎太田　晴美　★浅井　康文
国際看護学	講　義　15時間	◎大野　夏代　スーディ神崎　和代
国際保健学	講　義　15時間	★玉城　英彦
医療経営学	講　義　15時間	◎河野　總子　スーディ神崎　和代
医療安全管理論	講　義　15時間	◎河野　總子　★阿部　順子
現代専門職論	講　義　15時間	◎須田　恭子　中村　惠子
学部連携演習	演　習　60時間	◎スーディ神崎　和代　樋之津　淳子　清水　光子 須田　恭子　吉川　由希子　星　美和子 渡邉　由加利　河村　奈美子　櫻井　繭子 進藤　ゆかり　三上　智子　◎酒井　正幸 武田　亘明　張　浦華　細谷　多耳 齊藤　雅也　那須　聖　福田　大年 山田　良　三谷　篤史　上田　裕文 須之内　元洋
ヘルスケアマネジメント実習	実　習　135時間	◎星　美和子　河野　總子　大野　夏代 守村　洋　吉川　由希子　菊地　ひろみ 菅原　美樹　杉田　久子　田中　広美 藤井　瑞恵　村松　真澄　山本　真由美 太田　晴美
卒業研究	演　習　120時間	◎松浦　和代　内田　雅子　河野　總子 坂倉　恵美子　定廣　和香子　スーディ神崎　和代 樋之津　淳子　宮﨑　みち子　山本　勝則 大野　夏代　清水　光子　守村　洋 吉川　由希子　菊地　ひろみ　菅原　美樹 杉田　久子　田中　広美　新納　美美 藤井　瑞恵　星　美和子　村松　真澄 保田　玲子　山本　真由美　太田　晴美 神島　滋子　河村　奈美子　櫻井　繭子 進藤　ゆかり　多賀　昌江　照井　レナ 原井　美佳　渕本　雅昭　松村　寛子 三上　智子

4） 実習概要

※機関種別

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
看護初期実習	平成22年6月7日～11日	医療機関	82名
		障がい児通園施設	29名
		老人福祉センター	65名
		地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	15名
		保健所・保健センター	39名
		その他	10名
基礎看護学臨地実習Ⅰ	平成22年10月18日～22日	医療機関	328名
基礎看護学臨地実習Ⅱ	平成22年5月24日～6月4日	医療機関	729名
成人看護学臨地実習Ⅰ	平成22年10月25日～11月12日	医療機関	1,066名
老年看護学臨地実習Ⅰ	平成22年5月10日～14日	老人福祉センター	243名
成人看護学臨地実習Ⅱ	平成22年6月21日～7月30日	医療機関	793名
精神看護学臨地実習	平成22年6月21日～7月30日	医療機関	666名
		その他	27名
在宅看護学臨地実習	平成22年6月21日～7月30日	医療機関	16名
		訪問看護ステーション	274名
		地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	307名
母性看護学臨地実習	平成22年11月22日～12月24日 平成23年 1月17日～ 2月 4日	医療機関	696名
小児看護学臨地実習	平成22年11月22日～12月17日	医療機関	473名
	平成23年 1月17日～ 28日	保育所	229名
老年看護学臨地実習Ⅱ	平成22年11月22日～12月17日	医療機関	380名
	平成23年 1月17日～ 28日	介護老人保健施設	160名
地域看護学臨地実習	平成22年6月14日～7月23日	保健所・保健センター	850名
		事業所	85名
ヘルスケアマネジメント実習	平成22年9月27日～10月15日	医療機関	1,001名
		介護老人保健施設	104名

5)　質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）

教育GP「学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討」平成22年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成22年5月～7月	札幌市立大学で育成した模擬患者31名を対象に5回のフォローアップ研修を実施。
平成22年8月1日	日本看護学教育学会の交流セッションに参加。（参加者：約100名）
平成23年2月2日	FD研修会「OSCE評価者教育について（講師：東京大学大学院医学系研究科救急医学講座講師田中行夫）」を実施。（参加者：36名）
平成22年12月22日～平成23年2月22日	各学年にOSCEを実施し、個別フィードバックを実施。（1年生:2月22日（火）、2年生:2月21日（月）、3年生：2月18日（金）、4年生：12月22日（水））
平成23年3月11日	本学の実習先から担当者を招いて隣地実習指導者会議を開催。（参加者149名）
平成23年3月24日	これまでの教育GPの取組についての最終報告と意見交換を行うため、成果報告会を開催。（参加者：102名）

6)　大学生の就業力育成支援事業（就業力GP）

就業力GP「学社連携による循環型就業力育成プログラム」平成22年度の主な事業実績

年月日	事業実績
平成22年11月17日	全学FD・SD研修会「大学生の就業力育成支援事業の概要と今後の取組」を実施。（参加者82名）
平成23年1月24日～25日	就業力GP合同フォーラムに参加。（3名）
平成23年2月19日	京都府立医科大学看護研究交流会に参加。（1名）
平成23年3月1日	4年次生などを対象に就業力スキルアップセミナー「社会人基礎力としてのコミュニケーション「未来を拓く主役は私～魅力的なコミュニケーションを考える～」（講師：キャスター、千葉大学教育学部特命教授　木場弘子）」を実施。（参加者80名）
平成23年3月8日	FD研修会「ポートフォリオとはなにか～その本質と効果（講師：千葉大学教育学部特命教授鈴木敏恵）」を実施。（参加者42名）
平成23年3月8日～10日	卒業生ならびに就業先と意見交換会を開催し卒後研修制度の情報収集を行った。（3月8日㈫札幌（参加者：卒業生21名、就業先21名）、（3月10日㈭東京（参加者：卒業生18名、就業先11名）
平成23年3月24日	本年度の準備や成果の公表及び討論の場としてフォーラムを開催し、他大学、卒業生の就業先、実習関連施設等に本取組の概要と特色の周知を図るとともに、就業力育成に関する課題とその推進への取組について意見交換を行った。（学外者34名、教職員40名参加）

7） 認定看護管理者制度サードレベル教育過程

平成22年度受講者10名（修了者10名）。受講者は第Ⅰ～Ⅲ期全期間（計8週39日間）を受講。

開講期間	教科目／時間／単位	単元	講義・演習（時間数）	講師
第Ⅰ期（15日間）平成22年8月23日～9月10日	保健医療福祉政策論／30時間／2単位	社会保障の概念	講義（3）	★梅井　治雄
		諸外国の保健医療福祉	講義（3）	スーディ神崎　和代
		保健医療福祉政策	講義（3）	★山田　雅子
		看護制度・政策	講義・演習（6）	★丸山　知子 ★山田　雅子
		制度・政策に影響を及ぼす看護管理者	講義・演習（6）	★大田　すみ子
		保健医療福祉政策論	演習（9）	★上田　順子 近藤　ときえ 河野　總子
	保健医療福祉組織論／45時間／3単位	保健医療福祉サービスのマーケティング	講義・演習（6）	★松下　博宣
		地域保健医療福祉計画	講義（6）	★飯田　晃
		組織デザイン論	講義・演習（9）	河野　總子 ★永池　京子
		ヘルスケアサービスの連携	講義（12）	河野　總子 ★佐々木　由紀子 中村　惠子 ★平川　由紀子
		保健医療福祉組織論	演習（12）	河野　總子 ★児玉　真利子 ★松田　久代
第Ⅱ期（14日間）平成22年11月8日～11月26日	経営管理論／75時間／5単位	医療福祉と経済論	講義・演習（6）	★高木　安雄
		医療福祉経営	講義・演習（12）	河野　總子 ★徳田　禎久
		財務管理	講義・演習（6）	★玉川　真弓
		経営分析	講義・演習（6）	★水野　克也
		ヘルスケアサービスの経営と質管理・経済性	講義・演習（12）	★陣田　泰子 ★宮城　領子
		看護経営の今後のあり方	講義・演習（15）	スーディ神崎　和代
		経営管理論	演習（18）	河野　總子 ★西川　優子 ★松田　久代
第Ⅲ期（10日間）平成23年1月17日～1月28日	経営者論／30時間／2単位	経営者論	講義（6）	★田中　靖代 中村　惠子
		管理者の倫理的意思決定	講義（6）	★石垣　靖子 中村　惠子
		起業家論	講義（6）	★原田　典子
		経営者論演習1	演習（6）	河野　總子 ★近藤　ときえ ★佐々木　由紀子
		経営者論演習2	演習（6）	河野　總子 ★佐々木　由紀子 ★松田　久代
	※その他／30時間	開講式・終講式、オリエンテーション・ガイダンス、情報・文献検索、小論文プレゼンテーション、レポート作成、特別講義、口頭試問、全体会議		

★印：非常勤講師

5　デザイン研究科

1)　平成２２年度時間割

①前期

		月	火	水	木	金	土
		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	桑園キャンパス
1	9:00～10:30		建築構造デザイン特論			景観デザイン特論	国際関係特論
2	10:40～12:10		建築計画特論				コミュニケーション特論
3	13:10～14:40	デザイン研究法	建築構造デザイン特論		地域創成デザインセミナーA インタラクションデザイン特論		少子高齢社会特論
4	14:50～16:20	環境共生デザイン特論	インターンシップⅠ（事前講義） インターンシップⅡ（事前講義）			デザインマネジメント特論	連携プロジェクト演習
5	16:30～18:00	メカトロニクス特論	製品造形特論 ビジュアルデザイン特論		形状情報処理特論		
6	18:10～19:40		デザイン特論	デザイン特別演習		環境共生デザイン特論	
7	19:50～21:20			メディアプロデュース特論			

②後期

		月	火	水	木	金	土
		芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	芸森キャンパス	桑園キャンパス
1	9:00～10:30			建築環境学特論			健康福祉政策特論
2	10:40～12:10					造形表現特論	地域経済政策特論
3	13:10～14:40	地域環境評価特論			インタフェースデザイン特論	環境マネジメント特論	ヒューマニティ特論
4	14:50～16:20	映像デザイン特論 日本建築史特論					連携プロジェクト演習
5	16:30～18:00			地域ブランド構築特論			
6	18:10～19:40	製品評価特論 現代芸術特論		デザイン特別演習		地域創成デザインセミナーB	
7	19:50～21:20						

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次
研究科連携科目	国際関係特論		2		1・2前期
	少子高齢社会特論		2		1・2前期
	健康福祉政策特論		2		1・2後期
	地域経済政策特論		2		1・2後期
	ヒューマニティ特論		2		1・2後期
	コミュニケーション特論		2		1・2前期
	連携プロジェクト演習		2		1年
小計		－	14	－	

区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次
専門教育科目	基本科目	デザイン特論	2			1年前期
		デザイン研究法		2		1年前期
		デザインマネジメント特論		2		1年前期
小計			2	4	－	

区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次
専門教育科目	展開科目	建築計画特論		2		1・2前期
		建築環境学特論		2		1・2後期
		建築構造デザイン特論		2		1・2前期
		日本建築史特論		2		1・2後期
		景観デザイン特論		2		1・2前期
		地域環境評価特論		2		1・2後期
		環境共生デザイン特論		2		1・2前期
		環境マネジメント特論		2		1・2後期
		製品造形特論		2		1・2前期
		製品評価特論		2		1・2後期
		メカトロニクス特論		2		1・2前期
		インタフェースデザイン特論		2		1・2後期
		インタラクションデザイン特論		2		1・2前期
		形状情報処理特論		2		1・2前期
		造形表現特論		2		1・2後期
		映像デザイン特論		2		1・2後期
		ビジュアルデザイン特論		2		1・2前期
		現代芸術特論		2		1・2後期
		メディアプロデュース特論		2		1・2前期
		地域ブランド構築特論		2		1・2後期
		デザイン特別演習	2			1前・後
小計			2	40	－	

区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次
専門教育科目	実践科目	地域プロジェクト演習	2			2前期
		地域創成デザイン特別セミナーA		2		1・2前期
		地域創成デザイン特別セミナーB		2		1・2後期
		インターンシップⅠ		2		1・2集中
		インターンシップⅡ			4	1・2集中
小計			2	6	4	

区分		授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	配当年次
専門教育科目	修了研究	特別研究	6	－	－	1～2年
小計			6	－	－	－

◎：必修科目　○：選択必修科目　△：選択科目　集中：休業期間中の集中講義
■：一級建築士受験の実務経験1年とみなすために必要な科目（7科目・16単位）
※「建築デザイン」履修モデルは一級建築士受験の実務経験1年とみなすために必要な科目（7科目・16単位）の取得を想定しているため、合計単位数が34単位となっています。

② 修了要件

科目区分			修了要件
研究科連携科目			4単位以上
専門教育科目	基本科目		4単位以上
	展開科目	空間デザイン分野 製品デザイン分野 コンテンツ・メディアデザイン分野	12単位以上
	実践科目		4単位以上
	修了研究		6単位
合計			30単位以上

3） 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）
★印：非常勤講師

連携科目

授業科目	授業形態・時数	担当教員
国際関係特論	講　義　30時間	◎スーディ神崎　和代　大野　夏代　★玉城　英彦 ★南　裕子
少子高齢社会特論	講　義　30時間	原　俊彦
コミュニケーション特論	講　義　30時間	町田　佳世子
健康福祉政策特論	講　義　30時間	◎館石　宗隆　★大久保　一郎　★岡村　龍一
地域経済政策特論	講　義　30時間	★佐藤　孝一
ヒューマニティ特論	講　義　30時間	★藤尾　均
連携プロジェクト演習	演　習　30時間	◎城間　祥之　矢部　和夫　斉藤　雅也 三谷　篤史　◎中村　惠子　河野　總子 坂倉　恵美子　樋之津　淳子　松浦　和代

授業科目	授業形態・時数	担当教員
デザイン特論	講　義　30時間	原田　昭
デザイン研究法	講　義　30時間	◎中原　宏　矢部　和夫　柿山　浩一郎
デザインマネジメント特論	講　義　30時間	◎酒井　正幸　★篠崎　雅春
建築計画特論	講　義　30時間	那須　聖
建築環境学特論	講　義　30時間	斉藤　雅也
建築構造デザイン特論	講　義　30時間	★小島　雅樹
日本建築史特論	講　義　30時間	羽深　久夫
景観デザイン特論	講　義　30時間	吉田　惠介
地域環境評価特論	講　義　30時間	◎中原　宏　矢部　和夫
環境共生デザイン特論	講　義　30時間	◎★一ノ瀬　友博　★鶴島　孝一
環境マネジメント特論	講　義　30時間	★斎藤　馨
製品造形特論	講　義　30時間	石崎　友紀
製品評価特論	講　義　30時間	柿山　浩一郎
メカトロニクス特論	講　義　30時間	三谷　篤史
インタフェースデザイン特論	講　義　30時間	酒井　正幸
インタラクションデザイン特論	講　義　30時間	細谷　多聞
形状情報処理特論	講　義　30時間	城間　祥之
造形表現特論	講　義　30時間	齋藤　利明
映像デザイン特論	講　義　30時間	望月　澄人
ビジュアルデザイン特論	講　義　30時間	吉田　和夫

授業科目	授業形態・時数	担当教員
現代芸術特論	講　義　30時間	上遠野　敏
メディアプロデュース特論	講　義　30時間	★久保　俊哉
地域ブランド構築特論	講　義　30時間	★内田　純一
デザイン特別演習	演　習　30時間	◎城間　祥之　原田　昭　石﨑　友紀 上遠野　敏　齋藤　利明　酒井　正幸 中原　宏　羽深　久夫　望月　澄人 矢部　和夫　吉田　和夫　吉田　惠介 細谷　多聞　柿山　浩一郎　斉藤　雅也 那須　聖　三谷　篤史
地域創成デザイン特別セミナーA	演　習　30時間	羽深　久夫
地域創成デザイン特別セミナーB	演　習　30時間	酒井　正幸
インターンシップⅠ	演　習　30時間	◎中原　宏　城間　祥之　石﨑　友紀 上遠野　敏　齋藤　利明　酒井　正幸 羽深　久夫　望月　澄人　矢部　和夫 吉田　和夫　吉田　惠介
インターンシップⅡ	演　習　120時間	◎羽深　久夫　斉藤　雅也　那須　聖
特別研究	演　習　90時間	◎城間　祥之　原田　昭　石﨑　友紀 上遠野　敏　齋藤　利明　酒井　正幸 中原　宏　羽深　久夫　望月　澄人 矢部　和夫　吉田　和夫　吉田　惠介 細谷　多聞　柿山　浩一郎　斉藤　雅也 那須　聖　三谷　篤史

6　看護学研究科

1）　平成２２年度時間割

時限	時間	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	9:00 ～ 10:30											国際関係特論	健康福祉政策特論
2	10:40 ～ 12:10											コミュニケーション特論	地域経済政策特論
3	13:10 ～ 14:40											少子高齢社会特論	ヒューマニティ特論
4	14:50 ～ 16:20	看護専門職教育特論	看護コンサルテーション特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護理論特論	継続教育特論	地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学演習				連携プロジェクト演習	
5	16:30 ～ 18:00	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論Ⅰ 看護技術学特論Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論Ⅰ 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 精神看護学特論Ⅱ 看護技術学特論Ⅱ 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論	臨床哲学特論		老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 小児看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 精神看護学演習Ⅱ 看護技術学演習Ⅱ 看護教育学演習 看護マネジメント学演習	小児看護学特論Ⅱ 精神看護学特論Ⅲ	急性期病態管理学特論		
6	18:10 ～ 19:40	地域生活看護学特論 母子看護学特論 成人看護学特論 精神看護学特論Ⅰ 看護技術学特論Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学特論	老年看護学特論 在宅看護学特論 地域看護学特論 母性看護学特論 小児看護学特論Ⅰ 急性期看護学特論 慢性期看護学特論 精神看護学特論Ⅱ 看護技術学特論Ⅱ 看護教育学特論 看護マネジメント学特論	看護研究法特論	寒冷地生活支援看護学特論	看護理論特論	継続教育特論	地域生活看護学演習 母子看護学演習 成人看護学演習 精神看護学演習Ⅰ 看護技術学演習Ⅰ 看護教育・看護マネジメント学演習	老年看護学演習 在宅看護学演習 地域看護学演習 母性看護学演習 小児看護学演習 急性期看護学演習 慢性期看護学演習 精神看護学演習Ⅱ 看護技術学演習Ⅱ 看護教育学演習 看護マネジメント学演習	小児看護学特論Ⅱ 精神看護学特論Ⅲ	急性期病態管理学特論		
7	19:50 ～ 21:20	看護専門職教育特論	看護コンサルテーション特論	看護管理学特論	家族看護学特論	看護倫理学特論					臨床哲学特論		

※開講曜日・時間は週によって変更する場合がある。
※集中講義の日程は別途、掲示する。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分				授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	配当年次	修得単位数	
研究科連携科目				国際関係特論		2		1・2前期	4単位以上	研究科連携科目及び専門教育科目のうちから2単位以上
				少子高齢社会特論		2		1・2前期		
				健康福祉政策特論		2		1・2後期		
				地域経済政策特論		2		1・2後期		
				ヒューマニティ特論		2		1・2後期		
				コミュニケーション特論		2		1・2前期		
				連携プロジェクト演習		2		1年		
専門教育科目	専門科目	専門基礎科目		看護理論特論	2			1年前期	8単位以上	
				看護研究法特論	2			1年前期		
				看護倫理学特論		2		1年前期		
				看護管理学特論		2		1年前期		
				臨床哲学特論		2		1年後期		
				看護コンサルテーション特論		2		1年後期		
				看護専門職教育特論		2		1年前期		
				継続教育特論		2		1年後期		
				寒冷地生活支援看護学特論		2		1年後期		
				家族看護学特論		2		1年後期		
		実践看護学分野	地域生活看護学領域	地域生活看護学特論		2		1年前期	1つの領域から8単位以上（専門看護師認定希望者16単位以上）	
				老年看護学特論		2		1・2後期		
				在宅看護学特論		2		1・2後期		
				地域看護学特論		2		1・2後期		
				地域生活看護学演習		2		1年		
				老年看護学演習		2		1・2年		
				在宅看護学演習		2		1・2年		
				地域看護学演習		2		1・2年		
			母子看護学領域	母子看護学特論		2		1年前期		
				母性看護学特論		2		1・2後期		
				小児看護学特論Ⅰ		2		1・2後期		
				小児看護学特論Ⅱ		2		1・2前期		
				母子看護学演習		2		1年		
				母性看護学演習		2		1・2年		
				小児看護学演習		2		1・2年		
				小児看護学実習Ⅰ		4		1・2年		
				小児看護学実習Ⅱ		2		1・2年		

区分				授業科目の名称	単位数 必修	選択	自由	配当年次	修得単位数	
専門教育科目	専門科目	実践看護学分野	成人看護学領域	成人看護学特論		2		1年前期	1つの領域から8単位以上（専門看護師認定希望者16単位以上）	研究科連携科目及び専門教育科目のうちから2単位以上
				急性期看護学特論		2		1・2後期		
				慢性期看護学特論		2		1・2前期		
				急性期病態管理学特論		2		1・2後期		
				成人看護学演習		2		1年		
				急性期看護学演習		2		1・2年		
				慢性期看護学演習		2		1・2年		
				急性期看護学実習		6		1・2年		
			精神看護学領域	精神看護学特論Ⅰ		2		1年前期		
				精神看護学特論Ⅱ		2		1・2後期		
				精神看護学特論Ⅲ		2		1・2前期		
				精神看護学演習Ⅰ		2		1年		
				精神看護学演習Ⅱ		2		1・2年		
				精神看護学実習Ⅰ		4		1・2年		
				精神看護学実習Ⅱ		2		1・2年		
			看護技術学領域	看護技術学特論Ⅰ		2		1年前期		
				看護技術学特論Ⅱ		2		1・2後期		
				看護技術学演習Ⅰ		2		1年		
				看護技術学演習Ⅱ		2		1・2年		
専門教育科目	専門科目	看護マネジメント学分野	看護教育・管理学領域	看護教育・看護マネジメント学特論		2		1年前期		
				看護教育学特論		2		1・2後期		
				看護マネジメント学特論		2		1・2後期		
				看護教育・看護マネジメント学演習		2		1年		
				看護教育学演習		2		1・2年		
				看護マネジメント学演習		2		1・2年		
		研究		特別研究		8		1～2年	8単位（専門看護師認定希望者4単位）	
				課題研究		4		1～2年		

② 修了要件

※修士論文コース

区分	必修科目	選択科目		合計	
研究科連携科目	－	4	2	4	2
専門教育科目	4	20		24	
専門基礎科目	4	4		8	
専門科目	－	16		16	
選択する領域・分野から	－	8		8	
研究	－	8		8	
合計	4	26		30	

※専門看護師コース

区分	必修科目	選択科目		合計	
研究科連携科目	－	4	2	4	2
専門教育科目	4	24		28	
専門基礎科目	4	4		8	
専門科目	－	20		20	
選択する領域・分野から	－	16		16	
研究	－	4		4	
合計	4	30		34	

3） 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）
★印：非常勤講師

授業科目	授業形態・時数	担当教員
国際関係特論	講　義　30時間	◎スーディ神崎　和代　大野　夏代　★玉城　英彦 ★南　裕子
少子高齢社会特論	講　義　30時間	原　俊彦
健康福祉政策特論	講　義　30時間	◎★館石　宗隆　★大久保　一郎
地域経済政策特論	講　義　30時間	★佐藤　孝一
ヒューマニティ特論	講　義　30時間	★藤尾　均
コミュニケーション特論	講　義　30時間	町田　佳世子
連携プロジェクト演習	演　習　30時間	◎中村　恵子　河野　總子　坂倉　恵美子 樋之津　淳子　松浦　和代　◎城間　祥之 矢部　和夫　斉藤　雅也　三谷　篤史
看護理論特論	講　義　30時間	◎内田　雅子　★黒田　裕子
看護研究法特論	講　義　30時間	◎松浦　和代　内田　雅子
看護倫理学特論	講　義　30時間	◎宮﨑　みち子　★今井　道夫
看護管理学特論	講　義　30時間	◎河野　總子　中村　恵子
臨床哲学特論	講　義　30時間	★尾形　敬次
看護コンサルテーション特論	講　義　30時間	◎河野　總子　★藤野　智子
看護専門職教育特論	講　義　30時間	定廣　和香子
継続教育特論	講　義　30時間	◎★佐藤　紀子　★舟島　なをみ　★中山　登志子
寒冷地生活支援看護学特論	講　義　30時間	◎坂倉　恵美子　★前沢　政次　★池田　貴夫
家族看護学特論	講　義　30時間	◎吉川　由希子　★柳原　清子
地域生活看護学特論	講　義　30時間	◎坂倉　恵美子　加藤　登紀子　スーディ神崎　和代
老年看護学特論	講　義　30時間	坂倉　恵美子
在宅看護学特論	講　義　30時間	スーディ神崎　和代
地域看護学特論	講　義　30時間	加藤　登紀子
地域生活看護学演習	演　習　60時間	◎加藤　登紀子　坂倉　恵美子　スーディ神崎　和代
老年看護学演習	演　習　60時間	◎坂倉　恵美子　村松　真澄
在宅看護学演習	演　習　60時間	◎スーディ神崎　和代　菊地　ひろみ
地域看護学演習	演　習　60時間	◎加藤　登紀子　新納　美美
母子看護学特論	講　義　30時間	◎宮﨑　みち子　松浦　和代
小児看護学特論Ⅰ	講　義　30時間	松浦　和代
母子看護学演習	演　習　60時間	◎松浦　和代　宮﨑　みち子　吉川　由希子 山内　まゆみ
小児看護学演習	演　習　60時間	◎松浦　和代　吉川　由希子

授業科目	授業形態・時数	担当教員
成人看護学概論	講　義　30時間	◎中村　惠子　内田　雅子
急性期看護学特論	講　義　30時間	中村　惠子
慢性期看護学特論	講　義　30時間	内田　雅子
急性期病態管理学特論	講　義　30時間	◎★田中　秀治　★山口　芳裕　★浅井　康文
成人看護学演習	演　習　60時間	◎内田　雅子　中村　惠子　菅原　美樹
急性期看護学演習	演　習　60時間	◎中村　惠子　菅原　美樹　★平尾　明美 ★藤野　智子
慢性期看護学演習	演　習　60時間	内田　雅子
急性期看護学実習	実　習　270時間	◎中村　惠子　菅原　美樹　★平尾　明美 ★藤野　智子
看護技術学特論Ⅰ	講　義　30時間	樋之津　淳子
看護技術学特論Ⅱ	講　義　30時間	樋之津　淳子
看護技術学演習Ⅰ	演　習　60時間	◎樋之津　淳子　★山内　豊明
看護技術学演習Ⅱ	演　習　60時間	◎樋之津　淳子　大野　夏代
看護教育・マネジメント学特論	講　義　30時間	◎河野　總子　定廣　和香子
看護教育学特論	講　義　30時間	定廣　和香子
看護マネジメント学特論	講　義　30時間	河野　總子
看護教育・看護マネジメント学演習	演　習　60時間	◎河野　總子　定廣　和香子
看護教育学演習	演　習　60時間	定廣　和香子
看護マネジメント学演習	演　習　60時間	◎河野　總子　星　美和子
特別研究	演　習　240時間	◎中村　惠子　内田　雅子　加藤　登紀子 河野　總子　坂倉　恵美子　定廣　和香子 スーディ神崎　和代　樋之津　淳子　松浦　和代 宮崎　みち子　山本　勝則　大野　夏代 守村　洋　吉川　由希子　菊地　ひろみ 新納　美美　星　美和子　村松　真澄
課題研究	演　習　120時間	◎中村　惠子　松浦　和代　山本　勝則 守村　洋　吉川　由希子

4)　実習概要

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
急性期看護学実習	平成23年1月25日～ 2月7日 平成23年2月9日～ 23日	聖マリアンナ医科大学病院	40名

7　助産学専攻科

1)　平成２２年度時間割

①　前期

		月		火		水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30	妊娠期助産診断・技術学		分娩期助産診断・技術学		周産期ハイリスク援助論		分娩期助産診断・技術学		産褥期助産診断・技術学	
2	10:40～12:10	妊娠期助産診断・技術学		分娩期助産診断・技術学		周産期ハイリスク援助論		分娩期助産診断・技術学		産褥期助産診断・技術学	
3	13:10～14:40	助産学総論	助産学演習	助産学フィールド演習		周産期医学論		乳幼児支援論		助産管理論	
4	14:50～16:20	助産学総論	助産学課題研究	助産学フィールド演習		周産期医学論		乳幼児支援論			
5	16:30～18:00			地域母子保健論							

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

②　後期

		月		火		水		木		金	
		前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）	前半（第1～第7.5週）	後半（第7.5～第15週）
1	9:00～10:30	助産学演習									
2	10:40～12:10	助産学演習									
3	13:10～14:40	助産学課題研究									
4	14:50～16:20	助産学課題研究									
5	16:30～18:00										

※開講曜日時間は週によって変更する場合がある。

2) カリキュラム

① 授業科目一覧

区分	授業科目の名称	授業形態	単位数（全科目：必修）
基礎助産学	助産学総論	講義	2
	周産期医学論	講義	2
	乳幼児支援論	講義	2
	妊娠期助産診断・技術学	演習	1
	分娩期助産診断・技術学	演習	2
	産褥期助産診断・技術学	演習	1
実践助産学	助産学フィールド演習	演習	1
	周産期ハイリスク援助論	演習	1
	地域母子保健論	講義	1
	助産管理論	講義	1
	助産学実習Ⅰ	実習	3
	助産学実習Ⅱ	実習	3
	助産学実習Ⅲ	実習	3
	助産学実習Ⅳ	実習	2
	助産学実習Ⅴ	実習	1
助産学統合	助産学演習	演習	2
	助産学課題研究	演習	2
合計			30

② 修了要件

30単位（全科目必修）

3) 教育活動

◎印：科目責任者（オムニバス形式などの場合）
★印：非常勤講師

授業科目	授業形態・時数	担当教員
助産学総論	講　義　30時間	宮﨑　みち子
周産期医学論	講　義　30時間	◎★堀本　江美　★小泉　基生　★高野　良子　★唯野　貢司　★西　基
乳幼児支援論	講　義　30時間	◎渡邊　由加利　富樫　武弘　★丸山　知子
妊娠期助産診断・技術学	演　習　30時間	◎山内　まゆみ　多賀　昌江
分娩期助産診断・技術学	演　習　60時間	◎渡邊　由加利　山内　まゆみ　山本　真由美
産褥期助産診断・技術学	演　習　30時間	◎山内　まゆみ　多賀　昌江

授業科目	授業形態・時数	担当教員
助産学フィールド演習	演　習　30時間	◎山内　まゆみ　多賀　昌江　★川代　久実子 ★菅原　有希　★高橋　昌世　★西田　令子 ★福田　由佳
周産期ハイリスク援助論	演　習　30時間	◎渡邊　由加利　山本　真由美　★荒木　英司 ★鈴木　伸和　★田森　啓介　★築島　健 ★中島　健　★服部　司　★平山　恵美
地域母子保健論	講　義　15時間	◎宮崎　みち子　大野　夏代　★有原　友子 ★川代　久実子　★菅原　有希　★西田　令子 ★福田　由佳
助産管理論	講　義　15時間	◎宮崎　みち子　中村　恵子　★荻田　ヒロミ ★佐々木　眞理子　★成瀬　恵　★水野　栄子
助産学実習Ⅰ	実　習　135時間	◎渡邊　由加利　山内　まゆみ　山本　真由美 多賀　昌江
助産学実習Ⅱ	実　習　135時間	◎渡邊　由加利　山内　まゆみ　山本　真由美 多賀　昌江
助産学実習Ⅲ	実　習　135時間	◎山内　まゆみ　山本　真由美　渡邊　由加利 多賀　昌江
助産学実習Ⅳ	実　習　90時間	◎渡邊　由加利　山内　まゆみ　山本　真由美 多賀　昌江　★上杉　恵利子　★荻田　ヒロミ ★成瀬　恵
助産学実習Ⅴ	実　習　45時間	◎山本　真由美　山内　まゆみ　渡邊　由加利 多賀　昌江
助産学演習	演　習　60時間	◎宮崎　みち子　山内　まゆみ　山本　真由美 渡邊　由加利　多賀　昌江
助産学課題研究	演　習　60時間	◎宮崎　みち子　山内　まゆみ　渡邊　由加利

4）　実習概要

科目名	実習期間	実習機関	延べ人数
助産学実習	平成22年7月5日～30日	愛産婦人科	54名
	平成22年7月5日～10月22日	天使病院	145名
	平成22年7月12日～12月30日	市立釧路総合病院	91名
	平成22年7月26日～9月7日	おぎた助産院	10名
	平成22年7月29日～10月15日	別海町母子健康センター	18名
	平成22年8月5日～平成23年1月15日	大谷地産婦人科	76名
	平成22年8月5日～平成23年1月20日	札幌厚生病院	65名
	平成22年9月6日～平成23年3月18日	市立札幌病院	185名
	平成22年9月27日～10月5日	助産院マタニティ・アイ	8名
	平成22年12月7日～平成23年2月24日	札幌東豊病院	22名

Ⅲ　研究活動

1　研究活動概要

本学では､教育研究上の特徴として「デザイン学部と看護学部の連携」ならびに「幅広いネットワーク」を掲げている。また、教育研究上の目的として「学術研究の高度化等に対応した職業人の育成」ならびに「産業・文化の振興、まちづくりや、市民の健康保持・増進への貢献により大きな価値を生み出す『知と創造』の拠点形成」を掲げている。

平成22年度は、この特徴と目的を念頭に置き、デザイン学部教員34名、看護学部教員42名、計76名が研究活動を行った。

2　個人研究費による研究一覧

デザイン学部

教員名	研究課題
原田　昭	・札幌市立大学の国際関係事業の展開と、地域連携事業の展開
酒井　正幸	・ユニバーサルデザイン研究 ・動物園のグランドデザイン研究
城間　祥之	・３D CAD・CAGD によるRapid Prototyping 向き形状モデリングに関する研究
中原　宏	・市街地の形成と形態に関する研究
石崎　友紀	・工学的性能と審美的性能の均衡 ・地域様式デザイン製品開発 ・道具学探究
上遠野　敏	・現代美術創作研究 ・同時代の美術研究 ・日本の美意識の研究
齋藤　利明	・オールビスクによる創作人形制作研究と人形を主体とした空間演出
杉　哲夫	・プロダクトデザイン事例研究およびデザイン開発
武邑　光裕	・ソーシャルメディア環境における創造産業（Creative Industries）の諸可能性に関する研究
羽深　久夫	・北海道における歴史的建造物の保存・再生・活用 ・米国・東欧・北欧における木造建築の保存・再生・活用 ・日本および世界における医療施設・福祉施設の調査 ・世界の高等教育機関における建築教育調査と相互交流
原　俊彦	・ドイツと日本における無子の増加に関する研究 ・超少子高齢化・人口減少社会に対応した社会保障システムのデザイン ・日本の長期出生動向に関する分析
望月　澄人	・CGアニメーションの制作
矢部　和夫	・都市および自然生態系における生物多様性の保全と再生に関する研究
吉田　和夫	・組織活性化におけるⅥ（ビジュアル・アイデンティティ）の役割とその生成について
吉田　惠介	・地域景観資源評価手法の開発と景観デザイン
武田　亘明	・ICTを活用したメディア教育の研究 1）情報を読み解く力の育成教育に関する研究 2）手書き入力・自動採点システムによる放課後自学自習用電子教材の開発
張　浦華	・形態と感性評価の相関要因に関する研究

教員名	研究課題
細谷　多聞	・環境情報の電子化とその活用に関する研究
町田　佳世子	・言語・非言語刺激によるポジティブ感情の喚起とその効果 ・動物園における飼育体験の心理的効果とその要因の解析
ﾗｲﾄ ﾃﾞｰｳﾞｨｯﾄﾞ	・未来学・創造産業学に基づく日本の未来研究
石田　勝也	・映像メディアによる空間の構成とその効果についての研究
大渕　一博	・デザイン学習者向け教材の開発と教育効果側定に関する研究
柿山　浩一郎	・製品・サービス発想における、リアルタイム集団アイデア発想システムの運用
小宮　加容子	・個々の障害・能力に対応したユニバーサルなインタフェースの検討
斉藤　雅也	・建築の環境負荷低減と住まい手の環境感覚向上に関する基礎的研究
那須　聖	・建築形式の備える規範性についての考察
福田　大年	・コンテンツデザインにおける情報デザインの有効性についての研究
松井　美穂	・モダニズム期におけるアメリカ南部女性文学
三谷　篤史	・レーザ駆動振動子の最適化に関する研究
山田　良	・環境芸術の空間構造に関する研究
上田　裕文	・風景イメージを用いた参加型観光まちづくりの手法に関する研究
片山　めぐみ	・高齢者福祉施設の「縁側サービス」を核とした地域づくりの展望
須之内　元洋	・CGMイベント情報サービス「SAPPORO COLOR」空間メディア展開について
長谷川　聡	・札幌ブランドの創出/送出

看護学部

教員名	研究課題
中村　惠子	・成人看護学領域における看護技術獲得とその検証
ｽｰﾃﾞｨ神前　和代	・IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）のモデルの試験的運用 ・沖家室島在住高齢者の転倒に関するフォローアップ調査 ・夕張市における在宅ケア従事者の継続教育システム構築
山本　勝則	・看護における他者理解
宮﨑　みち子	・胎児の生きる権利に関する研究 ・看護倫理に関する研究 ・助産学OSCEに関する研究
加藤　登紀子	・女性管理職の昇格における影響要因と昇格後の活動の変化に関する研究
内田　雅子	・慢性期看護における対象理解について ・事例研究法について
河野　總子	・ナースステーションにおける看護作業環境の改善に向けた基礎的研究 ・看護職の組織コミットメントと職務満足調査－看護管理者が副院長である施設と看護部長の施設の比較検討－ ・看護師の働き方－周辺業務担当の様相－ ・大学教員との連携を体験した看護師が捉える大学看護教員の持つべき臨床実践能力
坂倉　恵美子	・特別豪雪地帯に居住する高齢者の主観的幸福感に関する研究－人生の振り返りについて分析－
定廣　和香子	・看護学実習における医療事故防止に向けた教授活動
樋之津　淳子	・OSCEによる１～４年次の基礎看護技術の到達度評価について
松浦　和代	・小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討
大野　夏代	・指圧・マッサージ、OSCEなど看護技術及び技術教育に関する研究 ・国際看護の実践と課題の整理

教員名	研究課題
清水　光子	・保健師の家庭訪問によるケアマネジメント
須田　恭子	・大学と臨地実習施設の連携による臨床能力の向上：臨地実習施設における模擬患者参加型研修の試行への支援
守村　洋	・メンタルヘルスに関する研究（主として精神障害セルフヘルプ・グループへの地域生活支援および自殺予防に関する研究）
吉川　由希子	・広域医療圏に居住する障害児の在宅ケアに関する研究
菊地　ひろみ	・在宅看護サービスの質評価に関する基礎的研究
菅原　美樹	・救急・クリティカルケア領域に従事する看護師の職業的体験の意味に関する研究
杉田　久子	・クリティカルケア看護師のexpertiseの探究 ・臨床看護実践における知の構築プロセスの研究
田中　広美	・看護技術に関する研究
新納　美美	・精神保健活動と犯罪予防活動の連携に関する研究
藤井　瑞恵	・循環器疾患等の生活習慣病予防に関する疫学的研究
星　美和子	・Self-Transcendence 概念とその関連要因について
村松　真澄	・事業所に働く労働者の口腔保健に関する実態調査
保田　玲子	・住民活動と地域のソーシャルキャピタルとの関連
山内　まゆみ	・助産師基礎教育の「職業準備性」を高める教育技法の検証 ・看護系大学を卒業した看護職の卒後のキャリアに関する実態調査 ・医療系の学生における「生涯学習能力」と「職業準備性」の実態調査 ・「学士課程の助産選択学生における「職業準備行動」とその関連要因」
山本　真由美	・産科一人医師体制施設における助産師の認識 ・産科一人医師体制施設における助産師と看護師の認識の比較 ・北海道一若い街千歳市における施設と地域の連携についての分析
渡邉　由加利	・助産領域におけるOSCE課題とその評価 ・周産期におけるリラクゼーションの方法の検討
太田　晴美	・アクションリサーチ（SSM）による看護師教育支援-災害看護への動機づけ-
神島　滋子	・脳損傷患者の高次脳機能評価に関する研究
河村　奈美子	・発達段階各期における精神保健と看護
櫻井　繭子	・支援専門職に関する研究
進藤　ゆかり	・痛みを抱えた高齢者や積雪寒冷地域に居住する高齢者の健康生活に関する研究 ・老年看護教育に関する研究
多賀　昌江	・周産期医療のグリーフケアを支援するデザイン研究：妊娠22週未満の死産児を安置するための専用棺の開発
照井　レナ	・在宅ケア従事者が連携して行うMulti-discipline型、かつ計画と評価に関わる自己主導型学習活動システムの構築 ・IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）研究
原井　美佳	・寒冷地で居住してきた女性高齢者の尿失禁のリスク要因解明と尿失禁への対処行動促進に関する研究
渕本　雅昭	・クリティカルな状況にある意識障害患者の意識回復に向けた実証的研究
松村　寛子	・保健師の育児支援に関する研究
三上　智子	・脊椎動物の自然免疫Toll様受容体における分子進化
工藤　京子	・呼吸器疾患患者会の会報誌の意義と役割
鶴木　恭子	・重曹使用による清拭が皮膚表面に与える影響
檜山　明子	・一般病棟における転倒予防の看護業務に関する研究

3　学内公募研究課題一覧

学術奨励研究

教員名	研究課題
上田　裕文	ヘルスツーリズムを促進する温泉保養地（クアオルト）の空間特性に関する事例研究
長谷川　聡	ウェアラブル・ソーラーセルのモジュールとデザインに関する研究
須之内　元洋	「ロケーションベースの音環境プラットフォーム」を活用したユーザー主導型サウンドスケープ活動のためのモデル構築
斉藤　雅也	人体エクセルギー消費速度による入浴高齢者の至適温度の解明
柿山　浩一郎	閲覧者の無意識動作を指標とした、閲覧対象に対する評価の抽出手法に関する研究
鶴木　恭子	重曹を用いた清拭の皮膚への影響-皮脂の中和作用に焦点を当てて
原井　美佳	寒冷曝露を生活環境としてきた高齢女性への尿失禁対処行動促進プログラムの開発
渕本　雅昭	高度専門職業人（専門看護士）育成のためのOSCEプログラム開発に関する研究
杉田　久子	臨床看護実践における知の構築プロセスの研究－看護学生による看護の「知」の共有と「知のパターン」の概念化－

共同研究

教員名	研究課題
◎三谷　篤史　松浦　和代 吉川　由希子	積み木遊びにおける知育的側面の拡張を目的とした積み木・メカトロ融合型玩具の開発
◎吉田　和夫　矢部　和夫 細谷　多聞　張　浦華 大渕　一博　柿山　浩一郎 小宮　加容子　斉藤　雅也 片山　めぐみ	アニマルファミリー・環境教育を対象にした市民のための動物園サービス活性化手法に関する研究
◎河村　奈美子　町田　佳世子	動物園飼育体験において知識の変容・感情をみちびく飼育員の役割と機能の解明
◎坂倉　恵美子　町田　佳世子 松井　美穂　山本　勝則	季節別に見た地域在住高齢者の外出頻度と精神健康の関連および回想法による介入効果の分析
◎スーディ神崎　和代　福田　大年 柿山　浩一郎　菊地　ひろみ 照井　レナ	IT活用による遠隔看護システム（E-KANGO）の汎用性向上を目的とする研究
◎宮崎　みち子　大渕　一博 渡邊　由加利　山内　まゆみ 山本　真由美　多賀　昌江	助産師教育における客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた教育プログラムの開発

◎印：代表者

採択状況

学術奨励研究		共同研究		合計	
応募件数	採択件数	応募件数	採択件数	応募件数	採択件数
15	9	8	6	23	15

4　学外からの研究費、研究補助金などの受入状況

科学研究費補助金

研究代表者	研究課題	研究種目（交付元）	金額（円）
中村　惠子	看護基礎教育におけるOSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	910,000
酒井　正幸	インタフェースデザインにおける視覚的使いやすさ感の研究	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,560,000
矢部　和夫	太平洋沿岸の泥炭地湿原における高茎湿生草原の成立・維持機構の解明とその保全	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,560,000
張　浦華	形態に対する快・不快反応の計測システムの構築	基盤研究(B)一般 ((独)日本学術振興会)	3,120,000
松井　美穂	アメリカ南部モダニズム文学の形成と女性作家	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	520,000
上田　裕文	樹木葬墓地にみる新たな森林利用の日独比較研究	若手研究(B) (文部科学省)	1,300,000
内田　雅子	チーム・プロセスに焦点を当てた人材育成連携活動の形成的評価研究	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,560,000
坂倉　恵美子	閉じこもり高齢者のスクリーニング尺度の作成と訪問介入プログラムの開発	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	780,000
定廣　和香子	看護学実習中の医療事故回避に向けた教授活動自己評価尺度の開発―実習安全FDの実現	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,170,000
樋之津　淳子	看護基礎教育と看護師の臨床教育をつなぐ客観的臨床能力試験プログラムの開発	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,820,000
松浦　和代	小児・母性看護学領域で活用する感性教材モデルの開発と有用性の検討	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,430,000
吉川　由希子	広域医療圏に居住する障害児の在宅ケア支援ネットワークモデルの構築と検証	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	2,080,000
新納　美美	職務経験を糧とした若手勤労者の心理社会的成熟過程とレジリエンスの向上に関する研究	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	1,430,000
渡邉　由加利	看護教育における模擬患者養成プログラムの検証と模擬患者を支援するシステム構築	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	2,600,000
太田　晴美	アクションリサーチ（SSM）よる看護師教育支援：災害看護への動機づけ	若手研究(B) (文部科学省)	650,000
神島　滋子	脳損傷患者の認知機能評価方法の開発－LOCFASの臨床応用に向けて	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	780,000
河村　奈美子	動物との交流をめぐる認知症高齢者のコミュニケーションの発展性：縦断的観察から	若手研究(B) (文部科学省)	1,040,000
櫻井　繭子	メンタルヘルス問題事例の職場復帰の様相 －事例性の構造化－	若手研究(B) (文部科学省)	780,000
進藤　ゆかり	帯状疱疹後神経痛を抱えた高齢者の慢性疼痛との共存の過程	基盤研究(C)一般 ((独)日本学術振興会)	780,000
照井　レナ	訪問看護師の主観的責任の様相と勤務継続意志の関連	若手研究(B) (文部科学省)	780,000

受託研究費

研究代表者	研究課題	受託元	金額（円）
酒井　正幸	ユニバーサルデザインの視点による家庭ごみ収集日カレンダーに係るデザイン研究	札幌市環境局	100,000
武邑　光裕	札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるコンテンツ供給及び番組編成に関する調査・研究業務	札幌市市長政策室	5,000,000
矢部　和夫	滝野の森自生山野草育成関連調査及び管理指導業務	㈶札幌市公園緑化協会	525,000
矢部　和夫	「円山動物園の森」ビオトープの生物多様性向上のための研究	札幌市環境局	600,000
吉田　和夫	ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究	札幌市環境局	600,000
吉田　惠介	街路樹表示サインデザインにかかる研究	札幌市環境局	1,050,000
細谷　多聞	路面電車を活用した魅力的な都市空間形成に関する研究 ～視覚ツールを用いた市民評価を反映して～	札幌市総合交通計画部	1,050,000
大渕　一博	世界に向けて札幌市のPRを目的とするグリーティングカードの作成研究	札幌市総務局	31,000
斉藤　雅也	地域材を用いた木製断熱パネル工法による建築のモデル化と人体エクセルギー評価に関する研究	飯田ウッドワークシステム㈱	1,000,000
山田　良	公園の駅「パークステーション」装飾	札幌市公園緑化協会共同体 滝野管理センター	975,000
片山　めぐみ	寿都町における地域活性化資源（ヒト、モノ、コト、バショ）の調査と利用方法の提案	寿都町	1,500,000
片山　めぐみ	「環境エンリッチメント」に基づく動物園の飼育展示施設デザインに関する研究	札幌市環境局	1,300,000
松浦　和代	平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業　－札幌市立桑園小学校における「地域・保護者と連携協議した健康・安全教育の推進－	札幌市 （教育委員会総務課）	315,000
松浦　和代	平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業　－札幌市立石山小学校における「地域・保護者と連携協議した健康・安全教育の推進－	札幌市 （教育委員会総務課）	315,000

研究補助金

教員名	研究課題	助成元	金額（円）
城間　祥之	小中学校における視認性/伝達性を向上したデジタルサイネージコンテンツの研究	北海道日興通信㈱	500,000
矢部　和夫	北海道生物多様性保全モニタリングに関する研究	北海道環境科学研究センター（地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境・地質研究本部）	1,000,000

5　寄附金の受入状況

教員名	寄附目的	寄附元	金額（円）
中 村　惠 子	札幌市民のニーズに応じた教育活動支援のため	特定医療法人　鳩仁会 札幌中央病院	100,000
中 村　惠 子	看護の資質向上のため	医療法人社団碩心会 心臓血管センター北海道大野病院	800,000
中 村　惠 子	看護研究の推進および看護の質向上のため	社団法人 北海道勤労者医療協会	480,000
中 村　惠 子	教育支援金（教育を基にした人材育成のための支援、看護教育の促進・強化）	医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院	300,000
城 間　祥 之	遠隔地域高齢者見守りサービス実現への研究	㈱NTTコムウェア	550,000
矢 部　和 夫	「2010年ウトナイ湖岸辺の群落動態研究計画－トナイ湖の水位変化が北西岸湿地のハンノキ林や他の群落の分布に与える影響の評価－」に対する研究助成	㈶リバーフロント整備センター	1,000,000

6　海外出張記録

期間	教員名	目的国	目的
平成22年4月11日 ～17日	武 邑　光 裕	オーストラリア	クイーンズランド工科大学研究打合せ、国際フォーラムCreative3参加及び発表
平成22年4月11日 ～18日	須之内　元洋	オーストラリア	Creative3 International Forum参加
平成22年5月25日 ～30日	スーディ神崎　和代	アメリカ	アルツハイマー病研究学会参加、アルツハイマー病研究所見学
平成22年5月26日 ～31日	吉 田　惠 介	イギリス	チェルシーフラワーショー・モリス展示品・コミュニティガーデン調査、Tom Stuart Smith講演会出席
平成22年5月26日 ～30日	村 松　真 澄	アメリカ	ネブラスカ大学看護学部及びメディカルセンターでがん看護専門看護師Eilersからがん看護及び口腔アセスメントについて視察
平成22年5月29日 ～6月5日	上 田　裕 文	オランダ	5th International Conference on Monitoring and Management of Visitor Flows in Recreational and Protected Areas出席及び研究発表
平成22年6月23日 ～28日	石 崎　友 紀	中国	芸術工学会・アジア景観デザイン学会 「より良い都市、より良い生活のためのデザイン」上海国際研究大会出席、同済大学と学術交流、上海万博・上海都市計画地域・歴史的景観地域・上海博物館視察、都市交通デザイン調査
平成22年7月4日 ～12日	山 田　良	ロシア	札幌・ノボシビルスク姉妹都市20周年記念事業建築・デザインフェスティバル参加及びスタジオ講師、ノボシビルスク・デザイン協会にて講演、シベリア北海道文化センターにて作品講評会
平成22年7月10日 ～17日	定廣　和香子	アメリカ	シグマ・セタ・タウ・インターナショナル第21回国際看護研究学会出席
平成22年7月10日 ～19日	星　美 和 子	アメリカ	Sigma Theta Tau International 21st International Nursing Research Congress参加及び研究発表、National Institute of HealthにてDr.Hsiaoと研究打合せ

期間	教員名	目的国	目的
平成22年7月31日～8月7日	武邑　光裕	オランダ・フィンランド	マストリヒト大学マクルーハン研究所にて研究交流、Dr.Kim Veltmanとの研究打合せ、ヴァーサ大学人文学部Dr.Sam Inkinenとの研究打合せ
平成22年8月7日～9月2日	片山　めぐみ	タンザニア・アメリカ・ブラジル	円山動物園・アフリカ館基本計画に関わる動物生息地の地理・景観・博物館展示調査、アメリカ及びブラジルにおける在宅高齢者支援施設・事業に関する調査
平成22年8月7日～13日	宮﨑　みち子	クロアチア	第18回世界医事法学会出席
平成22年9月17日～27日	矢部　和夫	インドネシア	JAICA meeting
平成22年9月21日～26日	吉田　惠介	中国	研究交流及び国際会議打合せ、北京市胡同調査
平成22年9月21日～30日	上田　裕文	ドイツ	Friedwaldに関するヒアリング調査及び樹木葬墓地の視察、カッセル大学ポスドク会議にて樹木葬に関する研究発表、欧州ランドスケープ条約に関する資料収集
平成22年9月24日～10月1日	河村　奈美子	アメリカ	国際児童虐待防止協会第18回国際会議出席
平成22年10月20日～25日	松井　美穂	アメリカ	The University of North Carolina at Chapel Hillにおける資料調査
平成22年10月21日～27日	武邑　光裕	オランダ・ドイツ	札幌市受託研究「札幌地下空間メディア環境」の欧州・海外コンテンツ発信ファシリテータとの研究会合、ICIベルリンでの国際ファーラムでの研究事例発表、Bauhaus Museum視察
平成22年10月22日～27日	上田　裕文	ドイツ	Angela Schuh教授・小関信行博士との研究打合せ、クアオルト・気候性地形療法のセラピーロード視察
平成22年10月22日～25日	坂倉　恵美子	台湾	日本と台湾の共同研究調査に関する打合せ及び現地調査
平成22年10月29日～31日	片山　めぐみ	シンガポール	札幌市円山動物園アジア館新築設計に関わる展示手法及び動物飼育方法の視察
平成22年11月25日～28日	原田　昭	韓国	国際デザインシンポジューム2010講演出席
平成22年12月5日～8日	武邑　光裕	中国	The UNESCO Creative Cities Network 2010 Shenzhen International Conference, organized by the UNESCO, China National Commission for UNESCO, Shenzhen Municipal Government
平成22年12月6日～11日	菅原　美樹 渕本　雅昭	デンマーク・ノルウェー	シミュレーション教育及びOSCEに関した研究相談及び研修セミナー参加
平成22年12月7日～18日	ライト　デーヴィッド	ニュージーランド・オーストラリア	Visit with Profs. Munshi from Communication Dept. to discuss latest in Communication Studies and Futures Studies. Meet with Prof. Dan Fleming to discuss possible future collaborative research between SCU and Waikato. Meet with Prof. Cheryl Reynolds to inspect CI Incubator and discuss SCU / WINTEC collaborations. Meet with Profs. Diegel and Jury to discuss latest research in CI in NZ and possible research collaborations. Attend graduation ceremony and discuss current research projects including Sapporo Underground Media Project, JACIP, and Eat Cook Grow. Meet with Profs. Inayatullah, Gould to discuss newly formed graduate course in Futures Studies and possible USC/SCU partnerships.

期間	教員名	目的国	目的
平成23年1月13日 ～18日	三谷　篤史	オーストラリア	2011 International Conference on Materials, Mechatronics and Automation (ICMMA2011)参加及び研究発表
平成23年1月20日 ～24日	菅原　美樹 神島　滋子 渕本　雅昭	アメリカ	International Meeting on Simulation in Healthcare Conference(IMSH) 2011出席
平成23年2月2日 ～7日	須之内　元洋	ドイツ	transmedialeの視察及び聴講
平成23年2月5日 ～13日	小宮　加容子	ドイツ・ ハンガリー	ニュルンベルク国際玩具見本市・おもちゃ博物館・民族博物館・マイバ保育園調査
平成23年2月9日 ～12日	吉川　由希子	韓国	EAFONS2011学会参加
平成23年2月10日 ～13日	松浦　和代 星　美和子	韓国	14th　East Asian Forum of Nursing Scholars 2011参加及び研究発表
平成23年2月10日 ～12日	大野　夏代	韓国	14th　East Asian Forum of Nursing Scholars 2011参加及び学会発表
平成23年2月17日 ～22日	松井　美穂	アメリカ	カーソン・マッカラーズ学会研究発表、アトランタ歴史センター資料調査
平成23年2月20日 ～22日	武邑　光裕	中国	札幌市受託研究会合、上海市デジタルサイネージヒアリング
平成23年2月23日 ～27日	片山　めぐみ	台湾	在宅高齢者に対する地域サービスに関する調査、長栄コミュニティの運営及び台湾の高齢者支援状況に関する調査、研究交流会
平成23年3月7日 ～10日	渕本　雅昭	アメリカ	シミュレーション教育に関する研究の助言、Faculty Course研修参加
平成23年3月11日 ～17日	スーディ神崎　和代	オーストラリア	11th National Rual Health Conference研究発表
平成23年3月21日 ～31日	矢部　和夫	インドネシア	JICA-JST連携地球規模課題対応国際科学技術協力事業インドネシアの泥炭－森林における火災と炭素管理プロジェクトの現地調査
平成23年3月23日 ～27日	片山　めぐみ	中国	中国における「縁側サービス」（高齢者と終の住処を結びつける地域サービス）の現状について現地研究者と研究打合せ、グループホームへのインタビュー調査

Ⅳ 社会活動

1 地域貢献諸活動

1） 受託研究一覧

研究課題	期間	概要	連携先
街路樹表示サインデザインにかかる研究	平成22年4月12日 ～平成22年9月30日	街路樹の維持管理の中で行われる剪定や伐採作業について、その内容を正しく市民に理解してもらうため、①札幌市内のプラタナス炭疽病の表示サイン、②危険木伐採予告サイン、のデザインと制作を行った。	札幌市環境局
平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業　－札幌市立桑園小学校における「地域・保護者と連携協議した健康・安全教育の推進－	平成22年4月20日 ～平成23年3月31日	近年増加傾向にある低学年児童の転倒による事故を予防するために、転倒予防マットレスを用いた準備体操の導入について検討した。	札幌市教育委員会
平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業　－札幌市立石山小学校における「地域・保護者と連携協議した健康・安全教育の推進－	平成22年4月20日 ～平成23年3月31日	児童の生活習慣の改善や運動習慣の確立に向けた取り組みを地域・保護者と連携して行った。	札幌市教育委員会
寿都町における地域活性化資源（ヒト、モノ、コト、バショ）の調査と利用方法の提案	平成22年5月27日 ～平成23年3月22日	寿都町における地域活性化のため、ヒト・モノ・コト・バショに注目した調査を実施、町民の感じる「町の魅力」を資源としたコミュニティ・ビジネスの提案を行った。	寿都町
路面電車を活用した魅力的な都市空間形成に関する研究　～視覚ツールを用いた市民評価を反映して～	平成22年6月28日 ～平成23年3月25日	路面電車の延伸によって得られる効果を視覚ツール（コンピュータグラフィクス）で表現し、それに対する市民評価をツールの改善に役立てた。	札幌市総合交通計画部
滝野の森自生山野草育成関連調査及び管理指導業務	平成22年8月2日 ～平成23年3月25日	滝野すずらん丘陵公園内、滝野の森ゾーン西エリアにおけるシラネアオイ及びヤマシャクヤクの増殖のための調査研究、並びに同地区においての植生管理指導を実施した。	㈶札幌市公園緑化協会
「円山動物園の森」ビオトープの生物多様性向上のための研究	平成22年8月5日 ～平成23年2月28日	円山動物園内に整備中のビオトープ「円山動物園の森」を対象に、同地域に50年前に生息した動植物の再現を目指し、①ササ除去による山野草回復試験、②外来種除去による山野草回復試験、③導入候補小動物の現状把握と地図化、④小動物の生育環境のモニタリングにより調査実験研究を行った。	札幌市環境局

研究課題	期間	概要	連携先
ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究	平成22年8月5日 ～平成23年2月28日	前年度に行ったユニバーサルデザイン視点からの動物園のビジュアルアイデンティティ研究により竣工した札幌市円山動物園における園内誘導サイン計画の延長として、個々の動物舎の内外に設置される動物種別サインの基本デザインを立案した。	札幌市環境局
「環境エンリッチメント」に基づく動物園の飼育展示施設デザインに関する研究	平成22年8月5日 ～平成23年2月28日	動物福祉に基づく「環境エンリッチメント」の既往研究の成果をふまえた円山動物園における①新は虫類館のデザイン監修、②アジア館にかかるデザイン監修、③アフリカ館の基本計画にかかるデザイン監修を行った。	札幌市環境局
札幌駅前公共地下歩道北2条交差点部分におけるコンテンツ供給及び番組編成に関する調査・研究業務	平成22年8月20日 ～平成23年3月31日	札幌駅前公共地下歩道北2条交差点広場に設置されるCGMサイネージシステムのコンテントアプリケーションの仕様策定を行い、北2条エリアにおける発信コンテント制作ワークショップの開催、国際的なコンテント連携、創造都市さっぽろのアプリケーション展開や次代の創造経済の賦活に向けた提言を行った。	札幌市 市長政策室
西岡公園における湿原植生に関する研究	平成22年11月9日 ～平成23年2月28日	西岡公園の湿原において、木道の設置による湿原植生への影響について検討し、木道存廃の基礎資料を得ることを目的として、調査研究を行った。	札幌市豊平区
公園の駅「パークステーション」装飾	平成22年2月10日 ～平成23年3月31日	滝のすずらん丘陵公園・マス見口に隣接する旧自転車を、将来の物産店＋情報発信ギャラリーへの転用を見据えた室内装飾における①家具、②上部装飾、③サイン計画など全体のデザインと施工を担当した。	札幌市公園緑化協会共同体　滝野管理センター

2)　高大連携

①デザイン学部　第4回高大連携公開講座

開催日	高校名	参加生徒数	タイトル	担当教員
平成22年10月10日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌星園高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 市立札幌大通高等学校	31名	空間デザインなる日常	山田　　良
			生活の中に溢れる、製品デザインの世界	柿山　浩一郎

②看護学部　高大連携講座

開催日・期間	高校名	受講生徒数		受講科目名	担当教員
平成22年4月7日～ 平成23年2月1日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 市立札幌大通高等学校	20名	5名	看護学原論（講義・15時間）	◎定廣　和香子 河野　總子
			5名	地域保健学概論（講義・15時間）	◎清水　光子 新納　美美 保田　玲子
			5名	人間発達援助論（演習・30時間）	◎山本　勝則 内田　雅子 坂倉　恵美子 松浦　和代 宮崎　みち子
			5名	チーム医療論（講義・15時間）	◎河野　總子 星　美和子 太田　晴美

◎印：科目責任者（オムニバス形式等の場合）

③看護学部　模擬授業

開催日・期間	高校名	受講生徒数	受講科目名	担当教員
平成22年10月9日	北海道札幌旭丘高等学校 北海道札幌開成高等学校 北海道札幌清田高等学校 北海道札幌新川高等学校 北海道札幌平岸高等学校 北海道札幌藻岩高等学校 北海道札幌啓北商業高等学校 市立札幌大通高等学校	77名	ストレスとリラクゼーション	山本　勝則
			研究を通してみる看護師が行う看護	定廣　和香子

3） 高校出前講義

開催日	高校名	テーマ	担当教員
平成22年7月14日	北海道室蘭清水丘高等学校	ナイチンゲールの業績	河野　總子
平成22年7月21日	北海道帯広緑陽高等学校	人の感性（心）を読めるヒト。それがデザイナーだ！	柿山　浩一郎
平成22年8月26日	北海道旭川北高等学校	北海道に残る建築遺産－縄文時代の竪穴住居から明治時代の民家・都市住宅まで	羽深　久夫
平成22年9月13日	北海道石狩南高等学校	看護系大学ではどんなことを学ぶのか	山本　勝則
平成22年9月13日	北海道石狩南高等学校	ネットメディアの未来	須之内　元洋
平成22年11月5日	北海道札幌北陵高等学校	認知症の方と家族の暮らし	清水　光子
平成22年11月5日	北海道札幌北陵高等学校	空間へ関わるということ	那須　聖
平成22年11月9日	北海道札幌旭丘高等学校	建築環境学　目に見えない世界をデザインする。	斉藤　雅也
平成22年11月10日	北海道大麻高等学校	チーム医療論	河野　總子
平成22年11月10日	北海道札幌新川高等学校	小児看護学概論より「子ども・ことば・絵本・図鑑・病気の説明」	松浦　和代
平成22年11月10日	北海道札幌国際情報高等学校	2016年のインターネット－メディアデザインの可能性をめぐって	武邑　光裕
平成22年11月10日	北海道札幌国際情報高等学校	メンタルヘルスのススメ	守村　洋
平成22年11月10日	北海道札幌開成高等学校	日常の空間デザイン	山田　良
平成22年11月18日	北海道札幌平岸高等学校	小児の症状に応じた看護	吉川　由希子
平成22年12月9日	北海道苫小牧東高等学校	サウンド＆ビジュアル　音と映像の相互関係性を見つける	石田　勝也
平成23年1月20日～2月8日（全4回）	北海道札幌手稲高等学校	デザインって何だろう？	長谷川　聡

4） その他の地域貢献諸活動

デザイン学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
原田　昭	北海道産業振興のためのロゴマーク作成	北海道庁		
	寿都まちづくりフォーラム	寿都町	10名	平成23年3月13日
酒井　正幸	理事	北海道デザインネットワーク		
	実行委員	さっぽろデザインウィーク実行委員会		
	副理事長	北のユニバーサルデザイン協議会		
城間　祥之	IT事業の普及、JICA南西アジアIT研修事業等の確定	NPO法人「札幌ITフロント」		平成22年6月17日
石崎　友紀	工作ショー進行支援	NHKサービスセンター		
上遠野　敏	npo炭鉱の記憶推進事業団会員	npo炭鉱の記憶推進事業団		通年を通して
	年間11回開催の美術講演会の企画運営委員	サッポロアート・ラボ実行委員会		年間11回開催
	札幌ビエンーレ検討委員会およびコンセプト委員	札幌ビエンーレ検討委員会		平成22年5月まで随時
杉　哲夫	JIDA　アクレジット委員会委員	JIDA（日本インダストリアルデザイナー協会）		1年間

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
杉　哲夫	大人向け三輪自転車の開発プロジェクトリーダー	札幌市立大学、株式会社Will-E		1年間
	とうもろこしパッケージデザイン等販促に関わる協力依頼　アートディレクター	社会福祉法人　愛和福祉会		2か月
	札幌らしい特色ある学校教育事業　転倒予防マットレス	札幌市立桑園小学校、札幌市立大学		3カ月
	全道経営者研究集会実行委員	社団法人中小企業家同友会		3カ月
武邑　光裕	会長	芸術の森協議会		平成22年
	副実行委員長	札幌ビエンナーレプレ実行委員会		平成22年
	創造都市さっぽろ市民会議ロゴ選定事業	札幌市	15名	平成22年8月
	運営委員長	文化庁、札幌芸術文化財団		平成22年9月23日～10月3日
羽深　久夫	札幌市南区定山渓地区まちづくり協議会委員	札幌市南区定山渓地区まちづくり協議会		通年
	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議　特別委員	札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議		通年
	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会委員	札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会		平成22年8月～平成23年2月
	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会委員	札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会		平成22年4月～平成22年8月
	札幌市南区石山地区まちづくり協議会委員（石山商店街振興組合理事として）	札幌市南区石山地区まちづくり協議会		通年
	NPO法人北の民家の会理事長・事務局	NPO法人北の民家の会理事長・事務局		通年
	NPO法人日本民家再生リサイクル協会会員	NPO法人日本民家再生リサイクル協会		通年
	NPO法人アルテピアッツア美唄会員	NPO法人アルテピアッツア美唄		通年
	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会会員	芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会		通年
矢部　和夫	湿原植生のアドバイザーとしての役割	堀本宏、キウシト湿原の会		通年
	道内の自然を守る活動（常務理事）	佐藤謙、北海道自然保護協会		通年
	サマーアートキャンプIN江別（江別市共催）の子どもキャンプのスタッフを務めた	金井正治、トライ☆アス☆カル2011実行委員会		平成22年7月28日～30日
吉田　和夫	札幌市中央図書館 定例朗読会（ろうどくの小径）への学生ポスターデザイン提供	札幌市中央図書館	10名	平成22年3月～平成23年9月
	「葛西薫1968」展覧会設営学生ボランティア	札幌芸術の森	12名	平成22年4月
	ウロギネ女性の会巡回ポスター展への学生ポスターデザイン提供	ウロギネ女性の会	6名	平成22年8月～11月
	ジュニア・チャレンジ・ジャム・プロジェクト2010「直径10m世界最大の地球儀制作」への学生参加	札幌札幌芸術の森 他	15名	平成22年9月
吉田　惠介	フォーラム運営	ソーシャルビジネス創造産業コンソーシアム		
	夏のサクランボ祭りの企画と運営	さくらんぼ祭り		
	隊長として地域振興活動を行っている。	八剣山発見隊		

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
武田　亘明	理事：ホームページ作成更新	北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会		随時
	事務局代表／遠隔共同学習環境の整備と運営、雪像制作および交流会の指導と運営	バーチャル雪祭り実行委員会		平成23年2月3日～6日
	運営委員会副委員長／運営委員会運営および主催事業の運営	札幌メディアアートフォーラム運営委員会		平成22年9月12日～13日、11月27日～28日
	審査委員長／コンテストの運営、審査会主催、表彰と交流会の運営	札幌国際短編映画祭「アイアン・フィルムメーカー・コンテスト」審査委員会		平成22年10月2日・3日・8日
	代表／ホームページ作成更新、メーリングリスト管理	情報と教育フォーラム北海道「オンコの木」		随時
	運営委員会委員長／ホームページ作成更新	ハイパー風土記札幌Inter City OROPPAS 運営委員会		随時
	事務局幹事／ホームページ作成更新、メーリングリスト管理	ネットワーク・コミュニティ・フォーラム		随時
細谷　多聞	理事	北海道デザインマネジメントフォーラム		平成22年度
町田　佳世子	企画委員長として5回の講演企画運営	特定非営利活動法人日本BPW連合会札幌クラブ		平成22年6月、8月、平成23年1月、2月、3月
大渕　一博	円山動物園で上映する映像コンペの運営	メッセージムービーサミット2011実行委員会［本学デザイン学部、札幌市円山動物園、北海道コカ・コーラボトリング㈱］		平成23年3月9日
柿山　浩一郎	企画運営委員として各種活動の企画運営を担当	NUDA 北のユニバーサルデザイン協議会		
	赤平市医師確保ポスター制作プロジェクト終了式	札幌市立大学／赤平市	15名	平成22年4月14日
	いきいき福祉2010 出展（展示パネル制作）	NUDA		平成22年10月15日～17日
	Sapporo Design Week 2010「点字アート×UDブックス」（企画・運営）	Sapporo Design Week		平成22年10月28日～11月3日
那須　聖	景観デザイン部会委員およびまちづくり活動への参加	札幌南シーニックバイウェイルート運営者代表会議		
福田　大年	団体の運営および一部のイベントの企画・運営を担当	札幌メディア・アート・フォーラム		通年
	団体の運営および公式WEBサイトを企画し、運営をサポート、作品出品も行う	札幌アートディレクターズクラブ		通年
	札幌医科大学・北海道医療大学共催の「メディカル・カフェ」のデザイン制作をする本学デザイン学部生をサポート	札幌医科大学・北海道医療大学		平成22年4月～8月
三谷　篤史	道内学生ロボコン「ロボット・トライアスロン」組織運営。第10回記念大会参加	ロボット・トライアスロン実行委員会	12名	平成22年10月16日
山田　良	さっぽろシャワー通りの施設整備・運営	さっぽろシャワー通り商店街		平成22年4月～11月
	定山渓アート縁日の企画・実施	定山渓観光協会		平成22年4月～9月
上田　裕文	地域活性化フォーラムの企画運営および参加	寿都町企画課		平成23年3月13日

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
片山　めぐみ	円山動物園リスタート計画　展示デザイン監修・飼育員とのデザインワークショップ開催			
	寿都町地域活性化資源の調査と利用方法の提案　住民ワークショップ開催・フォーラム企画運営			
須之内　元洋	学生参加イベントの企画・運営、産官学連携イベントの企画運営	札幌メディア・アートフォーラム		通年
	巡回展準備・運営、パネルディスカッション「つながりの中のネットアート」コメンテータ等	文化庁メディア芸術祭巡回企画展実行委員会		平成22年6月～11月
	総務省補助事業「食とICT」による「地域の健康と安心安全ブランドの推進」経済活性化事業	ICT（情報通信技術）による食と健康の地域づくり推進協議会		平成22年9月～平成23年3月

看護学部

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
中村　惠子	理事、研修会等の企画運営、講師など			
宮﨑　みち子	市内在住の留学生支援	北海道国際女性協会		
	胎児と女性の支援	円ブリオ北海道		平成22年度
坂倉　恵美子	もみじ台の地域の大広間　イベント開催協力（同上団体）	札幌市市民まちづくり局		平成22年10月31日
	小学校跡の高齢者の生活拠点つくり	札幌市市民まちづくり局		平成23年3月17日
松浦　和代	研修会企画・運営	卒業後の医療的ケアを考えようネット		平成22年11月21日
清水　光子	第7回桑園地区子ども大縄跳び大会	桑園地区青少年育成委員会		平成22年8月28日
	第22回桑園地区文化祭（設営）	桑園地区連合町内会		平成22年10月16日
	第7回桑園地区子ども大縄跳び大会	桑園地区青少年育成委員会	7名	平成22年8月28日
	文化祭（設営）	桑園地区連合町内会	5名	平成22年10月16日
守村　洋	北海道精神障害者回復者クラブ連合会総会および社会復帰促進会参加	北海道精神障害者回復者クラブ連合会		平成22年7月11日
	精神障害者当事者会への助言指導	NPO法人すみれ会		平成22年度
	第13回さっぽろ・こころの健康まつり企画運営	さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会		平成22年度
吉川　由希子	糖尿病サマーキャンプ　医療ボランティア			平成22年8月6日～8月9日
	難病のこどものサマーキャンプ　医療ボランティア			平成22年8月22日～8月25日
村松　真澄	Clinic-ITL口腔ケアについて講演と学生と意見交換会	北海道医療系学生団体NORTH Power		平成22年4月24日
	健康フェスタで地域住民と健康度測定をして交流した	清田老人福祉センター	4名	平成22年9月8日
	入院療養中の人工呼吸器装着患者への読み聞かせ	井上病院・看護部＆村松	5名	平成22年9月10日
	実行委員及びイベント企画歯輝歯輝セミナーを実施学生	ミニ大通りお散歩祭り実行委員会	7名	平成22年9月12日
渡邉　由加利	模擬患者組織の支援	札幌市立大学模擬患者養成等部門		平成22年5月・7月・9月・11月・平成23年3月

教員名	内容	主催者	参加学生数	参加日・期間
櫻井　繭子	こころの健康相談事業の相談員活動、NPO法人理事・庶務担当として組織運営	NPO法人こころ		平成22年4月1日～平成23年3月31日
照井　レナ	認定NPO申請・取得	認定NPO法人　飛んでけ車いす柳生一自		平成22年4月～平成23年3月
原井　美佳	学生に対する広報・取りまとめ・団体および学生との調整・行事参加	桑園地区連合町内会		平成22年5月17日～10月17日
	行事への学生ボランティアの参画調整	桑園連合町内会	17名	平成22年5月17日～10月17日
	桑園ふれあい登山	桑園地区連合町内会		平成22年6月13日
	桑園ふれあい登山	桑園連合町内会	6名	平成22年6月13日
	桑園地区運動会	桑園地区連合町内会		平成22年9月5日
	桑園地区運動会	桑園連合町内会	10名	平成22年9月5日
三上　智子	小樽市最上地区ボランティア清掃活動	小樽市最上小学校エコクラブ		平成22年6月
	盲導犬支援活動	小樽市最上小学校エコクラブ		平成22年9月

5）　マスメディアへの掲載

デザイン学部

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
石崎　友紀	つくってあそぼ造形指導	NHK教育テレビ	
	テレビテキスト造形指導	NHK出版	
上遠野　敏	散歩しながら交流を　札幌の通称・ミニ大通あす、初のまつり	北海道新聞	平成22年9月11日
	歩いて分かる　街の歴史　赤平のフットパスに案内板　札幌市立大生がデザイン	北海道新聞	平成22年9月29日
	街の魅力再発見　「ミニ大通☆お散歩まつり」	広報さっぽろ　中央	平成22年10月号
	野口観光「のぐちくん」マスコットキャラクターCM、広告	野口観光「のぐちくん」マスコットキャラクターCM、広告	平成22年12月～平成23年1月
齋藤　利明	STV「24時間テレビ」出演　8月29日	札幌テレビ	平成22年8月29日
杉　哲夫	きょうされん北海道支部　2011年　新たな福祉への挑戦　掲載	機関誌	平成22年4月
	授産施設製品ブランド化へ　中小企業家新聞掲載	新聞	平成22年4月15日
	大学生の感性でカワイイ木工品（授産施設木工品）北海道新聞掲載	新聞、ラジオ	平成22年5月22日
	粒の手触り　あまきび新パッケージ　北海道新聞掲載	新聞	平成22年9月10日
	あまきびパッケージ　真心絶品ブランド認定（日本財団）認定商品カタログ、HP等掲載	真心絶品カタログ	平成23年1月
	北海道同友　2011年　第59号　授産施設商品のブランド価値向上に向けた取組み　掲載	機関誌	平成23年1月
	冬道でのベビーカー　北海道新聞掲載2回、STVどさんこワイド放映	新聞、テレビ、ラジオ	平成23年1月3日
武邑　光裕	北海道新聞コラム「魚眼図」毎月連載、年12回	北海道新聞	毎月1回
羽深　久夫	北海道の古民家事情　北海道新聞	北海道新聞　夕刊	平成22年4月3日
原　俊彦	児童減手だてはどこにーマチの仕組み整えて	北海道新聞	平成22年4月10日

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
原　　俊彦	北海道の人口が30年後414万人に－再生可能地域に集中投資を	道民雑誌　クオリティ	平成22年6月10日
	都会女性　農業男子に熱視線－不安定雇用、景気も影響	北海道新聞	平成22年9月4日
David Lindsay Wright	SMALL TOWN BUOYANT	IN-BUSINESS International Edge（NZ）	平成23年2月25日
	札幌市北2条地下歩行空間CGMコンテンツ「Sapporo World Window」制作		
石田　勝也	Ustream配信特集	北海道新聞	平成22年8月24日
	Jpop・アニソンDJの現在	北海道新聞	平成22年11月11日
柿山　浩一郎	「医師不足の市立赤平病院　札市大生が募集ポスター」本学の赤平プロジェクトの紹介（終了式）	STV どさんこワイド	平成22年4月14日
	「医師不足の市立赤平病院　札市大生が募集ポスター」本学の赤平プロジェクトの紹介（終了式）	北海道新聞	平成22年4月15日
	「札幌市立大学に感謝状」北海道ブランドロゴマークを本学が担当したことに対する知事からの感謝状贈呈式の紹介	北海道新聞	平成22年8月12日
	「点字を音にしよう」NUDAスタッフとして運営したSDWのイベント紹介	北海道新聞	平成22年11月4日
	「自宅と結ぶ遠隔看護」E-KANGOプロジェクトの紹介	北海道新聞	平成23年2月3日
小宮　加容子	大学生の感性でカワイイ木工品	北海道新聞	平成22年5月22日
	福祉用具もっと見やすく	北海道新聞	平成22年7月9日
	福祉用具　札幌市立大学が展示案	北海道新聞	平成22年8月18日
	点字を音にしよう	北海道新聞	平成22年11月4日
	案内版誰もがみやすく	北海道新聞	平成22年11月30日
	円山動物園迷わないね	北海道新聞	平成22年12月10日
	ベビーカー雪上でも	北海道新聞	平成23年1月3日
	福祉用具展示ホールリニューアル	STV　どさんこワイド	平成23年1月5日
	車いす試乗できます	北海道新聞	平成23年1月17日
	雪道でのベビーカー	STV　どさんこワイド	平成23年1月17日
	雪道用ベビーカー　そろり出発	北海道新聞	平成23年1月18日
斉藤　雅也	円山動物園　爬虫類館が来春一新　冬眠や繁殖舞台裏を公開	北海道新聞	平成22年4月6日
	涼呼ぶカーテン長～い27メートル　キュウリやゴーヤ 札市大ゼミで研究	北海道新聞	平成22年8月20日
	涼しげ　手作り休憩所　黒松内中生が木製デッキ	北海道新聞	平成22年9月7日
	エアコンで暖房	リプラン北海道	平成22年9月28日
	大学の「知恵」を地域に還元－伝道者は工務店	北海道建設新聞	平成22年12月22日
福田　大年	中小企業家しんぶん「ブランド開発技術研修会」に関する記者レポート	中小企業家しんぶん	平成22年4月15日
山田　良	研究室作品展	北海道新聞	平成23年2月19日
	小樽アートプロジェクト	北海道新聞	平成23年4月14日
	さっぽろシャワー通り	北海道新聞	平成23年5月10日

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
山田　良	関口美術館Emerging Landscape	北海道新聞	平成23年5月24日
	北海道立体表現展の作品	北海道新聞	平成23年6月18日
	ノボシビルスクでの活動	北海道新聞	平成23年9月18日
須之内　元洋	北2条公共メディア空間デジタルサイネージ（システム設計・コンテントマネジメントを担当）	道内 テレビ/新聞多数	
	古ぼけた消火器、懐かしのプラモ…パチリ＊携帯端末使い稚内PR＊ブロガー対象に講習会	北海道新聞	平成22年12月24日
長谷川　聡	表紙：作品紹介、デザイナー紹介及び解説文	「アルトピア」（アルミニウム専門誌）	平成22年4月
	製品デザイン論（杉教授）ベビーカー評価実験補佐	STV どさんこワイド	平成23年1月20日
	札幌手稲高校「学び体験ゼミ」（全5回）特別講師	北海道新聞	平成23年2月21日

看護学部

教員名	内容	掲載媒体	掲載日
中村　惠子	教育者の眼：季刊誌連載	現代社 綜合看護	4回／年
スーディ神崎　和代	自宅と結ぶ遠隔看護	北海道新聞	平成23年2月3日
宮崎　みち子	札幌市立大学助産学専攻科の紹介	北海道医療新聞	平成22年4月16日
	札幌市立大学助産学専攻科の紹介	ベストナース	平成22年8月号
樋之津　淳子	週刊医学界新聞　座談会「臨床試験がかなえる看護師の新たなステージ」	新聞	平成22年7月19日
守村　洋	札幌市社会福祉総合センター「福祉用具展示ホール」のリニューアルに向けた検討	北海道新聞	平成22年7月9日
	札幌市社会福祉総合センター「福祉用具展示ホール」のリニューアルに向けた検討	STVテレビ	平成23年1月5日
菊地　ひろみ	枝幸町におけるE-KANGOのシミュレーションに関する新聞報道	北海道新聞	
菅原　美樹	一般社団法人日本救急看護学会10周年記念誌座談会	日本救急看護学会10周年記念特集号	平成22年12月
藤井　瑞恵	JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）	広報さっぽろ	10月号
	連載：看護OSCEの取り組み（中）	月刊ベストナース	10月号
	JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）	月刊ベストナース	11月号
	JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）	毎日新聞	平成22年11月27日
	JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）	NHKテレビプラネット	平成22年11月30日
村松　真澄	ミニ大通りお散歩祭りで札幌市立大学看護学部学生がイベント参加	北海道医療新聞社、ベストナース	平成22年11月号
	ミニ大通りお散歩祭りで札幌市立大学看護学部学生がイベント参加	北海道医療新聞社、ケア	平成22年11月号
	苫前町での健康調査をもとに歯と口の健康についての報告会	北海道医療新聞社、ベストナース	平成23年1月号
河村　奈美子	研究室訪問「動物の力医療現場に」にて掲載	読売新聞北海道支社　学生プロジェクト「学STREET」vol.7	平成22年4月1日
多賀　昌江	医療ルネスサンス№4839 続・赤ちゃんを亡くして⑤	読売新聞	平成22年5月17日

2　公開講座開催実績

1）　札幌市立大学主催

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成22年4月24日	＜札幌市芸術文化財団共催＞ 葛西薫・広告の力 －心に届くコミュニケーションを考える－	葛 西　　薫 （アートディレクター）	221
平成22年5月15日	【訪問看護スキルアップ講座　2010】 Part Ⅰ　褥瘡ケア講座	高 橋　夏 絵 （社団法人　北海道勤労者医療協会　勤医協中央病院　看護師長、 皮膚・排泄ケア認定看護師（WOC看護認定看護師））	53
平成22年6月19日	都市の緑を学ぶエコツアー －町の緑、田舎の緑をめぐり、美しい風景を描こう－	吉 田　恵 介 （デザイン学部教授） ビアンカ　フェルスト （ビアンカハウス主宰） 氏 家　　陵 （札幌市立大学非常勤職員）	8
平成22年7月16日	道具文化とデザイン	藤 本　清 春 （GKデザイン機構道具文化研究所所長）	34
平成22年9月6日	【臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座】1	河内　香久子 （治療室シーズ　院長） 大 野　夏 代 （看護学部准教授）	16
平成22年9月7日	【臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座】2	河内　香久子 （治療室シーズ　院長） 大 野　夏 代 （看護学部准教授）	9
平成22年10月22日	【札幌のまちづくりにおける建築の役割と意味】 －歴史的にみたまちづくりにおける建築の役割と意味－	羽 深　久 夫 （デザイン学部教授）	19
平成22年11月9日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋Ⅱ】 －高齢者にとっての安全で快適な住居環境－ －環境感覚を活かす建築設計と暮らし－	羽 山　広 文 （北海道大学大学院工学研究院　教授）	11
平成22年11月10日	【札幌のまちづくりにおける建築の役割と意味】 －建築意匠からみたまちづくりにおける建築の役割と意味－	小 澤　丈 夫 （北海道大学大学院工学研究院准教授）	26
平成22年11月13日	【訪問看護スキルアップ講座　2010】 Part Ⅱ　認知症ケア講座	スーディ神崎　和代 （看護学部教授）	67
平成22年11月26日	【世界の創造都市：前線からの報告】 －都市のオープン・イノヴェーションへ　文化経済、食、ウェルネス、ソーシャルメディア、創造産業－	サム・インキネン （フィンランド未来研究センター・ヴァーサ大学教授） ミッコ・ヴァキバルタ （Brazファンデーション代表）	38

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成22年12月2日	【人をつなぐコミュニケーション：札幌市立大学における4つの取り組み】 －ゲームで考える小グループのコミュニケーション－	町田　佳世子 （デザイン学部准教授）	18
	【人をつなぐコミュニケーション：札幌市立大学における4つの取り組み】 －住民参加型まちづくりのコミュニケーション－	上 田　　裕 文 （デザイン学部助教）	
平成22年12月7日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋Ⅱ】 －積雪寒冷地の住民にとって安全で快適な入浴習慣－	坂倉　恵美子 （看護学部　教授）	14
	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋Ⅱ】 －安全で快適な入浴環境調査の報告－	斉 藤　　雅 也 （デザイン学部　講師）	
平成22年12月16日	【人をつなぐコミュニケーション：札幌市立大学における4つの取り組み】 －デザインにおけるコミュニケーション戦略－	柿山　浩一郎 （デザイン学部講師）	23
	【人をつなぐコミュニケーション：札幌市立大学における4つの取り組み】 －心理社会的エンパワーメントのコミュニケーション－	新 納　　美 美 （看護学部講師）	
平成22年12月17日	【札幌のまちづくりにおける建築の役割と意味】 －建築環境からみたまちづくりにおける建築の役割と意味－	斉 藤　　雅 也 （デザイン学部講師）	17
平成23年1月12日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋Ⅱ】 －しなやかな重心移動により転倒予防－	鈴 木　　英 樹 （北のくらしと地域ケア研究所（キタライフ）研究所　代表）	14
平成23年1月14日	【札幌のまちづくりにおける建築の役割と意味】 －建築計画からみたまちづくりにおける建築の役割と意味－	那 須　　聖 （デザイン学部講師）	16
平成23年2月3日	【世界の創造都市：前線からの報告】 －創造都市ベルリンの今－	Nina Fischer （札幌市立大学　非常勤講師） Maroan El Sani （札幌市立大学　非常勤講師）	40
平成23年2月3日	看護師による口腔ケアの実践	村 松　　真 澄 （看護学部講師）	38
平成23年2月9日	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋Ⅱ】 －高齢期の回想法（老いの復権）－	坂倉　恵美子 （看護学部　教授）	11
	【積雪寒冷地の札幌で高齢期を健やかに生きるための知恵袋Ⅱ】 －日常生活における「回想」実施の意義－	森　　浩 義 （エデイアワークス　ディレクター）	
平成23年2月17日	【世界の創造都市：前線からの報告】 －内外の創造都市を展望する－	佐々木　雅幸 （大阪市立大学　大学院教授）	32
平成23年2月18日	【札幌のまちづくりにおける建築の役割と意味】 －建築環境心理からみたまちづくりにおける建築の役割と意味－	片山　めぐみ （デザイン学部助教）	24

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成23年2月23日	【世界の創造都市：前線からの報告】 －芸術文化の経済的意義：経済波及効果論を超えて－	片山　泰輔 （静岡文化芸術大学　文化政策学部准教授）	36
平成23年2月28日	【世界の創造都市：前線からの報告】 －創造都市さっぽろを展望する－	吉田　惠介 （デザイン学部教授） 武邑　光裕 （デザイン学部教授） デーヴィッド・ライト （デザイン学部准教授）	48

2）　共催

開催日	タイトル	講師	受講者数
平成22年4月8日 ～平成23年3月24日	＜さっぽろ緑花園芸学校共催＞ さっぽろ緑花園芸学校（A・B・Cコース）	－	2322
平成22年12月20日	＜デザイン研究科開設記念講演会＞ 情感的生命機械体芸術 －芸術と工学の融合を語る－	河口　洋一郎 （アーティスト、東京大学大学院教授）	118
平成23年2月7日	＜特別講義＞ 大学院デザイン学研究科　特別講義 －鏡を用いたビジュアル・トリック－	趙　　烈 （韓国漢城大学校芸術大学　メディアコンテンツ学部　教授）	41

3　社会における活動

デザイン学部

教員名	名称／自治体名・主催団体名
原田　昭	・SAPPORO ショートフェスト実行委員会顧問／ SAPPORO ショートフェスト実行委員会
吉田　惠介	・札幌市都市景観アドバイザー／札幌市 ・北海道特定開発行為審査委員会委員／北海道 ・札幌市「銭函風力発電所環境影響評価書案」検証専門家会議委員／札幌市 ・藻岩山魅力アップ構想環境配慮ガイドライン検討懇談会委員／札幌市 ・公園マネジメント評価委員会委員／㈶札幌市公園緑化協会 ・ビジネスプラン・コンペティション評価委員／ NPO法人グリーンライフさっぽろ ・ふるさと起業家育成フォーラムにかかるパネリスト／ NPO法人グリーンライフさっぽろ
武邑　光裕	・NPO法人都市文化創造機構　理事／ NPO法人都市文化創造機構 ・ビジネスプラン・コンペティション評価委員／ NPO法人グリーンライフさっぽろ ・ふるさと起業家育成フォーラムにかかるパネリスト／ NPO法人グリーンライフさっぽろ
石崎　友紀	・「公共建築の日」及び「公共建築月間」ポスターコンテスト審査委員／「公共建築の日」及び「公共建築月間」北海道地方実行委員会、社団法人公共建築協会北海道地区事務局 ・平成22年度工芸専門委員会委員／㈶札幌市芸術文化財団 ・「つくってあそぼ」番組企画会議委員／ NHK
上遠野　敏	・そらち「炭鉱（やま）の記憶」で地域づくり推進会議　委員／北海道空知支庁 ・地域見守りサポーターのマスコットキャラクター作成にかかるアートディレクション／社会福祉法人札幌市社会福祉協議会

教員名	名称／自治体名・主催団体名
齋藤　利明	・2011アートボックス審査委員／札幌駅総合開発㈱
酒井　正幸	・札幌スタイル推進会議委員／札幌市 ・㈶さっぽろ産業振興財団評議員
中原　宏	・札幌市中高層建築物紛争調整委員会委員／札幌市
羽深　久夫	・札幌市豊平館保存活用検討委員会委員／札幌市 ・平成22年度札幌市保養センター駒岡運営協議会委員／札幌市保養センター駒岡 ・札幌市文化財保護審議会委員／札幌市観光文化局 ・「がんばる商店街活性化プランづくり支援事業」の委員／行啓通商店街振興組合 ・喜茂別町交流の森検討委員／喜茂別町 ・札幌芸術の森運営協議会委員／㈶札幌市芸術文化財団
矢部　和夫	・美々川自然再生アクションプログラム検討会委員／胆振総合振興局 ・第7回自然環境保全基礎調査植生調査北海道ブロック会議委員／㈱エコニクス ・喜茂別町交流の森検討委員／喜茂別町
吉田　和夫	・平成22年度中央区広報PR用ロゴデザイン選考委員会委員／札幌市中央区 ・札幌市広告アドバイザー／札幌市
武田　亘明	・北海道放課後子どもプラン推進委員会委員／北海道教育庁学校教育局 ・北海道学校支援地域本部事業運営協議会委員／北海道教育庁学校教育局 ・平成22年度視聴覚教育・情報教育功労者表彰に係る候補者選考委員／北海道教育庁生涯学習推進局 ・グラフィックデザイン産業振興会議委員／札幌市経済局 ・アイアンフィルムメーカーコンテスト審査委員長／ SAPPORO ショートフェスト実行委員会 ・北海道立生涯学習推進センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会委員／北海道教育委員会
細谷　多聞	・札幌スタイル　ブランドマネジメント委員会委員／札幌市 ・札幌スタイル　認証審査部会委員／札幌市 ・平成23年度「北海道の食を愛するまち札幌」ウェブサイト審査委員会委員／札幌市
斉藤　雅也	・平成22年度第1回旭川西高等学校スーパー・サイエンス・ハイスクール運営委員会委員／北海道旭川西高等学校 ・札幌版次世代住宅基準に関する技術検討会議委員／札幌市 ・振興賞運営委員会技術振興賞北海道支部推薦小委員会委員／㈳空気調和・衛生工学会 ・BIS認定制度試験講習委員会委員／㈳北海道建築技術協会 ・LCCM住宅研究・開発委員会　LCCM住宅設計部会委員／一般社団法人日本サステナブル建築協会
那須　聖	・「がんばる商店街活性化プランづくり支援事業」の委員／行啓通商店街振興組合
片山　めぐみ	・札幌市市民活動サポートセンター情報ツールに係る学生による企画検討議委員／札幌市 ・札幌市大規模小売店舗の立地に係る生活環境影響評価専門家会議委員／札幌市 ・学生まちづくりコンテスト審査員／札幌市
小宮　加容子	・札幌市社会福祉総合センター「福祉用具展示ホール」のリニューアル／社会福祉法人札幌市社会福祉協議会
長谷川　聡	・「デザインウェーブ2010イン富山」デザインワークショップへの招待デザイナー／デザインウェーブ開催委員会
福田　大年	・平成22年度地域こだわり食品発掘総合支援事業に係るアドバイザー／北海道経済部

看護学部

教員名	名称／自治体名・主催団体名
中村　恵子	・日本集団災害医学会評議員／日本集団災害医学会 ・査読委員／日本災害看護学会編集委員会 ・第30回学術集会長／一般社団法人日本看護科学学会 ・医道審議会臨時委員（保健士助産師看護師分科会員）／厚生労働省医政局 ・日本看護管理学会学会誌原稿査読委員／日本看護管理学会編集委員会 ・日本臨床救急医学会理事／一般社団法人日本臨床救急医学会 ・会長・企画委員／第30回日本看護科学学会学術集会 ・日本看護診断学会理事長諮問会議員／日本看護診断学会 ・日本救急看護学会理事・評議員／一般社団法人日本救急看護学会 ・認定看護師制度委員会委員／社団法人日本看護協会 ・第6回学術集会長／日本クリティカルケア看護学会 ・特定看護師養成調査試行事業検討プロジェクト委員／社団法人日本看護協会 ・専門看護師認定実行委員会／社団法人日本看護協会 ・平成22年度救急業務高度化推進検討会重症度･緊急度の判定･選別（トリアージ）に関する作業部会の構成員／消防庁 ・第16回日本看護管理学会年次大会長／日本看護管理学会 ・評議員／日本クリティカルケア看護学会 ・評価委員／京都府立医科大学 ・専任査読委員／日本クリティカルケア看護学会 ・医道審議会委員臨時委員／厚生労働省医政局 ・代議員／公益社団法人　日本看護科学学会
内田　雅子	・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会 ・企画委員／第4回日本慢性看護学会学術集会 ・事務局・企画委員／第30回日本看護科学学会学術集会
加藤　登紀子	・日本地域看護学会第13回学術集会企画委員会委員／日本地域看護学会第13回学術集会 ・企画委員・編集委員／第30回日本看護科学学会学術集会
河野　總子	・企画委員・市民公開講座委員／第30回日本看護科学学会学術集会
坂倉　恵美子	・北海道建築審査会委員／北海道建設部建築指導課建築基準グループ ・企画委員・編集委員／第30回日本看護科学学会学術集会 ・実行委員／第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会
定廣　和香子	・企画委員・編集委員／第30回日本看護科学学会学術集会
ｽｰﾃﾞｨ神崎　和代	・企画委員・プログラム委員／第30回日本看護科学学会学術集会
樋之津　淳子	・委員／独立行政法人日本学術振興会 ・企画委員・実行委員／第30回日本看護科学学会学術集会 ・実行委員／第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会 ・大学設置・学校法人審議会専門委員／文部科学省高等教育局
松浦　和代	・企画委員・プログラム委員／第30回日本看護科学学会学術集会 ・実行委員／第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会
宮﨑　みち子	・教育委員会委員／㈳北海道看護協会 ・企画委員／第30回日本看護科学学会学術集会
山本　勝則	・企画委員・実行委員／第30回日本看護科学学会学術集会 ・抄録選考委員／㈳北海道第42回日本看護学会－精神看護－学術集会
大野　夏代	・プログラム委員／第30回日本看護科学学会学術集会

教員名	名称／自治体名・主催団体名
清水　光子	・札幌市地域包括支援センター運営協議会委員／桑園地区連合町内会 ・委員／札幌市保健福祉局 ・推薦委員会委員／㈳北海道看護協会 ・評議員／北海道公衆衛生学会 ・理事／社会福祉法人札幌市中央区福祉協議会 ・地区民生委員・児童委員推薦準備会委員／札幌市中央区
須田　恭子	・社団法人北海道看護協会理事／㈳北海道看護協会 ・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会
守村　洋	・札幌市社会福祉総合センター管理運営委員会委員／札幌市社会福祉総合センター指定管理者 ・社会福祉法人札幌市社会福祉協議会委員／札幌市社会福祉総合センター指定管理者 ・札幌市社会福祉協議会権利擁護審査会委員／社会福祉法人札幌市社会福祉協議会 ・抄録選考委員／㈳北海道第42回日本看護学会－精神看護－学術集会
吉川　由希子	・委員／社団法人北海道看護協会 ・学会委員会委員／㈳北海道看護協会
菅原　美樹	・認定看護師認定実行委員会（救急看護）委員／㈳日本看護協会 ・機関誌専任査読委員／日本救急看護学会 ・専任査読委員／日本循環器看護学会編集委員会 ・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会 ・JNTEC委員会委員／一般社団法人日本救急看護学会 ・JNTEC委員会／一般社団法人日本救急看護学会 ・ペーパーレフェリー／文部科学省高等教育局 ・日本循環器看護学会誌（和文）の専任査読委員／日本循環器看護学会 ・理事／日本クリティカルケア看護学会 ・認定看護師認定実行委員会（救急看護）委員／㈳日本看護協会
杉田　久子	・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会 ・論文選考委員／日本看護協会看護研修学校
田中　広美	・第2回日中韓看護学会一般演題抄録の査読／㈳日本看護協会
藤井　瑞恵	・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会 ・副会長／北海道看護教育研究会
村松　真澄	・評議員／一般社団法人日本摂食･嚥下リハビリテーション学会 ・実行委員／第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会 ・選挙管理委員／北海道看護協会札幌第一支部 ・看護師職能委員／北海道看護協会札幌第一支部 ・職能委員／北海道看護協会札幌第一支部 ・旭川口腔ケア普及研究会幹事／上川中部地域歯科保健推進協議会 ・理事／一般社団法人在宅療養支援薬局研究会
山本　真由美	・研修会（教育委員）／㈳北海道看護協会 ・教育委員／㈳北海道看護協会
太田　晴美	・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会
神島　滋子	・企画委員／第6回日本クリティカルケア看護学会
進藤　ゆかり	・実行委員／第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会
原井　美佳	・実行委員／第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会
工藤　京子	・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会 ・総会（代議員）／㈳北海道看護協会
渕本　雅昭	・プログラム委員／第6回日本クリティカルケア看護学会 ・実行委員／第6回日本クリティカルケア看護学会

4　専門職支援・セミナー講師等

デザイン学部

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
酒井　正幸	平成22年6月15日	・第30回日本看護科学学会学術集会にかかる話題提供者	第30回日本看護科学学会学術集会
中原　宏	平成23年2月24日	「札幌市の都市計画と未来」	㈶札幌市公園緑化協会
石崎　友紀	平成22年8月5日	さっぽろ市民カレッジ2010春・夏期にかかる講師「市電と人と町並みと」 路面電車のデザイン～他都市の成功事例と札幌の課題～	㈶札幌市生涯学習振興財団
	平成23年2月26日	平成22年度冬季特別研修会	北海道幼児放送教育研修会札幌・石狩地区幼児放送教育研究会
杉　哲夫	平成22年10月15日	北海道中小企業家同友会第28回全道経営者“共育”研究集会 テーマ：産学協同でのブランディングの実例	北海道中小企業家同友会
武邑　光裕	平成22年8月23日	・ふるさと起業家育成フォーラムにかかるパネリスト	NPO法人グリーンライフさっぽろ
原　俊彦	平成22年10月8日	平成22年度社会保障・人口問題基礎講座にかかる講師	㈶厚生統計協会
	平成22年11月24日	平成22年度全道グリーンアドバイザー研修会における基調講演 テーマ：地域農業を支える配偶者対策 ～婚活を考える、出会いの場を如何にサポートするか～	㈶北海道農業開発公社
矢部　和夫	平成22年6月5日	平岡公園春の湿生植物観察ツアーに係る講師	㈶札幌市公園緑化協会
吉田　和夫	平成22年9月3日	情報デザイン科校外学習　「園内デザインと空間デザインについて」	北海道高等聾学校
吉田　惠介	平成22年8月23日	・ふるさと起業家育成フォーラムにかかるパネリスト	NPO法人グリーンライフさっぽろ
	平成22年11月11日	ふらっとホーム2010in 南区～市民と市長の2時間談義	札幌市南区
	平成22年11月28日	市民・賛助会員と生産者の交流会、テーマ：地域活性化と市民参加	ふぞろいの北の野菜と果物を応援する会
武田　亘明	平成22年7月17日	平成22年度北海道教育大学青陵会研究大会にかかる講師	北海道教育大学青陵会
	平成23年2月9日	平成22年度学校支援ボランティア養成講座 講演題：学校支援ボランティアが学校と地域をつなぐ	小平町学校支援協議会
	平成23年2月26日	稚内市スクールガードボランティア実践交流会にかかる講師 講演題：多世代交流・多組織交流・施設多目的化による地域の安全安心づくり	稚内市教育委員会
細谷　多聞	平成22年8月5日、6日	平成22年度北海道高等学校流通ビジネス教育研究協議会における講師派遣	北海道高等学校校長協会商業部、北海道高等学校流通ビジネス教育研究協議会
柿山　浩一郎	平成22年6月7日	拓殖大学特別講師	拓殖大学工学部
	平成22年7月14日	魅力ある商品・ブランド開発基礎講座	さっぽろ雇用創出推進協議会

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
斉藤　雅也	平成22年10月23日、24日、31日	北海道旭川西高等学校スーパー・サイエンス・ハイスクールに係る講師派遣	北海道旭川西高等学校
	平成23年1月11日 平成23年1月25日 平成23年2月18日	BIS認定事業にか係る養成講習会並びに更新講習会	㈳北海道建築技術協会
福田　大年	平成22年10月15日	北海道中小企業家同友会第28回全道経営者“共育”研究集会 テーマ：産学協同でのブランディングの実例	北海道中小企業家同友会
	平成23年3月14日	平成22年度障がい者の就労支援・製品製作技術研修会に係る講師派遣	北海道社会福祉協議会

看護学部

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村　恵子	2010年6月27日	救急看護セミナー講師「救急医療の変遷と救急看護師の役割」	一般社団法人 日本救急看護学会
	2010年7月3日	平成22年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師「看護管理概説」	社団法人青森県看護協会
	2010年8月13日	職員教育講師「看護管理について」	登別厚生年金病院
	2010年9月5日	医学・看護学教育討論会講師「看護系OSCE「看護OSCEの進め方と成功のための戦略」「総合討論」」	奈良県立医科大学
	2010年10月1日、10月4日	講義講師	財団法人日本救急医療財団
	2010年12月22日	平成22年度北海道医療大学大学院看護福祉学研究科FD・看護福祉学部看護学科FD　合同研修会講師「OSCE応用編「看護学教育へのOSCE導入に向けた準備と実際」」	北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科
	2011年1月7日	トリアージコーディネーター認定講座講師「トリアージナースに求められる能力とは」	株式会社シャイニング
	2011年1月11日、14日、3月3日、5日	平成22年度認定看護管理者教育制度ファーストレベル教育課程研修講師「看護管理概説①看護管理とは②看護管理者の役割」	社団法人北海道看護協会
	2011年1月22日	救急看護セミナー講師「救急看護師の役割」	一般社団法人 日本救急看護学会
	2011年1月23日	岩手県立大学看護実践研究センター開設に伴う講演会講師「看護職としてのキャリア・アップをめざした大学と実践との協働」	岩手県立大学看護学部
	2011年1月29日	平成22年度日本赤十字北海道看護大学看護開発セミナー　キャリアアップセミナー講師「救急患者のケアマネージメント実践講座Ⅰ」	日本赤十字北海道看護大学
	2011年2月5日	基礎病態セミナー講師「救急看護師ｔの役割」	一般社団法人 日本救急看護学会
	2011年2月19日	第17回研究大会講演講師「我が国における救急（急性期）看護のあり方～抱える課題と展望～」	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第17回研究大会in長崎

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
中村　恵子	2011年2月28日	平成22年度特定看護師（仮称）養成調査試行事業実施課程講義講師「特定看護師（仮称）概論」	社団法人日本看護協会
	2011年3月10日	救急科カンファレンス講演講師「救急看護とは」	慶應義塾大学医学部 救急医学教室
	2011年3月14日	研修会講師「OSCEに係るプロジェクトの全体評価について」	日本赤十字広島看護大学
	2011年3月17日	OSCE学内研修会講師	聖マリアンナ医科大学 看護専門学校
河野　總子	2010年7月24日	看護管理者ネットワーク推進懇談会講師「働き続ける職場づくりを考える～ワーク･ライフ･バランスの実践とやりがいのある職場づくり～」	北海道看護協会 札幌第４支部
	2010年10月29日	看護管理研修講師「高齢者の特性：身体的・心理的・社会的」	医療法人社団 新日鐵室蘭総合病院
	2010年11月10日	学部系統別集会・集中講義講師	北海道大麻高等学校
坂倉　恵美子	2010年11月15日	研修講師「高齢者の特性:身体的･心理的･社会的」	札幌市病院局市立札幌病院
スーディ神崎　和代	2010年9月1日 ～2012年3月31日	指導	夕張市
	2010年9月17日	指導「有料老人ホーム事業における経営について」	財団法人安寿苑
	2010年10月19日、 10月21日	訪問看護師養成講習会講師「訪問看護対象論」	社団法人北海道看護協会
	2010年11月26日	有料老人ホーム入居者向け講演会講師「認知症予防・遅延について」	神鋼ケアライフ株式会社
	2011年1月22日	セミナー講師「認知症状の理解」	北斗人材教育プラン
	2011年1月22日	認知症介護従事者研修会講師「認知症介護従事者に求められるもの」	公益社団法人　日本認知症グループホーム協会
樋之津　淳子	2010年11月6日	北海道ブロック研修会講師「看護実践能力を高める教育方法･教育効果について」	一般社団日本看護学校協議会北海道ブロック
	2011年1月30日	講話講師「客観的臨床能力評価（OSCE）の導入･展開の実際と課題」	モデルコアカリキュラム研究班
松浦　和代	2010年5月10日	臨床指導者研修Ⅰ講師「基礎教育における実習の意義と指導臨床指導者に期待すること」	札幌市病院局市立札幌病院
	2010年6月1日	はじめての臨地実習指導者研修会講師「看護基礎教育の概要・看護教育における実習の意義」	社団法人北海道看護協会
	2010年7月9日	北海学園札幌高等学校性教育講演会講師「1年生の性に関する講演」	学校法人北海学園 北海学園札幌高等学校
	2010年7月14日	健康講話講師「高校生としての性への対応について」	札幌平岸高等学校
	2010年8月3日	平成22年度札幌市教育センター専門研修講師「子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるために「子どもの生活リズムと健康」」	札幌市教育委員会学校教育部
	2010年12月7日	実習指導の難しさを感じていませんか研修会講師「看護基礎教育の概要・看護教育における実習の意義」	社団法人北海道看護協会

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
松浦　和代	2011年1月30日	講話講師「客観的臨床能力評価（OSCE）の導入・展開の実際と課題」	モデルコアカリキュラム研究班
山本　勝則	2010年4月1日	平成22年度採用研修講師	株式会社えがお
	2010年7月8日、8月2日、10月21日 2011年2月10日	看護研究指導	心臓血管センター 北海道大野病院
大野　夏代	2010年5月～、2010年10月～	IMSグループ看護部職員新卒入職者対象　精神的サポート“ほっとライン”面談講師－新卒入職者10名程度の面談	IMSグループ
	2010年9月4日	国際看護研究会第13回学術集会ファシリテータ「国際看護の経験を活かして、世界で働く！」	国際看護研究会 第13回学術集会
	2010年12月～ 2011年8月	看護研究講師	医療法人社団明生会 琴似ロイヤル病院
清水　光子	2010年10月29日	新任保健師研修講師「地区活動でめざすもの」	札幌市保健所
守村　洋	2010年5月14日	福祉啓発研修「1日福祉セミナー」講師「メンタルヘルス（心の健康）のすすめ」	札幌市社会福祉協議会 ボランティア研修センター
	2010年6月 ～ 2010年11月	協力	社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会
	2010年8月23日 2011年2月	看護研究助言指導	札幌市病院局 市立札幌病院静療院
	2010年8月31日	講座講師	北海道社会福祉協議会
	2011年2月10日	講演会講師「救急看護師のための自殺未遂者ケア」	札幌市保健福祉局 精神医療担当部
	2011年2月19日	セミナー講師「高齢者精神看護の知識」	北斗人材教育プラン
	2011年3月10日	自殺予防講演会講師「自殺への周囲の気づきと対応」	札幌市西区保健福祉部
吉川　由希子	2011年2月21日 ～ 2011年3月25日	研究指導	社団法人北海道看護協会
菊地　ひろみ	2010年10月21日	平成22年度北海道総合在宅ケア事業団訪問看護部研修計画　管理者研修講師「根拠ある訪問看護実践に向けて「訪問看護と看護理論の活用」」	㈳北海道総合在宅ケア事業団
	2010年11月25日 2010年11月26日	訪問看護師養成講習会助言者「総合演習助言」	社団法人北海道看護協会
菅原　美樹	2010年9月	平成22年度保健師助産師看護師実習指導者講習会講師「看護過程」	北海道保健福祉部
	2010年11月21日	救急撮影講習会講師「急性期疾患患者のフィジカルアセスメント技術」	日本救急撮影技師認定機構
	2011年1月28日 2011年1月29日	命を救うフィジカルアセスメント研修会－第1回・第2回－講師「呼吸･循環のフィジカルアセスメント　呼吸･循環のシミュレーション演習」	社団法人北海道看護協会
	2011年3月5日	講座講師「救急看護を受ける患者の特徴と理解 救急看護を受ける患者への看護」	日本赤十字北海道看護大学

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
杉田　久子	2011年2月21日 ～3月25日	研究指導	社団法人北海道看護協会
田中　広美	2010年6月30日 ～8月13日	第2回日中韓看護学会一般演題抄録の査読	社団法人日本看護協会
新納　美美	2010年10月15日	自殺予防研修会講師「次世代へのバトンを持って走り続ける壮年期のメンタルヘルス」	初山別村
	2010年11月11日、 26日	院内講演会講師「人と組織のエンパワーメントを促すコミュニケーション　その原理と応用」	医療法人札幌第一病院
村松　真澄	2010年4月17日	院内研修講師「簡単で効果的な口腔ケア」	東京医科大学病院
	2010年4月18日	第1回ムトウ四国チーム医療支援セミナー講師「入院患者の口腔ケア」	株式会社ムトウ四国
	2010年4月24日	Clinic-ITL講師「口腔ケア」	医療系学生団体 North Powers
	2010年5月15日	石川がん化学療法看護懇話会口腔ケア研修会講師「がん患者の口腔ケアのポイント」	石川がん化学療法看護懇話会
	2010年5月16日	第4回金沢口腔フォーラム講師「病棟でできる口腔ケアの基礎知識と技術」	金沢口腔フォーラム
	2010年6月5日、 6月6日	口腔ケアと摂食･嚥下リハビリテーション研修会講師「口腔ケアの基礎知識とケアの実際・口腔ケアのアセスメント・嚥下機能評価とリハビリテーション演習アシスタント」	社団法人北海道看護協会
	2010年6月17日	研修会講師「口腔ケアと看護･口腔ケアの目的･食べる事の意義・口腔ケアの倫理的視点」	砂川市立病院
	2010年7月3日	宗谷地域リハビリテーション広域支援センター講演会講師「口腔ケアについて」	宗谷地域リハビリテーション推進会議
	2010年7月17日	意識障害のある患者の口腔ケア研修講師「含嗽、歯磨き、義歯の清掃　粘膜ケア　保湿ケア　挿管中患者の口腔ケア」	東京医科大学病院
	2010年8月1日	日本看護学教育学会第20回学術集会セミナー講師「看護教育のなかでの口腔ケア再考」	日本看護学教育学会 第20回学術集会
	2010年9月17日	専門領域会企画「口腔ケア研修会」講師	横浜市立大学附属病院
	2010年9月18日	研修会「意識障害のある患者の口腔ケア～実践編～」	東京医科大学病院
	2010年10月16日	これからの介護保険施設等における看護リーダー研修会講師「口腔ケア・嚥下リハビリ」	社団法人北海道看護協会
	2010年10月23日	簡単！口腔ケアをマスターしよう研修講師「気管挿管患者の口腔ケア／口腔ケアの評価」	東京医科大学病院
	2010年11月5日	口腔ケアに関する研修会講師「口腔ケアの基本と重要性を学び、実際に活かす」	群馬大学医学部附属病院
	2010年11月7日	日本老年看護学会第15回学術集会セミナー講師「他職種で協働できる口腔アセスメントと口腔ケアプロトコール－米国での口腔ケアを取材して－」	日本老年看護学会 第15回学術集会

教員名	開催日・期間	内容・タイトル	主催者
村松　真澄	2010年11月9日	講話講師「札幌で健康に暮らすための口腔保健」	札幌市清田老人福祉センター
	2010年11月30日	職員研修会講師「高齢者の口腔ケアー誤嚥性肺炎のリスクがある高齢者の口腔ケアの方法を学ぶ」	医療法人渓仁会 札幌西円山病院
保田　玲子	2011年3月23日	保健指導スタッフのスキルアップ研修講師「効果的な健康教育の基礎と企画･運営等について」	北海道農業団体健康保険組合
山内　まゆみ	2010年12月27日	母性に関する研修講師	札幌市保健所
山本　真由美	2010年8月2日	看護研究計画書の査読指導の研修会講師「看護研究計画書の査読指導」	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
	2011年3月2日	看護研究発表会講評	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター
	2011年3月7日	看護師研修「看護に必要な情報と記録　電子カルテ導入に向けて」	旭川医療センター
渡邉　由加利	2010年5月18日	実習指導者のための研修講師「臨床指導者に望むこと」	社団法人母恋天使病院
	2010年5月24日	平成22年度「模擬患者つつじの会」養成コース講習講師「平成22年度「模擬患者つつじの会」養成コース講習（Ⅶ）」	模擬患者つつじの会
	2010年11月19日	看護過程研修会講師「看護過程Ⅱ研修会」	心臓血管センター 北海道大野病院
太田　晴美	2010年10月19日 2010年11月30日	院内急変対応コースⅡ研修会講師「院内急変対応研修会講義」	心臓血管センター 北海道大野病院
	2011年1月13日	院内研修「看護倫理研修」助言者	ＪＡ北海道厚生連 札幌厚生病院
神島　滋子	2010年9月	平成22年度保健師助産師看護師実習指導者講習会講師「看護過程」	北海道保健福祉部
櫻井　繭子	2010年7月8日、 8月2日、10月21日、 2011年2月10日	看護研究指導	心臓血管センター 北海道大野病院
原井　美佳	2011年2月28日	職員研修講師「認知症について」	医療法人社団明生会 手稲ロイヤル病院
渕本　雅昭	2010年9月	平成22年度保健師助産師看護師実習指導者講習会講師「看護過程」	北海道保健福祉部
	2010年10月19日、 11月30日	院内急変対応コースⅡ研修会講師「院内急変対応研修会講義」	心臓血管センター 北海道大野病院
	2010年11月21日	救急撮影講習会講師「救急診療における各職種間連携のありかた」	日本救急撮影技師認定機構

5　国際交流実績

年月日	内容	
平成22年6月16日 ～18日	派遣	講演、シンポジウム及び交流に関する打合せのため、中国・承徳医学院訪問（教員3名）
平成22年7月4日 ～12日	派遣	ノボシビルスク国立建築芸術大学における学生交流ワークショップ派遣（学生5名･教員1名）
平成22年7月21日	受入	ノボシビルスク青年訪問団来学（5名）
平成22年8月8日 ～13日	派遣	華梵大学との学生交流ワークショップ派遣（学生11名・教員3名）
平成22年8月9日	受入	ノボシビルスク市民訪問団受入（3名）
平成22年9月17日 ～24日	派遣	マレーシアスタディツアー派遣（学生9名・教員2名）
平成22年12月2日	受入	承徳医学院関係者との情報交換会開催（1名）
平成22年12月4日	受入	又松大学関係者との情報交換会開催（1名）
平成22年12月7日	受入	JICAアフリカ系研修員受入事業協力として研修員受入（20名）

6　サテライトキャンパスの利用状況

利用目的	学内利用件数	学外貸出件数	計
セミナー	41	1	42
会　　議	276	3	279
学　　会	23	0	23
そ の 他	10	3	13
合計	350	7	357

Ⅴ　キャリア支援活動

1　デザイン学部

1）　概要

デザイン学部キャリア支援委員会は、デザイン学部の学生を対象としたキャリア支援の取り組みを図る目的として、平成20年4月に設立された。本委員会は、定例会議（毎月1回程度）において学生への支援方法及び企業へのPR・求人開拓活動などを協議し、コース毎の独自企画と連携しながら運営を行った。

平成20年4月には、キャリア支援室を開設し、教職員による就職相談体制を開始した。また、キャリア支援室は、後援会からの支援により、就職関連図書や什器などの備品・設備を整備した。平成21年5月には就職相談員1名を配置し、きめ細かく個別指導できる体制を整備した。活動実績については、下記のとおりである。

学部4年生（2期生）への支援	・個別指導（就職相談、面接対策、履歴書対策など）（平成22年4月～） ・学内企業説明会（平成22年12月） ・求人情報の提供（掲示、メール）
学部3年生（3期生）への支援 大学院1年生（1期生）への支援	・キャリアガイダンス（平成22年4月～平成23年1月） ・就職応援ハンドブックの作成・配布（平成22年4月） ・進路希望調査（平成22年10月） ・学内企業説明会（平成22年12月） ・求人情報の提供（掲示、メール）
就職先の開拓	・企業訪問（PR活動、求人開拓）（平成22年8月～平成23年3月） ・企業向けパンフレット作成・発送（平成22年9月）
後援会からの支援	・デザイン系就職講話（平成22年12月） ・履歴書用証明写真撮影補助（平成22年12月） ・就職先開拓支援（平成22年8月～）

2）　支援体制

デザイン学部のキャリア支援は、本委員会の委員、4コースのゼミ担当教員及び事務局（学生課学生支援係、就職相談員）によって行われている。主な役割分担として、事業の企画・運営は本委員会の委員が、就職先の開拓は全教員及び学生支援係が、学生相談のうち専門分野に関わることキャリア支援室の就職相談員及び学生支援係がそれぞれ行っている。

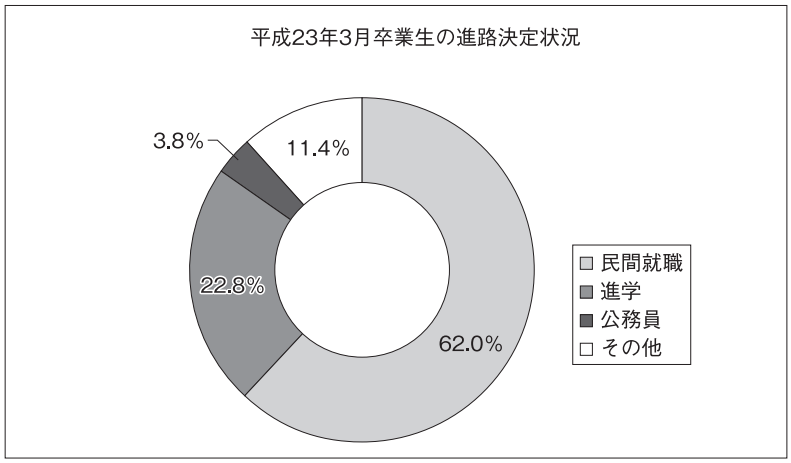
3） 就職・進学結果

平成23年3月卒業生（2期生）

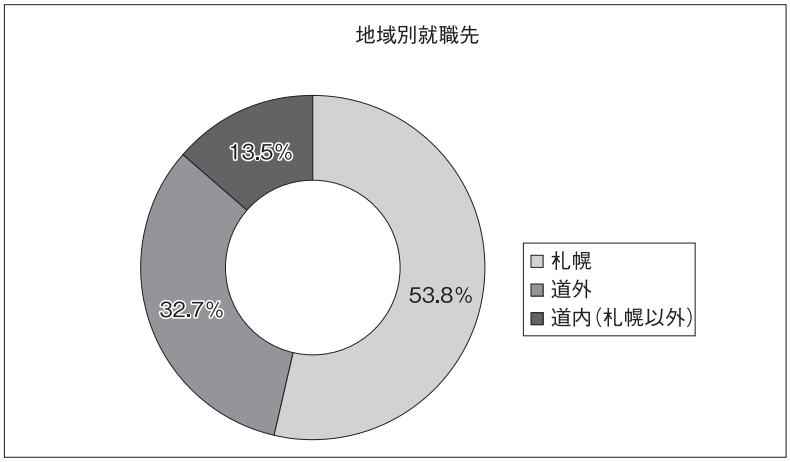
就職（52人）	■情報通信業（放送・ゲームソフト・インターネット関連・映像制作等） ㈱アジェンダ、WEBOSS㈱、㈱エフエム北海道（2）、ダットジャパン㈱（2）、テレビ東京ブロードバンド㈱、日販コンピュータテクノロジイ㈱、日本トラスティ情報システム㈱、㈱プレミアムエージェンシー、㈱北海道総合技術研究所、㈱ゆめみ ■卸売業・小売業 アップルジャパン㈱Appleストア札幌、㈱クロスカンパニー、㈱新宮商行、㈱セイコーマート、日本トイザラス㈱、㈱バーンデストジャパンリミテッド、ハウジング山地㈱、北海道マツダ販売㈱、㈱ロボット ■製造業（印刷・食品等） 石屋製菓㈱、ザ・パック㈱、サンスター文具㈱、㈱サンパックス、㈱プリプレスセンター、古林紙工㈱、㈱丸岡岡本商事、㈱ロイズコンフェクト ■建設業 ㈱アクアラボ、飯田ウッドワークシステム㈱、キーホーム㈱、㈱熊谷組、㈱ジョンソンホームズ、㈱ソフトスケープ ■専門・技術サービス業（デザイン業・広告業等） ㈲エコシステム、㈱KOUBOU、㈲HELYCO、㈲前田建築事務所、㈱ランドマック、自営（設計業） ■公務、芸術文化団体 札幌市役所（事務職/消防吏員）、自衛隊 ■サービス業（文化団体等） ㈶札幌市芸術文化財団、㈶札幌市公園緑化協会、リサイクルファクトリー㈱ ■複合サービス 道東あさひ農業共同組合、ようてい農業共同組合 ■宿泊業・飲食サービス業 ㈱グランビスタホテル＆リゾート ■不動産業 札幌駅総合開発㈱ ■その他 札幌中央図書館
進学	札幌市立大学大学院（10）、札幌市立大学研究生（2）、白組ヒューマンスタジオ研究生、東京大学研究生、名古屋工業大学大学院、兵庫県立大学大学院、北海道大学大学院（2）

（2期生）
札幌市立大学デザイン学部　平成23年3月卒業者　就職状況

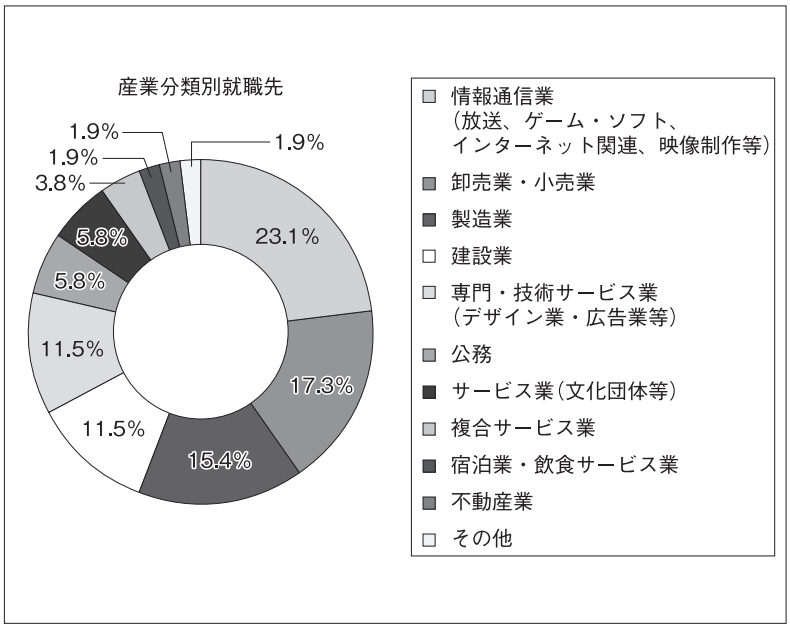
進路状況	人
民間就職	49
進学	18
公務員	3
その他	9
合　　計	79



地域別就職先	人
札幌	28
道外	17
道内（札幌以外）	7
合　　計	52



産業分類別就職先	人
情報通信業 （放送、ゲーム・ソフト、インターネット関連、映像制作等）	12
卸売業・小売業	9
製造業	8
建設業	6
専門・技術サービス業 （デザイン業・広告業等）	6
公務	3
サービス業（文化団体等）	3
複合サービス業	2
宿泊業・飲食サービス業	1
不動産業	1
その他	1
合　　計	52



（2期生）

札幌市立大学デザイン学部　平成23年3月卒業生　進路決定状況（概要）

1．コース別進路状況

コース	卒業生数①	1．就職希望		就職者（起業含）※1		2．進学希望		3．その他
		②	内公務員志望	③	内公務員	④	進学先決定者⑤※3	⑥※2
空　間	29	19	0	19	0	7	7	3
製　品	15	11	1	10	1	4	4	0
コンテンツ	20	15	1	11	1	3	3	2
メディア	24	16	1	12	1	4	4	4
合　計	88	61	3	52	3	18	18	9
割　合	100.0%	69.3%	4.9%	85.2%	100.0%	20.5%	100.0%	10.2%
	①÷①	②÷①		③÷②		④÷①	⑤÷④	⑥÷①

（備考）
※１：就職希望者に対する就職者の割合
※２：就職希望・進学希望以外の者（アーティスト志望や公務員浪人等、将来的な就職（フリーランス、起業含む）に関する進路選択をした者）
※３：進学希望者に対する進学先決定者の割合
○参考
平成22年度大学等卒業者の就職状況調査（平成23年4月1日現在）〔文部科学省〕
・大学の就職率〔全国〕 91.1%（昨年同期比　0.7ポイント減）

2．内定先の内訳（市内26社28人、道内7社7人、道外17社17人）

コース		道内企業（札幌市内含む）	道外企業
空間	市内	飯田ウッドワークシステム㈱［建設業：サッシ設計施工］ WEBOSS㈱［情報通信業/ウェブサイト製作・開発］ ㈱グランビスタ・ホテル＆リゾート［宿泊業］ ㈶札幌市公園緑化協会［公務･臨時職員］ 札幌駅総合開発㈱［不動産業］ ㈱ソフトスケープ［建設業：建設コンサルタント］ ハウジング山地〔卸売業/住宅用建設資材販売等〕 北海道マツダ販売㈱［小売業：自動車販売］ ㈲前田建築事務所［その他のサービス/構造設計］ 自営［個人で設計業］	㈱アクアラボ［神奈川県/建設業：住宅メーカー］ キーホーム㈱［東京都/建設業：住宅メーカー］ ㈱熊谷組［東京都/建設業：ゼネコン］ ㈱クロスカンパニー［東京都/小売業：アパレル］ ㈲HELYCO［東京都/その他のサービス/写真スタジオ］ ㈱ロボット［群馬県/小売業：アパレル］
	道内	㈲エコシステム［更別村/その他の専門・技術サービス］ ようてい農業協同組合［複合サービス事業：農協］ リサイクルファクトリー㈱［千歳市/サービス業］	
製品	市内	アップルジャパン㈱Appleストア札幌［小売業］ 札幌市職員（消防吏員）［公務］ 札幌市中央図書館公務：臨時職員］ ㈱セイコーマート［卸売･小売業:コンビニエンスストア事業］ ㈱丸岡　岡本商事［製造業/その他の製造業］	サンスター文具㈱［東京都/製造業：文具］ 古林紙工㈱［東京都/製造業:印刷･パッケージ製造］ ㈱ゆめみ［東京都/情報通信業：携帯コンテンツ・ソフトウェア開発］ ㈱ランドマック［東京都/学術研究、専門技術サービス業：工業デザイン］
	道内	㈱新宮商行［小樽市/卸売業］	
コンテンツ	市内	㈱アジェンダ［情報通信業：ゲーム・ソフトウエア開発］ ㈶札幌市芸術文化財団（札幌コンサートホールkitara）［サービス業：学術・文化団体］ ザ・パック㈱〔製造業/パッケージデザイン〕 ダットジャパン㈱［情報通信業:ゲーム・ソフトウエア開発］（2） ㈱北海道総合技術研究所［情報通信業］ ㈱ロイズコンフェクト［製造業：食品］	日販コンピュータテクノロジイ㈱［東京都/情報通信業］ 日本トラスティ情報システム㈱［東京都/情報通信業：システム開発］ ㈱プレミアムエージェンシー［東京都/情報通信業:コンテンツ企画・製作・開発］
	道内	防衛省　自衛隊・一般曹候補生［公務］	
メディア	市内	石屋製菓㈱［製造業：食料品］ ㈱エフエム北海道（AIR-G）〔放送業/FMラジオ局〕（2） 札幌市役所（一般事務）［公務］ ㈱ジョンソンホームズ［建設業：住宅建築］ ㈱プリプレスセンター［製造業：印刷］	㈱KOUBOU〔東京都/専門･技術サービス/デザイン事務所〕 テレビ東京ブロードバンド㈱［東京都/情報通信業:放送・アニメ等コンテンツ開発・著作権管理］ 日本トイザらス㈱［神奈川県/小売業：玩具］ ㈱バーンデストジャパンリミテッド（サマンサタバサ）［東京都/小売業：鞄・装飾品］
	道内	道東あさひ農業協同組合［別海町/複合サービス：農協］ ㈱サンパックス［帯広市：印刷］	
小計		33社　35人	17社　17人
合計		50社　52人	

3．進学状況（大学院14人／研究生4人）

空　間	大学院	名古屋工業大学大学院（1）、札幌市立大学大学院（4）、兵庫県立大学大学院（1）	6
	研究生	東京大学研究生	1
製　品	大学院	札幌市立大学大学院（4）	4
	研究生		
コンテンツ	大学院	札幌市立大学大学院（2）	2
	研究生	白組ヒューマンスタジオ（1）	1
メディア	大学院	北海道大学大学院（2）	2
	研究生	札幌市立大学研究生（2）	2
合計		大学院　14人　　研究生　4人	18

2　看護学部

1）　概要

看護学部キャリア支援委員会は、学生の進路相談や就職活動、国家試験への支援だけでなく、就職後の支援も視野に入れ、学生を支援する体制を整えている。

看護学部における支援体制には、①進路相談、②就職活動支援、③国家資格試験対策、④卒業後のキャリア支援の4つの取組を軸に、次のような活動計画を定めた。①看護学部キャリア支援室の管理・運営、②進路希望調査の実施、③看護学部キャリア支援ガイダンスの実施、④進路相談日の定期化、⑤各種就職説明会の開催、⑥国家試験自主ゼミの組織化。

また、上記に加え平成22年度から文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」の支援を受けてキャリア支援室を「キャリア支援相談室」と「キャリア支援情報収集室」へと改修ならびに拡充をはかった。

これらの活動が学生のニーズに適う内容であること及び学生の将来に有用な指針を示すものであることを念頭におき、進路希望調査の結果や進路相談などにおける学生の声を重視するとともに、これらを計画立案に反映させながら支援することに努めている。

2）　支援体制

看護学部キャリア支援委員7名により、次の表のとおり年間活動計画及び進路相談などを行った。また、学生による国家試験対策自主ゼミグループを組織し、自主ゼミリーダー会議を定期的に開催した。

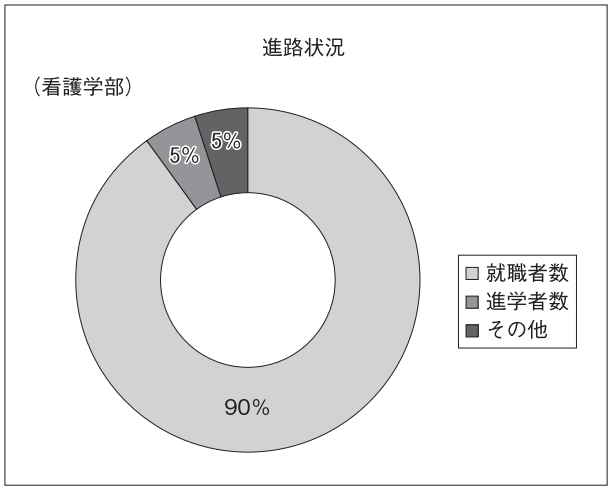
月	4年次生・助産学専攻科	3年次生
4月	・前期ガイダンス	・前期ガイダンス
	・国家試験受験ガイダンス	・キャリアハンドブック配布
	・第1回進路希望調査	
5月		
6月	・進路活動ガイダンス	
	・看護師模擬試験	
7月	・再学習セミナー（8週間）	
8月		
9月	・後期ガイダンス	・後期ガイダンス
	・看護師模擬試験	・第1回進路希望調査
10月	・看護師模擬試験	・国家試験対策自主ゼミ結成
	・助産師模擬試験（2回）	・公務員受験希望者ガイダンス
11月	・看護師模擬試験	・保健師就職説明会
	・保健師模擬試験	・助産師課程進路説明会
	・国家試験受験願書説明会	
12月	・再学習セミナー（3回）	
1月	・再学習セミナー（2回）	
	・看護師模擬試験	
	・保健師模擬試験	
2月	・助産師模擬試験（2回）	・学内就職説明会
3月	・国家試験激励会	・低学年用国家試験模擬試験

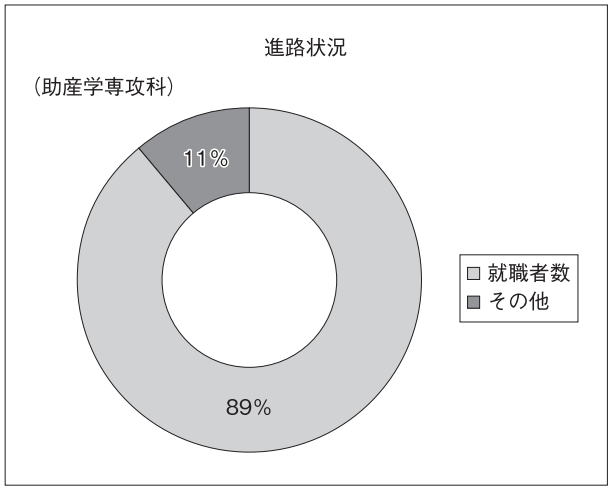
3） 就職・進学の結果

① 進路状況

（単位：人）

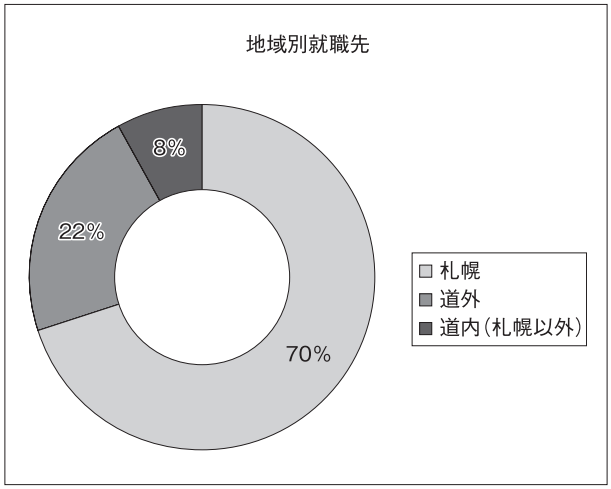
	在籍数	就職希望者数	進学者数	就職者数	内定率
学　生　数	86	77	5	77	100.0%
（うち編入学）	7	7	0	7	100.0%
助産学専攻科	9	8	0	8	100.0%





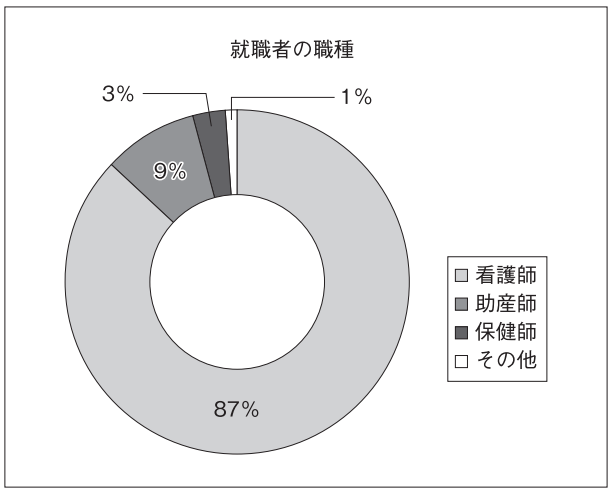
② 地域別就職先 （単位：人）

札　　幌	60
道　　外	19
道内（札幌以外）	6
合　　計	85



③ 就職者の職種 （単位：人）

看　護　師	74
保　健　師	2
助　産　師	8
そ　の　他	1
合　　計	85



4） 国家試験の結果 （単位：人）

	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
看　護　師	77	77	76	98.7%
保　健　師	84	84	83	98.8%
助　産　師	9	9	9	100.0%

Ⅵ 平成２３年度入学者選抜結果

1 デザイン学部・看護学部

1) 入学者選抜要項

① アドミッションポリシー

＜教育研究の理念＞

本学は、デザイン学と看護学を教育研究の対象とする。デザイン学と看護学は、いずれも人間を対象とした学問領域であることから、両者に共通する「人間重視」の考え方を常に基本とし、一人の人間から社会全体までを対象に、安全で快適な暮らしを創造できる幅広い教養と豊かな人間性を有する職業人を育成する。市民の負託にこたえ、「市民に開かれた大学」「市民の力になる大学」「市民が誇れる大学」という三つの視点を掲げて、地域貢献という使命を果していくため、時代の要請に柔軟に対応しながら質の高い教育研究を追求する。

＜教育研究の特長＞

デザイン学と看護学それぞれの専門性を極める教育を行うとともに、幅広くデザインと看護の連携を目指す。また、市民、産業界、公的機関などと連携することにより、幅広いネットワークを持った大学とし、地域課題等に対応した教育研究を積極的に展開する。

＜デザイン学部の求める学生像＞

1 人間尊重・人間重視の姿勢を持ち、デザインを通して社会に貢献しようとする姿勢を持った人
2 豊かな感性と見識を持って、主体的かつ協同して未来のデザインを創造することに意欲のある人
3 デザインを通じ、地域活性化のリーダーとして文化・産業の発展に寄与する意志を持った人

このため、入学者には、日ごろから、人間及びその生活を豊かにするデザインに興味・関心を持ち、地域社会が抱える課題の発見や解決に向けて、日々の学習の中で幅広い基礎学力・思考力・発想力を身に付けるとともに、多くの人々と協働するためのコミュニケーション能力を備えていることが求められます。

＜看護学部の求める学生像＞

1 人々の健康、心、暮らしに関心を持ち、生命の尊厳を理解しようとする姿勢を持った人
2 豊かな感性と探究心を持って、柔軟に物事を考え、自主的に学修できる人
3 他者と協調し、信頼関係を築くことができ、積極的に地域に貢献する意志を備えた人

そのためには、高等学校における国語、英語、数学、理科などの基礎的な学力、及び課外活動等によって培われた協調性や責任感のある人を求めています。

② 平成２３年度入学者選抜概要

入学定員・募集人員

学部・学科名	入学定員	募集人員				
		一般選抜		特別選抜		
		前期日程	後期日程	推薦入学	社会人	私費外国人留学生
デザイン学部 デザイン学科	80人	54人	14人	12人	若干名	若干名
看護学部 看護学科	80人	48人	－	32人	若干名	－

選抜日程

選抜区分		出願期間	試験日	合格発表等
特別選抜	推薦入学 社会人	平成22年11月1日 ～5日	平成22年11月20日	平成22年12月7日 【入学手続期間】 平成22年12月7日 ～13日
	私費外国人留学生（※）	平成23年1月24日 ～2月2日	平成23年2月25日	平成23年3月8日 【入学手続期間】 平成23年3月8日 ～15日
一般選抜	前期日程	平成23年1月24日 ～2月2日	平成23年2月25日	平成23年3月8日 【入学手続期間】 平成23年3月8日 ～15日
	後期日程（※）	平成23年1月24日 ～2月2日	平成23年3月12日	平成23年3月22日 【入学手続期間】 平成23年3月22日 ～26日

（※）は、デザイン学部のみ実施

試験会場

学部・学科名	試験会場
デザイン学部デザイン学科	芸術の森キャンパス
看護学部看護学科	桑園キャンパス

選抜方法

選抜区分		学部・学科名	選抜方法
特別選抜	推薦入学	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	小論文（看護を学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力を見る。）、面接及び調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	社会人	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	総合問題（国語、英語、自然科学、論述）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	私費外国人留学生	デザイン学部 デザイン学科	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」（いずれかを選択）、面接、日本留学試験及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
一般選抜	一般選抜	デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、大学入試センター試験及び本学が実施する個別学力検査等の成績並びに調査書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
		看護学部 看護学科	

一般選抜試験の大学入試センター試験及び個別学力検査等の教科・科目

学部・学科名	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等
		教科	科目名等	科目名等
デザイン学部 デザイン学科	前期日程	国　語	「国」（古文・漢文を含む。）	「小論文（課題解決型の論述問題）」又は「実技（鉛筆デッサン）」のいずれかを選択
		地　歴 公　民	「世A」「世B」「日A」「日B」「地理A」「地理B」「現社」「倫理」「政経」から1科目	
		数　学	「数Ⅰ・数A」と「数Ⅱ・数B」の2科目	
		理　科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から1科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	
	後期日程	国　語	「国」（古文・漢文を含む。）	
		数　学	「数Ⅰ・数A」	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	
看護学部 看護学科	前期日程	国　語	「国」（古文・漢文を含む。）	面　接
		数　学	「数Ⅰ・数A」	
		理　科	「物Ⅰ」「化Ⅰ」「生Ⅰ」「地学Ⅰ」から2科目	
		外国語	「英」（筆記及びリスニング）	

注）【デザイン学部（前期日程）】
・地歴・公民について、2科目受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用します。
・理科について、2科目以上受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用します。
【看護学部（前期日程）】
・理科について、3科目受験した場合は、高得点の2科目を合否判定に使用します。

③　平成２３年度３年次編入学者選抜概要

募集人員

学部・学科名等	募集人員
デザイン学部デザイン学科	20人
看護学部看護学科	10人

選抜日程・試験会場

学部・学科名	出願期間	試験日	試験会場	合格発表
デザイン学部 デザイン学科	平成22年6月23日 ～30日	平成22年7月24日	芸術の森キャンパス	平成22年8月4日
看護学部 看護学科	平成22年8月12日 ～18日	平成22年9月11日	桑園キャンパス	平成22年9月28日

選抜方法

学部・学科名	選抜方法
デザイン学部 デザイン学科	入学者の選抜は、本学が実施する小論文（課題解決型の論述問題）、英語、面接・試問及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学部 看護学科	入学者の選抜は、本学が実施する論述試験、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2）　選抜状況

①　入学者選抜状況

a．選抜・入学状況

デザイン学部　（単位：人）

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	54	136	136	59	57
	後期日程	14	163	98	17	17
特別選抜	推薦入学	12	40	40	12	12
	社会人	若干名	1	1	1	0
	私費外国人留学生	若干名	1	1	1	1

看護学部

（単位：人）

選抜区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	前期日程	48	153	148	48	47
特別選抜	推薦入学	32	89	89	32	32
	社会人	若干名	31	30	3	3

b．入学者の内訳

（単位：人）

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	87	55	23	9	23	64
看護学部	82	36	41	5	5	77
合計	169	91	64	14	28	141

② 編入学者選抜状況

a．選抜・入学状況

（単位：人）

学部		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
デザイン学部	空間	20	4	4	4	3
	製品		3	3	2	2
	コンテンツ		3	2	2	2
	メディア		7	6	6	6
	計	20	17	15	14	13
看護学部		10	31	30	10	10

b．入学者の内訳

（単位：人）

学部	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン学部	13	5	2	6	5	8
看護学部	10	7	3	0	3	7
合計	23	12	5	6	8	15

2　大学院デザイン研究科・大学院看護学研究科　修士課程

1)　入学者選抜要項

①　アドミッションポリシー

【デザイン研究科】

本研究科は、地域社会全体に内在する様々な課題に対してデザインによる解決策を教育・研究することにより、高度で専門的なデザイン能力を持った職業人の育成を目指し、産業・芸術・文化等の振興、地域再生・活性化などの貢献を果たすことを目的としています。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりとします。

＜デザイン研究科の求める学生像＞

1　デザインに関する基礎的知識を備え、豊かな感性と深い見識を持ち、人間重視の視点からデザインの発展に寄与できる人
2　各種のデザインを統合し、先導的なプロジェクトを主体的・戦略的に展開することに意欲のある人
3　デザインを通じ、地域を創成していくリーダーとして文化・産業の発展に貢献する意思を持った人

【看護学研究科】

本研究科では､広い視野に立って看護学の基盤を学修した個々人の専門性及び学識を深めつつ、看護学の発展、様々な形態での看護の実践及び幅広く地域社会に貢献できる高度で専門的な人材を育成することを目的としている。この目的を達成するために、本研究科が求める学生像は次のとおりである。

＜看護学研究科が求める学生像＞

1　看護学の基礎知識と総合的な学力を有し、豊かな人間性と高い探究心を持って、自主的･意欲的に看護実践の向上に寄与できる人
2　柔軟で論理的な思考を持って保健・医療・福祉の諸問題に積極的に取り組み、問題解決に向けた研究を遂行できる人
3　高い倫理観を有し、地域社会や国際社会に貢献する意志と責任感を持った人

②　平成２３年度入学者選抜概要

募集人員

研究科・専攻名	一般選抜	特別選抜（社会人）	特別選抜 （私費外国人留学生）
デザイン研究科 デザイン専攻	18人	若干名	若干名
看護学研究科 看護学専攻	18人（一般選抜、特別選抜を含む）		

※デザイン研究科の特別選抜（社会人・私費外国人留学生）の若干名は一般選抜の募集人員18人に含む。

選抜日程

【第1次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成22年8月27日 ～9月3日	平成22年10月2日、 3日	平成22年10月15日 【入学手続期間】 平成22年10月15日 ～22日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成22年8月27日 ～9月3日	平成22年10月2日	平成22年10月19日 【入学手続期間】 平成22年10月19日 ～26日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			

【第2次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成23年1月7日 ～14日	平成23年2月11日	平成23年3月1日 【入学手続期間】 平成23年3月1日 ～7日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	平成23年1月7日 ～2月14日	平成23年3月6日	平成23年3月17日 【入学手続期間】 平成23年3月17日 ～24日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			

【第3次募集】

研究科・専攻名	選抜区分	出願期間	試験日	合格発表等
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	平成23年2月28日 ～3月4日	平成23年3月15日	平成23年3月22日 【入学手続期間】 平成23年3月22日 ～26日
	特別選抜（社会人・私費外国人留学生）			

試験会場

研究科名	試験会場
デザイン研究科	芸術の森キャンパス
看護学研究科	桑園キャンパス

選抜方法

研究科・専攻名	選抜区分	選抜方法
デザイン研究科 デザイン専攻	一般選抜	入学者の選抜は、本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験、英語）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 （社会人・私費外国人留学生）	入学者の選抜は、本学大学院が実施する学力検査（専門科目の筆記試験）、面接・試問の評価及び研究計画書等の提出書類の内容を総合的に判定して行う。
看護学研究科 看護学専攻	一般選抜	入学者の選抜は、本学大学院が実施する筆記試験（英語、専門科目）、面接（口頭試問含む）及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。
	特別選抜 （社会人・私費外国人留学生）	

2） 選抜状況

① 入学者選抜状況

a．選抜・入学状況

デザイン研究科【第1次・第2次・第3次募集合計】 （単位：人）

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	18	17	15	14
特別選抜（社会人）	若干名	3	3	1	1
特別選抜（私費外国人留学生）	若干名	2	2	2	2

看護学研究科【第1次・第2次募集合計】 （単位：人）

選抜区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般選抜	18	21	21	17	17
特別選抜（社会人）					
特別選抜（私費外国人留学生）		0	0	0	0

b．入学者の内訳

（単位：人）

研究科	入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
		道内		道外	男	女
		札幌市内	札幌市外			
デザイン研究科	17	14	2	1	7	10
看護学研究科	17	7	8	2	2	15
合計	34	21	10	3	9	25

３　助産学専攻科

1)　入学者選抜要項

①　アドミッションポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的とする。
これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりとする。

＜助産学専攻科が求める学生像＞
1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追究できる人

②　平成２３年度入学者選抜概要

募集人員

専攻科名	募集人員
助産学専攻科	10人

選抜日程

出願期間	試験日	合格発表等
平成22年8月12日～18日	平成22年9月11日	平成22年9月28日 【入学手続期間】 平成22年9月28日 ～10月6日

試験会場

専攻科名	試験会場
助産学専攻科	桑園キャンパス

選抜方法

専攻科名	選抜方法
助産学専攻科	入学者の選抜は、本学専攻科が実施する筆記試験（専門科目（看護学一般）、小論文）、面接及び提出書類の内容を総合的に判定して行う。

2） 選抜状況

① 入学者選抜状況

a. 選抜・入学状況

（単位：人）

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
10	28	28	10	10

b. 入学者の内訳

（単位：人）

入学者数	道内外の内訳			男女の内訳	
	道内		道外	男	女
	札幌市内	札幌市外			
10	5	3	2	−	10

Ⅶ 附属図書館

1 概要

1） 施設規模
芸術の森キャンパス図書館……延べ床面積／1,500㎡
桑園キャンパス図書館……延べ床面積／ 500㎡

2） 図書・雑誌・視聴覚資料・電子ジャーナル所蔵数 （平成23年3月31日現在）

図書館の名称	図書の冊数				雑誌の種数		
	和書	洋書	うち視聴覚資料	計	和雑誌	洋雑誌	電子ジャーナル
芸術の森キャンパス図書館	60,789	8,553	3,016	69,342	303	436	383
桑園キャンパス図書館	29,591	1,443	976	31,034	296	7	1,481
合計	90,380	9,996	3,992	100,376	599	443	1,864

3） 年間受入状況

区分			和	洋	計
芸術の森キャンパス図書館	図書（冊）	購入	1,685	165	1,850
		寄贈	184	10	194
		計	1,869	175	2,044
	雑誌（種）	購入	28	8	36
		寄贈	43	0	43
		計	71	8	79
桑園キャンパス図書館	図書（冊）	購入	1,798	153	1,951
		寄贈	185	5	190
		計	1,983	158	2,141
	雑誌（種）	購入	75	5	80
		寄贈	1	0	1
		計	76	5	81

2　利用状況

1）　開館時間・休館日

開館時間	平　日：午前9時～午後10時 土曜日：午前10時～午後4時 大学の長期休業期間中：午前9時～午後5時（平日）
休 館 日	日曜・祝日・年末年始

2）　利用資格

①　本学学部学生・大学院生及び教職員
②　札幌市に在住・在勤する18歳以上の方
③　北海道地区大学図書館相互利用サービス加盟館所属の方（2010年7月15日～）

3）　貸出冊数・期間

利用者	貸出冊数	貸出期間
学部生・院生 （科目等履修生を含む）	10冊	図書：2週間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可）
教職員	無制限	図書：2ヶ月間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可）
市民等学外者	3冊	図書：2週間 雑誌：2週間（芸森館の一部のみ貸出可）

4）　年間利用者数・貸出冊数等

図書館の名称	利用者	開館日数	入館者数	貸出人数	貸出冊数	ILL件数	
						受付	依頼
芸術の森キャンパス図書館	学生・教職員	277	18,522	4,151	9,218	19	44
	市民等学外者	277	204	463	1,000	0	0
桑園キャンパス図書館	学生・教職員	274	50,761	5,169	11,211	93	560
	市民等学外者	274	984	325	719	0	0
合計		－	70,471	10,108	22,148	112	604

ILL：Inter-Library Loan

Ⅷ 役員会、経営審議会及び教育研究審議会

1 役員会及び審議会の審議状況

1） 役員会

回数	開催日	議題
第1回	平成22年6月29日	・平成21事業年度業務の実績に関する報告について ・平成21年度決算について
第2回	平成22年8月27日	・平成21事業年度の業務実績に関する評価結果について
第3回	平成22年10月25日	・公立大学法人札幌市立大学中間評価業務実績報告書案について ・札幌市立大学大学院〔博士後期課程〕基本計画案について ・平成23年度予算編成方針案について
第4回	平成22年11月30日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について ・公立大学法人札幌市立大学教職員就業規則の一部を改正する規則案について
第5回	平成23年2月24日	・中期目標期間に係る業務の実績に関する中間評価案について
第6回	平成23年3月29日	・平成23年度年度計画及び予算について ・自己点検・評価報告書（平成22年度）について ・編入学定員の変更及び学則の改正について

2） 経営審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成22年6月29日	・平成21事業年度業務の実績に関する報告について ・平成21年度決算について ・公立大学法人札幌市立大学教職員の育児休業及び介護休業等に関する規程等の改正について ・理事長選考会議委員の選出について
第2回	平成22年8月27日	・平成21事業年度の業務実績に関する評価結果について
第3回	平成22年10月25日	・公立大学法人札幌市立大学中間評価業務実績報告書案について ・札幌市立大学大学院〔博士後期課程〕基本計画案について ・平成23年度予算編成方針案について ・理事長選考会議委員の選出について
第4回	平成22年11月30日	・公立大学法人札幌市立大学教職員の給与に関する規程等の一部を改正する規程案について ・公立大学法人札幌市立大学教職員就業規則の一部を改正する規則案について
第5回	平成23年2月24日	・中期目標期間に係る業務の実績に関する中間評価案について
第6回	平成23年3月29日	・平成23年度年度計画及び予算について ・自己点検・評価報告書（平成22年度）について ・編入学定員の変更及び学則の改正について ・規則等の制定、改正等について ・平成23年東北地方太平洋沖地震の被災に伴う学納金の取扱いについて

3） 教育研究審議会

回数	開催日	議題
第1回	平成22年4月1日	・教育研究審議会委員任命にあたっての審議会委員からの意見聴取について
第2回	平成22年6月29日	・平成24年度以降のデザイン学部入学者選抜試験（一般選抜）の改正について ・公立大学法人札幌市立大学教員の再任に関する細則の制定ついて ・理事長選考会議委員の選出について ・平成21事業年度業務の実績に関する報告について ・平成21年度決算について
第3回	平成22年8月27日	・平成21事業年度の業務実績に関する評価結果について ・研究科学生の他の研究科又は学部の授業科目の履修に関する規則の制定について
第4回	平成22年9月21日	・教員評価制度について
第5回	平成22年10月25日	・札幌市立大学教員の再任について ・公立大学法人札幌市立大学中間評価業務実績報告書案について ・札幌市立大学大学院〔博士後期課程〕基本計画案について
第6回	平成23年2月24日	・札幌市立大学教員の再任について ・公立大学法人札幌市立大学教員の再任審査における教員業績評価取扱基準案について ・中期目標期間に係る業務の実績に関する中間評価案について
第7回	平成23年3月29日	・教員の人事について ・平成23年度年度計画及び予算について ・自己点検・評価報告書（平成22年度）について ・編入学定員の変更及び学則の改正について ・規則等の制定、改正等について ・平成23年東北地方太平洋沖地震の被災に伴う学納金の取扱いについて

2　役員及び審議会委員名簿　（平成23年3月31日現在）

1）　役員

役職	氏名	現職
理事長	原 田　　昭	札幌市立大学　理事長・学長
理　事	中 村　惠 子	札幌市立大学　副学長・看護学部長・看護学研究科長
理　事	松 平　英 明	㈶札幌市芸術文化財団　副理事長
理　事	山 岸　正 美	㈱マーケティング・コミュニケーション・エルグ　代表取締役
理　事	横 内　龍 三	㈱北洋銀行　取締役頭取
監　事	藤田　美津夫	弁護士
監　事	高 松　謹 也	公認会計士

2）　経営審議会委員

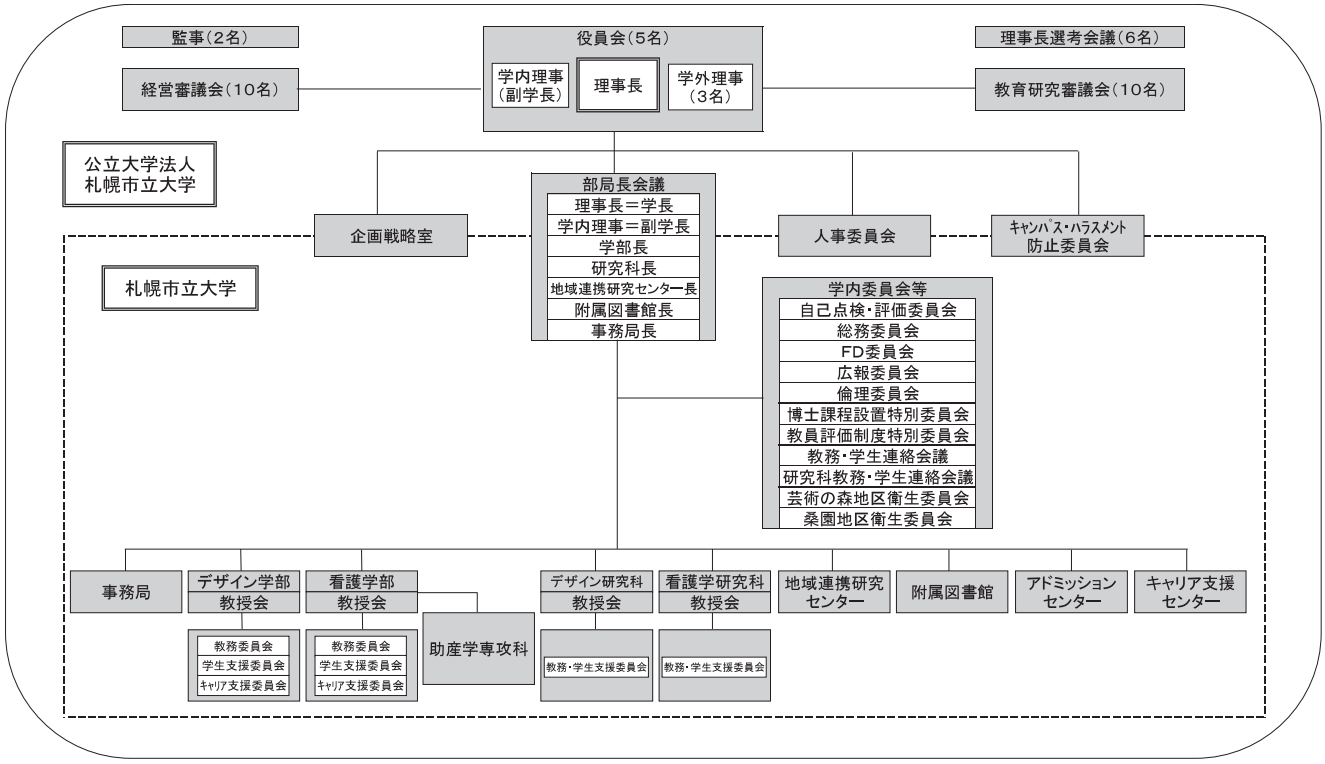
氏名	現職
原 田　　昭	札幌市立大学　理事長・学長
中 村　惠 子	札幌市立大学　副学長・看護学部長・看護学研究科長
松 平　英 明	㈶札幌市芸術文化財団　副理事長
横 内　龍 三	㈱北洋銀行　取締役頭取
菊 嶋　明 廣	札幌商工会議所　常務理事
高 橋　昭 憲	㈱データクラフト　代表取締役
平 本　健 太	北海道大学大学院経済学研究科　教授
平 山　妙 子	㈳北海道看護協会　会長
福 井　知 克	㈶さっぽろ産業振興財団　専務理事
塩 澤　正 樹	札幌市立大学　事務局長

3）　教育研究審議会委員

氏名	現職
原 田　　昭	札幌市立大学　理事長・学長
中 村　惠 子	札幌市立大学　副学長・看護学部長・看護学研究科長
山 岸　正 美	㈱マーケティング・コミュニケーション・エルグ　代表取締役
大田　すみ子	北海道医療大学　客員教授
山 中　善 夫	札幌市教育委員会　委員長
酒 井　正 幸	札幌市立大学　デザイン学部長
城 間　祥 之	札幌市立大学　デザイン研究科長
スーディ神崎　和代	札幌市立大学　地域連携研究センター長
中 原　　宏	札幌市立大学　附属図書館長
塩 澤　正 樹	札幌市立大学　事務局長

Ⅸ　学内運営の概要

1　2010年度（平成22年度）公立大学法人札幌市立大学　組織図



2　部局長会議

部局長会議は、法人の経営及び大学の教育研究に係るさまざまな事項について協議及び連絡調整を行うため、原則として毎月1回（第1水曜日）に開催しており、平成22年度は19回開催した。

回数	開催日	議題
第1回	平成22年4月2日	・大学院開設に伴う施設等利用時間延長について
第2回	平成22年4月7日	・なし（報告事項のみ）
第3回	平成22年5月13日	・授業料減額免除に関する選考基準を定める細則の改正について
第4回	平成22年6月2日	・平成24年度以降のデザイン学部入学者選抜試験（一般選抜）の変更について ・平成21年度決算について
第5回	平成22年6月9日	・教員の再任に関する手続きについて
第6回	平成22年7月7日	・なし（報告事項のみ）
第7回	平成22年8月4日	・研究科学生の他の研究科又は学部の授業科目の履修に関する規則の制定について ・海外提携大学との教員交流に係る受入れ基準について
第8回	平成22年9月1日	・なし（報告事項のみ）
第9回	平成22年10月6日	・デザイン研究科入学者選抜試験（第2次募集）について ・看護学研究科入学者選抜試験（第2次募集）について ・札幌市立大学大学院(博士後期課程)基本計画案について
第10回	平成22年10月8日	・平成23年度予算編成方針案について

回数	開催日	議題
第11回	平成22年11月4日	・市立札幌病院の増築について
第12回	平成22年12月1日	・保護者への成績通知の送付について ・財団法人大学基準協会の正会員加盟について ・華梵大学との国際交流協定について ・丘珠空港賑わい創出事業（札幌魅力発見ギャラリー）について
第13回	平成22年12月15日	・丘珠空港賑わい創出事業（札幌魅力発見ギャラリー）について
第14回	平成23年1月5日	・平成22年度卒業式について ・平成23年度入学式及び卒業式の日程について ・平成24年度入学者選抜試験実施日程について ・基幹ネットワーク機器更新について
第15回	平成23年2月2日	・平成23年度卒業式の日程について ・図書管理細則案について ・市立札幌病院との覚書について ・芸術の森キャンパスのゾーニング案について ・学生食堂業務に係る運営内容変更及び一部経費負担について
第16回	平成23年2月14日	・教員の再任（任期更新）と教員評価について
第17回	平成23年2月17日	・デザイン研究科入学者選抜試験（第3次募集）の実施について
第18回	平成23年3月2日	・平成23年度予算について ・デザイン学部入学定員変更に伴う学則改正について ・利益相反に係る指針及び利益相反管理規程の制定について ・学校教育法施行規則の改正に伴う本学の教育情報の公表について ・広域大学知的財産アドバイザー派遣事業への応募について ・研究費にて購入する電子書籍の取扱いについて ・新規に導入する図書館業務システムの概要について ・教員の研究活動の検証体制の整備について ・教員用貸与パソコンの今後の取扱いについて
第19回	平成23年3月19日	・次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画（案）について ・キャンパス・ハラスメントの防止等に関するガイドライン（案）について ・人事委員会規程（案）について ・公立大学法人札幌市立大学における札幌市高等専門学校専攻科の学生の科目等履修生による受入れに関する規則の廃止について ・シールドルームの温湿度管理の改善方法について ・東北地方太平洋沖地震への支援について

3　企画戦略会議

企画戦略会議は、計20回開催した。5月から6月にかけては、平成21事業年度業務実績報告書について審議を行った。7月から8月にかけては、実績報告書に対する札幌市地方独立行政法人評価委員会によるヒアリング及び評価案に対する対応について審議を行った。

その後、10月には、本法人の中期目標期間が4年を経過したことから行われた中期計画の中間評価報告書について審議をするとともに、年末には評価委員会によるヒアリングへの対応について協議した。

また、2月からは、第二期中期目標及び中期計画の策定に向けた意見交換を行った。

これらの審議と並行して、11月には平成22年度の年度計画の進捗状況の確認、2月から3月にかけて平成23年度の年度計画策定について審議した。

4　教授会

1)　デザイン学部教授会

デザイン学部教授会は、平成22年度に14回開催し、教育課程の編成、学生の入学･在籍、学生支援、施設整備及びその他学部の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

また、教授会終了後には、毎回、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

2)　看護学部教授会

看護学部教授会は、平成22年度に臨時教授会2回を含む14回開催し、教育課程の編成、学生の入学･在籍、学生支援、第2期生の卒業判定、施設整備及びその他学部の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、平成22年度開設の助産学専攻科における教育研究に関する事項などについても本教授会において、幅広く審議を行った。教授会終了後には、各学内委員会及び学部委員会からの報告を行う教員会議を開催した。

3)　デザイン研究科教授会

デザイン研究科教授会は、平成22年度に12回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、施設整備及びその他研究科の教育等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。

4)　看護学研究科教授会

看護学研究科教授会は、開設初年度となる平成22年度に臨時教授会2回を含む14回開催し、教育課程の編成、学生の入学・在籍、学生支援、施設整備及びその他研究科の教育研究等に関する事項などについて、幅広く審議を行った。また、各学内委員会等からの報告も行い、必要に応じて看護学研究科教授のほか看護学研究科科目担当専任教員を構成員とする拡大会議として開催した。

5　附属図書館

平成22年度は11回運営会議を開催し、附属図書館の運営に係る事項について協議を行った。

主な協議内容は、次期図書館システムの検討、北海道地区大学図書館相互利用サービスへの加入についての可否、図書管理細則の制定（図書の除籍に関する規程）、札幌市立大学後援会からの寄贈図書受入について、北海道新聞データベースの購入、図書購入選定方針、桑園キャンパス図書館資料保管庫増設の検討、電子ジャーナル購入についての見直し、電子書籍の扱いについて、附属図書館ニュースレター「のほほん」4号の発刊、図書館のあり方についての整理、等であった。

この他、「さっぽろアートステージ」による企画「アートブックフェア」への協力、学生のコンペ形式により選定された図書館ノベルティの「しおり」の作成等の各種事業を行った。

6　地域連携研究センター

研究活動、地域貢献および国内外ネットワーク形成の推進を担うため、運営会議（平成23年度は計13回開催）で課題や情報を集約し、地域・産学連携部門、人材育成・継続教育部門、国際交流部門、紀要編集委員会の4セクションに構成員を配置して体系的・機能的に活動を行った。また、運営会議において研究を推進した他、知的財産委員会の機能を担い、学内の知的財産に係わる管理・運営を行った。

主な活動内容は以下のとおりである。

＜研究推進＞

地域や産業界から依頼された受託研究15件、共同研究2件、また寄附金6件の受入れを行い、次年度

の学内競争的研究費（学術奨励研究費･共同研究費）の公募と審査に係わる制度設計を行った。また、毎年1回の研究交流会の企画において、積極的な参加を促し学部間や分野を超えて教員間の交流が図られるよう、会場作りや進行方法等に工夫を凝らした。

知的財産管理体制の強化を図るため、工業所有権情報・研修館から派遣される大学知的財産アドバイザーを講師として「知的財産セミナー」を全学FDとして開催した。また､平成23年度から始まる「広域大学知的財産アドバイザー派遣事業」に応募し、知的財産管理運営体制構築等を推進するための準備を行った。

＜地域・産学連携＞

地域からの協力要請に対して、本学教員・学生が本来の活動の延長上で地域に還元できるよう受託の条件等を整え、地域連携活動の支援を行った。また、教員の研究成果を積極的に学外に周知し産学連携のきっかけを探るために､「ビジネスEXPO」への出展や産業界へのアンケートを通じて学外のニーズを収集し、外部との研究推進のためのネットワークづくりに着手した。

＜人材育成・継続教育＞

大学が持つ知的資源をデザイン・看護の視点に基づき地域に還元することにより、地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献を果たすことを目的として、平成22年度中に、専門職業人や市民を対称に10コース・24コマの講座を開催した結果、延べ833名が受講した。

＜国際交流＞

マレーシアへの短期スタディツアーを企画し学生と教員を派遣した他、ノボシビルスク国立建築芸術大学への短期の学生と引率教員の派遣、華梵大学との製品デザインワークショップへの学生と引率教員の派遣等、学内で提案のあった国際交流活動を支援した。

また、学外からの要請を受け、ノボシビルスク青年団・市民交流団との交流や、JICAアフリカ系研修員の受入れ協力を行った。この他、海外提携大学との教員交流に係わる受入れ基準を策定した。

＜紀要編集＞

「SCU Journal of Design & Nursing」の研究論文集としての質向上を図るため、従来の「査読なし論文等」を掲載していた第二部を廃止し､全ての投稿論文について査読を経て掲載の可否を決定した。また、新たに作品系論文の区分を設けた他、査読要領と基準を策定した。

従来の第二部に掲載していた地域貢献活動の報告等を公開するために、本学ホームページ上にPDFデータ版の「研究・活動報告集」を準備する仕組みづくりを行った。

7　アドミッションセンター

入学者選抜試験及びそれに伴う試験区分ごとの従事者説明会の実施、入試広報、入学者選抜方法の調査研究及び統計等に関する事業の計画的な推進を行った。

平成22年度は計10回の会議を開催し、前年度の結果の分析、入学者選抜方法の検討、高校訪問・進学相談会の実施計画の策定、入試区分ごとの学生募集要項・選抜試験実施要領の策定、入学者選抜試験に係る現状分析、特別選抜試験（推薦入学）の入学手続者に対する入学前教育の実施及びデザイン学部の平成25年度入学生からの編入学定員及び一般選抜前期日程の定員変更の決定等を行った。

学生募集に係る具体的な取組として、オープンキャンパス、高校訪問及び進学相談会等についての企画・運営を行った。

8　キャリア支援センター

キャリア支援センター会議は、両学部に関係するキャリア支援に係る改善･充実を目的として、平成20年4月に設置された。平成22年度は、学生指導及び学生相談に関するガイドライン等について検討を重ね整備された。

9　学内委員会

1)　自己点検・評価委員会

平成22年度の自己点検・評価委員会では、前年度の本委員会での検討を基に、開学年度である平成18年度から学部完成年度である平成21年度までの4年間の自己点検・評価を実施し、報告書を取りまとめるとともに、認証評価機関（財団法人大学基準協会）による評価を受けるための関係書類を作成し、同協会へ提出した。開催回数は計16回であった。

上記報告書の原案作成に際しては、各委員会・部局が執筆を分担し、自己点検・評価活動に全教職員が携わる体制をとった。また、点検・評価報告書の作成方法に関しては、大学基準協会に適宜問い合わせをし、適切な自己点検・評価活動となるよう努めた。

平成22年4月に、同協会主催の「大学評価実務説明会」に参加するとともに、前年度から作成を継続していた自己点検・評価報告書作成マニュアルを確定した。

同年6月には、執筆担当者を対象として報告書作成のための説明会を開催すると同時に、執筆にかかる負担軽減を図るため、スタッフブログを活用して基礎的情報となる根拠資料や記入様式などの情報提供を行った。

同年8月以降は、各委員会・部局において執筆された報告書の原案について本委員会が全体の整合性や分量などをチェックし、必要に応じて各委員会・部局へ修正依頼をする、というサイクルを繰り返し行い、同年9月には1次修正を終え、引き続き同年12月まで2次修正作業を継続した。

同年11月に、大学基準協会の正会員申請を行うことを決定した。

平成23年1月には、大学基準協会へ「自己点検・評価報告書（案）」の仮提出と併せて、「大学評価申請書」「正会員加盟申請書」を提出し、いずれも正式に受理された。

同年2月から3月にかけて、本提出に向けた最終チェックとして3次修正作業を実施し、同年3月に教授会、部局長会議、役員会にて報告、承認を得、「自己点検・評価報告書」を同協会へ本提出した。

また、上記の認証評価受審に向けた活動のほか、平成22年度年度計画進捗状況報告、実績報告に関わる取りまとめ及び、平成23年度年度計画の本委員会に関わる部分の原案作成等を行った。

2)　総務委員会

平成22年度は11回の委員会を開催するとともに、各ワーキンググループの検討を並行して行い、施設の整備及び情報ネットワークに関する事項などを審議した。

芸術の森キャンパス施設整備ワーキンググループにおいては、今後の教育・研究上必要な諸室等について芸術の森キャンパス全体の施設配置・整備を検討した。

施設保全ワーキンググループにおいては、長期保全計画（平成20年度策定）を緊急性・優先度及び経費縮減を考慮した計画に見直す検討を行った。

学内情報基盤整備ワーキンググループにおいては､平成23年3月末でリース契約が満了する情報ネットワーク機器の更新内容及び更新方法を検討した。

このほか、大学施設の学外者への利用について検討を行い、平成22年10月から運用を開始したことや、エコ対策として節電をテーマとした啓発ポスターを学生から募集し、優秀作品2点を学内に掲示を実施した。

3） FD委員会

平成22年度は、FD委員会として、教員の資質向上、情報の共有化、情報収集のため、学内研修会の開催及び学外研修会への教員派遣等を積極的に行った。10回開催したFD委員会では、FD活動の方針について論議するとともに、ひとつひとつのFD活動について、実施前後にその内容の確認・検証を行っている。

平成22年度の具体的な活動は、全学FD研修会（5回）、各学部・研究科のFD研修会（9回）、学外研修会への教職員派遣（6回延べ12名）、授業評価アンケートの効果的な活用、本学学生及び教職員への授業評価アンケートの集計結果に関する所見の公開、教員相互の授業参観等である。

また、「北海道地区FD・SD推進協議会」に幹事校として参加し、大学間のFD活動交流にも関っている。

4） 広報委員会

「年報チーム」「ホームページチーム」「その他に関するチーム」の3つのチーム編成により機能的に活動した。

平成22年度に計10回の委員会を開催し、主に下記の活動を行ったほか、両学部のイメージDVD制作、大学歌「みらいの手」の入学式版歌詞制作、広告協賛3件、看護学部用のバス車内放送及びデジタル表示広告などを行った。

＜年報関係＞

教員の負荷を軽減するため「教員活動実績報告書」のフォームを活用して年報用のフォームづくりを行い、平成21年度年報を700部制作し、268部を札幌市の部局、支援団体、公立大学、道内大学等へ発送したほか、全教職員に配布した。また、次年度のため、教員評価制度特別委員会に「教員活動実績報告書」の書式制作への協力を申し入れた。

＜ホームページ関係＞

日本語サイト：学校教育法施行規則の改正に伴い、公立大学協会のガイドラインを参考に情報の収集及び整理を行い、「教育情報の公表」として公表したほか、デザイン学部教員の協力のもと、パノラマVRを制作して掲載した。また、すでに閉校した札幌高等看護学院分と併せて、2010年度閉校した札幌市立高等専門学校の両校卒業生のためのバナーを大学のトップページに配置した。

英語サイト：トップページを改修するとともに、デザイン学部各コースと看護学部各領域、アクセスマップ、教員プロフィール、地域連携研究センターのページを新設した。

その他、学外団体からの各種リンク設置依頼について検討を行い、5件の掲載許可を行った。

＜パンフレット関係＞

2011年度用：大学案内を23,000部印刷、学生募集用ポスターを2,500枚印刷、大学院案内について検討の上4,000部制作し、それぞれ公立大学、道内大学、札幌市各区役所広聴係など148ヶ所に発送した。

2012年度用：大学案内について検討し、学内からのアンケート結果を踏まえて就職実績及び卒業生のコメントを掲載したほか、「キャンパスライフ」として学生目線のページ編集を加えたデザインを制作した。また大学院案内について検討し、時間割と研究スケジュールを掲載したほか、指導教員全員の顔写真を掲載し、4,000部制作した。

5） 倫理委員会

倫理委員会は研究を遂行する際に、被験者（研究協力者）等の人権擁護の観点から、研究倫理に則った充分な配慮をした研究計画になっているかを審査している。

平成22年度は原則、毎月末日を研究倫理審査申請の締切りとし、毎月第2水曜日に委員会を開催した（計12回開催）。年間の審査申請総数は57件であり、1回当たり平均4.8件の審査を実施した（最大

審査件数7件)。審査結果は「承認」、「条件付承認」、「変更の勧告」、「非該当」のいずれかとし、「条件付承認」となった申請については、修正箇所を確認し承認する「迅速審査」を行った。

また、倫理審査の社会的透明性及び客観性を担保し、同時に申請者や委員に係るリスク管理の保全のために、平成21年度に引き続き、法律家を外部委員として委嘱することとし、中村隆弁護士が委員として審査に加わった。

このほか、審査申請様式･手順等について、ワーキンググループを組織して見直しを図るとともに、基本資料の改訂版を作成した。

6) 博士課程設置特別委員会

平成22年度の本委員会においては、平成24年度に大学院博士後期課程を設置するべく、教育課程、教員組織、施設・設備等に関する検討を行い、計11回に亘り委員会を開催した。

具体的な構想を練るため、各研究科にそれぞれワーキンググループ（WG）を設置し、デザイン研究科WGは計17回、看護学研究科は計16回開催し、主に教学面に関して、研究科の特色に応じた協議･検討を行った。各WGでの検討結果は本委員会への報告事項として、具体的計画の検討の基礎となった。

必要に応じて設立団体である札幌市との調整やアンケート調査を適切に行いつつ、設置形態、設置の趣旨・必要性、育成する人材像、教育課程、社会人学生への配慮、教員組織など広範囲に亘る検討を重ね、平成22年10月に「札幌市立大学大学院〔博士後期課程〕基本計画（案)」を策定し、役員会･審議会の承認を得た。

その後、当該基本計画を基に、入学者選抜の概要、授業の方法、教育課程、教員組織等についてより具体的な検討を重ねた。

平成23年5月末の認可申請に向け、平成22年12月からは文部科学省との事務相談を開始し、また同省主催の説明会に出席するなど、大学等設置状況の最新の動向をつかみ、確実に設置認可を得られるよう努めた。

7) 教員評価制度特別委員会

平成22年度は10回の委員会を開催し、これまで試行的に実施してきた教員評価制度について検証するとともに、申告書様式、記載内容、記入要領等の見直しのほか、評価書様式、評価記載方法についても見直しを行った。これにより教員評価実施要領を確定させ、平成21年度業績に基づく教員評価を本格実施した。

また、評価結果については、平成22年度末に任期満了を迎える教員の再任へ活用を行った。

8) 教務・学生連絡会議

教務・学生連絡会議は、平成22年度に10回の委員会を開催し、共通教育、デザイン・看護両学部の連携に関する事項及び学生生活、課外活動支援に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、学事暦、時間割、シラバス、定期試験及び授業評価アンケートに関すること、また、奨学金、大学祭に関すること等について議論を重ねたほか、毎回、両学部の教務委員会及び学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

9) 研究科教務・学生連絡会議

研究科教務・学生連絡会議は、平成22年度に5回の委員会を開催し、デザイン・看護学両研究科の連携に関する事項、研究科連携科目に関する事項及び学生生活に関する事項等について、年度計画を見据え、かつ実際の授業運営等に即して、必要となる協議を行った。

具体的には、研究科連携科目である連携プロジェクト演習に関すること、授業評価アンケートに関すること、また、奨学金に関すること等について議論を重ねたほか、毎回、両研究科の教務・学生支援委員会から教務及び学生支援に関する課題を提案し、協議を行った。

学内委員会等名簿

区分	委員会等	委員・構成員	
		教職員名	所属・職位等
	部局長会議	◎原田　昭	理事長・学長
		中村　惠子	副学長・看護学部長・看護学研究科長
		酒井　正幸	デザイン学部長
		城間　祥之	デザイン研究科長
		スーディ神崎　和代	地域連携研究センター長・看護学部教授
		中原　宏	附属図書館長・デザイン学部教授
		塩澤　正樹	事務局長
	企画戦略会議	◎原田　昭	理事長・学長
		中村　惠子	副学長・看護学部長・看護学研究科長
		酒井　正幸	デザイン学部長
		城間　祥之	デザイン研究科長
		スーディ神崎　和代	地域連携研究センター長・看護学部教授
		中原　宏	附属図書館長・デザイン学部教授
		塩澤　正樹	事務局長
	地域連携研究センター	◎スーディ神崎　和代	地域連携研究センター長・看護学部教授
		羽深　久夫	デザイン学部教授
		原　俊彦	デザイン学部教授
		矢部　和夫	デザイン学部教授
		武田　亘明	デザイン学部准教授
		張　浦華	デザイン学部准教授
		細谷　多聞	デザイン学部准教授
		小宮　加容子	デザイン学部講師
		上田　裕文	デザイン学部助教
		坂倉　恵美子	看護学部教授
		大野　夏代	看護学部准教授
		星　美和子	看護学部講師
		保田　玲子	看護学部講師
		神島　滋子	看護学部助教
		櫻井　繭子	看護学部助教
		三上　智子	看護学部助教
		常野　正浩	事務局調整担当部長
		上田　理子	事務局地域連携課長
	図書館	◎中原　宏	附属図書館長・デザイン学部教授
		宮崎　みち子	助産学専攻科長・看護学部教授
		上遠野　敏	デザイン学部教授
		三谷　篤史	デザイン学部講師
		山田　良	デザイン学部講師
		片山　めぐみ	デザイン学部助教
		吉川　由希子	看護学部准教授
		新納　美美	看護学部講師
		進藤　ゆかり	看護学部助教
		上田　理子	事務局地域連携課長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
		アドミッションセンター	◎城間　祥之	デザイン研究科長
			山本　勝則	看護学科長
			酒井　正幸	デザイン学部長
			杉　哲夫	デザイン学部教授
			武邑　光裕	デザイン学部教授
			細谷　多聞	デザイン学部准教授
			内田　雅子	看護学部教授
			星　美和子	看護学部講師
			渡邉　由加利	看護学部講師
			安立　卓也	事務局学生課長
			徳永　信之助	事務局桑園担当課長
		キャリア支援センター	◎酒井　正幸	デザイン学部長
			中村　惠子	副学長・看護学部長・看護学研究科長
			杉　哲夫	デザイン学部教授
			樋之津　淳子	看護学部教授
			常野　正浩	事務局調整担当部長
学内委員会	常置委員会	自己点検・評価委員会	◎中村　惠子	副学長・看護学部長・看護学研究科長
			酒井　正幸	デザイン学部長
			城間　祥之	デザイン研究科長
			スーディ神崎　和代	地域連携研究センター長・看護学部教授
			中原　宏	附属図書館長・デザイン学部教授
			山本　勝則	看護学科長
			吉田　和夫	デザイン学部教授
			阿部　大	事務局経営企画課長事務取扱
		総務委員会	◎塩澤　正樹	事務局長
			齋藤　利明	デザイン学部教授
			羽深　久夫	デザイン学部教授
			望月　澄人	デザイン学部教授
			山田　良	デザイン学部講師
			河野　總子	看護学部教授
			大野　夏代	看護学部准教授
			保田　玲子	看護学部講師
			河村　奈美子	看護学部助教
		FD委員会	◎武邑　光裕	デザイン学部教授
			大渕　一博	デザイン学部講師
			那須　聖	デザイン学部講師
			片山　めぐみ	デザイン学部助教
			坂倉　恵美子	看護学部教授
			守村　洋	看護学部准教授
			菅原　美樹	看護学部講師
			照井　レナ	看護学部助教
			安立　卓也	事務局学生課長
			徳永　信之助	事務局桑園担当課長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
学内委員会	常置委員会	広報委員会	◎羽深　久夫	デザイン学部教授
			吉田　和夫	デザイン学部教授
			ライト・デーヴィッド	デザイン学部准教授
			福田　大年	デザイン学部講師
			須之内　元洋	デザイン学部助教
			松浦　和代	看護学部教授
			清水　光子	看護学部准教授
			村松　真澄	看護学部講師
			渕本　雅昭	看護学部助教
			上田　理子	事務局地域連携課長
		倫理委員会	◎樋之津　淳子	看護学部教授
			宮﨑　みち子	助産学専攻科長・看護学部教授
			齋藤　利明	デザイン学部教授
			矢部　和夫	デザイン学部教授
			張　浦華	デザイン学部准教授
			松井　美穂	デザイン学部講師
			藤井　瑞恵	看護学部講師
			太田　晴美	看護学部助教
			上田　理子	事務局地域連携課長
	特別委員会	博士課程設置特別委員会	◎中村　惠子	副学長・看護学部長・看護学研究科長
			原田　昭	理事長・学長
			城間　祥之	デザイン研究科長
			塩澤　正樹	事務局長
		教員評価制度特別委員会	◎原田　昭	理事長・学長
			中村　惠子	副学長・看護学部長・看護学研究科長
			酒井　正幸	デザイン学部長
			城間　祥之	デザイン研究科長
			スーディ神崎　和代	地域連携研究センター長・看護学部教授
			原　俊彦	デザイン学部教授
			松浦　和代	看護学部教授
			塩澤　正樹	事務局長
連絡調整会議	学部間	教務・学生連絡会議	◎酒井　正幸	デザイン学部長
			中原　宏	附属図書館長・デザイン学部教授
			山本　勝則	看護学科長
			原　俊彦	デザイン学部教授
			吉田　恵介	デザイン学部教授
			定廣　和香子	看護学部教授
			安立　卓也	事務局学生課長
			徳永　信之助	事務局桑園担当課長
	研究科間	研究科教務・学生連絡会議	◎城間　祥之	デザイン研究科長
			中村　惠子	副学長・看護学部長・看護学研究科長
			羽深　久夫	デザイン学部教授
			望月　澄人	デザイン学部教授
			町田　佳世子	デザイン学部准教授
			松浦　和代	看護学部教授
			安立　卓也	事務局学生課長
			徳永　信之助	事務局桑園担当課長

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
衛生委員会		芸術の森地区衛生委員会	◎阿部　大	事務局次長
			石崎　友紀	デザイン学部教授
			小宮　加容子	デザイン学部講師
			松井　美穂	デザイン学部講師
		桑園地区衛生委員会	◎常野　正浩	事務局桑園事務室長
			清水　光子	看護学部准教授
			菊地　ひろみ	看護学部講師
			原井　美佳	看護学部助教
学部委員会	デザイン学部	教務委員会	◎中原　宏	附属図書館長・デザイン学部教授
			町田　佳世子	デザイン学部准教授
			大渕　一博	デザイン学部講師
			柿山　浩一郎	デザイン学部講師
			斎藤　雅也	デザイン学部講師
			須之内　元洋	デザイン学部助教
		学生支援委員会	◎吉田　恵介	デザイン学部教授
			上遠野　敏	デザイン学部教授
			原　俊彦	デザイン学部教授
			細谷　多聞	デザイン学部准教授
			小宮　加容子	デザイン学部講師
			上田　裕文	デザイン学部助教
		キャリア支援委員会	◎杉　哲夫	デザイン学部教授
			武田　亘明	デザイン学部准教授
			石田　勝也	デザイン学部講師
			小宮　加容子	デザイン学部講師
			斎藤　雅也	デザイン学部講師
			福田　大年	デザイン学部講師
			長谷川　聡	デザイン学部助教
	看護学部	教務委員会	◎山本　勝則	看護学科長
			内田　雅子	看護学部教授
			吉川　由希子	看護学部准教授
			菊地　ひろみ	看護学部講師
			杉田　久子	看護学部講師
			村松　真澄	看護学部講師
			山内　まゆみ	看護学部講師
			進藤　ゆかり	看護学部助教
			渕本　雅昭	看護学部助教
			松村　寛子	看護学部助教
		学生支援委員会	◎定廣　和香子	看護学部教授
			守村　洋	看護学部准教授
			田中　広美	看護学部講師
			藤井　瑞恵	看護学部講師
			渡邉　由加利	看護学部講師
			神島　滋子	看護学部助教
			櫻井　繭子	看護学部助教
			多賀　昌江	看護学部助教
			照井　レナ	看護学部助教
			原井　美佳	看護学部助教
			三上　智子	看護学部助教
			檜山　明子	看護学部助手

区分		委員会等	委員・構成員	
			教職員名	所属・職位等
学部委員会	看護学部	キャリア支援委員会	◎樋之津　淳子 清水　光子 山本　真由美 太田　晴美 河村　奈美子 工藤　京子 鶴木　恭子	看護学部教授 看護学部准教授 看護学部講師 看護学部助教 看護学部助教 看護学部助手 看護学部助手
研究科委員会	デザイン研究科	教務・学生支援委員会	◎望月　澄人 羽深　久夫 町田　佳世子 那須　聖 三谷　篤史	デザイン学部教授 デザイン学部教授 デザイン学部准教授 デザイン学部講師 デザイン学部講師
	看護学研究科	教務・学生支援委員会	◎松浦　和代 定廣　和香子 菅原　美樹 新納　美美	看護学部教授 看護学部教授 看護学部講師 看護学部講師

◎印：所管部局長

10　FD・SD活動

FD・SD研修会の実施

全学FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成22年 4月9日	SD	新規採用職員研修	理事会室	事務職員5名
平成22年 10月25日	FD・SD	発達障害の疑いのある学生を支援するために	桑園：講義室3	教職員30名
平成22年 11月17日	FD・SD	大学生の就業力育成事業の概要と今後の取り組み	桑園：大会議室 芸森：大会議室（遠隔）	教職員82名
平成22年 11月30日	FD・SD	大学における知的財産の活用	桑園：大会議室 芸森：大会議室（遠隔）	教職員32名
平成22年 12月7日	FD・SD	札幌市立大学海外研修旅行（スタディツアー・マレーシア）報告	桑園：大会議室 芸森：大会議室（遠隔）	教職員39名
平成22年 12月27日	FD	シラバスの記載項目、記載方法等について	桑園：講義室1 芸森：大会議室（遠隔）	教員7名
平成23年 1月13日	SD	各課の業務と決算業務との関係	大会議室	事務職員28名
平成23年 1月18日	SD	公立大学法人会計の理解（基礎）	大会議室	事務職員11名

デザイン学部 FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成22年 4月1日	FD	デザイン学部教員としての心構え	学部長室	教員2名
平成23年 2月24日	FD・ SD	卒業研究事例に基づくコース専門教育に係る意見交換（コースごとのプレゼンテーション）	階段教室	教職員28名

デザイン研究科 FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成22年 10月7日	FD	TAの心構えについて	レクチャールーム	教員6名、院生5名

看護学部 FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成22年 6月16日	FD	教育GP各実施部門の平成21年度実施・評価報告および平成22年度の実施計画	講義室4	教員33名
平成22年 9月13・14日	FD	らくらく動作介助の教授法	4階実習室	教員36名
平成22年 12月20日	FD・ SD	平成22年度新任教員および大学院生を対象とした教育GPにおける看護CSCEの概要と教育における成果	講義室4	教職員27名
平成23年 2月2日	FD	OSCE実施時における評価スキルアップのために	講義室1	教員36名
平成23年 3月8日	FD・ SD	ポートフォリオとはなにか～その本質と効果	講義室4	教職員36名

看護学研究科 FD・SD研修会		研修会名（講師）	場所	参加者（数）
平成22年 12月20日	FD	看護学研究科　看護研究法特論の概要	講義室4	教員18名

X 資　料

1　平成２２年度年度計画

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置（住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置）

1　教育に関する目標を達成するための措置

⑴　教育成果に関する目標を達成するための措置

（学部教育）

・　共通教育科目は、大学教育を受けるための心構えや履修方法、主体的な問題解決能力を養う「導入科目」、文化や人間、社会に対する理解を目的とする「教養科目」、語学などのコミュニケーションツールの習得を目的とする「コミュニケーション科目」に区分し、体系的な教育を行う。

・　専門教育科目は、専門科目を学ぶ前提や基礎となる科目群、専門的知識や技術を学ぶ科目群に区分し、専門知識や高度な技術について体系的な教育を行う。

・　デザイン学部の教員は、空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースの特色と他コースとの関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、コースごとにプレゼンテーションを行い、情報を共有することにより、体系的に教育を行う。

・　看護学部の教員は、領域ごとの特色と他領域との関係性、さらには専門分野全体の関係性を理解し、それを教育に反映させるため、領域ごとにプレゼンテーションを行い、各領域が情報を共有することにより、体系的に教育を行う。

・　デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や起業家等の活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、インターンシップを通じた就業体験の場を提供する。また、企業等に対しては、デザイン学部の教育内容について周知を図る。

・　看護学部においては、保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職としての動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために臨地実習指導者会議を開催する。

・　多様な講師の活用や関連施設を活用した実習など産業界、保健・医療・福祉機関、高等教育機関、行政等と連携した教育を行い、地域に貢献できる人材の育成に努める。また、教育成果や研究成果等の知的資源を情報公開、公開講座を活用して地域に還元するとともに、地域を対象としたプロジェクトに取り組む。

・　教務・学生委員会は、教育の成果・効果を客観的に幅広く検証するため、学生による授業評価アンケートを実施する。また、卒業生に対する追跡調査について、具体的な調査方法をさらに検討を進め、調査実施を目指す。

（大学院教育）

・　デザイン研究科では、課題解決能力をはじめ、創造力、企画調整能力、実践能力等の高度なデザイン能力と、地域貢献に資する高度専門職業人としての資質の涵養に向け、授業科目及び研究指導を体系的・組織的に展開する教育課程を編成し、教育を実践していく。

・　看護学研究科では、高度な臨床看護実践能力や、分析・判断・行動・評価能力、統合・調整能力、健康づくり支援能力と、地域貢献に資する高度専門職業人としての資質の涵養に向け、授業科目及び研究指導を体系的・組織的に展開する教育課程を編成し、教育を実践していく。

⑵　教育内容に関する目標を達成するための措置

ア　入学者選抜

・　アドミッション・ポリシーに基づき、使命感及び勉学意欲を持った学生を確保する。

・　アドミッション・ポリシーは、ホームページで公開するほか、オープンキャンパスや高校訪問、進学相談会等でも説明を加え、広く周知する。

・　アドミッション・ポリシーに基づき、一般選抜（前期・後期）、特別選抜（推薦入学・社会人・私費外国人留学生）を実施するほか、入学者選抜の内容や制度について継続して検討する。

・　3年次編入学生を受け入れるため、編入学試験を実施する。また、社会人等の学習ニーズに対応するため、科目等履修生、聴講生及び研究生の募集を行う。また、専攻科及び大学院研究科の学生募集を積極的に行う。

・　入学者を対象としたアンケート調査等を実施するなど、入学者選抜方法の事後評価を行い、入学者選抜方法の改善・充実を図る。

イ　教育課程

（学部教育）

・「日本語表現法」「プレゼンテーション」「情報リテラシー」等専門分野の枠を超えて共通に求められる知識、思考法等の知的な技法などが身に付くよう教育課程を編成する。

・「スタートアップ演習」では、両学部の学生が専門分野を学ぶ上での問題点の発見や課題解決手法等を習得させる。さらに、その成果の発表などを通じ、異なる分野を志す学生が互いの発想に触れ、広い視野を持つことができるよう教育を行う。

・　デザイン学部においては、1年次から共通教育とともに、体系的にデザインの基礎となる専門教育科目を実施し、2年後期から始まるコース別専門教育に円滑に移行できるよう配慮する。

・　看護学部においては、1年次から専門知識・技術を習得するためにくさび型カリキュラムを導入し、専門教育科目を実施する。

・　1年次の「スタートアップ演習」、3年次の「学部連携演習」で、学部間の有機的な連携による授業を展開する。

・　学生の入学前の取得単位認定を実施するほか、TOEIC・情報等の資格取得による単位認定を検討する。また、他大学との単位互換制度の導入について、単位互換の意義、整備条件（開講科目や遠隔授業等）を検討するとともに、実現可能な大学との具体的な交渉を始める。

・「スタートアップ演習」や「学部連携演習」において、地域の様々な課題を取り上げた実践的な授業を実施するとともに、「寒冷地デザイン」「寒冷地医療」など、地域の特色を生かした教育を進める。

（大学院教育）

・　デザイン研究科では、学士課程を基礎に高度で専門的なデザインを追及し、専門分野については、空間デザイン分野、製品デザイン分野、コンテンツ･メディアデザイン分野の3分野を設けて教育課程を編成し、体系的に進めていく。

・　看護学研究科では、学士課程を基礎として、実践看護学分野及び看護マネジメント学分野を設けて教育課程を編成し、体系的に進めていく。

・　デザイン研究科では、専攻分野の基礎的素養を涵養するため、専門教育科目の中に基本科目を配置するとともに、高度な専門的知識及び能力の修得に向け､展開科目等を配置するなど､全体のバランスに配慮した教育課程を編成する。

・　看護学研究科では、専攻分野の基礎的素養を涵養するため、専門教育科目の中に専門基本科目を配置するとともに、高度な専門的知識及び能力の修得に向け､専門科目等を配置するなど､全体のバランスに配慮した教育課程を編成する。

・　デザイン研究科に空間デザイン分野、製品デザイン分野、コンテンツ・メディアデザイン分野の3分野を設け、高度な専門性が求められる職業人の育成を目標とした実践的な教育を展開する。

・　看護学研究科に、5領域で構成する実践看護学分野と1領域で構成する看護マネジメント学分野の2分野を設けるとともに、母子看護学領域、成人看護学領域（急性期）、精神看護学領域に、修士論文コースのほか、専門看護師（CNS）コースを併設することにより、高度な専門性が求められる職業人の育成を目標とした実践的な教育を展開する。

ウ　教育方法及び履修指導方法

(ア)　2キャンパス

・　両学部の学生が合同で学ぶ共通教育科目は「芸術の森キャンパス」で実施するが、共通教育科目を受講する看護学部の学生が、同日中に両キャンパス（芸術の森、桑園）間を移動することのないような時間割編成を行うなど、看護学部の学生の一層の負担軽減に努める。

・　両研究科の学生が合同で学ぶ研究科連携科目については、特定の曜日に桑園キャンパスで開講するなど、学生の負担軽減に配慮する。

・　学生を対象に図書館の図書の両キャンパス間の検索、貸出し・返却を行う。

・　遠隔授業システムを利用する授業の適切性及びeラーニングシステムの利用状況を調査するとともに、活用の方針を定め、その上でネットワーク上の情報量の推移を検証し、情報システムの拡張を検討する。

(イ)　多様な授業・履修形態

・　教育分野や教育内容の特性に応じ、演習、実習を取り入れた教育を行うとともに、必要に応じて、多様なメディア機器等の活用、セミナー、討論、プレゼンテーション、現地調査、模擬患者を活用した演習などを実施する。

・　大学院においては、学生の研究成果発表、学会等への参加を積極的に支援していく。

・　科目等履修生規則、聴講生規則及び研究生規則に基づき募集を行う。また、特別聴講学生制度及び長期履修学生制度の導入について、他大学の事例検証などを基に引き続き検討する。

・　両研究科では、社会人学生の勤務との両立に配慮するため、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を実施するとともに、長期履修学生制度を導入する。

(ｳ) 実践的な授業の重視

・ デザイン学部においては、学生に対し、デザインに関連する企業、行政等の取組事例や起業家等の活動を知る機会（講演会、交流会、ワークショップ、学外授業等）を設け、就業や起業に向けた情報を早い段階から提供するとともに、高年次においてはインターンシップ等を通じて企業の活動を実際に体験する機会を推奨する。また、企業等に対し、デザイン学部の教育内容について周知を図る。

・ 保健、医療、福祉分野への関心と理解を深め、将来の看護職の動機付けや看護の働きかけを体験的に学ぶため、医療機関等での実習を1年次から段階的・体系的に実施する。また、実習施設に対して看護学部の教育課程における実習の役割・位置づけを周知するとともに、効果的・効率的・円滑に実習を行うために臨地実習指導者会議を開催する。

・ 実習先等におけるさまざまな危険を回避し、学生が安心して演習・実習を行うのに必要な保険の必要性・重要性を理解できるようにガイダンスを行い、傷害・賠償保険に加入させる。

・ 豊富な実務経験を持つ専任教員、非常勤講師を採用し、職業人育成のための教育を行う。

・ 実務経験豊富な外部講師を招聘し、特別講演等を行う。

・ 学部の特性に応じて、講義、演習、実習を体系的に組み合わせ、専門知識や高度な技術を修得できるよう授業を行う。

(ｴ) 履修指導方法

・ シラバスに「科目のねらい、到達目標」を明記するとともに、ホームページでも公開する。また、学生の授業評価アンケート等を参考にして、次年度のシラバスの充実を図る。

・ 全教員を対象として、FD（ファカルティ・ディベロップメント）を効果的に実施し、教育方法の継続的な改善を図る。

・ 学生の段階的かつ効果的な履修と学業のきめ細やかな支援を行うため、セメスター制を実施する。

・ 学部ごとにセメスターにあわせて履修にあたっての留意事項、スケジュール等についてガイダンスを実施する。

・ デザイン学部においては、2年後期のコース別教育にあたり、事前に適切なコース選択ができるようきめ細かな指導を行う。

・ 看護学部においては、看護実習の開始前に、実習に当たっての履修指導を行う。

・「英語Ⅱ」における習熟度別クラス編成の導入など、多様化する学生の資質・学力に対応するための共通教育科目の充実・強化に努める。

・ 一部専門基礎科目の見直し等により、多様化する学生の資質・学力に対応していく。また、これまでの事例検証を基に必要性が高いと考えられる科目のリメディアル教育（補完授業）を実施する。

・ 履修科目の過剰登録を防ぐためキャップ制を継続して実施し、登録単位に上限を設ける。また、GPAを活用する。

・ 大学院生によるTA制度について、対象とする授業科目や募集方法、支援方法等の具体的内容を検討し導入を進める。また、少人数教育、習熟度別クラス等に関して、授業評価アンケートの結果を基に、より学生のニーズに合った授業形態を検討し、整備を進める。

・ デザイン学部では空間、製品、コンテンツ、メディアの各コースごとに、看護学部では臨床、地域の区分により設けている履修モデルについて、学生の実際の履修状況を検証し、改善・工夫を図る。

・ 両研究科においては、学生の研究テーマに沿った指導教員を学生ごとに決定し、教育･研究指導を一貫して行う。

エ 学生の成績評価

・ 学則で定めた成績評価基準に基づき、適切な成績評価を行う。

・ 教育課程における目標の達成度の評価方法、各科目の年度ごとの評価の整合性等を検証し、成績評価基準等の見直しを図る。

・ 成績評価基準の周知徹底を図るため、評価基準を学生生活ハンドブックに明示するとともに、シラバス、ホームページで公開する。

・ 学生の優れた成績や課外活動等に対して表彰を実施するとともに、奨学金制度については引き続き検討を行う。

・ 学生からの成績評価に対する照会等について両キャンパスに設置した窓口において対応する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア 適正な教員の配置

・ 大学院教育を含め、大学全体で必要な教員組織及び構成について検証し、その上で計画的に教員を採用し、適正な教員配置を行う。

・ 新たに教員を採用する場合には、将来的な年齢構成等にも配慮する。

・　助教および助手の適切な任用及び配置を行う。
・　実務経験の豊富な客員教授等の活用を図る。また、特任教授の制度を導入する。
・　大学院生によるTA制度について、対象とする授業科目や募集方法、支援方法等の具体的内容を検討し導入を進める。

イ　教員の資質の維持向上

・　学長、学部長、研究科長等は、教員に対し、授業開始前に、大学・学部等の教育上の目的、育成する人材像、各授業科目の教育目標・位置付け、他の授業科目との接続関係等に関する研修を行う。
・　大学での授業が未経験の教員に対しては、FD委員会が中心となり、学校教育法等に係る研修を行う。
・　教務・学生委員会は、シラバスの記載項目、記載方法等に関する一定のルールを作成する。FD委員会は、希望する教員に対して記載方法等の指導・助言を行う。
・　学生による授業評価アンケートや教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員及び学生にフィードバックすることにより、授業の内容及び方法の改善に役立てる。
・　FDに関する講演会や学内の研修会を実施するほか、両学部教員による研究交流会を実施し、情報交換を行う。
・　FDに関する外部の研究会や研修会に教職員を派遣する。

ウ　教育環境の整備

・　芸術の森キャンパスにおいて、札幌市立高等専門学校の専攻科の最終年次を迎え、転用可能な教室等施設の整備を順次進める。
・　学内施設利用に関する点検・評価を行い、効果的で効率的な施設運用を図るとともに、必要な措置を講ずる。
・　学年進行に合わせ、専門教育に必要な教育研究システムや情報機器を優先度を考慮し逐次整備する。
・　eラーニングシステムや遠隔授業システム等を活用した授業の効果を検証し、工夫・改善を図る。
・　図書館運営会議が図書や図書館の備品整備を検討、総務委員会が全学的な施設・設備の整備を所管する等、所管委員会間で調整を行いつつ、必要な整備を行い、良好な教育研究環境の整備に努める。
・　図書館運営会議において、図書の選定・充実を図るとともに、図書及び学術情報等に係る環境改善について定期的に検討する。
・　図書等については、図書、視聴覚資料、雑誌、電子ジャーナル等について選定作業を行い、充実を図る。

⑷　学生への支援に関する目標を達成するための措置

ア　学習支援及び学生生活支援

・　両学部におけるメンター制度により、学生の修学・進路・生活及び心身の健康等にわたる各種相談等に、教員が直接かつ柔軟に対応する。
・　学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活全般を支援するため、学部の学生支援委員会を中心に、両学部におけるメンター制度を活用した支援を行う。
・　両キャンパスに配置したカウンセラー及び看護師等の専門スタッフにより、学生のメンタルヘルス、生活相談等、学生生活の支援を行う。
・　教務・学生委員会において、学生生活の実態や意向を把握するためのアンケートを実施し、学生生活の充実に向けた改善策を検討した上で、順次具体化していく。
・　学部完成及び大学院開設に伴い、施設利用時間延長等を勘案しながら、駐車場の利用調整を行う。
・　学生の地域活動等に対して、情報提供、教職員の助言等を行う。
・　学生のニーズを踏まえ、福利厚生及び課外活動のための施設・設備の整備を行う。
・　キャリア支援センター及びキャリア支援委員会は、大学院学生を含め、学生に対するキャリア教育、就職ガイダンス等を実施するとともに、就職先の開拓および連携等を強化し、就職活動を支援する。
・　キャリア支援センターおよびキャリア支援委員会は、地元の企業や関係機関・団体等との連携を一層促進する。
・　経済的理由により就学が困難な学生に対し、学生納付金の減免制度や各種奨学金制度を活用し、支援する。
・　後援会組織及び同窓会組織と連携し、大学祭などの課外活動や学生生活、福利厚生等の支援を行う。

イ　留学生及び障がいのある学生に対する支援

・　留学生に対する生活支援、学習支援等、各種支援体制について、順次整備を進めていく。
・　障がいのある学生に対し、教務委員会及び学生支援委員会が中心となり、修学上の支援と相談を行うほか、必要に応じて設備･機器等の整備を行う。

2　研究に関する目標を達成するための措置

⑴　研究の方向性、研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置

ア　目指すべき研究の方向性

・　デザイン学部及びデザイン研究科については、産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上、都市再生等に寄与する研究を行う。

・　看護学部及び看護学研究科については、看護の基礎的な研究、地域看護の充実及び市民の健康の保持増進に寄与する研究を行う。

・　両学部・両研究科において、保健・医療・福祉分野や環境、健康、生活、情報等をキーワードとする共同研究を推進する。

・　科学研究費補助金を含む競争的研究資金への募集情報を周知し、外部資金導入による研究の促進を図る。特に科学研究費補助金の申請については、全学で積極的に取組み、申請件数の増加に努める。

イ　研究の水準及び研究の成果

・　地域連携研究センターの研究支援機能について引き続き検討を行い、事務局体制を含めた学内外の研究者支援制度の拡大を図る。

・　大学の知を社会に還元するため、公開講座、研究会、講演会等を開催する。

・　地域連携研究センターに設置された紀要編集委員会において、教員の研究成果を取りまとめた紀要（SCU Journal of Design & Nursing －札幌市立大学研究論文集－）を発行する。また、シーズとなる教員の研究分野、研究内容等の情報をホームページ等で公開する。

・　共同研究等を推進する地域連携研究センターが中心となり、産業界等との連携を深める。また、大学院の設置により、新たな解決策の創出に向けた先端的かつ実践的な研究を推進し、複合的な地域課題の解決に積極的に取り組む。

・　研究成果を教育課程へ反映した活用例を収集し、事例集を作成する。また、研究成果の教育課程・講義へのフィードバックに関するアンケート調査については、大学院開設に伴い一部見直しを行いながら実施するとともに、研究成果を教育に反映する方策を引き続き検討する。

・　各教員の研究活動等を定期的に把握･検証するための仕組みや方法、検証･評価体制について、引き続き検討を行う。

⑵　研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

ア　研究費

・　個人研究費ならびに学術奨励等競争的研究費を活用し、様々な地域課題に取り組む戦略的な研究を支援する。

・　教員評価にかかる自己申告方法等の確立を受け、平成21年度実績に関する自己申告を実施し、教員評価実施に向けて取り組む。また、研究費への評価結果反映の具体的方法について、引き続き検討する。

・　共同研究費については､地域貢献に資する共同研究ならびにデザインと看護の連携した共同研究に重点的に配分し、共同研究を推進する。

イ　研究の実施体制

(ア)　附属研究所（地域連携研究センター）

・　産学連携事業に関わる前年度の調査結果を踏まえ、今年度も一部調査内容及び対象を見直してニーズ調査を実施する。また、調査結果を基により効果的な地域貢献事業の実施ならびにサテライトキャンパスの活用方法について検討を行う。

・　地元企業や他大学等との共同研究や受託研究による都市機能・都市景観の向上、デザインやIT関連等の産業振興策と連携した地域ブランド及び新産業の創出を支援する。

・　デザイン・看護両学部の連携によるユニバーサルデザインの視点に立った都市基盤整備や医療･福祉分野を対象とするデザイン研究に取り組む。

・　看護職に対する専門的情報の収集・提供、相談･指導窓口の周知・活用方法を検討する。

・　地域看護や在宅看護・介護に関する研修会、講演会などを開催する。また、認定看護管理者の育成を目的とするサードレベルの教育を実施する。

(イ)　デザイン学部と看護学部の共同研究実施体制

・　地域連携研究センターは、各学部あるいは両学部における研究を支援し、その推進を図る。また、道内外の大学･研究機関等と連携・協力して研究を推進する。

3　地域貢献等に関する目標を達成するための措置

⑴　地域貢献に関する目標を達成するための措置

ア　地域の産業、まちづくり、保健・医療・福祉等への貢献

・　IT関連分野、観光分野等のデザイン研究、北方圏の新しいデザインモデルの創造等に取り組む。

・　医療･看護･介護機器ならびにユニバーサルデザイン・バリアフリー住宅等に関する研究開発等に取り組む。

・　地域住民等との連携による地域文化の掘り起こしや、都市機能・都市景観の向上につながる研究に取り組む。

・　地場産品のデザイン研究、農村等の環境や景観向上に関する研究、地域看護に関する研究に取り組み、その成果の公表、提供等を通じて地域貢献に取り組む。

イ　教育面での貢献

・　新しいサテライトキャンパスにおける情報ネットワーク等に関する多様なメディア機器等の整備について検討する。

・　関係機関との連携等により、多様な講座を提供するとともに、専門職業人の継続教育等への需要に応えるプログラム開発に取り組む。その一環として、地域連携研究センターにおいて、認定看護管理者育成を目的としたサードレベルの教育を継続する。また、看護職の再就職に向けた教育のサポートを計画する。

・　市民への図書の貸出しを実施するとともに､図書館運営会議においてサービス向上に向けた取組について検討を行う。

・　高校生を対象とした出前講座や公開講座等を行うとともに、高校関係者との協議を進め、高等学校とのより一層の連携の具体的方策を検討する。また、小中学生に対しても、大学の持つ教育機能の提供を進めていく。

・　札幌市立高等専門学校の教育環境を維持・向上させるため、教育研究面で積極的に連携・協力を図る。

ウ　大学間連携

・　大学間の単位互換や大学施設の相互利用、大学間連携による共同講義、共同公開講座、共同研究等の実施等に向け、他大学及び関係機関と協議を行う。

エ　札幌市との連携

・　札幌市の行政施策に関連する各部局との連携を推進するため、総合窓口となる連携会議等の情報交換の場を設け、地域課題の解決に対する取組みを行う。

オ　大学院における取組

・　大学院では、先端的かつ高度な教育・研究に取り組むとともに、地域や産業の振興など、地域に関連する様々な課題について研究を行う。また、教育成果や研究成果等の知的資源を情報公開、公開講座を活用して地域に還元するとともに、地域を対象としたプロジェクトに取り組む。

⑵　国際交流に関する目標を達成するための措置

ア　海外大学との連携等

・　地域連携研究センターが中心となり、海外の大学・研究機関等との連携等による研究者・学生の交流を推進する。

・　国際会議の開催や参加等を通じて、国際的な大学・研究機関との連携、交流を促進する。

・　UMAP（アジア太平洋大学交流機構）等の大学関連国際機関に参加する。また、国内の参加大学の活動状況を調査し、本学としての取り組みの可能性を検討する。

・　地域連携研究センターが中心となり、国際交流の企画と推進を行う。

イ　留学生の受入れ

・　交流協定校を中心とした海外の大学との教育研究等に関する連携を進め、具体的な留学生の受け入れ条件を調整しながら検討を進める。また、交流協定校以外の大学・機関等とも、教育・研究を通じた多様な国際交流に取り組む。

・　留学生に対する生活支援、学習支援等、各種支援体制について、順次整備を進めていく。

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　運営体制・手法に関する目標を達成するための措置

⑴　理事長のリーダーシップに関する目標を達成するための措置

ア　公立大学法人の経営戦略の策定

・　経営戦略に基づき、理事長のリーダーシップにより、目標達成に向け着実な業務運営を行う。

イ　役員会及び理事のサポート

・　役員会において最重要事項の審議を行うとともに、各役員の専門性を発揮するため、役割を分担し理事長をサポートする。

ウ　企画戦略室の設置等

・　企画戦略室において経営戦略に係る事項を推進する。

エ　学内の資金配分

・　研究費については基礎的な個人研究費のほかに、学術奨励等競争的研究費を設ける。また、理事長の裁量により留保する戦略的経費の中から大学が様々な地域課題に取り組む戦略的な研究費に充てる。

・　研究費以外の予算についても、理事長が裁量により重点的に配分することが出来る資金を設けるなど、平成23年度予算編成方針は、公立大学法人全体の経営戦略、札幌市立大学の教育研究上の理念・目的等を考慮し、策定するとともに、戦略的かつ柔軟な予算配分を行う。

⑵　公立大学法人の組織に関する目標を達成するための措置

ア　理事並びに経営審議会及び教育研究審議会の委員への学外者の登用

・　学外から登用した専門家・有識者である理事の活用を図る。

・　学外から登用した経営に関する有識者である経営審議会委員の活用を図る。

・　学外から登用した教育研究に関する有識者である教育研究審議会委員の活用を図る。

イ　教授会等

・　教授会および学内委員会の審議事項を厳選し、全学の学内委員会の数を常に15以下となるようにする。

・　役員会等の重要な会議の議事内容が、すべての教員に周知されるよう情報の共有化を行う。

⑶　経営手法に関する目標を達成するための措置

ア　マネジメントサイクルの徹底

・　公立大学法人の経営戦略に基づいて、公立大学法人全体および各部局単位で、企画立案から執行、評価、評価に基づく企画立案に至るマネジメントサイクルを業務毎に周期を定めて徹底を図る。

・　役員会等に対し前年後の業務実績報告を行うとともに、中期計画、前年度の評価委員会の評価結果及び自己点検・評価結果を踏まえ、年度計画を策定する。また、自己点検・評価委員会はこれまで蓄積された業務執行データに基づき開学後4年間の自己点検・評価を行う。

イ　経営資源の管理・活用

・　役員会、経営審議会、部局長会議等を通じて理事長を始めとする経営層が、法人の経営資源の把握が容易となるよう運営を行う。

・　理事長は経営戦略に基づき、効果的、効率的な経営資源の配分・活用についてそのリーダーシップを発揮する。

・　公立大学法人の有する知識、技術等の情報を、電子メールや教職員専用学内ホームページ等により積極的に情報提供し、情報の共有化を図るとともに、教育研究の活性化や地域貢献に積極的に活用する。

⑷　教職員の役割に関する目標を達成するための措置

ア　教職員による運営への関与

・　事務局職員は学内委員会の委員として参加し、教職員が一体となって公立大学法人の運営にあたる。

イ　専門性の高い事務局体制

・　高い専門性を有する事務局体制を維持するため、札幌市からの派遣職員を計画的にプロパー職員等に切り替える。

2　教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

⑴　学部・学科

・　大学開学から4年間の教育・研究活動を点検・評価し、あわせて学部・学科体制の検証を行う。

⑵　助産学専攻科

・　平成22年4月に助産学専攻科を開設し、看護学を基盤に助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を開始する。

⑶　大学院

・　平成24年4月に大学院博士後期課程の開設を目指し、設置の趣旨・必要性、教育課程、教員組織等に関する具体的な検討を行うとともに、平成23年5月末の文部科学省に対する設置認可申請に向けた準備を進める。

3　人事の適正化に関する目標を達成するための措置

⑴　人事制度に関する目標を達成するための措置

ア　多様な任用・勤務形態の構築

・「公立大学法人札幌市立大学教員の任期に関する規程」に基づき、教員の任期更新に関する具体的手続を進める。また、教員評価制度特別委員会において、活用可能なデータについて、引き続き検討する。

・　教員の裁量労働制・兼業許可制度について継続し運用する。また、特任教授の制度を導入する。

イ　専門性の高い事務局職員の育成

・　大学事務に精通した高い専門性を有する職員を育成するため、学内研修を実施するとともに、学外研修会等への参

加を促進する。

⑵　評価制度に関する目標を達成するための措置

・　教員評価にかかる自己申告方法等の確立を受け、平成21年度実績に関する自己申告を実施し、教育研究活動等の活発化・教員の資質向上を図ることを目的とした教員評価実施に向けて取り組む。また、評価結果の反映の具体的方法について、引き続き検討する。

・　教員評価にかかる自己申告方法等の確立を受け、平成21年度実績に関する自己申告を実施し、教員評価実施に向けて取り組む。また、評価結果の反映の具体的方法について、引き続き検討する。

・　平成20年度、21年度実績に関する自己申告の状況を踏まえ、給与及び個人研究費への反映方法、割合等について、検討を行う。

・「公立大学法人札幌市立大学職員の人事評価に関する規程」に基づき事務局職員の評価を実施する。

⑶　教職員の配置・定員の適正化に関する目標を達成するための措置

・　大学院教育を含め、大学全体で求められる教員組織について検討し、その上で計画的に教員を採用するとともに、事務の効率化を図りながら定員管理を行い、適正な教職員数を実現する。

4　事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

・　財務会計システム、教学システム、図書システム等の更新に向け、所管事務局が調査・検討を行い、各システムを順次整備し、引き続き事務の効率化・合理化を図る。

・　既存システムの拡充等について検討を進める。

・　ICカード学生証・教職員証、図書のIC管理タグの運用により事務の省力化を図る。

・　電子メールや教職員専用学内ホームページの活用によるペーパーレス化を図り、事務処理の迅速化･効率化を推進する。

・　事務局業務については、前年度に行った業務の外部委託について、業務の効率化・合理化の効果の検証・評価を行い、その結果等を踏まえ、委託業務を拡大するなどの業務改善を進める。

Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

・　地域連携研究センターにおいて、教員の研究活動に関する情報を収集し、そのデータベースを構築する。

・　地域連携研究センターにおいて、前年度の調査を踏まえ民間企業、国、地方公共団体等における研究・調査に係るニーズを広く把握し、効果的に学内の研究成果と結び付ける。

・　地域連携研究センターにおいて、科学研究費補助金等の競争的資金を積極的に獲得するために、競争的資金に係る情報収集、申請に係るサポート等を行い、教員に対して競争的資金獲得のための申請を奨励する。特に科学研究費補助金の申請については、全学で積極的に取組み、申請件数の増加に努める。

・　外部研究資金について、定期的に監査を実施する。

・　地域貢献につながる公開講座を実施する。

・　知的財産規程に基づき、有効に活用することができる知的財産については、本学教員が職務発明した権利を大学が継承する。

2　経費の抑制に関する目標を達成するための措置

・　事務局職員の配置にあたっては、庶務、経理等の事務を芸術の森キャンパスに集約するなど、適正な職員配置を行う。

・　冷房、暖房の温度設定管理の徹底等により、光熱水費の抑制を図る。また、教職員、学生に対して省エネルギーに関する啓発活動を積極的に行う。

・　清掃等の業務委託の際には、光熱水費の節約や環境に対する配慮について明記する。

・　教職員の適正な人員管理を行うとともに、必要に応じて事務局業務の外部委託を行う。

3　資産の運用管理に関する目標を達成するための措置

・　余裕資金の安全かつ効果的な運用を図る。

・　学内施設の学外者への有料貸出しについて、貸出し条件の整備等運用上必要な取り決めを行い、順次運用を開始する。

・　知的財産ポリシーに基づき、地域連携研究センターの下にある知的財産委員会は、知的財産の管理・運用を行う。

Ⅳ　教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　自己点検・評価に関する目標を達成するための措置

・　平成20年度に実施した自己点検・評価の検証結果を踏まえ、開学後、学士課程4年間の自己点検・評価を実施する。さ

らに、平成23年度に認証評価機関による評価を受けるための申請資料の作成・準備を進める。

・　教育･研究の水準の向上を目指し、自己点検・評価結果等を基に年度計画を策定するとともに、次期中期計画の策定準備を進める。また、本学における教育・研究上の特長を社会に広く周知するため、ホームページや報告書を通じて評価結果を公開する。

2　情報提供の推進等に関する目標を達成するための措置

⑴　情報提供に関する目標を達成するための措置

・　広く市民に以下の情報を周知するために本学のホームページ及びパンフレット（刊行物）を充実する。ホームページは、迅速に新規の情報を提供し、誰もがこれらの情報を容易に把握できるよう逐次改善を行う。このほか様々な媒体を通じて、効果的な広報活動を展開する。

①　大学の設置の趣旨及び特色並びに教育研究上の目的及び特色
②　育成する人材像
③　教育課程の内容及び開設科目のシラバス等教育内容・方法
④　教員組織、施設・設備等の教育環境及び研究活動
⑤　選抜方法、受験者数、合格者数、入学者数等の入学者選抜に関する情報
⑥　公開講座等の大学における学習機会
⑦　卒業生の就職・進学状況
⑧　自己点検・評価及び地方独立行政法人評価委員会の評価結果
⑨　設置認可申請書
⑩　学則その他の規程
⑪　図書館に関する情報
⑫　サテライトキャンパスに関する情報
⑬　オープンキャンパスに関する情報
⑭　大学行事に関する情報
⑮　大学の資料請求に関する情報

・　地域連携研究センターに設置された紀要編集委員会において、平成22年度の教育研究活動の成果を取りまとめた紀要（SCU Journal of Design & Nursing －札幌市立大学研究論文集－）を発行する。なお、紀要は、審査（査読）を経た論文・制作を含んだ内容とする

・　市民向けの公開講座を開催するとともに、講演会等へ教員を積極的に派遣する。

⑵　個人情報の保護に関する目標を達成するための措置

・　個人情報保護事務取扱規程及び個人情報保護ポリシーに基づき個人情報の適正な取り扱いを行う。

Ⅴ　その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1　施設・設備の整備・維持管理に関する目標を達成するための措置

・　学部完成及び大学院開設に伴う施設･設備の整備が完了したため、より教育課程に沿った施設･設備の整備を目的に、ニーズ調査等を実施し、順次整備を進める。

・　施設保全計画（施設、設備の中・長期的な維持管理計画）に基づいて、計画的に施設・設備の保守・修繕等をPDCAサイクルにより実施するとともに、次期中期計画期間中の計画修繕に向けた検討を行う。

2　安全管理等に関する目標を達成するための措置

・　事故等を未然に防止するために、全学的な安全衛生管理体制について、教職員及び学生への周知を徹底する。

・　危機管理マニュアル及び防災計画の適切な運用を図る。

・　キャンパス・ハラスメント防止委員会により、ハラスメントや違法行為が行われた場合の対応を行うとともに、防止策や対応策の周知を徹底する。

・　学生に対して、ガイダンスの実施や学生生活ハンドブックを通して、学則の周知徹底を図る。

3　環境に関する目標を達成するための措置

・　マイクロガスタービンによるコージェネレーションシステム（芸術の森）及び地熱利用システム（桑園）の活用により、引き続きエネルギーの有効利用を図る。

・　学用車のリースに当たっては、環境に配慮したハイブリッド車を使用する。

・　環境負荷軽減のため室温管理や適切な換気等を行い、省エネルギーを徹底する。また、教職員、学生に対して省エネルギーに関する啓発活動を積極的に行う。

・　電子メールや教職員専用学内ホームページの積極的な活用によりペーパーレス化を図る。

Ⅵ　予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画
別紙のとおり

Ⅶ　短期借入金の限度額
1　短期借入金の限度額
２億円
2　想定される理由
運営費交付金の受入れ遅延および事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。

Ⅷ　重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画
なし。

Ⅸ　剰余金の使途
決算において剰余金が発生した場合、教育研究の質の向上および組織運営の改善に充てる。

Ⅹ　施設及び設備に関する計画
・　経常的修繕
・　緊急修繕　　等
総額　25百万円
（注）金額については見込みであり、上記のほか、業務の実施状況に応じた施設・設備の改善や、老朽度合いに応じた改修等を追加することもあり得る。

Ⅺ　人事に関する計画
・　大学院教育を含め、大学全体で必要な教員組織及び構成について検証し、その上で計画的に教員を採用し、適正な教員配置を行う。
・　札幌市からの派遣職員のプロパー化の推進により、大学事務に精通した高い専門性を有する職員を公立大学法人において育成する。
・　教職員の能力開発や意識向上を図るための学内研修会を行うとともに、必要に応じて外部研修に教職員の派遣を行う。

別紙　予算、収支計画及び資金計画（人件費の見積りを含む）
1．予算

（単位：百万円）

区　　分	金　　額
収入	
運営費交付金	1,521
授業料等収入	444
受託研究等収入及び寄附金収入	22
補助金収入	14
その他収入	11
目的積立金取崩	109
計	2,121
支出	
教育研究経費	467
受託研究等経費及び寄附金事業費等	21
人件費	1,254
一般管理費	365
補助金事業費	14
計	2,121

2．収支計画

（単位：百万円）

区　　分	金　　額
費用の部	
経常費用	2,159
教育研究経費	418
受託研究等費	21
人件費	1,254
一般管理費	320
財務費用	8
減価償却費	138
収益の部	
経常収益	2,050
運営費交付金収益	1,497
授業料等収益	463
受託研究等収益	22
補助金収益	14
資産見返運営費交付金戻入	24
資産見返寄附金戻入	2
資産見返物品受贈額戻入	17
雑益	11
その他収益	11
純利益（純損失）	△109
目的積立金取崩益	109
総利益（総損失）	0

3．資金計画

（単位：百万円）

区　　分	金　　額
資金支出	2,209
業務活動による支出	1,994
投資活動による支出	24
財務活動による支出	103
翌年度への繰越金	88
資金収入	2,209
業務活動による収入	2,012
運営費交付金による収入	1,521
授業料及入学金検定料による収入	444
受託研究等による収入	22
補助金等による収入	14
その他収入	11
投資活動による収入	0
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	197

2　平成２２年度決算

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額（決算－予算）	備考
収入				
運営費交付金	1,521	1,521	0	
授業料等収入	444	441	△3	
受託研究等収入及び寄附金収入	22	19	△3	
補助金収入	14	34	20	（注1）
その他収入	11	14	3	
目的積立金取崩	109	0	△109	
計	2,121	2,029	△92	
支出				
教育研究経費	467	420	△47	（注2）
受託研究等経費及び寄附金事業費等	21	15	△6	
人件費	1,254	1,164	△90	（注3）
一般管理費	365	353	△12	
補助金事業費	14	33	19	（注4）
計	2,121	1,985	△136	
収入－支出	0	44	44	

※　予算と決算の差異について
（注1）　当初予算では予定していなかった補助事業が採択されたことにより、増加しました。
（注2）　その他教育経費及び教員研究費が、減少しました。
（注3）　教員・職員の欠員により、減少しました。
（注4）　当初予算では予定していなかった補助事業が採択されたことにより、増加しました。

3　教職員数　（平成23年3月31日現在）

1）　学部別教員数

学長	1
副学長	1
デザイン学部	33
看護学部	40
合計	75

2）　職位別教員数

		教授	准教授	講師	助教	助手	計	非常勤講師
デザイン学部	男	15	3	8	3	0	29	57
	女	0	2	2	1	0	5	25
看護学部	男	1	1	0	1	0	3	71
	女	10	3	12	10	3	38	51
合計		26	9	22	15	3	75	204

3）　職員数

	事務系	司書系	教務系	技術･技能系	医療系	その他	計
男	27	0	0	2	0	0	29
女	27	8	6	0	2	0	43
合計	54	8	6	2	2	0	72

4　管理職一覧表　（平成23年3月31日現在）

役職名	教職員名
学長	原 田　昭
副学長 兼 看護学部長 兼 看護学研究科長	中 村　惠 子
デザイン学部長	酒 井　正 幸
デザイン研究科長	城 間　祥 之
地域連携研究センター長	スーディ神崎　和代
附属図書館長	中 原　宏
事務局長	塩 澤　正 樹
事務局次長	阿 部　大
事務局桑園事務室長 兼 調整担当部長	常 野　正 浩
事務局総務課長	加 賀　賢 治
事務局地域連携課長	上 田　理 子
事務局学生課長	安 立　卓 也
事務局桑園担当課長	徳永　信之助

5　教員一覧表（平成23年3月31日現在）

デザイン学部		看護学部	
職位	教員名	職位	教員名
教　授	原田　昭	教　授	中村　惠子
教　授	酒井　正幸	教　授	スーディ神崎　和代
教　授	城間　祥之	教　授	山本　勝則
教　授	中原　宏	教　授	宮﨑　みち子
教　授	石崎　友紀	特任教授	加藤　登紀子
教　授	上遠野　敏	教　授	内田　雅子
教　授	齋藤　利明	教　授	河野　總子
教　授	杉　哲夫	教　授	坂倉　恵美子
教　授	武邑　光裕	教　授	定廣　和香子
教　授	羽深　久夫	教　授	樋之津　淳子
教　授	原　俊彦	教　授	松浦　和代
教　授	望月　澄人	准教授	大野　夏代
教　授	矢部　和夫	准教授	清水　光子
教　授	吉田　和夫	准教授	守村　洋
教　授	吉田　惠介	准教授	吉川　由希子
准教授	武田　亘明	講　師	菊地　ひろみ
准教授	張　浦華	講　師	菅原　美樹
准教授	細谷　多聞	講　師	杉田　久子
准教授	町田　佳世子	講　師	田中　広美
准教授	ライト　デーヴィッド	講　師	新納　美美
講　師	石田　勝也	講　師	藤井　瑞恵
講　師	大渕　一博	講　師	星　美和子
講　師	柿山　浩一郎	講　師	村松　真澄
講　師	小宮　加容子	講　師	保田　玲子
講　師	斉藤　雅也	講　師	山内　まゆみ
講　師	那須　聖	講　師	山本　真由美
講　師	福田　大年	講　師	渡邉　由加利
講　師	松井　美穂	助　教	太田　晴美
講　師	三谷　篤史	助　教	神島　滋子
講　師	山田　良	助　教	河村　奈美子
助　教	上田　裕文	助　教	櫻井　繭子
助　教	片山　めぐみ	助　教	進藤　ゆかり
助　教	須之内　元洋	助　教	多賀　昌江
助　教	長谷川　聡	助　教	照井　レナ
		助　教	原井　美佳
		助　教	渕本　雅昭
		助　教	三上　智子
		助　教	松村　寛子
		助　手	工藤　京子
		助　手	鶴木　恭子
		助　手	檜山　明子

6　学生定員及び学生数

1)　学生定員　（平成22年5月1日現在）

学部	入学定員	3年次編入学定員	総定員
デザイン学部	80	20	360
看　護　学　部	80	10	340
合計	160	30	700

2)　学生数　（平成22年5月1日現在）

学部	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン学部	1学年	19	65	84
	2学年	33	53	86
	3学年	30	68	98
	4学年	28	66	94
看 護 学 部	1学年	11	71	82
	2学年	9	78	87
	3学年	9	80	89
	4学年	7	80	87
助産学専攻科		0	9	9
合計		146	570	716

研究科	学年	男女別		計
		男	女	
デザイン研究科	1学年	10	8	18
看護学研究科	1学年	2	16	18
合計		12	24	36

3)　科目等履修生・聴講生　（平成23年3月31日現在）

学部	科目等履修生	聴講生	計
デザイン学部	0	0	0
看　護　学　部	0	0	0
合計	0	0	0

学部	科目等履修生	聴講生	計
デザイン研究科	0	0	0
看護学研究科	2	0	2
合計	2	0	2

7　授業料等

（単位：円）

区分	検定料	入学料		授業料
		札幌市内居住者	札幌市外居住者	
学部生	17,000	141,000	282,000	535,800
大学院生	30,000	141,000	282,000	535,800
科目等履修生・聴講生	9,800	14,100	28,200	1単位につき　14,800

8　奨学金貸与・授業料減額免除実施状況　（平成23年3月31日現在）

奨学金貸与状況

学年	日本学生支援機構		その他	計
	第1種	第2種		
1学年	34	46	1	81
2学年	30	64	3	97
3学年	31	73	5	109
4学年	38	59	3	100
大学院1年生	5	1	0	6
合計	138	243	12	393

授業料減免実施状況

学年	学期	全額減免者	半額減免者	計
1学年	前期	0	4	4
	後期	0	8	8
2学年	前期	0	15	15
	後期	0	16	16
3学年	前期	0	18	18
	後期	0	17	17
4学年	前期	0	17	17
	後期	0	17	17
大学院1年生	前期	0	2	2
	後期	0	3	3
合計	前期	0	56	56
	後期	0	61	61

9　学生の入選・受賞

デザイン学部・デザイン研究科

入選・受賞年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成22年5月	新関　涼	広報さっぽろ南区版ロゴ制作－デザイン採用	札幌市南区
平成22年5月	目黒　舞	地域見守りサポーターマスコットキャラクター募集・「まもりん」最優秀賞	札幌市社会福祉協議会
平成22年5月	笠原　恵里	地域見守りサポーターマスコットキャラクター募集・「のらねこのミマモ」特別賞	札幌市社会福祉協議会
平成22年5月	武田　哲朗	地域見守りサポーターマスコットキャラクター募集・「ひだまる」特別賞	札幌市社会福祉協議会
平成22年5月	大條　三貴	「日本APEC貿易担当大臣会合」歓迎用ポスター募集－デザイン採用	2010年APEC貿易担当大臣会合 北海道・札幌実行委員会
平成22年5月	栗山　彩 柴垣　綾子	「日本APEC貿易担当大臣会合」歓迎用ポスター募集－デザイン採用	2010年APEC貿易担当大臣会合 北海道・札幌実行委員会
平成22年6月	渡辺　沙織	札幌国際短編映画祭2010　メインビジュアル公募・奨励賞	SAPPOROショートフェスト 実行委員会
平成22年7月	福田　和	メカトロ教室ポスター制作－デザイン採用	㈳日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門
平成22年8月	阿部　寛文 笠原　恵里	北の近代三都物語ポスター制作－デザイン採用	道央地域観光戦略会議
平成22年8月	杉浦　良輔 北村　麻衣	札幌市家庭ごみ収集日カレンダー制作－デザイン採用	札幌市
平成22年9月	関根　ちひろ	「あまきび」新パッケージ－デザイン採用	芦別通所授産施設「星の広場」
平成22年9月	江口　亜衣里 祐川　悠里江 鈴木　柚那 曽根　麻未 中村　葉月 松本　沙緒里	札幌メディア・アート・フォーラム・SMFトライアル2010・特別賞	札幌メディア・アート・フォーラム
平成22年10月	阿部　寛文 笠原　恵里 萩原　拓矢 堺　麻那（研究科） 里見　麻衣（研究科）	赤平フットパス　デザイン制作－デザイン採用	赤平市
平成22年10月	光野　有美	札幌・ポーランド姉妹都市提携記念 第42回英語弁論大会・一般の部　3位	札幌市
平成22年10月	宮下　隆祐 磯川　亮太 髙﨑　和也 若山　玄晃	「ロボットトライアスロン記念大会」参加・ チーム「ハンドメイド」のロボット名「Shade」デザイン賞1位	ロボットトライアスロン運営委員会
平成22年10月	佐藤　浩昭 野久　和真 杉浦　美南子 中津　美晴	「ロボットトライアスロン記念大会」参加 42チーム中、走行20位 チーム「あおば」のロボット名「テケ・テケ子」	ロボットトライアスロン運営委員会
平成22年10月	若山　玄晃	「ロボットトライアスロン記念大会」 ポスター制作	ロボットトライアスロン運営委員会
平成22年10月	後藤　大貴 藤田　吏	「ロボットトライアスロン記念大会」 走行コース周りオブジェ制作	ロボットトライアスロン運営委員会

入選・受賞年月	氏名	タイトル及び入賞・受賞の別	主催者
平成22年10月	諸澤　良浩（研究科）	「建築家のあかりコンペ」・最優秀賞、DAIKO賞	㈳日本建築家協会／JIA・大光電機㈱
平成22年10月	後藤　大貴	エコ･デザインアワード2010・学生賞「TOY-LET&Kids paper」	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成22年10月 平成22年11月	藤田　吏	エコ･デザインアワード2010・読売新聞社賞「えんぴつの木」	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成22年10月	島森　萌（一期生）	エコ･デザインアワード2010・北海道新聞社賞「いきものプロジェクト（コト提案）」	SAPPOROエコデザインプロジェクト実行委員会
平成22年11月	國柄　美奈	札幌市グリーティングカード制作－デザイン採用	札幌市　総務局国際部
平成22年12月	織笠　晃彦（研究科）	2010アジアデジタルアート大賞・カテゴリーA静止画部門入賞	2010アジアデジタルアート大賞店実行委員会
平成23年2月	高倉　誠生	開発こうほう　裏表紙－デザイン採用	財団法人北海道開発協会
平成23年2月	中山　真梨	西区活性化「市民記者」が一役西区いこを制作	西区役所
平成23年2月	金井　紀暁（研究科）	第29回学術講演会　論文「空中写真判読による1975年と2009年に起こったウトナイ湖とその周辺地域の植生変動の解析」・論文賞	日本写真測量学会北海道支部
平成23年3月	石塚　孝太郎	JIA北海道支部学生卒業設計コンクール2011・審査員特別賞	JIA社団法人日本建築家協会北海道支部
平成23年3月	首藤　翠	IFCCA（アジア消防長協会という国際的な消防団体の英語標記「International Fire Chiefs' Association of Asia」）シンボルマーク募集・最優秀賞	IFCAA実行委員会札幌市消防局
平成23年3月	鈴木　香織	IFCCA（アジア消防長協会という国際的な消防団体の英語標記「International Fire Chiefs' Association of Asia」）シンボルマーク募集・優秀賞	IFCAA実行委員会札幌市消防局
平成23年3月	正木　裕子	IFCCA（アジア消防長協会という国際的な消防団体の英語標記「International Fire Chiefs' Association of Asia」）シンボルマーク募集・優秀賞	IFCAA実行委員会札幌市消防局

10　学生の課外活動

	公認団体	主な入選・受賞等
1	バスケットボール部	
2	吹奏楽部	
3	軽音楽部	
4	美術部「noumenon」	
5	バドミントン部	
6	YOSAKOIソーラン部「真花」	YOSAKOIソーラン部 第19回YOSAKOIソーラン祭り 一次審査ブロック2位、セミファイナル11位
7	テニスサークル「テニサー」	
8	芸森地域キャストサークル「非魔人團」	
9	絵本ボランティアサークル	
10	フットサルサークル「SCUギャラクシー」	
11	デザインサークル「GNING」	

	公認団体	主な入選・受賞等
12	自動車サークル「CCH」	
13	ソフトボールサークル「SOFTiMo」	
14	服飾制作サークル「Alice（アリス）」	
15	作品制作サークル「さくさく」	
16	料理サークル「SCU Cooking Studio」	
17	メンタルヘルスサークル「Placebo」	
18	創作活動サークル「創-KIZ-」	
19	茶道サークル「Cha部」	
20	パソコンサークル「PERSEAS」	
21	ゲリラガーデニングサークル「0864」	
22	ユニバーサルデザイン研究サークル「ksks」	
23	写真映像サークル「SEED」	
24	軟式野球サークル「すらっくす」	
25	昆虫サークル「昆サ採―レ」	
26	ダンスサークル「VOLUME」	
27	国際協力／ボランティアを考える同好会「AMIGO」	

11　後援会

後援会（平成19年2月発足）は、学生の福利厚生の推進等、学生生活の充実に向けて必要な支援を行い、教育目的の達成に寄与することを目的として活動している。

（平成22年度）

役　　員	（会　長）河内　博 （副会長）小石　俊治、田中　直人 （理　事）魚住　由美、内藤　満美、服部　聖、服部　博和、樋口　千郁、三上　敬良、村井　哲也 （監　事）大條　雅弘、竹内　信行
主な事業	・課外活動（部活動、大学祭、地域ボランティア活動等）支援 ・就職対策（企業開拓支援、就職講話、証明写真撮影補助、国家試験対策） ・後援会報「SSA News」発行
後援会費	40,000円（ただし、編入学者は20,000円）

12　教育・研究刊行物一覧

発行年月	名称
平成22年4月	平成22年度履修要項
平成22年4月	平成22年度学生生活ハンドブック
平成22年5月	平成23年度デザイン学部3年次編入学学生募集要項
平成22年5月	平成23年度大学案内パンフレット
平成22年5月	平成23年度学生募集要項（デザイン研究科　修士課程）
平成22年6月	平成23年度入学者選抜要項
平成22年6月	平成23年度看護学部3年次編入学学生募集要項
平成22年6月	平成23年度助産学専攻科案内リーフレット
平成22年6月	平成23年度学生募集要項（看護学研究科　修士課程）
平成22年6月	平成23年度学生募集要項（助産学専攻科）
平成22年6月	デザイン学部コースパンフレット
平成22年7月	平成23年度大学院案内パンフレット
平成22年9月	平成23年度学生募集要項（特別選抜）
平成22年10月	就職パンフレット
平成22年11月	平成23年度学生募集要項（一般選抜）
平成22年11月	平成23年度学生募集要項（看護学研究科　修士課程　第2次募集）
平成22年11月	平成23年度学生募集要項（デザイン研究科　修士課程　第2次募集）
平成23年1月	札幌市立大学年報　平成21年度第4号
平成23年2月	札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第4号
平成23年3月	平成24年度大学院案内パンフレット
平成23年3月	デザイン学部デザイン学科卒業研究展図録
平成23年3月	SCU Journal of Design and Nursing－札幌市立大学研究論文集－第5巻1号
平成23年3月	平成20～22年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」採択事業　学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討　平成22年度最終報告書
平成23年3月	平成22年度札幌市立大学看護学部キャリア支援委員会活動報告書
平成23年3月	平成22年度自己点検・評価報告書
平成23年3月	デザイン学部卒業研究梗概集

13　施設

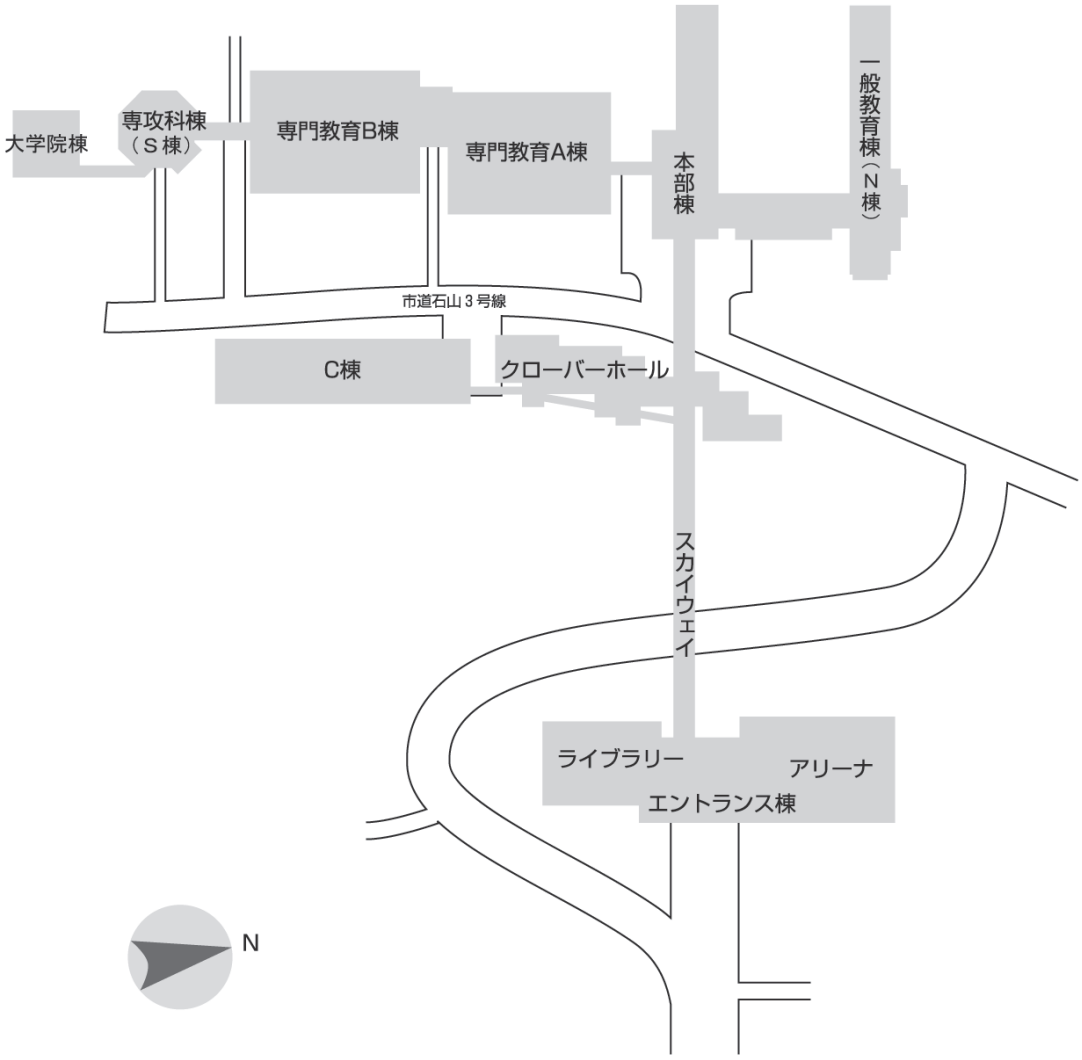
1）　校地・校舎、講義室・演習室等の面積　（平成23年3月31日現在）

区分	校地・校舎		講義室・演習室等	
	校地面積（㎡）	校舎面積（㎡）	総数	面積（㎡）
芸術の森キャンパス	167,617	22,784	62	6,480
桑園キャンパス	18,152	11,830	29	2,954
サテライトキャンパス	175	175	2	152
合計	185,944	34,789	93	9,586

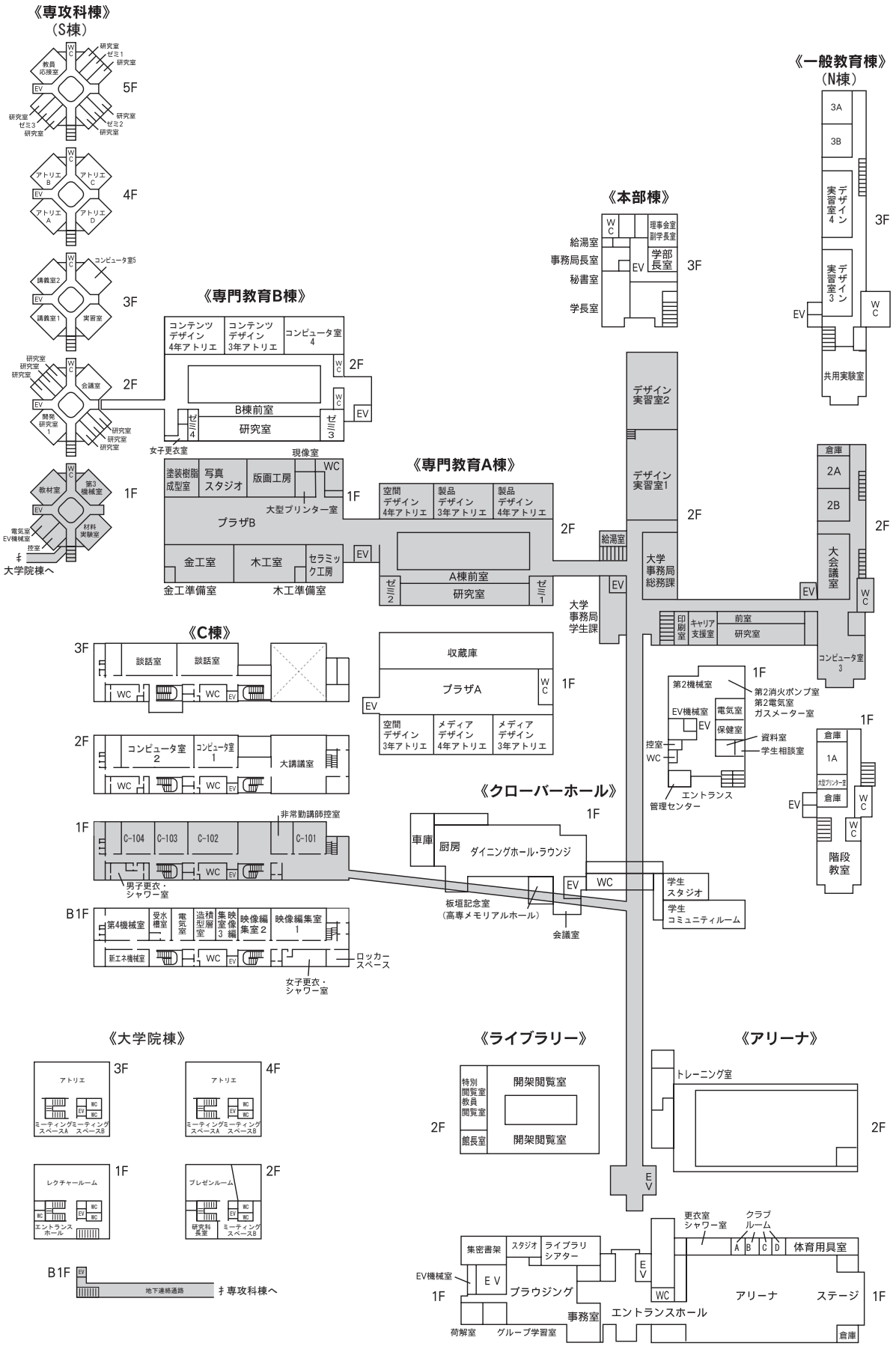
2）　芸術の森キャンパス　〔大学本部・デザイン学部〕

＜施設配置図＞

〒005-0864　北海道札幌市南区芸術の森1丁目
ＴＥＬ：011-592-2300（代）
ＦＡＸ：011-592-2369



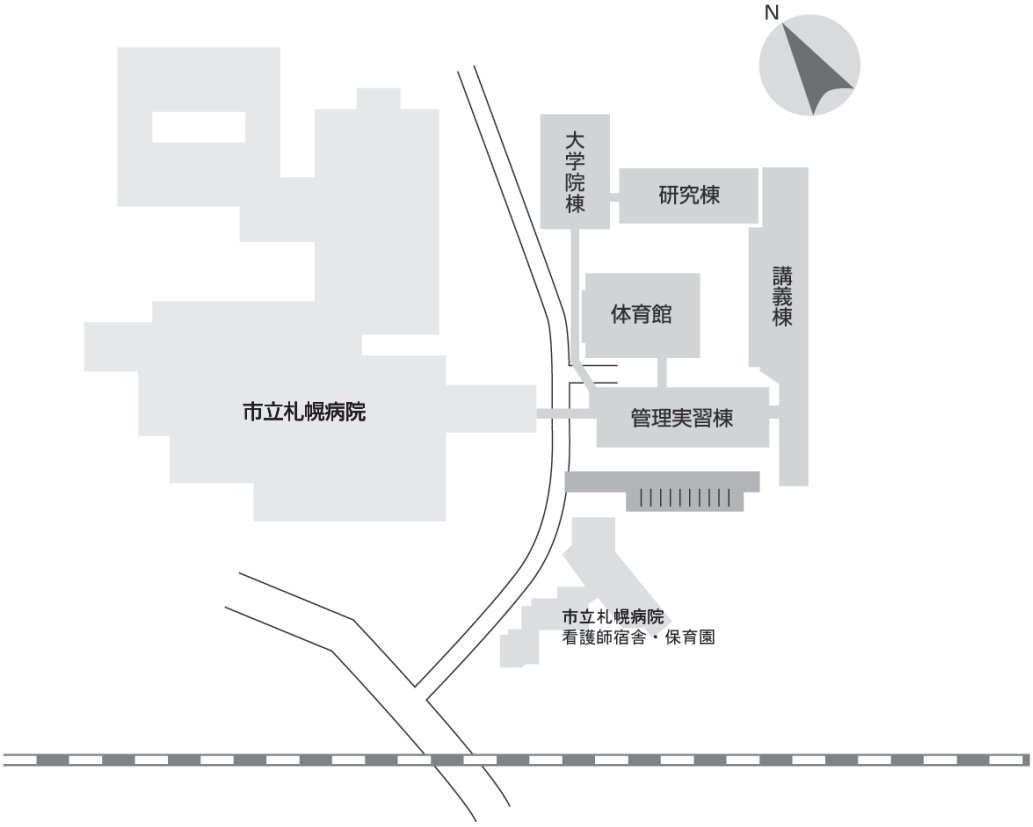
＜校舎配置図＞


《専攻科棟》
（S棟）
5F
4F
3F
2F
1F
大学院棟へ
《専門教育B棟》
《専門教育A棟》
《C棟》
《本部棟》
《一般教育棟》
（N棟）
《クローバーホール》
《大学院棟》
《ライブラリー》
《アリーナ》
専攻科棟へ

3） 桑園キャンパス 〔看護学部〕

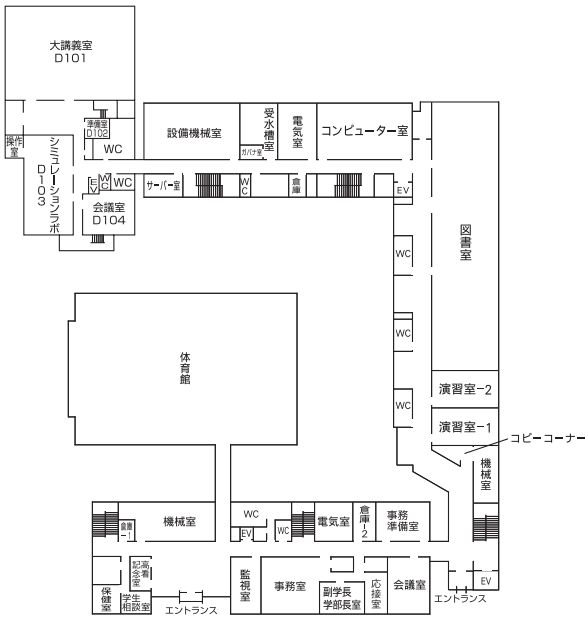
＜施設配置図＞

〒060-0001 北海道札幌市中央区北11条西13丁目
ＴＥＬ：011-726-2500（代）
ＦＡＸ：011-726-2506

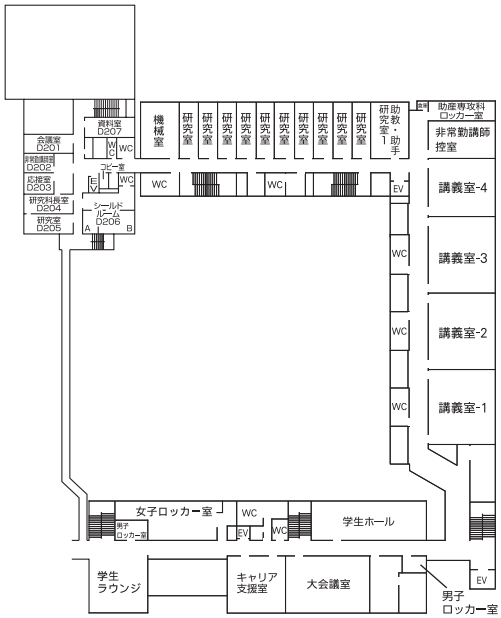


＜校舎配置図＞

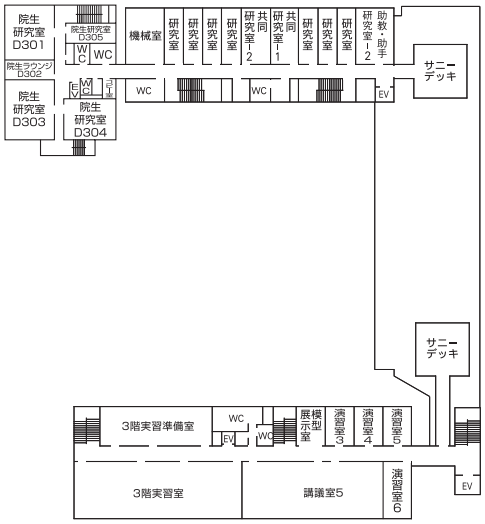
1F



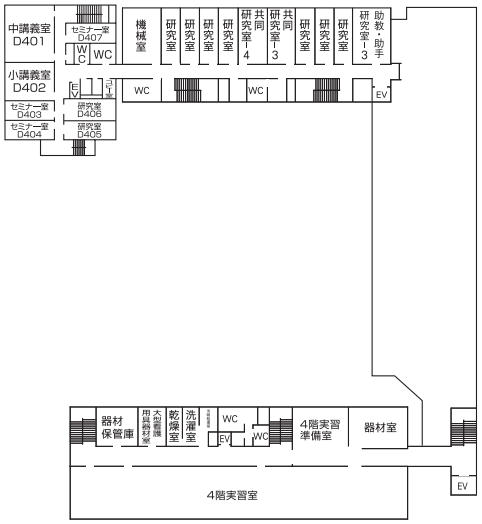
2F



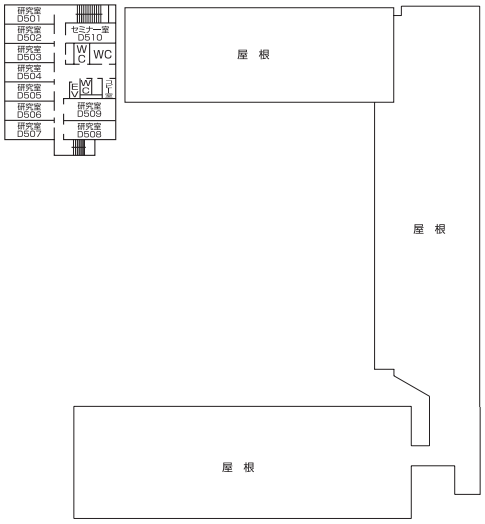
3F



4F



5F



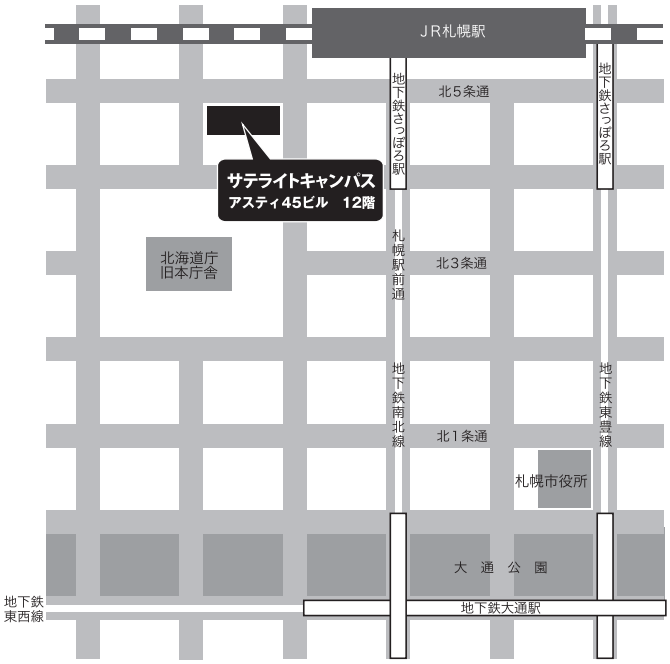
4)　サテライトキャンパス

＜施設配置図＞

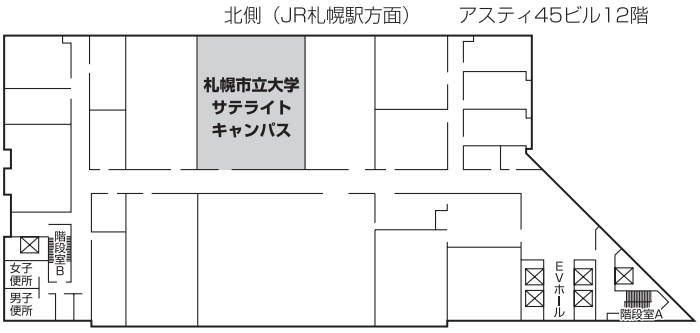
〒060-0004　北海道札幌市中央区北4条西5丁目　アスティ 45ビル12階

ＴＥＬ：011-218-7500

ＦＡＸ：011-218-7507

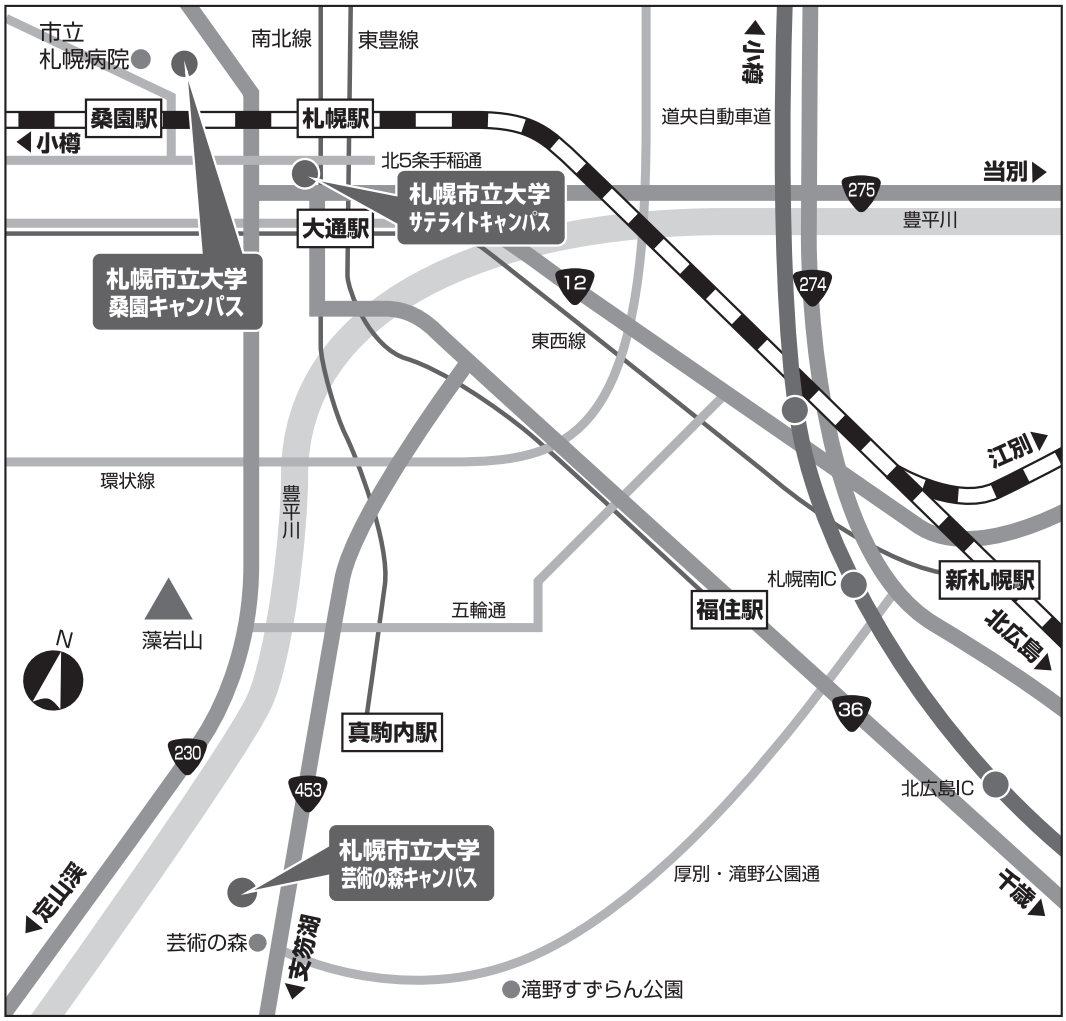


＜施設配置図＞

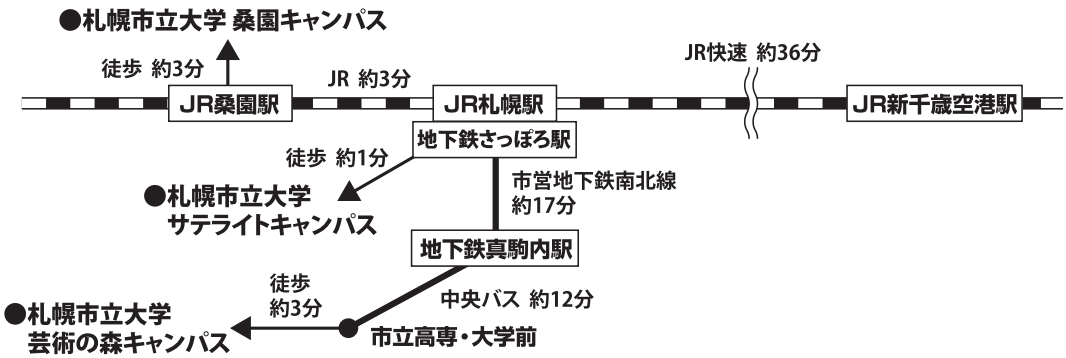


14　大学への交通アクセス

1）　アクセスマップ



2）　交通案内



15　大学歌

札幌市立大学　大学歌

『みらいの手』

作詞：首藤　翠・後藤優太（デザイン学部）
作曲：堀　彩菜（デザイン学部）

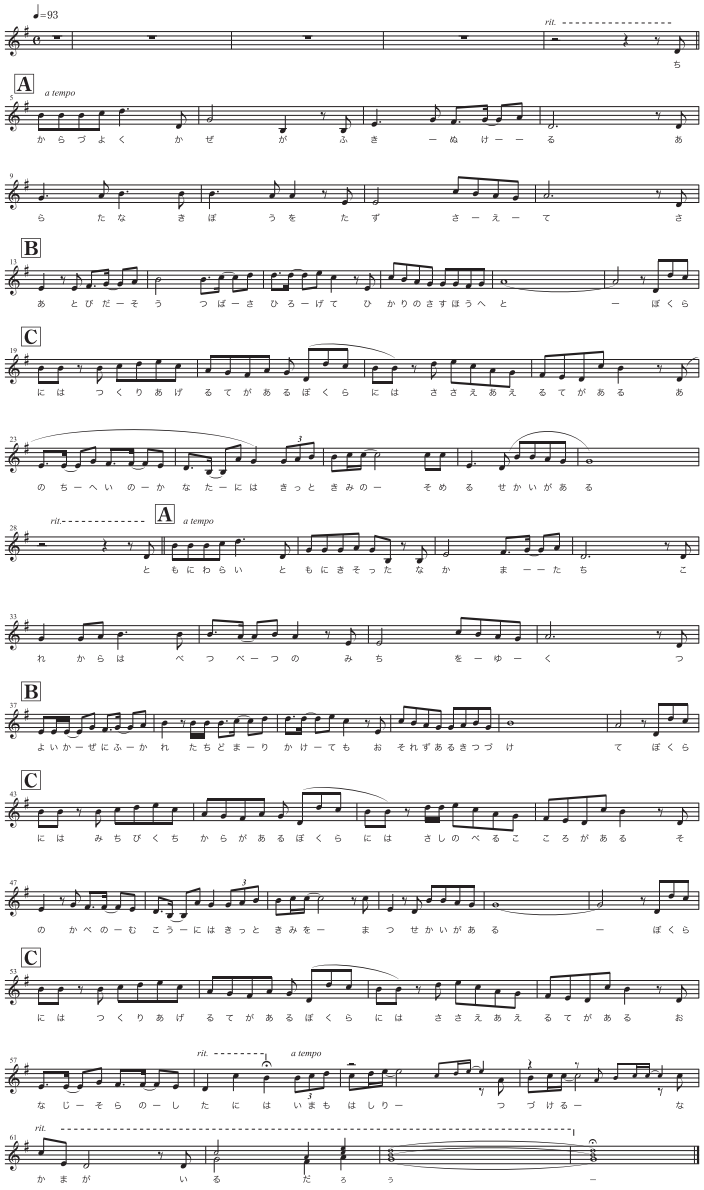
力強く風が吹き抜ける
新たな希望をたずさえて
さあ飛び出そう
翼広げて
光の指す方へと

ともに笑いともに競った仲間たち
これからは別々の道を往く
強い風に吹かれ
立ち止まりかけても
恐れず歩き続けて

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
同じ空の下には今も
走り続ける仲間がいるだろう

僕らには創りあげる手がある
僕らには支えあえる手がある
あの地平の彼方にはきっと
君の染める世界がある

僕らには導く能力（ちから）がある
僕らには差し伸べる精神（こころ）がある
その壁の向こうにはきっと
君を待つ世界がある



Ⅺ　教員業績一覧

・研究業績等
・学会及び研究会における活動
・社会における活動
・地域貢献諸活動
・専門職支援・セミナー講師等
・マスメディア掲載実績

※教員業績一覧の記載内容は教員の自己申告に基づく

デザイン学部

原 田　　昭

＜調査研究報告書＞北海道マーク調査報告書／札幌市路面電車報告書／科研報告書

＜作品発表＞Flower Bowl（共同、平成22年9月6日～15日、Asia Network Beyond Design Exhibition Cheongju Korea）／Candy Bowl（共同、平成22年9月18日～10月2日、Asia Network Beyond Design Exhibition Taipei NTUA）／Bowl on 3 Balls（共同、平成22年10月19日～25日、Asia Network Beyond Design Exhibition Yokohama JAPAN）／Pickles Bowl（共同、平成22年11月25日～30日、Asia Network Beyond Design Exhibition Tianjin China）／氷面三連鉢（共同、平成23年1月5日、北海道陶芸作家協会2011展）

＜シンポジウム＞日本感性工学会札幌フォーラム（単独、平成23年2月4日～5日、日本感性工学会）

＜招聘講演＞異分野横断型連携教育（D＋N）の展開（共同、平成22年6月17日、承徳医学院講演会）／Creativity of Design and Nursing（共同、平成22年11月26日、祥明大学デザイン国際会議）

＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／日本感性工学会／アジアネットワークビヨンドデザイン協会／国際科学振興財団理事

＜社会における活動＞札幌市円山動物園市民会議委員長（札幌市）／札幌医科大学5大学連携事業外部評価委員（北海道）

＜地域貢献諸活動＞北海道産業振興のためのロゴマーク作成（北海道庁、北海道）／寿都町まちづくりフォーラム（寿都町）／寿都まちづくりフォーラム（平成23年3月13日、10名、寿都町）

酒 井　正 幸

＜学術論文＞Proposals for a Zoo Sign Scheme from the Standpoint of a Universal Design（共著、平成22年11月、The 3rd International Conference for Universal Design in HAMAMATSU 2010）

＜入選・受賞＞日本人間工学会第51回大会優秀賞（平成22年6月、日本人間工学会）

＜学会発表＞動物園1日飼育体験による大人と子供の動物に対する心理的変化（共同、平成22年6月、日本人間工学会）／パブリックとパーソナルを繋ぐ札幌市の新交通システムの提案（共同、平成23年2月、日本感性工学会）

＜シンポジウム＞看護とデザインの協同（単独、平成22年12月、日本看護科学会）

＜論文査読＞デザイン学研究（1件、日本デザイン学会）／第3回国際ユニヴァーサルデザイン会議（7件、国際ユニヴァーサルデザイン会議）

＜社会における活動＞札幌スタイル推進会議議長（札幌市）／図書館評議会（札幌市）／財団法人さっぽろ産業振興財団評議員（札幌市）／札幌市母子手帳デザイン審査委員会（札幌市）

＜地域貢献諸活動＞理事（北海道デザインネットワーク）／実行委員（さっぽろデザインウィーク実行委員会）／副理事長（北のユニバーサルデザイン協議会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞審査員／人間中心設計専門家資格認定審査員

城 間　祥 之

＜学術論文＞携帯型健康管理情報機器プロトタイピングのケーススタディ（単著、平成22年9月、日本設計工学会、45巻、9号、pp.436-445）

＜学会発表＞地域社会におけるイベント起点型継続的交流支援プログラムの提案－札幌における学生クリエイター育成・支援への適用－：共同（2010.9、第12回日本感性工学会大会）／パッケージデザインとその感性的評価に基づく商品設計支援システム－日本漬物のケース－（共同、平成22年11月、日本感性工学会第30回あいまいと感性研究部会研究発表講演会）／日本漬物のパッケージデザインとその感性的評価に関する研究（共同、平成23年1月、映像情報メディア学会アントレプレナ・エンジニアリング研究会）／認知症患者とロボットとの言語を介したコミュニケーションの実験（共同、平成23年2月、感性フォーラム札幌2011）／認知症患者とロボットとの言語を介したコミュニケーションの可能性について（共同、平成23年3月、第6回日本感性工学会春季大会）

＜論文査読＞International Journal of Shape Modeling（2件、World Scientific An International Publisher）／日本感性工学会論文誌（1件、日本感性工学会）／ Kansei Engineering International（1件、日本感性工学会）
＜所属学会・研究会等＞日本機械学会／精密工学会／情報処理学会／日本設計工学会／感性工学会／芸術工学会／ IEEE ／ ACM
＜地域貢献諸活動＞IT事業の普及、JICA南西アジアIT研修事業等の確定（平成22年6月17日、NPO法人「札幌ITフロント」、NPO法人「札幌ITフロント」理事）

中 原　　宏
＜書評＞図書館・再考　（札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん　第4号」）（単著、平成23年2月1日、札幌市立大学附属図書館、4号、pp.2-2）／知的スタイルの原点　（札幌市立大学附属図書館ニュースレター「のほほん　第4号」）（単著、平成23年2月1日、札幌市立大学附属図書館、4号、pp.3-3）
＜論文査読＞都市学研究47（1件、北海道都市地域学会）／札幌市立大学研究論文集　第4巻第1号（2件）
＜所属学会・研究会等＞日本都市計画学会／日本建築学会／北海道都市地域学会／日本公衆衛生学会
＜社会における活動＞北海道建築士審査会会長／札幌市中高層建築物紛争調整委員会委員
＜専門職支援・セミナー講師等＞さっぽろ市民カレッジ「市電と人と町並みと・第1回「札幌のまちの発展と市電」」（平成22年7月29日、札幌市生涯学習振興財団）／さっぽろ市民カレッジ「市電と人と町並みと・第4回「市電で巡る札幌のまちなみ」」（平成22年8月19日、札幌市生涯学習振興財団）／さっぽろ緑花園芸学校「札幌の都市計画と未来」（平成23年2月24日、財団法人札幌公園緑化協会）

石 崎　友 紀
＜学術論文＞札幌ライトレール・「まち」の道具化への一考察（単著、平成23年3月、道具学会、16号、pp.8-21）
＜著書＞ペーパーしんでエコ工作（共著、平成22年7月、NHK出版、pp.1-40）
＜調査研究報告書＞2010年度札幌芸術文化年鑑、札幌の美術工芸の現状報告（平成23年3月、札幌市）
＜実務関係書＞テレビテキスト一学期（平成22年4月、NHK出版、pp.49-50）／テレビテキスト二学期（平成22年9月、NEK出版、pp.49-50）／テレビテキスト三学期（平成22年12月、NHK出版、pp.49-50）
＜実践報告書＞道具学会研究発表フォーラム報告（平成23年3月、道具学会、40号、pp.6-6）
＜作品発表＞テーブルウエアー（単独、平成22年3月、日本クラフト展（丸ビルホール・東京））／テーブルウエアー（単独、平成22年8月、日本のクラフト、北海道〔札幌芸術の森〕）／テーブル－ウエアー（単独、平成22年10月、北で育った手仕事展（丸井今井））／ジュエリー（単独、平成22年4月、コンテンポラリージュエリー展（銀座ACギャラリー））／金属器（単独、平成22年11月、金属芸術の輝き展（石洞美術館・東京））
＜学会発表＞21世紀デザイン教育の視座（共同、平成22年6月、芸術工学会上海国際大会）／まちづくりの道具としてライトレールを概観する（単独、平成23年1月、道具学会）
＜学会の抄録査読＞道具学会ニュース（2件、道具学会）
＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／芸術工学会／日本クラフトデザイン協会／北海道インテリアプランナー協会／道具学会／環境芸術学会／北海道芸術学会
＜社会における活動＞札幌芸術の森工芸部専門委員会委員長（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞工作ショー進行支援（NHKサービスセンター）
＜専門職支援・セミナー講師等＞講演と造形指導（平成23年2月26日、放送教育研究会北海道支部）／公共建築の日ポスターコンテスト審査員：審査員（平成22年11月11日、北海道開発局）／デザイン指導（平成22年5月10日、北海道インテリアプランナー協会）／さっぽろ市民カレッジ：講師「路面電車のデザイン～他都市の成功事例と札幌の課題」（平成22年8月5日、札幌生涯学習振興財団）
＜マスメディア掲載実績＞つくってあそぼ造形指導（NHK教育テレビ）／テレビテキスト造形指導（NHK出版）

上遠野　敏

＜解説文＞茶の湯からまねぶこと（単著、平成23年2月、札幌市立大学附属図書館、4号、p.6）

＜作品発表＞もっと遠くに飛ぶために（単独、平成22年9月、ミニ大通お散歩まつり「樹上展」）／平和の旗（単独、平成22年6月、Earthday Ezo2010「アースディ・ボーダレス和太鼓とたくさんの一つ」）／太陽と月と自然を愛でる（単独、平成22年6月、Earthday Ezo2010「アースディ・ボーダレス和太鼓とたくさんの一つ」）／幌内布引アートプロジェクト報告写真パネル（共同、平成22年10月、Sapporo Design Week 2010「炭鉱の遺産を掘り起こす」）／太陽と月と自然を愛でる（単独、平成22年12月、札幌市立大通高等学校プレゼンテーション大会2010）

＜社会における活動＞空知地域づくり推進委員会委員＆ガイドマニアル専門部会（空知総合振興局）

＜地域貢献諸活動＞npo炭鉱の記憶推進事業団会員（通年を通して、npo炭鉱の記憶推進事業団）／札幌ビエンーレ検討委員会およびコンセプト委員（平成22年5月まで随時、札幌ビエンーレ検討委員会）／年間11回開催の美術講演会の企画運営委員（年間11回開催、サッポロアート・ラボ実行委員会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞赤平フットパスサイン計画　アートディレクター：赤平フットパスサイン計画、制作、取り付け（平成22年4月～11月、市民、赤平コミュニティーガイドクラブ「TANtan」）／札幌市立石山小学校安全マップ　アートディレクター：学区10地区の安全マップ制作（平成22年4月～6月、小学2年生、5年生、札幌市立石山小学校）／ミニ大通お散歩まつり　アートディレクター：「樹上展」「樹名板」「お散歩テーリング」（平成22年7月～9月、市民、ミニ大通お散歩まつり実行委員会）／炭鉄港ポスター、チラシ　アートデレクター：2010「炭鉄港」北の近代三都物語、ポスター・チラシ制作（平成22年5月～7月、市民、道央地域観光戦略会議）／地域見守りサポーター マスコットキャラクター　アートディレクター：「地域見守りサポーター」マスコット制作（平成22年4月～5月、学内学生公募、札幌市社会福祉協議会）／ミュンヘンクリスマス市「アドベントカレンダー」 アートディレクター：「アドベントカレンダー」制作（平成22年10月～12月、市民、札幌市総務局国際部交流課）／大通高校Earth Day 2010「大通地区魅力発見プロジェクト」 ディレクター：「大通地区魅力発見プロジェクト」（平成22年6月、市民、Earth Day Ezo2010実行委員会）

＜マスメディア掲載実績＞散歩しながら交流を　札幌の通称・ミニ大通　あす、初のまつり（平成22年9月11日、北海道新聞、朝刊）／歩いて分かる　街の歴史　赤平のフットパスに案内板　札幌市立大生がデザイン（平成22年9月29日、北海道新聞、朝刊）／街の魅力再発見 「ミニ大通☆お散歩まつり」（平成22年10月号、広報さっぽろ　中央）／野口観光「のぐちくん」マスコットキャラクターCM、広告（平成22年12月～平成23年1月、野口観光「のぐちくん」マスコットキャラクターCM、広告）

齋藤　利明

＜作品発表＞「水芭蕉」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「萩」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「苧環」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「華苞」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「亜麻」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「里桜」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「白藜」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「黒沙弥他」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「鷺草」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「葵」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「空蝉」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「黒百合」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））／「桔梗」（単独、平成23年2月10日～15日、齋藤利明人形展（マリヤクラフトギャラリー））

＜所属学会・研究会等＞芸術工学会／日本人形玩具学会／北海道芸術学会

＜社会における活動＞まるごとブランド化検討委員会（美唄市）

＜専門職支援・セミナー講師等＞一般公募「2011アートボックス」審査委員：「2011アートボックス」（平成23年1月18日・2月17日、札幌駅総合開発株式会社）

＜マスメディア掲載実績＞STV「24時間テレビ」出演　8月29日（平成22年8月29日、札幌テレビ）

杉　　哲 夫

＜学術論文＞作品報告　大人用三輪自転車の開発（単著、平成23年3月、札幌市立大学、5巻、1号、pp.69-75）
＜作品発表＞高齢者にやさしい自動車デザインコンテスト（全国知事連合主催）　入選（平成22年1月）
＜学会発表＞授業を通じての授産施設製品提案（共同、平成22年7月、日本デザイン学会）
＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／日本感性工学会／日本インダストリアルデザイナー協会
＜社会における活動＞札幌スタイルデザイン開発プロジェクト副会長(札幌市)／札幌スタイル砂場シート開発プロジェクトリーダー（札幌市）／札幌スタイルイヤーマフ開発プロジェクト委員（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞全道経営者研究集会実行委員（3カ月、社団法人中小企業家同友会、社団法人中小企業家同友会）／とうもろこしパッケージデザイン等販促に関わる協力依頼　アートディレクター（2か月、社会福祉法人　愛和福祉会、芦別市授産施設星の広場）／大人向け三輪自転車の開発プロジェクトリーダー（1年間、札幌市立大学、株式会社Will-E、三輪自転車開発プロジェクト）／札幌らしい特色ある学校教育事業　転倒予防マットレス（3カ月、札幌市立桑園小学校、札幌市立大学）／ JIDA アクレジット委員会委員（1年間、JIDA（日本インダストリアルデザイナー協会)、日本インダストリアルデザイナー協会）
＜専門職支援・セミナー講師等＞三輪自転車、あまきびパッケージ、授産施設木工製品展示説明：北海道技術ビジネス交流会（平成22年12月9日、一般、企業、ノーステック財団）／三輪自転車展示説明：いきいき福祉展（平成22年10月16日、一般、企業、障害者団体、いきいき福祉実行委員会）／社団法人中小企業同友会第28回全道経営者研究集会（10月15日、産学共同でのブランディングの実例、社団法人中小企業同友会）／きょうされんブランド開発技術研修会（3月4日）
＜マスメディア掲載実績＞冬道でのベビーカー　北海道新聞掲載2回、STVどさんこワイド放映（平成23年1月3日、新聞、テレビ、ラジオ、朝刊）／大学生の感性でカワイイ木工品（授産施設木工品）　北海道新聞掲載（平成22年5月22日、新聞、ラジオ、朝刊）／粒の手触り　あまきび新パッケージ　北海道新聞掲載（平成22年9月10日、新聞、朝刊）／授産施設製品ブランド化へ　中小企業家新聞　掲載（平成22年4月15日、新聞、朝刊）／北海道同友　2011年　第59号　授産施設商品のブランド価値向上に向けた取組み　掲載（平成23年1月、機関誌）／あまきびパッケージ　真心絶品ブランド認定（日本財団）　認定商品カタログ、HP等掲載（平成23年1月、真心絶品カタログ）／きょうされん北海道支部　2011年　新たな福祉への挑戦　掲載（平成22年4月、機関誌）

武 邑　　光 裕

＜調査研究報告書＞「札幌駅前通地下歩行空間におけるコンテンツ供給及び番組編成に関する調査・研究業務」報告書（単著、平成22年3月30日、札幌市、pp.4-64）／ユネスコ創造都市ネットワーク加盟調査報告書（単著、平成22年3月30日、都市文化創造機構、1巻、1号、pp.6-19）
＜招聘講演＞創造都市における創造産業施策（平成22年7月22日、創造都市ネットワーク）
＜所属学会・研究会等＞American Computer Machinary（ACM）／文化経済学会／芸術科学会／日本予防医学リスクマネージメント学会
＜社会における活動＞中心市街地活性化人材育成委員会（経済産業省）／北海道商工振興審議会（北海道）／創造都市さっぽろ市民会議（札幌市）／ Film in 北海道ネットワーク委員会（北海道）／芸術文化創造都市ネットワーク会議（文化庁）／都心まちづくり市長特別顧問（札幌市）／札幌駅前地下歩行空間北2条コンテントアプリケーション検討委員会（札幌市）／全北海道広告協会　審査委員会　委員長／ NPO法人　都市文化創造機構　理事
＜地域貢献諸活動＞運営委員長（平成22年9月23日～ 10月3日、文化庁、札幌芸術文化財団、札幌メディアアートフォーラム）／副実行委員長（平成22年、札幌ビエンナーレプレ実行委員会、札幌ビエンナーレ・プレ企画実行委員会）／会長（平成22年、芸術の森協議会、芸術の森協議会）／創造都市さっぽろ市民会議ロゴ選定事業（平成22年8月、15名、札幌市）

＜専門職支援・セミナー講師等＞審査委員長：全北海道広告協会賞審査委員会委員長（平成22年6月、北海道広告業界、全北海道広告協会）／札幌地下歩行空間コンテントアプリケーション国際公募審査委員長：札幌地下歩行空間コンテントアプリケーション国際公募審査委員長（平成22年、国際公募者、札幌市）／創造都市さっぽろと地下歩行空間：創造都市さっぽろと地下歩行空間（平成22年9月、札幌市職員、札幌市）／地下歩行空間北2条コンテント公募審査委員会委員長：地下歩行空間北2条コンテント公募審査委員会委員長（平成22年11月、公募者、札幌市）
＜マスメディア掲載実績＞北海道新聞コラム「魚眼図」毎月連載、年12回（毎月1回、北海道新聞、夕刊）

羽深　久夫
＜学術論文＞今村天主堂建築工事における九州地方の建築職人･鉄川與助による施工管理の実態（共著、平成22年4月、日本建築学会、75巻、650号、pp.947-954）／1860年代から1950年代の写真資料におけるアイヌ民族の住居の外観的特徴（共著、平成23年3月、札幌市立大学、5巻、1号、pp.3-17）
＜解説文＞室礼にみる日本の美意識（単著、平成23年2月、札幌市立大学図書館、4号、pp.4-5）
＜論文査読＞札幌市立大学研究論文集（2件、札幌市立大学）／日本建築学会論文集（2件、日本建築学会）
＜所属学会・研究会等＞日本建築学会／建築史学会／日本生活文化史学会／日本家政学会／北海道考古学会
＜社会における活動＞札幌市文化財保護審議会（札幌市）／豊平館保存活用検討委員会委員（札幌市）／喜茂別町交流の森検討委員会委員長（喜茂別町）／札幌芸術の森運営協議会アドバイザー（札幌市芸術文化財団）／喜茂別町PRポスター作成委員会委員長（喜茂別町）／札幌市行啓通商店街振興組合「がんばる商店街活性化プランンづくり支援事業」委員（札幌市経済局）／喜茂別町都市再生整備計画（喜茂別市街地地区）事後評価委員会委員（喜茂別町）／札幌市南区シーニックバイウェイ検討協議会委員（札幌市南区）／札幌市南区シーニックバイウェイルート運営代表者会議委員（札幌市南区）／札幌市保養センター駒岡運営会議委員（札幌市福祉事業団）／札幌市南区シーニックバイウェイ地域づくり部会委員（札幌市南区）
＜地域貢献諸活動＞札幌市南区定山渓地区まちづくり協議会委員（通年、札幌市南区定山渓地区まちづくり協議会）／札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議　特別委員（通年、札幌市南区芸術の森地区まちづくり推進会議）／札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会委員（平成22年8月～平成23年2月、札幌市南区芸術の森地区「雪明かりの祭典」実行委員会）／札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会委員（平成22年4月～平成22年8月、札幌市南区「こまおか夏祭り」実行委員会）／札幌市南区石山地区まちづくり協議会委員（通年、石山商店街振興組合理事として）（札幌市南区石山地区まちづくり協議会）／NPO法人北の民家の会理事長・事務局（通年、NPO法人北の民家の会）／NPO法人日本民家再生リサイクル協会会員（通年、NPO法人日本民家再生リサイクル協会）／NPO法人アルテピアッツア美唄会員（通年、NPO法人アルテピアッツア美唄）／芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会会員（通年、芸術の森フラワーロードに花を咲かせる会）
＜専門職支援・セミナー講師等＞「古民家解体現場見学会」（参加者8名、日高門別町）／「農家住宅と納屋建築の実測調査見学会」（参加者16名、栗山町）／見学会「木を学ぼう＆炭鉱遺産を見てみよう」（参加者27名、美唄市･三笠市）／シンポジウム「ドイツに見る持続可能な林業とこれからの北海道の林業」（参加者72名、札幌市立大学サテライトキャンパス）
＜マスメディア掲載実績＞北海道の古民家事情　北海道新聞　夕刊　4/3　札幌圏7（北海道新聞）

原　　俊彦
＜著書＞原俊彦「第1章　人口減少と地域人口構造」、吉田良生･廣島清志編著、人口学ライブラリー9「人口減少時代の地域政策」、ISBN978-4-562-09172-0（共著、平成23年3月2日、原書房、pp.1-22）
＜実務関係報告書＞平成22年度 社会保障･人口問題基礎講座 配布資料（平成22年10月、㈶厚生統計協会）
＜書評＞書評：井上芳保【編】「セックスという迷路－セクシュアリティ文化の社会学」（長崎出版、2008年）（単著、平成22年6月、現代社会学研究（北海道社会学会）、23号、pp.111-113）
＜学会発表＞人口減少が地域社会に与える影響：札幌市の生産年齢人口と社会指標（単独、平成22年9

月3日、日本人口学会東日本部会）
＜論文査読＞家族社会学研究（№227）VOL.23（1件、日本家族社会学会）／人口問題研究（1件、国立社会保障・人口問題研究所）
＜所属学会・研究会等＞日本人口学会／日本社会学会／日本家族社会学会／北海道社会学会／日本情報考古学会／日本政治学会
＜社会における活動＞国立社会保障人口問題研究所　　研究評価委員（厚生労働省）
＜マスメディア掲載実績＞児童減手だてはどこに－マチの仕組み整えて（平成22年4月10日、北海道新聞、朝刊）／北海道の人口が30年後414万人に－再生可能地域に集中投資を（平成22年6月10日、道民雑誌クオリティ）／都会女性　農業男子に熱視線－不安定雇用、景気も影響（平成22年9月4日、北海道新聞、朝刊）

望月　澄人
＜著書＞Asia Network Beyond Design 2010 CHEONGJU（共著、平成22年9月、Asia Network Beyond Design、p.67）／ Asia Network Beyond Design 2010 TAIPEI NTUA（共著、平成22年9月、Asia Network Beyond Design、p.67）／ Asia Network Beyond Design 2010 YOKOHAMA（共著、平成22年10月、Asia Network Beyond Design、p.67）／ Asia Network Beyond Design 2010 TIANJIN（共著、平成22年11月、Asia Network Beyond Design、p.67）
＜作品発表＞The spectacle with rotted structure[sphere]（単独、平成22年9月、Asia Network Beyond Design 2010 清州展 忠北大学校ギャラリー）／ Asia The spectacle with rotted structure[Toric]（単独、平成22年9月、Network Beyond Design 2010 台北展 台湾芸術大学 真善美ギャラリー）／ The spectacle with rotted structure[cylinder]（単独、平成22年10月、Asia Network Beyond Design 2010 横浜赤レンガギャラリー）／ The spectacle with rotted structure[Hexahedron]（単独、平成22年11月、Asia Network Beyond Design 2010 天津美術学院ギャラリー）／チェス（立体作品）（単独、平成22年8月、地球色展 府中市美術館）／朽ち果てた構造物のある光景（CG B1 3点）（単独、平成22年8月、地球色展 府中市美術館）／朽ち果てた構造物のある光景（アニメーション）（単独、平成22年8月、地球色展 府中市美術館）
＜入選・受賞＞ANBD Excellent Award（平成22年9月、Asia Network Beyond Design）
＜所属学会・研究会等＞ディジタル・イメージ／ Asia Network Beyond Design

矢部　和夫
＜学術論文＞北海道勇払地方における安平川河道閉鎖後の残存フェン群落の種組成と分布パターンの変化（共著、平成22年5月、保全生態学研究、15巻、pp.29-38）／Fog deposition measurement in a wetland developed ata flat terrain in the Pacific coast of eastern Hokkaido, northern japan（共著、平成22年6月、Journal of Agircultural Meteorology、66巻、1号、pp.57-61）／Assessment of flora, plant communities and hydrochemical conditions for adaptive management of a small artificial wetland made in a park of a cool-temperate city（共著、平成22年6月、Landscape and Ecological Engineering、6巻、pp.201-210）／空中写真判読による1975年と2009年の間に起こったウトナイ湖とその周辺地域の植生変動の解析（共著、平成23年3月、SCUジャーナル、5巻、pp.35-44）
＜調査研究報告書＞重点領域特別研究北海道生物多様性保全モニタリングに関する研究（共著、平成23年3月、北海道環境科学研究センター、pp.13-32）
＜辞典＞生物学事典（共著、平成22年10月、10ワード、東京化学同人）
＜入選・受賞＞口頭発表賞（共著、平成22年10月、応用生態工学会）／論文賞（共著、平成23年2月、日本写真測量学会北海道支部）
＜学会発表＞ウトナイ湖北岸における河川改修・湖沼水位管理が氾濫源の水文環境と植生に与える影響（共同、平成22年9月、応用生態工学会）／北海道ウトナイ湖における高茎湿生草原の群落種組成と分布環境（共同、平成22年9月、日本湿地学会）
＜シンポジウム＞湿地をめぐる生態学と人文・社会科学の接点を探る（共同、平成22年3月、日本生態

学会）
＜論文査読＞湿地研究（2件、日本湿地学会）／保全生態学研究（2件、日本生態学会）／SCUジャーナル（1件、札幌市立大学）
＜所属学会・研究会等＞日本生態学会／日本造園学会／日本湿地学会／応用生態工学会／陸水学会／農業気象学会北海道支部会／ Internal Association of Vegatation Science
＜社会における活動＞植生凡例検討委員会（環境省）／釧路湿原自然再生協議会（環境省・国交省）／美々川自然再生事業美々川・ウトナイ湖WG（北海道）／安平川治水対策検討委員会（北海道）／植生管理アドバイザー（札幌市・札幌市公園緑化協会）／平岡公園原っぱ会議委員（札幌市・札幌市公園緑化協会）／円山動物園の森協議会（円山動物園）／ウトナイ湖ネイチャーセンター運営協議会委員（日本野鳥の会）／成東・東金食虫植物群落作業部会委員（千葉県山武市）／喜茂別交流の森検討委員（喜茂別町）
＜地域貢献諸活動＞サマーアートキャンプIN江別（江別市共催）の子どもキャンプのスタッフを務めた（平成22年7月28日～30日、金井正治、トライ☆アス☆カル2011実行委員会）／道内の自然を守る活動（常務理事）（通年、佐藤謙、北海道自然保護協会）／湿原植生のアドバイザーとしての役割（通年、堀本宏、キウシト湿原の会）

吉田　和夫
＜所属学会･研究会等＞東京グラフィックデザイナーズクラブ（TGC）／日本広告技術協議会（NAAC）
＜社会における活動＞札幌市都市景観審議会（札幌市）／札幌市広告アドバイザー会議（札幌市）／中央区まちづくりPRのイメージデザイン選考委員会（札幌市中央区）／広告電通賞 地区選考会審査委員長／株式会社電通／札幌駅前通地下広場 広告デザイン審査委員会 委員／ 札幌駅前通まちづくり株式会社／エコデザインプロジェクト実行委員および作品審査委員／エコデザインプロジェクト実行委員会
＜地域貢献諸活動＞札幌市中央図書館 定例朗読会（ろうどくの小径）への学生ポスターデザイン提供（平成22年3月～平成23年9月、10名、札幌市中央図書館）／ウロギネ女性の会巡回ポスター展への学生ポスターデザイン提供（平成22年8月～11月、6名、ウロギネ女性の会）／ジュニア・チャレンジ・ジャム・プロジェクト2010「直径10m世界最大の地球儀制作」への学生参加（平成22年9月、15名、札幌札幌芸術の森 他）／「葛西薫1968」展覧会設営学生ボランティア（平成22年4月、12名、札幌芸術の森）
＜専門職支援・セミナー講師等＞エコデザイン展 実行委員会委員および作品審査委員／広告電通賞 地区選考会審査委員長／札幌駅前通地下広場 広告デザイン審査委員会 委員

吉田　惠介
＜調査研究報告書＞北海道の景観資源整備にむけた風景イメージの研究（共著、平成23年1月25日、北海道開発協会、571号、pp.28-32）
＜その他の論文＞新市場を切り開くデザインとは（単著、平成23年1月1日、北海道中小企業家同友会、59号、pp.188-191）
＜解説文＞卒業制作作品について（単著、平成22年5月27日、環境デザイン部会、59号、pp.2-2）
＜学会発表＞小売販売食材からみた北海道の地域資源特性（共同、平成22年9月1日、日本造園学会北海道支部）
＜論文査読＞環境情報科学（1件、環境情報科学センター）
＜所属学会・研究会等＞日本造園学会／日本都市計画学会／日本農村計画学会／日本農村生活学会／デザイン学会／環境情報科学センター
＜社会における活動＞緑の審議会（札幌市）／銭箱風力発電所環境影響書案検証専門家会議（札幌市）／公園マネージメント評価委員（札幌市公園緑化協会）／都市景観アドバイザー（札幌市）／藻岩山魅力アップ構想環境配慮ガイドライン検討懇談会（札幌市）／北海道特定開発行為審査会（北海道）／評議員（札幌市芸術文化財団）／創成川アートワーク委員会（札幌市）／札幌市環境影響評価審議会（札幌市）／札幌市よさこいソーラン法被デザインアドバイザー（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞隊長として地域振興活動を行っている。（八剣山発見隊）／夏のサクランボ祭りの

企画と運営（さくらんぼ祭り）／ふるさと起業フォーラムの企画運営（ソーシャルビジネス創造産業コンソーシアム）

＜専門職支援・セミナー講師等＞札幌におけるグリーンデザイン（8月）／農村六起講演会／地域活性化と市民参加／札幌紹介施設用ハイビジョン映像コンテンツ制作に係る公募型プロポーザル事業者選定委員会／ふらっとホーム2010in南区　運営／ビジネスコンペティション審査（2月）／緑化ボランティア　コメンテーター／第二十八回全道経営者教育研究集会　運営、講師／コミュニティガーデン／八剣山周辺地域の地元資源とその活用／学生セッション審査（計画部門）／日米映画ポスター展

武田　亘明

＜その他の論文＞手書き入力・自動採点システムによる放課後自学自習用電子教材の開発（共著、平成22年7月3日、日本教育工学会、10巻、3号、pp.85-92）

＜所属学会・研究会等＞情報処理学会／日本教育工学会／日本教育情報学会／日本教育工学協会／北海道中国哲学会／教育とコンピュータ利用研究会

＜社会における活動＞北海道放課後子どもプラン推進委員会会長（北海道教育委員会）／北海道学校支援地域本部事業運営協議会会長（北海道教育委員会）／「視聴覚教育・情報教育功労者表彰」選考委員会委員（北海道教育委員会）／北海道立生涯学習センター業務委託契約に係る総合評価審査委員会委員長（北海道教育委員会）／札幌市市民情報センター指定管理者選定委員会委員長（札幌市）／札幌市市民情報センターあり方検討委員会副委員長（札幌市）／創造都市さっぽろ（Sapporo ideas city）グラフィックデザイン産業振興会議委員（札幌市）／札幌市立西岡小学校学校評議員（札幌市教育委員会）／北海道札幌藻岩高等学校学校評議員（札幌市教育委員会）

＜地域貢献諸活動＞理事：ホームページ作成更新（随時、北海道高齢者ハートフル共同住宅・地域ケア協議会）／事務局代表／遠隔共同学習環境の整備と運営、雪像制作および交流会の指導と運営（平成23年2月3日～6日、バーチャル雪祭り実行委員会、バーチャル雪まつりプロジェクト）／運営委員会副委員長／運営委員会運営および主催事業の運営（平成22年9月12日～13日、11月27日～28日、札幌メディアアートフォーラム運営委員会/SMFトライアル、SMFワークショップ、札幌メディア･アート･フォーラム運営委員会）／審査委員長／コンテストの運営、審査会主催、表彰と交流会の運営（平成22年10月2日・3日・8日、札幌国際短編映画祭実行委員会、札幌国際短編映画祭「アイアン・フィルムメーカー・コンテスト」審査委員会）／代表／ホームページ作成更新、メーリングリスト管理（随時、情報と教育フォーラム北海道「オンコの木」）／運営委員会委員長／ホームページ作成更新（随時、ハイパー風土記札幌 Inter City OROPPAS運営委員会）／事務局幹事／ホームページ作成更新、メーリングリスト管理（随時、ネットワーク・コミュニティ・フォーラム）

＜専門職支援・セミナー講師等＞基調講演：多世代間交流・組織横断交流、施設多目的化による地域の安全安心づくり～地域協働事業の意義～（平成23年2月26日、学校支援地域委員、稚内市教育委員会・稚内市子ども安全育成センター）／基調講演：学校支援ボランティアが学校と地域をつなぐ～地域協働事業の意義～（平成23年2月9日、学校支援地域委員、小平町学校支援地域教育協議会）／基調講演：地域コミュニティの活性化～学校の役割とこれから～（平成22年9月8日、北海道教育委員会職員、北海道教育委員会勉強会）／基調講演：メディア社会を生き抜くための力～学校の役割を見直す～（平成22年7月17日、小中学校教職員、北海道教育大学青陵会）

張　浦華

＜作品発表＞Flat Flower Bowl（共同、平成22年9月6日～9月15日、Asia Network Beyond Design2010, Cheongju（韓国SangMyung大学ギャラリー））／Candy Bowl（共同、平成22年9月18日～10月2日、Asia Network Beyond Design2010, Taipei（国立台湾大学ギャラリー））／Bowl on 3 Balls（共同、平成22年10月19日～25日、Asia Network Beyond Design2010, Yokohama（横浜レンガ倉庫ギャラリー））／Pickles Bowl（共同、平成22年11月23日～30日、Asia Network Beyond Design2010,Tianjin（天津美術学院ギャラリー））／札幌軟石釉鉢（単独、平成23年1月6日～11日、北海道陶芸作家協会展（札幌大同ギャラリー））

＜学会発表＞in a view 風景と小物のイメージを結びつけた収納用品の提案（共同、平成23年2月5日、

感性工学会）
＜論文査読＞感性工学会誌（1件、日本感性工学会）
＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／日本感性工学会
＜社会における活動＞札幌市円山動物園ホームページ編集委員会

細谷　多聞
＜学会発表＞自然を題材としたインタラクティブシステムの基礎的考察（単独、平成22年9月、日本感性工学会）／ラジコンカーを用いた遠隔現実の調査実験（共同、平成22年9月、日本感性工学会）／自己の体験を記録した写真に没入するための鑑賞装置の提案（共同、平成22年9月、日本感性工学会）／新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第4報（共同、平成22年12月、日本看護科学学会）
＜招聘講演＞デジタルの造形表現（単独、平成22年12月、日本図学会）
＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／芸術工学会／日本感性工学会／日本看護科学学会
＜社会における活動＞札幌スタイルブランドマネジメント委員会（札幌市）／札幌スタイル認証審査委員会（札幌市）／『北海道の食を愛するまち札幌』ウェブサイト審査委員会（札幌市）／札幌市円山動物園ホームページ編集委員会（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞理事（平成22年度、北海道デザインマネジメントフォーラム、北海道デザインマネジメントフォーラム）

町田　佳世子
＜学術論文＞動物園飼育体験における参加者の認知的・心理的変容とその要因の解明（共著、平成23年3月、札幌市立大学研究論文集、第5巻、第1号、pp.45-52）
＜調査研究報告書＞動物園飼育体験において知識の変容･感情をみちびく飼育員の役割と機能の解明(共著、平成23年3月）
＜入選・受賞＞ポスター優秀賞（平成22年6月、日本人間工学会第51回大会）
＜学会発表＞動物園飼育体験参加者の野生動物飼育に関する認識変化と飼育担当者の役割（共同、平成23年3月、第17回ヒトと動物の関係学会）／動物園1日飼育体験の満足度に影響する要因（共同、平成23年1月、第51回日本動物園水族館教育研究会北九州大会）／動物園1日飼育体験による大人と子供の動物に対する心理的変化（共同、平成22年6月、日本人間工学会第51回大会）／野生動物の世話に参加することによって得られるもの：動物園1日飼育体験から（共同、平成22年11月、日本質的心理学会第7回大会）／動物園における飼育体験を経験した市民の印象の変化：大人と子どもの印象の比較（共同、平成23年3月、第17回ヒトと動物の関係学会）
＜所属学会・研究会等＞日本コミュニケーション学会／ International Communication Association／ International Pragmatics Association／社団法人　大学英語教育学会／日本カリキュラム学会／日本動物園水族館教育研究会／日本質的心理学会／日本語用論学会
＜社会における活動＞札幌家庭裁判所参与員（裁判所）／財団法人札幌市水道サービス協会（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞企画委員長として5回の講演企画運営（平成22年6月、8月、平成23年1月、2月、3月、特定非営利活動法人日本BPW連合会札幌クラブ）
＜専門職支援・セミナー講師等＞フレッシュマン・コミュニケーションセミナー（平成22年4月2日、コミュニケーションとは、株式会社アイティ・コミュニケーションズ）／札幌市立大学公開講座　人をつなぐコミュニケーション－札幌市立大学における4つの取り組み－（平成22年12月2日、ゲームで考える小グループのコミュニケーション、札幌市立大学）

David Lindsay Wright
＜学術論文＞Unpacking Japan's 21st Century "National Conversation"：Images of the Future beyond the Iron Cage of the "Catch Up" Model（単著、平成22年6月、クイーンズランド工科大学大学院）
＜作品発表＞札幌市北2条地下歩行空間CGMコンテンツ「Sapporo World Window」制作（共同）
＜学会発表＞what the creative industries can/should do for climate change（単独、平成22年5月、Cli-

mate Change and Educational Future）／ Japan's Creative Industries：An Anomaly of the Evolutionary Species?（単独、平成22年4月、Creative3）
＜専門職支援・セミナー講師等＞株式会社クライストアドヴァン社内にて、社員向けの未来学ワークショップ（平成22年12月4日）／創造都市札幌シリーズ「Sci-fi City Sapporo」（平成23年2月28日、札幌市立大学公開講座）
＜マスメディア掲載実績＞SMALL TOWN BUOYANT（平成23年2月25日、IN-BUSINESS International Edge（NZ））

石田　勝也
＜作品発表＞サッポロビエンナーレプレ企画 ワークショップ映像制作
＜所属学会・研究会等＞芸術科学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞芸術の森で行われた本展覧会の運営：文化庁メディア芸術祭巡回企画展札幌展（平成22年10月23日　12日間、一般、文化庁メディア芸術祭巡回企画展札幌展実行委員会）／札幌市地下歩行空間北3条・大通りモニター運営事業者選定審査員：札幌地下歩行空間デジタルサイネージ管理運用業務選定審査会（平成23年1月31日、プロポーザル、札幌駅前通まちづくり株式会社）
＜マスメディア掲載実績＞Ustream配信特集（平成22年8月24日、北海道新聞、朝刊）／ Jpop・アニソンDJの現在（平成22年11月11日、北海道新聞、朝刊）

大渕　一博
＜調査研究報告書＞ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.1-51）
＜所属学会・研究会等＞電子情報通信学会／日本教育工学会／日本感性工学会／日本看護学教育学会
＜地域貢献諸活動＞円山動物園で上映する映像コンペの運営（平成23年3月9日、メッセージムービーサミット2011実行委員会［本学デザイン学部、札幌市円山動物園、北海道コカ・コーラボトリング㈱］）
＜専門職支援・セミナー講師等＞札幌イメージコーディネート研究会所属メンバーへの色彩分析ソフトウェア利用に関する個別指導等（不定期、札幌イメージコーディネート研究会メンバー）

柿山　浩一郎
＜学術論文＞Proposals for a Zoo Sign Scheme from the Standpoint of a Universal Design、予稿集（CD-ROM版）、O-076J（共著、平成22年11月、The 3rd International Conference for Universal Design）
＜調査研究報告書＞E-KANGO Project 2010　IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）の汎用性向上を目的とする調査研究とモデル構築（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.9-24）／ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究（共著、平成23年2月、札幌市立大学、pp.57-61）
＜作品発表＞translucent glass ball（単独、平成22年9月・10月・11月、Asia Network Beyond Design 清州展）／ translucent glass flower01（単独、平成22年9月・10月・11月、Asia Network Beyond Design 台北展）／ translucent glass flower02（単独、平成22年9月・10月・11月、Asia Network Beyond Design 横浜展）／ translucent glass bubble（単独、平成22年9月・10月・11月、Asia Network Beyond Design 天津展）
＜学会発表＞閲覧者の興味度抽出を目的とした、無意識動作計測実験システムの評価（単独、平成23年3月、日本感性工学会）
＜論文査読＞感性工学（1件、日本感性工学会）
＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／日本感性工学会／日本教育工学会
＜地域貢献諸活動＞企画運営委員として各種活動の企画運営を担当（NUDA 北のユニバーサルデザイン協議会）／ Sapporo Design Week 2010「点字アート×UDブックス」（企画・運営）（平成22年10月28日～ 11月3日、Sapporo Design Week、NUDA）／いきいき福祉2010 出展（展示パネル制作）（平成22年10月15日～ 17日、NUDA、NUDA）／赤平市医師確保ポスター制作プロジェクト 終了式（平成22年

4月14日、15名、札幌市立大学／赤平市）
＜専門職支援・セミナー講師等＞ANBD 2010 WebSite構築と、オンライン投稿システムの開発・運用、および、投稿データの精査：横浜展（平成22年10月19日～25日、世界のクリエータ、ANBD）
＜マスメディア掲載実績＞「医師不足の市立赤平病院　札市大生が募集ポスター」本学の赤平プロジェクトの紹介（終了式）（平成22年4月14日、STV どさんこワイド）／「医師不足の市立赤平病院　札市大生が募集ポスター」本学の赤平プロジェクトの紹介（終了式）（平成22年4月15日、北海道新聞、夕刊）／「札幌市立大学に感謝状」北海道ブランドロゴマークを本学が担当したことに対する知事からの感謝状贈呈式の紹介（平成22年8月12日、北海道新聞、朝刊）／「点字を音にしよう」NUDAスタッフとして運営したSDWのイベント紹介（平成22年11月4日、北海道新聞、夕刊）／「自宅と結ぶ遠隔看護」E-KANGOプロジェクトの紹介（平成23年2月3日、北海道新聞、朝刊）

小宮　加容子
＜学術論文＞Proposals for a Zoo Sign Scheme from the Standpoint of a Universal Design、O-076（共著、平成22年1月、The 3rd International Conference for Universal Design in HAMAMATSU 2010 Proceedengs）
＜学会発表＞授業を通じての授産施設製品提案（共同、平成22年6月、日本デザイン学会）／授産施設ブランド価格向上を目的としたデザイン提案（単独、平成22年8月、日本福祉まちづくり学会）／子育て支援ツールの提案－現代における模倣遊びの考察－（共同、平成22年9月、ヒューマンインタフェース学会）／親子のコミュニケーションを支援するツールの提案（共同、平成22年9月、ヒューマンインタフェース学会）
＜所属学会・研究会等＞ヒューマンインタフェース学会／計測自動制御学会／日本リハビリテーション工学協会／日本機械学会／日本福祉のまちづくり学会／日本感覚統合学会／日本デザイン学会／玩具福祉学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞研修会（サロン）企画・運営、デザインウィークイベントの企画・運営、いきいき福祉展の企画・運営：展示「UDブックスの世界」（平成22年10月28日～11月3日、市民、NUDA）／ワークショップ「点字を奏でてみよう！」（平成22年11月3日、市民、NUDA）／いきいき福祉2010「ユニバーサルプレイシング」（平成22年10月15日～17日、市民、NUDA）／2010年度NUDA通常総会（平成22年5月27日、NUDA会員、NUDA）／NUDAサロン「ユニバーサルウォーク～ノルディックウォーキングを楽しむ～」（平成22年9月20日、NUDA会員、一般、NUDA）／NUDAサロン「北の観光とユニバーサルデザイン」（平成23年3月17日、NUDA会員、一般、NUDA）
＜マスメディア掲載実績＞福祉用具もっと見やすく（平成22年7月9日、北海道新聞、朝刊）／大学生の感性でカワイイ木工品（平成22年5月22日、北海道新聞、朝刊）／福祉用具　札幌市立大学が展示案（平成22年8月18日、北海道新聞、朝刊）／点字を音にしよう（平成22年11月4日、北海道新聞、朝刊）／案内版誰もがみやすく（平成22年11月30日、北海道新聞、朝刊）／円山動物園迷わないね（平成22年12月10日、北海道新聞、朝刊）／ベビーカー雪上でも（平成23年1月3日、北海道新聞、朝刊）／車いす試乗できます（平成23年1月17日、北海道新聞、朝刊）／雪道用ベビーカー　そろり出発（平成23年1月18日、北海道新聞、朝刊）／雪道でのベビーカー（平成23年1月17日、STV　どさんこワイド）／福祉用具展示ホールリニューアル（平成23年1月5日、STV　どさんこワイド）

斉藤　雅也
＜学術論文＞生体と観覧者の行動に基づく動物飼育展示施設のデザイン評価－札幌市円山動物園　類人猿館改修デザインを事例として－（共著、平成22年5月、日本建築学会計画系論文集、75巻、651号、pp.1043-1052）
＜著書＞エクセルギーと環境の理論－流れ・循環のデザインとは何か－改訂版（共著、平成22年9月、井上書院）／Human-Body Exergy Balance and Thermal Comfort（共著、平成22年8月、IEA ECBCS Annex49、pp.1-38）
＜調査研究報告書＞札幌市円山動物園受託研究報告書（単著、平成23年2月、札幌市立大学、

pp.1-38）／㈱飯田ウッドワークシステム受託研究報告書（共著、平成23年2月、札幌市立大学、pp.1-80）／日本建築学会北海道支部特定課題研究報告書（共著、平成23年3月、日本建築学会北海道支部特定課題研究委員会、pp.1-44）

＜学会発表＞ヒトの視的・温熱的快適性と環境調整行動に関する研究（共同、平成22年7月、日本建築学会北海道支部研究発表会）／ヒトが快適・不快に感じる想像温度と実際室温の関係－夏季の札幌・熊本の小学児童を対象にして－（共同、平成22年7月、日本建築学会北海道支部研究発表会）／ヒトの温度感覚と環境調整行動に関する研究（その5. 昼光照明下でのヒトの明るさ感・温冷感と明るさの調整行動）（単独、平成22年9月、日本建築学会大会学術講演会）／ヒトの温度感覚と環境調整行動に関する研究（その4. 冬季札幌の戸建住宅における被験者実験）（共同、平成22年9月、日本建築学会大会学術講演会）／ヒトが快適・不快に感じる温度の地域性に関する研究（夏季の札幌・熊本の小学児童を対象にして）（共同、平成22年9月、日本建築学会大会学術講演会）／札幌・福井における冬季入浴時の室温変化に対する高齢者の血圧変化（共同、平成22年9月、空気調和・衛生工学会学術講演会）／ヒトの温熱的快・不快と想像温度・実際室温　札幌と熊本の小学児童を対象にして（共同、平成22年9月、空気調和・衛生工学会学術講演会）／新生児型感性教材モデルの開発（共同、平成22年9月、日本感性工学会大会）／札幌･福井における高齢者の冬季入浴時の室温変化に対する血圧変化（共同、平成22年10月、日本公衆衛生学会総会）／夕張市における高齢者の住宅内温熱環境についての冬期実態調査（共同、平成22年10月、日本公衆衛生学会総会）／気象条件・死亡場所が死亡原因に与える影響（共同、平成22年10月、日本公衆衛生学会総会）／温熱的快・不快の地域性に関する研究－札幌と熊本の小学児童を対象にして－（共同、平成22年10月、日本公衆衛生学会総会）／新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第4報　試作モデル表面温と被験者の手の表面温の関係（共同、平成22年12月、日本看護科学学会学術集会）／札幌市立大学図書館の壁面緑化･日射遮蔽のデザインと性能検証（共同､平成23年2月、日本感性工学会感性フォーラム札幌2011）／低体温と温冷感・温熱快適性に関する研究（共同、平成23年2月、日本感性工学会感性フォーラム札幌2011）／人体エクセルギー消費に基づく2030年の寒冷地の暖房に関する一考察（単独、平成23年2月、日本感性工学会感性フォーラム札幌2011）／札幌市立大学図書館の壁面緑化・日射遮蔽のデザインと性能検証（共同、平成23年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）／中学校校舎における生徒の「感覚-行動」プロセスの調査研究－エコ改修された黒松内中学校を事例として－（共同、平成23年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）／低体温と温冷感・温熱快適性に関する研究（共同、平成23年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）／夏季の温熱的不快感・想像温度の地域性に関する研究－札幌・熊本の小学児童を対象として－（共同、平成23年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）／夕暮れ時のヒトの明るさ感と視的快適性の解明（共同、平成23年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）／夕張市における高齢者の住宅内温熱環境に関する研究 その1 実測調査を用いた季節による比較（共同、平成23年3月、空気調和・衛生工学会北海道支部学術講演会）

＜論文査読＞日本建築学会環境系論文集（2件、日本建築学会）／札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）

＜学会の抄録査読＞日本建築学会大会学術講演梗概集（プログラム編成）（30件、日本建築学会）

＜所属学会・研究会等＞日本建築学会／空気調和・衛生工学会／日本太陽エネルギー学会／日本デザイン学会／日本感性工学会／日本公衆衛生学会／日本看護科学学会／北海道住まい・環境教育学会／北海道自然エネルギー研究会／ Low-Ex Net.（Network of International Society for Low Exergy Systems in Buildings）／ PLEA（Passive and Low Energy Architecture）

＜社会における活動＞LCCM住宅研究・開発委員会　LCCM住宅設計部会（国土交通省）／ BIS試験講習委員会（北海道）／「札幌版次世代住宅基準」に関する技術検討会議（札幌市）

＜専門職支援・セミナー講師等＞第3回　北海道の住まいづくりについて考える住まい　身体と心の健康－住宅の壁面温度コントロールと快適性－（平成22年7月19日、室蘭市民会館、建築技術者向け、北海道トップランナーネットワーク構築会議）／これでいいの？福井の住まいと健康（平成22年9月12日、医療従事者向け、福井大学医学部研修センター、NPO法人お風呂ネットふくい）／高断熱・高気密住宅に必要な涼房の仕掛け（平成22年10月19日、札幌エルプラザ、建築技術者向け、NPO法人パッシブ

システム研究会）／BIS認定養成・更新講習会（平成23年1月11日、建築技術者向け、いわて県民情報交流センター、社団法人北海道建築技術協会・東北電力盛岡営業所）／BIS認定更新講習会（平成23年2月18日、建築技術者向け、北海道水産ビル、社団法人北海道建築技術協会）／ヒトの想像温度と人体エクセルギー消費に基づく2030年の住宅暖房に関する一考察（平成23年3月20日、建築技術者向け、日本建築学会北海道支部特定課題研究住環境影響の実態把握委員会公開シンポジウム）
＜マスメディア掲載実績＞円山動物園　爬虫類館が来春一新　冬眠や繁殖 舞台裏を公開（平成22年4月6日、北海道新聞、朝刊）／涼呼ぶカーテン長～い27メートル　キュウリやゴーヤ 札市大ゼミで研究（平成22年8月20日、北海道新聞、朝刊）／涼しげ　手作り休憩所　黒松内中生が木製デッキ（平成22年9月7日、北海道新聞、朝刊）／エアコンで暖房（平成22年9月28日、リプラン北海道）／大学の「知恵」を地域に還元－伝道者は工務店（平成22年12月22日、北海道建設新聞）

那 須　　聖
＜学術論文＞空間的な継承と変容　札幌市立大学芸術の森キャンパスの空間的図式と大学院デザイン研究科棟の建築（単著、平成23年3月、札幌市立大学、5巻、pp.19-34）
＜学会発表＞架構形式による建築空間と環境の関係 ピロティに類する架構によって形成される建築的環境と周辺環境の構成（単独、平成22年7月、日本建築学会北海道支部）／設計過程に関する言説の様相的側面（単独、平成22年9月、日本建築学会）／経験を生み出す装置としての建築　住宅を含む複合施設における形式的差異にみる用途のあらわれ方（共同、平成22年9月、日本建築学会）／表現としてみた時間経過による建築の風化や劣化（共同、平成22年9月、日本建築学会）／札幌市立大学大学院デザイン研究科（共同、平成22年12月、日本建築学会北海道支部）
＜論文査読＞札幌市立大学研究論文集（1件）
＜所属学会・研究会等＞日本建築学会／形の科学会／北海道芸術学会
＜社会における活動＞札幌市都市景観審議会委員（札幌市）／札幌市都市景観審議会景観まちづくり部会委員（札幌市）／札幌市都市景観審議会景観デザイン部会委員（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞景観デザイン部会委員およびまちづくり活動への参加（札幌南シーニックバイウェイルート運営者代表会議）
＜専門職支援・セミナー講師等＞商店街活性化のための支援

福 田　大 年
＜著書＞名刺ワンダーランド－ごあいさつのデザイン 名刺から自社ツールまで：Nice To Meet You Too（共著、平成22年8月、パイインターナショナル、pp.99-99）
＜調査研究報告書＞札幌市立大学 E-KANGO Project 2010 IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）の汎用性向上を目的とする調査研究　枝幸町保健福祉センターと在宅療養者世帯を対象としたIT活用による遠隔看護シミュレーション（共著、平成23年3月、札幌市立大学、1巻、1号、pp.27-29）
＜実務関係報告書＞札幌アートディレクターズクラブ年鑑2008 付属CD-ROM（共著、平成22年5月、札幌アートディレクターズクラブ、pp.1-1）
＜作品発表＞LINE1（共同、平成22年9月、Asia Network Beyond Design　2010）／LINE2（共同、平成22年9月、Asia Network Beyond Design　2010）／LINE3（共同、平成22年9月、Asia Network Beyond Design　2010）／LINE4（共同、平成22年9月、Asia Network Beyond Design　2010）／「パン工房ひかり」との協同プロジェクトの成果（共同、平成22年11月、第24回北海道技術・ビジネス交流会“ビジネスEXPO”）／LINE1（共同、平成22年9月、札幌アートディレクターズクラブ コンペティション＆アワード2009）／LINE2（共同、平成22年9月、札幌アートディレクターズクラブ コンペティション＆アワード2009）／LINE3（共同、平成22年9月、札幌アートディレクターズクラブ コンペティション＆アワード2009）／LINE4（共同、平成22年9月、札幌アートディレクターズクラブ コンペティション＆アワード2009）
＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会／情報文化学会
＜社会における活動＞パーソナルアシスタンス制度PRポスター選定委員会（札幌市）／札幌メディア・

アート・フォーラム運営委員／札幌アートディレクターズクラブ クラブ委員
＜地域貢献諸活動＞札幌医科大学・北海道医療大学共催の「メディカル・カフェ」のデザイン制作をする本学デザイン学部生をサポート（平成22年4月～8月、札幌医科大学･北海道医療大学、札幌医科大学･北海道医療大学）／団体の運営および公式WEBサイトを企画し、運営をサポート、作品出品も行う（通年、札幌アートディレクターズクラブ、札幌アートディレクターズクラブ）／団体の運営および一部のイベントの企画･運営を担当（通年、札幌メディア･アート･フォーラム、札幌メディア･アート･フォーラム）
＜専門職支援・セミナー講師等＞美術展（種目：絵画・美術工芸・書・写真）の審査員：第38回北海道青年祭 兼 第59回全国青年大会予選会（平成22年8月7日～8日、北海道青年団体協議会の会員、北海道青年団体協議会）／企画開発中の商品のパッケージデザインに関するアドバイス：平成22年度地域こだわり食品発掘総合支援事業　地域こだわり食品相談会（平成22年8月30日～31日、道内の食品開発販売系企業、北海道 商工局産業振興課）／学内デザインコンペの審査員：学内デザインコンペ「芦部トウモロコシパッケージデザイン」（平成22年9月9日、札幌市立大学デザイン学部生、札幌市立大学）／「イベント用タペストリ」のデザインマネジメント（学生のデザイン制作をサポート）
＜マスメディア掲載実績＞中小企業家しんぶん「ブランド開発技術研修会」に関する記者レポート（平成22年4月15日、中小企業家しんぶん、朝刊）

松井　美穂
＜解説文＞日本アメリカ文学会北海道支部第145回研究談話会の報告　http://www.jin.hokkai-s-u.ac.jp/~honjo/hamlits/sessmtng/100731rep.htm（平成22年7月、北海道アメリカ文学会）
＜書評＞塚田幸光著『シネマとジェンダー ――アメリカ映画の性と戦争』（単著、平成23年3月、『北海道アメリカ文学』、27号、pp.90-92）
＜学会発表＞「Taming of the Tomboy and Her Queer Resistance:Reading the Unspoken Fear/Desire in *The Member of the Wedding*－マッカラーズの『結婚式のメンバー』再読」（単独、平成22年6月、日本アメリカ文学会北海道支部第150回研究談話会）／「南部のVirginityをめぐって－NewmanのKatharineとFaulknerのCaddy」（単独、平成22年10月、日本ウィリアム･フォークナー協会第13回全国大会）／“Exploring Southern Queerness-Desire and Identity in *Reflections in a Golden Eye*”（単独、平成23年2月、Carson McCullers:An Interdisciplinary Conference and 94th Birthday Celebration）
＜シンポジウム＞シンポジウム・タイトル：「LSD（Literary Sustainable Development）：持続可能な発展のための英文学研究」、発表タイトル 「ジェンダーと文学」（単独、平成22年10月、日本英文学会北海道支部大会第55回大会）
＜所属学会･研究会等＞日本アメリカ文学会／日本英文学会／北海道アメリカ文学会／日本ウィリアム･フォークナー協会／ Carson McCullers Society ／アメリカ学会

三谷　篤史
＜学術論文＞Optimization of Photothermal Oscillators Based on Thermal Diffusion Analysis（共著、平成23年3月、International Journal of Optomechatronics、5巻、1号、pp.1-14）／ Feeding Submillimeter Microparts Using An Asymmetric Fabricated Surface With Symmetric Vibrations：Effects of Feeder Surface Materials on Feeding（共著、平成23年2月、Key Engineering Materials、467巻、pp.1297-1302）
＜学会発表＞デザイン学部におけるメカトロ教育－PICマイコンを用いたLEDの点灯制御による時の経過の表現（共同、平成22年6月、Robomec2010）／ロボット・トライアスロンにおけるロボットのデザイン性追求（共同、平成22年6月、Robomec2010）／北海道の地域性を生かした積み木融合型ロボット玩具の開発－シマフクロウをモチーフとしたプロトタイプロボットの検討－（共同、平成22年6月、Robomec2010）／デザイン学部におけるロボティクス教育－ロボットキットを用いた動物ロボットのデザイン－（単独、平成22年9月、RSJ2010）／非対称形状表面によるマイクロパーツの対称振動輸送第8報－フィーダ表面の材質が輸送特性におよぼす影響の検証（共同、平成22年12月、SICE SI2010）／ Feeding Submillimeter Microparts Using An Asymmetric Fabricated Surface With Symmetric Vibra-

tions：Effects of Feeder Surface Materials on Feeding（共同、平成23年1月、ICMMA2011）／光刺激を用いたディストラクションツールの開発　OHPを用いた試作ツールのモニター実験（共同、平成23年2月、感性フォーラム札幌2011）／光熱振動子の最適化とエネルギー変換効率の評価（共同、平成22年9月、第71回応用物理学会学術講演会）／ Thermal Diffusion Simulations for Photothermal Oscillators（共同、平成22年10月、ISOT2010）
＜論文査読＞Procs. International Conference on Robotics and Biomimetics（2件、IEEE）／ Procs. International Conference on Intelligent Robots and Systems（1件、IEEE/RSJ）
＜所属学会・研究会等＞日本機械学会／日本ロボット学会／精密工学会／計測自動制御学会／日本デザイン学会／ IEEE（米国電気電子学会）/ IEEE Robotics and Automation Society
＜地域貢献諸活動＞道内学生ロボコン「ロボット・トライアスロン」組織運営。第10回記念大会参加（平成22年10月16日、12名、ロボット・トライアスロン実行委員会、ロボット・トライアスロン実行委員会）
＜専門職支援・セミナー講師等＞道内のトライボロジ関連企業・研究者が所属する研究会における活動（平成22年4月～ H23年3月）／道内の光技術関連企業・研究者が所属する研究会における活動（平成22年4月～ H23年3月）／ウェブサイトへの学生作品の掲載：http://www.rolanddg.co.jp/3d_education/example/sapporo_univ.html（平成22年7月）／サッポロ・ロボットコーナーにおける展示活動（平成22年4月～ H23年3月）

山 田　　良
＜学術論文＞風景の見せ方に関する考察　その2－ノルウェー・フィヨルド海岸沿いの屋外彫刻プロジェクト群を通じて－（単著、平成22年5月1日、環境芸術学会、9号、pp.87-92）／風景を喚起させる空間インスタレーション論－鑑賞者を包み込む環境芸術　その1－（単著、平成22年5月、環境芸術学会、9号、pp.53-56）／風景を成す場としての環境芸術－その空間構造（単著、東京藝術大学大学院、p.93）
＜著書＞Street Furniture（共著、平成22年5月、BRAUN Publishing、pp.87-88）
＜作品発表＞日常における変異（単独、平成22年7月、ロシア・ノヴォシビルスク屋外空間デザイン展）／ Infinite Landscape（単独、平成22年5月、北海道立体表現展）／ Stave Air（単独、平成23年3月、札幌駅前通り地下歩行空間開通記念50m美術館）／小さな森のギャラリー（共同、平成22年8月、定山渓アート縁日）
＜入選・受賞＞グッドデザイン賞（日本産業デザイン振興会）
＜学会発表＞環境芸術の諸相なるもの（単独、平成22年10月、環境芸術学会）
＜招聘講演＞アートによる地域再生（単独、平成22年10月、JIA北海道支部）
＜所属学会・研究会等＞環境芸術学会／東京藝術大学・空間研究会／アメリカ・ランドスケープデザイン学会
＜地域貢献諸活動＞定山渓アート縁日の企画・実施（平成22年4月～ 9月、定山渓観光協会、定山渓アート縁日実行委員会）／さっぽろシャワー通りの施設整備・運営（平成22年4月～ 11月、さっぽろシャワー通り商店街、シャワー通り商店街）
＜マスメディア掲載実績＞小樽アートプロジェクト（平成23年4月14日、北海道新聞、朝刊）／関口美術館Emerging Landscape（平成23年5月24日、北海道新聞、朝刊）／さっぽろシャワー通り（平成23年5月10日、北海道新聞、朝刊）／北海道立体表現展の作品（平成23年6月18日、北海道新聞、朝刊）／ノボシビルスクでの活動（平成23年9月18日、北海道新聞、朝刊）／研究室作品展（平成23年2月19日、北海道新聞、朝刊）

上 田　　裕 文
＜学術論文＞森林浴イメージを構成する空間条件に関する研究（共著、平成23年2月、日本造園学会、4巻、pp.1-6）
＜著書＞The Image of The Forest（単著、平成22年6月、Südwestdeutsche Verlag für Hochschulschriften）
＜調査研究報告書＞路面電車を活用した魅力的な都市空間形成に関する研究（共著、平成23年3月）／

寿都における地域活性化資源（ヒト・モノ・コト・バショ）の調査と利用方法の提案（共著、平成23年3月）／北海道型クアオルト形成にむけた国民保養温泉地の空間構造分析（共著、平成23年3月）
＜学会発表＞Ways of Seeing the Forest－Landscape Image Sketches in Japan and Russia（共同、平成22年5月、Monitoring and Management of Visitors Flows in Recreational and Protected Areas）／樹木葬墓地の近年の展開に関する研究（共同、平成22年9月、日本造園学会北海道支部）
＜シンポジウム＞Wahrnehmung von Waldlandschaften（単独、平成22年9月、Darueber hinaus－Raum und Landscchaft anders betrachtet）／Landscape Image Sketches of Forest（共同、平成22年5月、日本造園学会ミニフォーラム）
＜論文査読＞日中韓国際ランドスケープ専門家会議公募論文集（1件、日中韓国際ランドスケープ専門家会議）／技術報告集６（1件、日本造園学会）／研究発表論文集（2件、日本造園学会）
＜所属学会・研究会等＞日本造園学会／日本都市計画学会／農村計画学会／日本観光研究学会
＜社会における活動＞上山型温泉クアオルト推進員アドバイザリーフェロー（山形県上山市）
＜地域貢献諸活動＞地域活性化フォーラムの企画運営および参加（平成23年3月13日、寿都町企画課、寿都町）

片山　めぐみ
＜学術論文＞ヒグマ飼育展示施設における環境エンリッチメントのデザイン（共著、平成23年2月、日本建築学会技術報告集、17巻、35号、pp.289-292）／生体と観覧者の行動に基づく動物飼育展示施設のデザイン評価－札幌市円山動物園　類人猿館改修デザインを事例として－（共著、平成22年5月、日本建築学会計画系論文集、75巻、651号、pp.1043-1052）
＜調査研究報告書＞「環境エンリッチメント」に基づく動物園の飼育展示施設デザインに関する研究、(2)アジア館にかかるデザイン監修（単著、平成23年2月、札幌市立大学、pp.1-100）／寿都町における地域活性化資源（ヒト・モノ・コト・バショ）の調査と利用方法の提案（単著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.1-90）
＜学会発表＞札幌円山動物園「エゾヒグマ館」の新築基本計画（共同、平成22年7月、日本建築学会北海道支部研究報告集）／動物園デザインにおける評価グリッド法を用いた展示コンセプトづくり（単独、平成22年6月、日本展示学会）
＜シンポジウム＞札幌円山動物園「エゾヒグマ館」の新築基本計画（共同、平成22年11月、SAGA（Support for African/Asian Great Apes））
＜論文査読＞ランドスケープ研究（1件、日本造園学会）／札幌市立大学研究論文集（1件、札幌市立大学）
＜所属学会・研究会等＞日本建築学会／日本造園学会／日本福祉のまちづくり学会／日本展示学会／日本動物心理学会／人間環境学会
＜社会における活動＞大規模小売店舗立地法専門家会議（札幌市）／学生まちづくりコミュニケーションツール検討会（札幌市）／「学生まちづくりコンテスト」審査委員会（札幌市）／建築部プロポーザル選定委員会（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞円山動物園リスタート計画　展示デザイン監修・飼育員とのデザインワークショップ開催／寿都町地域活性化資源の調査と利用方法の提案　住民ワークショップ開催・フォーラム企画運営
＜専門職支援・セミナー講師等＞コミュニティ・レストラン北海道フォーラム講師

須之内　元洋
＜調査研究報告書＞札幌駅前通地下歩行空間におけるコンテンツ供給及び番組編成に関する調査・研究業務報告書（共著、平成23年3月、札幌市）
＜実務関係報告書＞札幌駅前通地下歩行空間 北2条地下広場 管理システム及びコンテンツアプリケーション詳細要件（単著、平成22年4月、札幌市）
＜解説文＞2011年、美術の展望（単著、平成23年1月、大日本印刷）
＜招聘講演＞ネットを活用した持続的博物館メディアの可能性（単独、平成23年1月、日本博物館協会）
＜所属学会・研究会等＞ACM／芸術科学会／情報処理学会／日本サウンドスケープ協会

＜地域貢献諸活動＞学生参加イベントの企画･運営、産官学連携イベントの企画運営（通年、札幌メディア･アートフォーラム、札幌メディア･アートフォーラム）／巡回展準備･運営、パネルディスカッション「つながりの中のネットアート」コメンテータ等（平成22年6月～11月、文化庁メディア芸術祭巡回企画展実行委員会、文化庁メディア芸術祭巡回企画展実行委員会）／総務省補助事業「食とICT」による「地域の健康と安心安全ブランドの推進」経済活性化事業（平成22年9月～平成23年3月、ICT（情報通信技術）による食と健康の地域づくり推進協議会、ICT（情報通信技術）による食と健康の地域づくり推進協議会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞北2条公共メディア空間 国内公募PRコンテントアプリケーション審査委員　国際公募コンテントアプリケーション審査委員：北2条公共メディア空間 国内公募PRコンテントアプリケーション審査委員　国際公募コンテントアプリケーション審査委員（平成22年8月～12月）／国際学術交流に関するポータルサイト再構築に関する提言、仕様策定、公募審査：国際学術交流に関するポータルサイト再構築に関する提言、仕様策定、公募審査（平成22年5月～9月）

＜マスメディア掲載実績＞北2条公共メディア空間デジタルサイネージ（システム設計・コンテントマネジメントを担当）（道内 テレビ/新聞多数）／古ぼけた消火器、懐かしのプラモ…パチリ＊携帯端末使い稚内PR＊ブロガー対象に講習会（平成22年12月24日、北海道新聞、朝刊）

長谷川　聡

＜学術論文＞「光で創る持続可能性社会の構築～色素増感太陽電池による首都高速道路ジャンクションのデザイン Traffic Stent」（共同研究、平成23年2月、首都大学東京 産業技術大学院大学）

＜著書＞「DESIGNER'S FILE 2011」（共著、平成22年3月、ソフトバンククリエイティブ株式会社）

＜他大学紀要＞「中小企業向け貸し出し用“展示キット”の開発」（共著、平成22年9月、首都大学東京 産業技術大学院大学）

＜実務関係報告書＞第1回太陽電池パブリックアートコンテスト入賞作品集／ ENEOS 編（共著、平成22年12月、エネオス（JX 日鉱日石エネルギー株式会社）、pp.27-27）／デザインウェーブ in TOYAMA 2010報告集（共著、平成23年2月、富山県、pp.30-30）／住まいのインテリアコーディネーション2010 入賞作品集（共著、平成22年10月、社団法人 インテリア産業協会、pp.10-10）

＜解説文＞アルトピア／作品表紙掲載及びデザイナー紹介（単著、平成22年4月、カロス出版）

＜作品発表＞t-pod（単独、平成22年9月、GOOD DESIGN EXPO 2010、財団法人 日本産業デザイン振興会主催）／ eGG-pod（単独、平成22年10月、デザインウェーブin TOYAMA 2010／富山県主催）／ night cloud（単独､平成22年10月､「神戸＋デザイン／ Exit to Safety」展／神戸市主催）／ D lounge（単独、平成22年10月、住まいのインテリアコーディネーション2010年入賞展・入賞作品巡回展、社団法人 インテリア産業協会主催）

＜入選・受賞＞2010 ENEOS 第1回 太陽電池パブリックアートコンテスト エネオス賞（平成22年6月、ENEOS 太陽光パブリックアートコンテスト事務局）／ SANYO ソーラーエネルギー論文コンクール 2010 佳作（平成22年10月､三洋クリーンテクノロジー財団）／ 2010年度 芸術工学会 奨励賞（共同研究：長谷川聡 他4名、平成23年3月、芸術工学会）

＜所属学会・研究会等＞日本デザイン学会 正会員／日本感性工学会 正会員／日本建築学会 正会員／芸術工学会 正会員／日本インダストリアルデザイナー協会 正会員／同 キッズデザイン部会／同 災害問題研究会

＜マスメディア掲載実績＞札幌手稲高校「学び体験ゼミ」（全5回）特別講師（平成23年2月21日、北海道新聞、朝刊）／製品デザイン論（杉教授）ベビーカー評価実験補佐（平成23年1月20日、STV どさんこワイド）／「アルトピア 表紙：作品紹介､デザイナー紹介及び解説文（平成22年4月「アルトピア」（アルミニウム業界専門紙）、カロス出版 pp.1-2）

看護学部

中村　恵子

＜著書＞ファーストエイド（共著、平成22年11月、へるす出版）／外傷初期ガイドライン（DVD-ROM付）（共著、平成22年10月、へるす出版）

＜研究成果発表＞平成20年～22年文部科学省科学研究費補助金　基盤研究(C)　最終報告書「看護基礎教育におけるOSCEを用いた成人看護実践能力評価プログラムの開発」（研究代表者、平成23年3月、総ページ数80頁）

＜実務関係報告書＞学年別OSCEの到達度評価と教育法の検討　最終報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.7-11、発行責任者）

＜学会発表＞会長講演；基礎教育と臨床教育の接点を強化する方法論（単独、平成22年12月、JANS30）／看護OSCE実施前後における模擬患者の心身の状態に関する研究（共同、平成22年12月、JANS30）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、JANS30）／看護学部の人材育成連携活動の中間評価（共同、平成22年12月、JANS30）／3年次成人看護OSCEにおける模擬患者の心理・身体的疲労に関する研究（共同、平成22年10月、JANS30）／臨床看護師の「看護過程・カンファレンス研修」受講後の思考過程の変化（共同、平成22年12月、JANS30）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの検討（共同、平成22年12月、JANS30）／OSCEにおける学生の認識－参加学生の面接調査より－（共同、平成22年12月、JANS30）／OSCEの評価基準に影響を与える要因の検討（共同、平成22年12月、JANS30）／会長講演「スキルミクスから考えるチーム医療と人材育成」（単独、平成22年7月、第6回クリティカルケア看護学会）／客観的臨床能力試験（OSCE）へ参画する模擬患者からみた学生の看護実践能力（共同、平成22年12月、JANS30）

＜招聘講演＞基礎教育と臨床をつなぐもの（平成22年10月、第14回日本救急看護学会学術集会）

＜論文査読＞日本集団災害救急医学会誌（3件、日本集団災害医学会）／日本災害看護学会誌（2件、日本災害看護学会）

＜学会の抄録査読＞第14回日本看護管理学会年次大会（4件、日本看護管理学会）

＜所属学会・研究会等＞一般社団法人　日本救急看護学会代表理事・評議員／一般社団法人　日本臨床救急医学会理事・評議員／日本集団災害医学会　評議員／日本看護管理学会　監事・評議員／日本看護診断学会理事・評議員／日本災害看護学会　評議員／日本クリティカルケア看護学会　理事・評議員／日本看護科学学会評議員／日本ヒューマンケア科学学会評議員／日本健康科学学会／日本看護教育学会／日本看護研究学会／日本老年看護学会／日本集中治療医学会／日本がん看護学会／日本医療・病院管理学会／地域の包括的な医療に関する研究会　理事／動作介助研究会　理事／日本看護科学学会第30回学術集会長／日本クリティカルケア看護学会第6回学術集会長

＜社会における活動＞医道審議会（厚生労働省）／重症度・緊急度の判定・選別（トリアージ）に関する作業部会（総務省消防庁）

＜地域貢献諸活動＞理事、研修会等の企画運営、講師など（NPO法人地域医療を考える）／理事、研修会等の企画運営、講師（NPO法人動作介助研究会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞ファーストレベル講師：平成22年度認定看護管理者教育制度ファーストレベル教育課程研修講師「看護管理概説」（平成23年1月11日・14日、3月3日・5日、社団法人北海道看護協会）／ファーストレベル講師:平成22年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程講師「看護管理概説」（平成22年7月3日、社団法人青森県看護協会）／救急看護師の役割と学会の活動：救急看護セミナー「救急医療の変遷と救急看護師の役割」（平成22年6月27日、一般社団法人日本救急看護学会）／救急看護師の役割と学会の活動：救急看護セミナー「救急看護師の役割」（平成23年1月22日、一般社団法人日本救急看護学会）／救急看護師の役割と学会の活動:基礎病態セミナー「救急看護師の役割」（平成23年2月5日、一般社団法人日本救急看護学会）／看護職員研修会：職員教育研修講師「看護管理について」（平成22年8月3日、登別厚生年金病院）／トリアージの基本：平成22年度日本赤十字北海道看護大学看護開発セミナーキャリアアップセミナー講師「救急患者のケアマネージメント実践講座Ⅰ」（平

成23年1月29日、日本赤十字北海道看護大学）／トリアージナースに求められる能力とは－産婦人科救急トリアージコーディネーター認定教習：トリアージコーディネーター認定講座講師「トリアージナースに求められる能力とは」（平成23年1月7日、㈱シャイニング）／慶応義塾大学救急医学講座：私が歩んだ救急看護から／日本看護協会認定看護師認定制度委員会　委員長／日本看護協会専門看護師認定実行委員会　委員

＜マスメディア掲載実績＞教育者の眼；季刊誌連載　年4回（現代社：綜合看護）／新たな認定看護分野「慢性心不全看護」（Nursing Today2010年7月号（25巻、8号）、pp.6-8）／新たな認定看護分野「慢性呼吸器疾患看護」（Nursing Today2010年8月号（25巻、9号）、pp.6-8）

スーディ神崎　和代

＜学術論文＞Falls and the factors affecting falls among community dwelling older adults in Okikamuro and Iwasaki, Japan（単著、平成23年2月、筑波大学大学院、pp.1-97）／在宅分野の看護技術に関する学生の実習経験状況と臨地指導の諸要因（共著、平成23年3月、札幌市立大学、5巻、1号、pp.53-60）

＜調査研究報告書＞E-KANGO Project 2010 IT活用による遠隔看護システム（E-KANGO）の汎用性向上を目的とする調査研究（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.1-58）

＜実務関係報告書＞学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討：最終報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.38-41）

＜学会発表＞Electronic distance system, E-KANGO-model simulaiton and assessment（共同、平成23年3月、11th National Rural Health in AU）／在宅ケア従事者の自立型継続学習モデル構築に向けた教育支援（共同、平成22年7月、第20回看護教育学会学術集会）／在宅ケア従事者の自立型継続学習モデル構築に向けての基礎調査（共同、平成22年10月、第20回看護教育学会学術集会）／ E-KANGO北海道における訪問看護利用者を対象とした遠隔看護ニーズとIT環境調査（共同、平成22年9月、第5回日本ルーラルナーシング学会）／ E-KANGO北海道における訪問看護事業所を対象とした遠隔看護ニーズとIT環境調査（共同、平成22年9月、第5回日本ルーラルナーシング学会）／在宅看護学習における学生の基礎看護技術経験状況（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／日本と中国河北省における高齢者在宅ケア比較（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会）／認知症高齢者の妄想・混乱の軽減を図る対応（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会）／認知症高齢者を対象とした音楽アクテビティ（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会）／ IT活用した遠隔看護システムに対するシュミレーション後の利用者評価（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会）

＜シンポジウム＞E-health in practice（共同、平成23年3月、11th National Rural Health Conference in AU）

＜招聘講演＞認知症予防・遅延について（単独、平成22年11月、神鋼ケアライフ）／有料老人ホーム事業における経営（単独、平成22年9月、財団法人安寿苑）／ 2010年時点での認知症（平成22年7月、日本認知症グループホーム協会）／認知症（痴ほう症）－看護学の視点から－（平成22年6月17日、中国承徳医学院教員・学生、承徳医学院）

＜学会の抄録査読＞e ーラーを活用した新人看護師の基礎看護技術の効果に関する研究（1件、第20回日本看護教育学会）／新任保健師の職務満足度に関連する要因（1件、第20回日本看護教育学会）

＜所属学会・研究会等＞日本在宅ケア学会／ルーラルナーシング学会／日本看護科学学会／日本看護教育学会／ National Association for Healthcare Quality ／国際感染管理学会／日本プライマリ・ケア連合学会／北海道公衆衛生協会

＜専門職支援・セミナー講師等＞夕張市が実施する高齢者支援政策への支援と指導：平成22年9月1日～平成24年3月31日　まで1回/2カ月で定期的に指導・会議参加／ Recommendations to Rural Health Improvement：オーストラリア国厚生大臣に対して：proposed recommendations to the state, manufactures, and rural health professionals（平成23年3月16日、Ministry of Health in AU、National Rural Health Asscoation）／在宅看護学：対象論講義：対象者論（平成22年10月19日＆21日、在宅看護養成講座受講者、北海道看護協会）

＜マスメディア掲載実績＞自宅と結ぶ遠隔看護（平成23年2月3日、北海道新聞、朝刊）

山本　勝則

＜学会発表＞クリティカルケアに従事する看護師のメンタルヘルス（指定交流集会）（共同、平成22年7月、第6回日本看護クリティカルケア学会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）による学生の評価と今後の課題（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルOSCE実施に対する評価（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）実施に向けた準備および模擬患者との調整（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／妊娠・産褥期における描画によるリラクセーション効果の検討（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／3年次成人看護OSCEにおける模擬患者の心理・身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護OSCE実施前後における模擬患者の心身の状態に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）

＜論文査読＞精神保健科学研究誌（他大学紀要相当）（1件、熊本保健科学大学）／SCU JURNAL OF DESIGN & NURSING（1件、札幌市立大学）

＜専門職支援･セミナー講師等＞看護研究の基礎講義、研究指導、発表の講評：看護研究Ⅰ（1）講義「看護研究を進めるために」（平成22年7月8日、看護師、大野病院看護部）／看護研究の基礎講義、研究指導、発表の講評：看護研究Ⅰ（2）「看護研究指導」（平成22年8月2日、看護師、大野病院看護部）／看護研究の基礎講義、研究指導、発表の講評：看護研究Ⅰ（3）「看護研究指導」（平成22年10月21日、看護師、大野病院看護部）／看護研究の基礎講義、研究指導、発表の講評：平成22年度院内看護研究発表会（平成23年2月10日、看護師、大野病院看護部）／看護研究の基礎講義、研究指導、発表の講評：研究指導（来学･メール）（平成22年5月～平成23年2月、看護師、大野病院看護部）／臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座：臨床看護師のための指圧マッサージ（平成22年9月6日、看護師）

宮﨑　みち子

＜実務関係報告書＞学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討（共著、平成23年3月、札幌市立大学看護学部、pp.24-29）

＜学会発表＞看護実践における倫理的ジレンマと「看護者の倫理綱領」（共同、平成22年8月、第18回世界医事法学会）／子どもの権利と入院環境（共同、平成22年8月、第18回世界医事法学会）／客観的臨床能力試験（OSCE）へ参画する模擬患者からみた学生の看護実践能力（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会）／OSCEにおける学生の認識－参加学生の面接調査より－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会）／OSCEの評価基準に影響を与える要因の検討（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会）

＜学会の抄録査読＞第25回日本助産学会学術集会集録（2件、日本助産学会）／第21回日本看護学教育学会学術集会（2件、日本看護学教育学会）

＜所属学会・研究会等＞日本助産学会／日本助産師会／日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／日本看護倫理学会／国際看護研究会／北海道公衆衛生学会／北海道母性衛生学会／日本医事法学会／日本生命倫理学会／性と健康を考える女性専門家の会

＜地域貢献諸活動＞胎児と女性の支援（平成22年度、円ブリオ北海道、円ブリオ北海道）／市内在住の留学生支援（北海道国際女性協会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞北海道看護協会会員の研修／十代の性の健康を考えるネットワーク作り事業

＜マスメディア掲載実績＞札幌市立大学助産学専攻科の紹介（平成22年8月号、ベストナース）／札幌市立大学助産学専攻科の紹介（平成22年4月16日、北海道医療新聞）

内田　雅子

＜学術論文＞生活史の編み直し（単著、平成22年12月、日本慢性看護学会誌、4巻、2号、pp.49-51）

＜著書＞看護実践に活かす中範囲理論　第Ⅱ章9 危機的人生移行モデル（共著、平成22年6月、メヂカ

ルフレンド社、pp.160-184）
＜学会発表＞OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発への取り組み～周手術期看護OSCE課題の作成と実施評価～（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会成人Ⅰ）／3年次看護OSCEにおける模擬患者の疲労に関する研究（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会成人Ⅰ）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／客観的臨床能力試験（OSCE）へ参画する模擬患者からみた学生の看護実践能力（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／3年次成人看護OSCEにおける模擬患者の心理・身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの検討－OSCE課題の反復練習による達成度の変化－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEにおける学生の認識－参加学生の面接調査より－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEの評価基準に影響を与える要因の検討（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護学部の人材育成連携活動の中間評価～臨床看護師の批判的思考と自律性に及ぼす影響（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／臨床看護師の「看護過程・カンファレンス研修」受講後の思考過程の変化（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜シンポジウム＞シンポジウム1 慢性看護の知の体系化をめざして 生活史の編み直し（recasting biography）（単独、平成22年6月、日本慢性看護学会）／研究交流ワークショップ 看護実践における事例研究 その2－事例報告から事例研究へ－（共同、平成22年6月、日本慢性看護学会）
＜論文査読＞日本赤十字看護学会誌（1件、日本赤十字看護学会）／北里看護学誌（1件、北里大学）／札幌市立大学紀要（1件、札幌市立大学）
＜学会の抄録査読＞第4回日本慢性看護学会学術集会（5件、日本慢性看護学会誌）／第6回日本クリティカルケア看護学会学術集会（5件、日本クリティカルケア看護学会）
＜所属学会・研究会等＞日本看護協会／日本看護科学学会／日本慢性看護学会／日本赤十字看護学会／日本透析医学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞保健師助産師看護師実習指導者講習会／看護研究指導

河野　總子
＜学会発表＞看護管理者が副院長である施設と看護部長である施設の職務満足感の比較検討（共同、平成22年8月1日、第14回日本看護管理学会）／看護管理者が副院長である施設と看護部長である施設の組織コミットメントの比較検討（単独、平成22年10月1日、第49回日本医療病院管理学会）／大学教員との連携を体験した看護師が捉える“教員の持つべき臨床能力”の様相（共同、平成22年12月1日、第40回日本看護科学学会）
＜専門職支援・セミナー講師等＞認定看護管理者制度教育機関担当者会議でのワークショップ：サードレベル教育の報告と今後の課題（平成22年8月4日、認定看護管理者制度教育機関担当者、日本看護協会）／目標管理とキャリア開発　10/29　講演：目標管理とキャリア開発－人材の確保と育成－（平成22年10月29日、新日鉄総合病院看護師、新日鉄病院看護部）／「職場環境と人材育成」－ワーク・ライフ・バランス－講演　看護管理認定教育「ファーストクラス」看護の質・看護記録：「職場環境と人材育成」－ワーク・ライフ・バランス－（平成22年7月24日、第4支部看護師会員、北海道看護協会第4支部）／看護の質・看護記録（平成23年2月9日／10日）

坂倉　恵美子
＜学術論文＞札幌・福井における冬季入浴時の室内変化に関する高齢者の血圧（共著、平成22年9月、第22回空気調和・衛生工学会大会学術講演論文集、pp.255-258）／札幌・福井における高齢者の冬季入浴時室温変動に対する血圧変動（共著、平成22年10月、日本公衆衛生学会、総会、pp.703-721）
＜調査研究報告書＞科学研究費補助金研究成果報告書「客観的臨床能力試験による卒業時看護技術評価に向けた教授法（共著、平成22年6月、科学研究費補助金21年度報告書）／科学研究費補助金22年度報告書（共著、平成22年5月、科学研究費22年度報告書）／科学省就業力GP22年度報告書（共著、平成22

年11月、科学研究費22年度報告書）
＜その他の論文＞特別豪雪地帯に居住する高齢者の主観的幸福感に関する研究（平成23年3月、札幌市立大学研究論文集）
＜学会発表＞模擬患者養成コースの試み－市民ボランティアの参画（共同、平成22年8月、日本看護学教育学会第20回学術集会）／積雪寒冷地域に居住する高齢者の主観的幸福感に関連する要因（共同、平成22年8月、第39回日本看護学会老年看護学会学術集会）／積雪寒冷地における後期高齢者の外出および近隣との付き合い行動に関する研究（共同、平成22年9月、日本建築学会学術講演梗概集）／看護学生の高齢者イメージの変化に関する研究（共同、平成21年11月、日本老年看護学会第14回学術集会）／積雪過疎地域に居住する高齢者の生活行動範囲と主観的幸福感（共同、平成21年11月、日本老年看護学会第14回学術集会）
＜論文査読＞天使大学紀要編集委員会より依頼査読（1件、天使大学紀要）／名寄市立大学編集委員会より依頼査読（1件、名寄市立大学紀要）／札幌市立大学編集委員会より査読依頼（1件、札幌市立大学研究紀要）
＜学会の抄録査読＞第30回看護科学学会学術集会講演集（1件、日本看護科学学会）／第20回日本看護学教育学会誌（1件、日本教育学学会）
＜所属学会・研究会等＞日本看護研究学会／日本看護科学学会／日本公衆衛生学会／日本地域看護学学会／日本看護教育学会／日本家族看護学会／日本高齢者虐待学会／日本ルーラル学会／日本看護技術学会
＜社会における活動＞札幌市介護保険認定審査会の審査委員（札幌市）／札幌市社会福祉協議会の評議委員（札幌市）／北海道建築審査会の建築審査委員（北海道庁）
＜地域貢献諸活動＞小学校跡の高齢者の生活拠点つくり（平成23年3月17日、札幌市市民まちづくり局、札幌市市民まちづくり局都市計画部地域計画課）／もみじ台の地域の大広間　イベント開催協力（同上団体）（平成22年10月31日、札幌市市民まちづくり局）

定廣　和香子
＜学会発表＞Safety Management Behaviors of Nurses in Japanese Clinical Settings（共同、平成22年7月、The Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International. 21st International Nursing Research Congress（米国：フロリダ））／チュートリアル方式による教育的支援技術教育プログラムの開発－第2報－（共同、平成22年10月、日本看護技術学会第9回学術集会（名古屋））／看護師の安全管理行動に関する研究－診療の補助業務を実施する場面に焦点を当てて（共同、平成22年12月、日本看護科学学会第30回学術集会）／Important Factors Associated with the Excellence in Nursing Practice：Focused on the Nurses with More Than 10 Years of Clinical Experiences in Japan（共同、平成22年7月、The Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International. 21st International Nursing Research Congress）／虚血性心疾患患者の発作時の自己対処を支援するフローチャート式退院指導資料の検討（共同、平成22年7月、日本クリティカルケア看護学会第6回学術集会（札幌））
＜論文査読＞札幌市立大学研究論文集（1件）／日本看護学教育学会誌（1件、日本看護学教育学会）／看護教育学研究（1件、日本看護教育学学会）／名寄市立大学紀要（1件）／Japan Journal of Nursing Science（1件、日本看護科学学会）
＜学会の抄録査読＞日本看護学教育学会誌（3件）／看護教育学研究（1件）
＜所属学会・研究会等＞日本看護教育学学会／日本看護学教育学会／日本看護技術学会／日本看護科学学会／医療の質・安全学会／日本クリティカルケア看護学会

樋之津　淳子
＜実践報告書＞学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討　平成22年度　最終報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.15-19、pp.83-114、pp.230-230）
＜実務関係報告書＞新しい医学教育の流れ'09秋　第34回医学教育セミナーとワークショップの記録（共著、平成22年5月、岐阜大学医学教育開発研究センター、pp.116-117）
＜学会発表＞看護教育における学年別客観的能力試験（OSCE）の実施と検証（共同、平成22年8月、

日本看護学教育学会第20回学術集会）／OSCEにおける学生の認識－参加学生の面接調査より－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜論文査読＞日本看護研究学会学会誌（1件、日本看護研究学会）／看護人間工学研究誌（2件、日本人間工学会）／SCU JOURNAL（1件）
＜所属学会・研究会等＞日本看護研究学会／日本保健医療行動科学会／日本人間工学会／日本老年泌尿器科学会／日本泌尿器科学会／日本がん看護学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本看護技術学会／日本コンチネンス協会
＜社会における活動＞科学研究費専門委員（独立行政法人日本学術振興会）／大学設置・学校法人審議会専門委員（文部科学省）
＜専門職支援・セミナー講師等＞北海道ブロック研修会講師：看護実践能力を高める教育方法・教育効果について（平成22年11月6日、看護学校教員、一般社団法人日本看護学校協議会）／本学OSCEの実施運営と教育効果についてのヒアリング：学年別OSCEの導入と実際（平成23年1月30日、文部科学省看護学コアカリキュラム研究班）
＜マスメディア掲載実績＞週刊医学界新聞　座談会「臨床試験がかなえる看護師の新たなステージ」（平成22年7月19日、新聞）

松浦　和代
＜学術論文＞思春期女子における月経の実態と月経教育に関する調査研究（共著、平成22年4月、母性衛生、51巻、1号、pp.111-118）
＜調査研究報告書＞平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業 札幌市立桑園小学校における「地域・保護者と連携協議した健康・安全教育の推進」 受託研究実施報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.1-17）／平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業 札幌市立石山小学校における「地域・保護者と連携した健康・安全教育の推進」 受託研究実施報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.1-21）
＜その他の論文＞外国人研修員との宿泊交流により大学が得た成果（共著、平成22年9月、看護教育、51巻、9号、pp.795-797）
＜実務関係報告書＞新しい医学教育の流れ’09秋　第34回医学教育セミナーとワークショップの記録（共著、平成22年5月、岐阜大学医学教育開発センター、pp.113-115）
＜学会発表＞新生児型感性教材モデル一次試作品のホールディングの分析（共同、平成22年6月、日本看護研究学会第20回北海道地方会学術集会）／e-Learningを用いた小児看護学領域の自己学修教材の利用状況からみた有効性の検討（共同、平成22年6月、第20回日本小児看護学会学術集会）／交流セッション10　看護学教育における学年別客観的臨床能力試験（OSCE）の実施と検証（共同、平成22年8月、第20回日本看護学教育学会学術集会）／新生児型感性教材モデルの開発（共同、平成22年9月、第12回日本感性工学会大会）／JICA青年研修にて研修員が「成果」として捉えたもの（共同、平成22年9月、国際看護研究会第13回学術集会）／OSCEを用いた小児看護実践能力の評価－平成21年度課題の実施状況と成績の分析－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討　第4報　試作モデル表面温と被験者の手の表面温の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／A report on a trial evaluation of the degree of difficulty of Objective Structured Clinical Examination（共同、平成23年2月、14th East Asian Forum of Nursing Scholars）／光刺激を用いたディストラクションツールの開発（共同、平成23年2月、日本感性工学会感性フォーラム2011）
＜シンポジウム＞第30回日本看護科学学会学術集会・日本看護系大学協議会FD委員会共同開催フォーラム「看護学の将来を担う次世代のためのFDのあり方」（平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜論文査読＞日本小児看護学会誌（2件、日本小児看護学会）／病気の子どもと医療・教育（1件、全国病弱教育研究会）
＜学会の抄録査読＞第20回日本看護学教育学会学術集会抄録集（4件、第20回日本看護学教育学会学術

集会）／第20回日本小児看護学会学術集会抄録集（4件、第20回日本小児看護学会学術集会）
＜所属学会・研究会等＞日本小児看護学会／日本小児保健学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本母性衛生学会／全国病弱教育研究会
＜地域貢献諸活動＞研修会企画・運営（平成22年11月21日、卒業後の医療的ケアを考えようネット）
＜専門職支援・セミナー講師等＞臨床指導者研修：「はじめての臨地実習指導」「実習指導の難しさを感じていませんか？」（平成22年5月1日・12月7日）／臨床指導者研修：「臨床実習指導研修」（平成22年5月10日）

大野　夏代
＜その他の論文＞「看護における指圧・マッサージ研修会」18年の成果と課題（共著、平成22年4月、日本看護技術学会誌、9巻、1号、pp.38-40）／外国人研修員との宿泊交流により大学が得た成果（共著、平成22年9月、看護教育、51巻、9号、pp.795-797）
＜学会発表＞看護学教育における学年別臨床能力試験（OSCE）の実施と検証－OSCEの実施評価（共同、平成22年8月、日本看護学教育学会第20回学術集会）／JICA青年研修にて研修員が「成果」として捉えたもの（共同、平成22年9月、国際看護研究会第13回学術集会）／OSCEにおける学生の認識－参加学生の面接調査より（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEの評価基準に影響を与える要因の検討（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／客観的臨床能力試験（OSCE）へ参画する模擬患者からみた学生の看護実践能力（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／A report on a trial evaluation of the degree of difficulty of Objective Structured Clinical Examination（共同、平成23年2月、14th East Asian Forum of Nursing Scholars）
＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／国際看護研究会／日本看護学教育学会／国際看護交流協会／日本国際保健医療学会／日本渡航医学界／日本人間工学会／日本人間工学会看護人間工学部会／看護における指圧マッサージ研究会
＜専門職支援・セミナー講師等＞講師「臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座」：臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座（平成22年9月6日～7日、看護職、札幌市立大学）／看護部新卒入職者面談：看護部新卒入職者面談（平成22年7月1日・7月9日・11月11日・12月10日、看護師、IMSグループ病院）

清水　光子
＜学術論文＞育児支援が必要な家族への保健師のケアマネジメントの過程と構造（単著、平成23年3月、札幌医科大学）
＜その他の論文＞外国人研究員との宿泊交流により大学が得た成果（共著、平成22年9月、看護教育、51巻、9号、pp.795-797）
＜実務関係報告書＞学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.24-29）／学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.164-165）
＜学会発表＞看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／客観的臨床能力試験へ参画する模擬患者からみた学生の看護実践能力（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEにおける学生の認識－参加学生の面接調査より－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEの評価基準に影響を与える要因の検討（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／JICA青年件研修にて研修生が「成果」としてとらえたもの（共同、平成22年9月、国際看護研究会第13回学術集会）
＜所属学会・研究会等＞日本地域看護学会／日本看護科学学会／日本公衆衛生学会／北海道公衆衛生学会／北海道衛生公衆衛生セミナー
＜社会における活動＞札幌市地域包括支援センター運営協議会委員（札幌市）／社会福祉法人　札幌市中央区社会福祉協議会理事（札幌市）／札幌市中央区桑園地区民生委員・児童委員推薦準備会委員（札

幌市）
＜地域貢献諸活動＞第7回桑園地区子ども大縄跳び大会（平成22年8月28日、桑園地区青少年育成委員会、桑園地区連合町内会）／第22回桑園地区文化祭（設営）（平成22年10月16日、桑園地区連合町内会）／第7回桑園地区子ども大縄跳び大会（平成22年8月28日、7名、桑園地区青少年育成委員会）／第22回桑園地区文化祭（設営）（平成22年10月16日、5名、桑園地区連合町内会）
＜専門職支援・セミナー講師等＞新任保健師研修：地区活動のめざすもの（平成22年10月29日、採用1～3年目の保健師、札幌市保健所）／平成22年度北海道看護協会通常総会並びに北海道看護研究学会の協力（平成22年5月、看護協会会員、社団法人北海道看護協会）

守 村　　洋
＜その他の論文＞北海道における退院促進事業の現状と課題（単著、平成22年12月、ベストナース12月号、21巻、12号、pp.15-16）
＜解説文＞抑うつ状態、うつ病の人への関わり方（単著、平成23年3月、かっこう3月号、78号、pp.4-6）
＜学会発表＞「自殺未遂者への対応（手引き）」を活用した自殺予防・相談支援従事者（専門職者）の自殺に対する態度の変容（共同、平成22年9月、第34回日本自殺予防学会総会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルOSCE実施に対する評価（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）による学生の評価と今後の課題（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）実施に向けた準備および模擬患者との調整（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／「A REPORT ON A TRIAL EVALUATION OF THE DEGREE OF DIFFICULTY OF OBJECTIVE STRUCTURED CLINICAL EXAMINATION」（共同、平成23年2月、14th East Asian Forum of Nutisng Scholars）
＜シンポジウム＞北海道における退院促進事業の現状と課題（共同、平成22年11月、日本アディクション看護学会第9回学術集会北海道大会）／日本臨床救急医学会自殺企図者のケアに関する検討委員会の取り組み（共同、平成22年11月、第23回日本総合病院精神医学会総会）
＜論文査読＞熊本保健科学大学研究誌（1件、熊本保健科学大学）
＜学会の抄録査読＞第42回日本看護学会・精神看護・学術集会（12件、北海道看護協会）
＜所属学会・研究会等＞産業保健師メンタルヘルス研究会／北海道ナラティヴ研究会／札幌市社会福祉協議会／日本看護科学学会
＜社会における活動＞札幌市地域福祉権利擁護事業審査会（札幌市）／札幌市社会福祉総合センター運営委員会（札幌市）
＜地域貢献諸活動＞精神障害者当事者会への助言指導（平成22年度、NPO法人すみれ会、NPO法人すみれ会）／第13回さっぽろ・こころの健康まつり企画運営（平成22年度、さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会、さっぽろ・こころの健康まつり実行委員会）／北海道精神障害者回復者クラブ連合会総会および社会復帰促進会参加（平成22年7月11日、北海道精神障害者回復者クラブ連合会、北海道精神障害者回復者クラブ連合会）
＜専門職支援・セミナー講師等＞精神障害者への薬物療法とその副作用：精神障害者への薬物療法とその副作用（平成22年8月26日、介護福祉士、ヘルパー、札幌市在宅福祉サービス協会）／自殺予防に関する啓蒙・啓発キャンペーンのための質問・取材への協力：自殺予防に関する啓蒙・啓発キャンペーンのための質問・取材への協力（平成22年8月18日～10月31日、一般市民、株式会社ピーアールセンター）／自殺予防に対しての取材：自殺予防に対しての取材（平成22年6月25日、道新読者、北海道新聞社）／看護研究助言指導講師：看護研究助言（平成22年8月～平成23年3月、市立病院静療院看護師、札幌市病院局市立札幌病院静療院）／職場環境改良研修「自分のため、チームのためのストレスマネジメント」：自分のため、チームのためのストレスマネジメント（平成22年11月25日、社会福祉施設従事者、ほくろう福祉会）／平成22年度札幌市自殺予防人材育成研修「救急看護師のための自殺未遂者ケア」：救急看護師のための自殺未遂者ケア（平成23年2月10日、救急看護師、札幌市保健福祉局精神医療担当部）／平成22年度地域密着型自殺対策事業における自殺予防講演会「自殺への周囲の気づきと対応」：自殺への周囲の気づきと対応（平成23年3月19日、西区民、札幌市西区保健福祉部）／自殺を試みた人への対応：

自殺を試みた人への対応（平成23年2月19日、北海道臨床心理士会会員、北海道臨床心理士会）／高齢者精神看護の知識：高齢者精神看護の知識（平成23年2月19日、社会福祉施設従事者、北斗人材教育プラン）／第352回精神療養講座「抑うつ・うつ病の人への関わり方」：抑うつ・うつ病の人への関わり方（平成23年2月26日、札幌市民、札幌市精神障害者家族連合会）／精神疾患を持つ人への自殺予防：精神疾患を持つ人への自殺予防（平成23年2月15日、南区地域精神保健福祉連絡会、札幌市南区保健福祉部）
＜マスメディア掲載実績＞札幌市社会福祉総合センター「福祉用具展示ホール」のリニューアルに向けた検討（平成22年7月9日、北海道新聞、朝刊）／札幌市社会福祉総合センター「福祉用具展示ホール」のリニューアルに向けた検討（平成23年1月5日、STVテレビ）

吉川　由希子
＜調査研究報告書＞札幌市立石山小学校における「地域・保護者と連携した健康・安全教育の推進」（共著、平成23年3月31日、平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業報告書）／札幌市立桑園小学校における「地域・保護者と連携協議した健康・安全教育の推進」（共著、平成23年3月31日、平成22年度札幌らしい特色ある学校教育事業報告書）
＜その他の論文＞看護OSCEの取り組み（共著、平成22年11月1日、看護職のための専門情報誌ベストナース、21巻、11号、pp.155-163）
＜学会発表＞e-Learningを用いた小児看護学領域の自己学修教材の利用状況からみた有用性の検討（共同、平成22年6月、日本小児看護学学会第20回学術集会）／新生児型感性教材モデルの開発（共同、平成22年9月、第12回日本感性工学会大会）／ OSCEを用いた小児看護実践能力評価－平成21年度課題の実施状況と成績の分析（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／新生児型感性教材モデル一次試作品のホールディングの分析（共同、平成22年6月、日本看護研究学会第20回北海道地方会学術集会）／ Concept Analysis of Children's Decision Making in Health Care（共同、平成23年2月、14th East Asian forum of Nursing scholars）／看護OSCE実施前後における模擬患者の心身の状態に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／ 3年次成人看護OSCEにおける模擬患者の心理･身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討第4報　試作モデル表面温と被験者の手の表面温の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜論文査読＞本学紀要第1部（1件）
＜所属学会・研究会等＞小児保健学会／日本看護研究学会／日本家族看護学会／日本小児看護学会／日本看護科学学会／日本学校保健学会／日本母性衛生学会／日本助産学会／日本看護学教育学会／全国病弱教育研究会
＜社会における活動＞北海道看護協会学会委員
＜地域貢献諸活動＞糖尿病サマーキャンプ　医療ボランティア（平成22年8月6日～ 8月9日、北海道つぼみの会）／難病のこどものサマーキャンプ　医療ボランティア（平成22年8月22日～ 8月25日、そらぷちキッズキャンプ）
＜専門職支援・セミナー講師等＞看護研究の講義：「臨床における看護研究と研究計画書」（平成22年6月29日、看護職員、札幌徳洲会病院）／看護研究の講義：「看護研究の実践〈データ収集と分析〉」（平成23年2月19日、看護職員、市立室蘭総合病院）／研究学会の論文指導：平成23年度北海道看護研究学会研究指導（平成23年2月21日～ 3月25日、看護職員、北海道看護協会）／看護研究の研究指導（平成22年4月1日～平成23年3月31日、看護職員、札幌徳洲会病院）

菊地　ひろみ
＜学術論文＞Impact and characteristics of quality of life in Japanese patients with multiple sclerosis（共著、平成22年11月、Quality of life Research Journal、20号、pp.119-131）／在宅分野の看護技術に関する学生の実習経験状況と臨地指導の諸要因（共著、平成23年3月、札幌市立大学研究論文集、5巻、1号、pp.53-60）
＜調査研究報告書＞E-KANGO Project 2010「IT活用による遠隔看護サービス（E-KANGO）の汎用性

向上を目的とする調査研究」事業法報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学平成22年度学長裁量研究報告書）
＜学会発表＞在宅ケア従事者の自立型継続学習モデル構築に向けての基礎調査（共同、平成22年7月、第30回日本看護学教育学会）／在宅ケア従事者の自立型継続学習モデル構築に向けた教育支援（共同、平成22年7月、第30回日本看護学教育学会）／ E-KANGO　北海道における訪問看護事業所を対象とした遠隔看護ニーズとIT環境調査（共同、平成22年9月、日本ルーラルナーシング学会第5回学術集会）／ E-KANGO　北海道における訪問看護利用者を対象とした遠隔看護ニーズとIT環境調査（共同、平成22年9月、日本ルーラルナーシング学会第5回学術集会）／在宅看護学実習における学生の基礎看護技術経験状況（共同、平成22年12月、日本看護科学学会第30回学術集会）／日本と中国河北省における高齢者在宅ケアの比較（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会学術集会）／ ITを活用した遠隔看護システム（E-KANGO）に対するシミュレーション後の利用者評価（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会学術集会）／ Electronic distance nursing system-E-KANGO－model simulation and assessment－（共同、平成23年3月、11th National Rural Health Conference）
＜所属学会・研究会等＞日本看護学教育学会／看護総合科学学会／日本難病看護学会／日本看護科学学会／日本在宅ケア学会／日本プライマリ･ケア学会／日本ルーラルナーシング学会／市民と共に創るホスピスケアの会／日本訪問看護振興財団／難病医療政策ネットワーク／札幌ホスピス緩和ケアネットワーク
＜地域貢献諸活動＞ぐるっと桑園ウォークラリー（平成22年7月25日、桑園地区連合町内会）／桑園文化祭（平成22年10月16日～ 17日、桑園地区連合町内会）
＜専門職支援･セミナー講師等＞管理者研修における講義:訪問看護と看護理論の活用（平成22年10月）／訪問看護師養成研修講師：訪問看護師養成研修（平成22年12月）／公開講座　企画運営：訪問看護スキルアップ講座　part1 part2（平成22年5月・11月）／看護研究の研究指導（平成22年4月1日～平成23年3月31日、看護職員、札幌徳洲会病院）
＜マスメディア掲載実績＞枝幸町におけるE-KANGOのシミュレーションに関する新聞報道（北海道新聞、朝刊）

菅原　美樹
＜著書＞改訂DVD-ROM付　外傷初期看護ガイドライン（共著、平成22年10月、へるす出版、pp.240-242）／ファーストエイド（共著、平成22年11月、へるす出版、pp.97-103）／急変対応マニュアル（共著、平成22年11月、照林社、pp.192-199）
＜学会発表＞クリティカルケア領域での看取りのケア－家族の立場から見取りのケアを考える－（単独、平成22年7月、第6回日本クリティカルケア看護学会）／ OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラム開発への取り組み－周手術期看護OSCE課題の作成と実施評価－（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会－成人看護Ⅰ－）／ JNTECプロバイダーを対象としたWEB調査結果から（共同、平成22年12月、第12回日本救急看護学会）／外傷初期看護実践の内容と成果からの検討（共同、平成22年10月、第12回日本救急看護学会）／ JNTECインストラクターを対象としたWEB調査結果から（共同、平成22年10月、第12回日本救急看護学会）／ OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの検討－OSCE課題の反復練習による達成度の変化－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会）／看護学部の人材育成連携活動の中間評価-臨床看護師の批判的思考と自律性に及ぼす影響（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会）
＜論文査読＞札幌市立大学研究論文集第5巻第1号（1件、札幌市立大学）／日本クリティカルケア看護学会誌第7巻1号（1件、日本クリティカルケア看護学会）
＜学会の抄録査読＞日本クリティカルケア看護学会誌第6巻2号（10件、日本クリティカルケア看護学会）／日本救急看護学会誌第12巻3号（5件、日本救急看護学会）
＜所属学会・研究会等＞日本クリティカルケア看護学会／日本救急看護学会／日本看護科学学会／日本循環器看護学会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／日本災害看護学会／日本集中治療医学会／日本臨床救急医学会

＜社会における活動＞看護職キャリアシステム構築プラン選定委員会ペーパーレフェリー（文部科学省高等教育局）／日本看護系大学協議会　診療行為に関連した死亡事故分析モデル事業の看護系調査員
＜専門職支援・セミナー講師等＞ブラッシュアップセミナーの企画と運営：第6回日本救急看護認定看護師会ブラッシュアップセミナー（平成22年9月4日、救急看護認定看護師、日本救急看護認定看護師会）／北海道保健師助産師看護師実習指導者講習会の講師（6時間）：看護過程（平成22年9月7日・9日、看護職、北海道保健福祉部）／研修会の講師：命を救うフィジカルアセスメント研修会　第1回・第2回（平成23年1月28日・29日、看護職、北海道看護協会）／講習会の講師：急性期疾患患者のフィジカルアセスメント技術（平成22年11月21日、放射線技師、日本救急撮影技師認定機構）／実践講座の講師：救急患者のケアマネージメント実践講座Ⅰ（平成23年3月5日、看護職、日本赤十字北海道看護大学）
＜マスメディア掲載実績＞一般社団法人日本救急看護学会10周年記念誌座談会（平成22年12月、日本救急看護学会10周年記念特集号）

杉田　久子
＜学会発表＞看護大学4年生に対する就職前スキルアップコースが与える影響（共同、平成22年6月、第20回日本看護研究学会地方会学術集会）
＜論文査読＞札幌市立大学研究論文集第5巻第1号（1件、札幌市立大学）／日本看護学会　看護管理論文選考（8件、日本看護学会）
＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本クリティカルケア看護学会／日本集中治療医学会看護部会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／日本救急看護学会／日本看護技術学会／日本赤十字看護学会／千葉看護学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞北海道看護研究学会応募演題の研究指導 3演題：平成23年度北海道看護研究学会研究指導（平成23年2月21日～3月25日、応募演題採択者3題、社団法人北海道看護協会）／勤医協中央病院8東病棟研究指導、研究計画発表会および研究成果発表会　講評：勤医協中央病院平成22年度院内看護計画書発表会講評（平成22年9月18日、看護師、勤医協中央病院）／勤医協中央病院8東病棟研究指導、研究計画発表会および研究成果発表会　講評：勤医協中央病院平成22年度院内看護研究発表会講評（平成23年3月5日、看護師、勤医協中央病院）

田中　広美
＜学会発表＞看護系書籍における注射の技術の状況（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護系大学における注射の技術に関する実態調査（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／青森県報にみる青森県内看護婦養成の歴史（共同、平成22年9月、日本看護歴史学会　第25回学術集会）
＜学会の抄録査読＞看護専門学校教員のメンタルヘルス　他（10件、日中韓看護学会）
＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護教育学学会／日本看護歴史学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞研究指導：高齢者の栄養管理方法に関する実態調査（平成22年6月～平成23年3月、5階病棟、勤医協西区病院）／中間発表会（平成22年8月、1～5病棟、外来、訪問看護、勤医協西区病院）／最終発表会（平成23年2月、1～5病棟、外来、訪問看護、勤医協西区病院）

藤井　瑞恵
＜学術論文＞地域一般住民高齢者・非高齢者における腹部肥満の糖尿病発症リスクに関する検討－端野・壮瞥町研究－（共著、平成23年1月、日本老年医学会雑誌、48巻、1号、pp.71-77）
＜学会発表＞臨床看護師の「看護過程・カンファレンス研修」受講後の思考過程の変化（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護学部と病院の連携活動における評価に向けて～教員の関わりがもたらす効果（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護学部OSCEを評価する－評価基準に影響を与える運営上の要因の検討（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／客観的臨床能力試験（OSCE）へ参加する模擬患者からみた学生の看護実戦能力（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEにおける学生の認識－

参加学生の面接調査より－（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力プログラムの検討－OSCE3月後の課題達成（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／3年次成人看護OSCEにおける模擬患者の心理・身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護OSCEにおける課題の特徴と評価の関係（共同、平成22年12月4日、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力プログラム開発への取り組み（共同、平成22年10月、第42回日本看護学－会成人Ⅰ－学術集会）／3年次看護OSCEにおける模擬患者の疲労に関する研究（共同、平成22年10月、第42回日本看護学－会成人Ⅰ－学術集会）／JICA青年研修にて研修員が「成果」として捉えたもの（共同、平成22年9月、国際看護研究会第13回学術集会）

＜学会の抄録査読＞日本糖尿病教育・看護学会誌Vol.14 特別号（5件、糖尿病教育・看護学会）／第6回日本クリティカルケア看護学会　学術集会抄録集（5件、クリティカルケア看護学会）／第21回日本看護学教育学会学術集会抄録（2件、日本看護学教育学会）

＜所属学会･研究会等＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護教育学学会／日本糖尿病教育･看護学会／日本糖尿病学会／日本老年医学学会／日本循環器病予防学会／日本看護技術学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞看護専門学校・臨床看護師対象の講演会・セミナー企画実施：急変を見逃さない呼吸不全のフィジカルアセスメントの基本／講師：山内豊明（平成22年5月8日、看護専門学校教員、北海道看護教育研究会）／目と手と耳でここまでわかる！フィジカルアセスメントの教え方パートⅡ／講師：山内豊明（平成22年5月9日、看護専門学校教員・臨床看護師、北海道看護教育研究会）

＜マスメディア掲載実績＞連載：看護OSCEの取り組み（中）（10月号、月刊ベストナース）／JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）（10月号、広報さっぽろ）／JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）（11月号、月刊ベストナース）／JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）（平成22年11月27日、毎日新聞、夕刊）／JANS30 社会貢献委員会としての広報活動（市民公開講座）（平成22年11月30日、NHKテレビプラネット）

星　美和子

＜学術論文＞スピリチュアリティ（単著、平成22年4月、看護研究、43巻、2号、pp.123-137）／看護知識の構造における中範囲理論の位置づけ（共著、平成22年4月、看護研究、43巻、2号、pp.99-104）／中範囲理論開発に向けた概念分析イントロダクション（共著、平成22年4月、看護研究、43巻、2号、pp.107-108）／3つの概念分析のまとめ（共著、平成22年4月、看護研究、43巻、2号、pp.151-155）

＜学会発表＞Psychometric Properties of Japanese Spiritual Perspective Scale（単独、平成22年7月、21st STTI International Research Congress）／Reliability and Validity of the Japanese Translated Version of Self-Transcendence Scale（単独、平成23年2月、12th East Asian Forum of Nursing Scholars）

＜学会の抄録査読＞第21回日本看護学教育学会学術集会抄録（2件、日本看護学教育学会）

＜所属学会・研究会等＞Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会／Western Institute of Nursing（USA）

＜専門職支援･セミナー講師等＞看護過程、看護研究の研修:看護研究研修（平成22年6月17日、看護職、札幌南一条病院）／看護過程、看護研究の研修：看護過程研修（平成22年10月19日、看護職、札幌南一条病院）

村松　真澄

＜学術論文＞Self-assesed Impairment of Masticatory Ability and Lowers of Serum Albumin among Community _Dwelling Elderly persons.（共著、平成22年6月、International Journal of Gerontology-June、4巻、2号、pp.89-96）／看護師の口腔ケアにおける意識変化～教育介入を通して～（共著、平成23年1月、第41回日本看護学会論文集看護総合　論文集、41巻、pp.98-100）／Relationships between subjective assessment of oral hearth and medical expenses in community-dwelling elderly persons.（共著、平成23年1月、Gerontology）／特別豪雪地帯に居住する高齢者の主観的幸福感に関する研究－人生の振り返りについての分析－（共著、平成23年3月、SCU JOURNAL OF DESIGN & NURSING、5巻、

pp.77-88）

＜著書＞［一歩進んだ口腔ケア］12章看護師からみた口腔ケア「口腔アセスメントと口腔ケアプロトコール」資料「看護師の口腔ケア教育」（共著、平成22年8月、金芳堂、pp.128-140）／［認知症高齢者の口腔ケアの理解のために］第2章口腔ケアについて理解する「2. 口腔ケアの基本」「3. 口腔ケアに関するQ&A」（共著、平成23年1月、財団法人　口腔保健協会、pp.17-43）

＜その他の論文＞脳神経外科ICUでは歯ブラシをするべき、しないべき？（単独、平成22年4月、日本看護協会出版会、ナーシングトゥディ、25巻、6号、pp.56-57）／知っていると訪問診療はもっと効果的にできる！（単独、平成22年7月、DENTAL PRODUCTS NEWS、183巻、p.2）／無理のない口腔ケアの実践 「簡単で効果的な口腔ケアの方法」（解説）（単独、平成22年7月、日総研出版、臨床老年看護、14巻、4号、pp.60-70）／「前頭側頭型/アルツハイマー型認知症に対応した口腔ケアの評価と訓練法」（共同、平成22年9月、日総研出版、臨床老年看護、14巻、5号、pp.103-110）／看護師が実践する脳を活性化させる口腔ケア（共同、平成22年11月、日総研出版、臨床老年看護、14巻、6号、pp.63-69）／手術時手洗い法の再検討（共同、平成22年11月、北海道医療新聞社、ベストナース、21巻、11号、pp.67-68）／ナースステーション内の電子カルテ用パソコンキーボードの接触表面の汚染度実態調査－ATP拭き取り検査法とアンケートによる環境安全調査を用いて－（共同、平成23年2月、北海道医療新聞社、ベストナース、22巻、2号、pp.68-70）

＜実務関係報告書＞「口腔ケアの導入と標準化を目指して」「看護師が行う口腔アセスメントについて考える」（共同、平成23年3月、国立病院機構運営費交付金（臨床研究事業研究費）平成20-22年度国立病院機構ネットワーク共同研究　他施設共同研究分野「口腔ケアの導入と標準化に関する研究」国立病院機構口腔ケア共同研究班報告書全35頁、pp.18-23）

＜書評＞一歩進んだ口腔ケア書評（単独、平成22年11月、北海道医療新聞社、ベストナース、21巻、11号、p.5）

＜実践報告書＞宗谷地域で多職種で実施・協働できる口腔ケアをテーマに研修会（単独、平成22年9月、北海道医療新聞社、ベストナース、21巻、9号、p.73）

＜学会発表＞S大学老年看護学臨地実習を履修した学生による実習評価（共同、平成22年5月、日本看護研究学会第20回北海道地方会）／地域自立高齢者の薬剤の使用状況と安静時唾液分泌能との関係（共同、平成22年6月、第64回日本口腔科学会学術集会）／地域自立高齢者の咀嚼能力と高次脳機能との関連性（共同、平成22年6月、第21回日本老年歯科医学会学術集会）／地域自立高齢者の安静時唾液分泌能が口腔内環境に及ぼす影響（共同、平成22年6月、第21回日本老年歯科医学会学術集会）／ナースステーション内電子カルテ用パソコンキーボードの接触表面の汚染実態調査～ATP拭き取り検査法とアンケートによる環境安全調査を用いて～（共同、平成22年7月、第41回日本看護学会看護総合）／看護師の口腔ケアにおける意識変化～教育介入を通して～（共同、平成22年7月、第41回日本看護学会看護総合）／看護管理者が副院長の施設と看護部長である施設の職務満足感の比較検討（共同、平成22年8月、第14回日本看護管理学会）／重度認知症患者にたいする受動的音楽療法による快刺激の効果（共同、平成22年9月、第41回日本看護学会老年看護）／地域自立高齢者の口腔内環境に安静時唾液分泌能が及ぼす影響－ベイズ推計を利用した共分散構造分析から－（共同、平成22年9月、第75回日本民族衛生学会）／看護管理者が副院長の施設と看護部長である施設の組織コミットメントと比較（共同、平成22年10月、第48回日本医療・病院管理学会学術総会）／大学生における妊娠・出産に関する口腔保健の知識の実態調査（共同、平成22年11月、第7回日本口腔ケア学会学術集会）／地域自立高齢者の安静時唾液分泌能と口腔環境の実態（共同、平成22年11月、第7回日本口腔ケア学会学術集会）／口腔アセスメント実施者教育に関する検討－相互実習による教育効果　第2報　大規模研修会での効果－（共同、平成22年11月、第7回日本口腔ケア学会学術集会）／大学教員との連携を体験した看護師が捉える大学看護教員の持つべき臨床実践能力（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学会学術集会）／地域高齢者の安静時唾液分泌能とOAGとの関連（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学会学術集会）

＜シンポジウム＞「口腔ケアの標準化を目指して」看護師がする口腔ケア（単独、平成22年11月、第64回国立病院総合医学会）

＜招聘講演＞「多職種で共同できる口腔アセスメントと口腔ケアプロトコール（単独、平成22年11月、

日本老年看護学会第14回学術集会教育セミナー）
＜論文査読＞Invitation to Review for the International Journal of Dental Hygiene（1件、International Federation of Dental Hygienists）
＜学会の抄録査読＞第21回学術集会抄録（2件、日本看護学教育学会）
＜所属学会・研究会等＞日本看護研究学会会員／日本老年歯科医学会会員／日本歯科医学会会員／北海道プライマリーケア研究会会員／北海道歯学会会員／日本公衆衛生学会会員／日本看護科学会会員／日本看護学会／歯科ラクトフェリン研究会会員／日本摂食嚥下リハビリテーション学会評議員／日本老年看護学会会員／日本がん看護学会会員／家族システムケア研究会会員／全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会会員／ドライマウス研究会会員／日本有病者医療学会会員／医療・福祉タウン研究学会特別会員／日本口腔ケア学会評議員／日本口腔科学会歯科・口腔領域看護研究会会員／北海道口腔ケア研究会会員／日本看護管理学会会員／日本医療・病院管理学会会員／一般社団法人在宅療養支援薬局研究会理事
＜社会における活動＞上川中部地域歯科保健推進協議会・旭川口腔ケア普及会幹事（旭川市）
＜地域貢献諸活動＞実行委員及びイベント企画歯輝歯輝セミナーを実施学生（学生7名）（平成22年9月12日、ミニ大通りお散歩祭り実行委員会、ミニ大通りお散歩祭り実行委員会）／健康フェスタで地域住民と健康度測定をして交流した（学生4名）（平成22年9月8日、清田老人福祉センター、清田老人福祉センター）／Clinic-ITL口腔ケアについて講演と学生と意見交換会（平成22年4月24日、北海道医療系学生団体　NORTH Power、北海道医療系学生団体　NORTH Power）／入院療養中の人工呼吸器装着患者への読み聞かせ（学生5名）（平成22年9月10日、井上病院・看護部＆村松）
＜専門職支援・セミナー講師等＞第9回北海道口腔ケアセミナーを企画：第9回北海道口腔ケアセミナー（平成22年7月10日、看護師、歯科医師等、北海道口腔ケア研究会）／口腔ケア研修会：基礎編：簡単口腔ケアをマスターしよう、応用編1：意識障害のある患者のケア　挿管患者の口腔ケア（ICU含め）、応用編2：病棟巡回実習、応用編3：がん口腔ケア（平成22年4月17日・7月17日・9月18日・10月23日、看護師、歯科医師等、東京医科大学看護部）／チーム医療セミナー：これから求められる口腔ケアの実践（平成23年4月18日、看護師、歯科医師等、ムトウ四国）／がん患者の口腔ケア：がん患者の口腔ケアのポイント（平成22年5月15日、看護師、歯科医師等、石川がん化学療法看護師懇話会）／第4回金沢口腔フォーラム「病棟でできる口腔ケアの基礎知識と技術」：病棟でできる口腔ケアの基礎知識と技術（平成22年5月16日、看護師、歯科医師等、金沢口腔フォーラム）／「口腔ケアの基礎知識」：口腔ケアの基礎知識（平成22年6月17日、看護師、歯科医師等、砂川市立病院看護部）／「誰でもできる口腔ケア～多職種連携協働型口腔ケアを目指して」：「誰でもできる口腔ケア～多職種連携協働型口腔ケアを目指して」（平成22年7月3日、看護師、歯科医師等、宗谷地域リハビリテーション広域センター推進会議）／看護共通「口腔ケアと摂食嚥下リハビリテーション」研修会：口腔ケアと摂食嚥下リハビリテーション（平成22年6月5日、看護師、歯科医師等、北海道看護協会）／これからの介護保険施設等における看護リーダー研修会（同上団体）：口腔ケアと摂食・嚥下リハビリテーション（平成22年10月15日、看護師、歯科医師等、北海道看護協会）／北海道看護協会札幌第一支部看護職能委員/選挙管理委員（同上団体）／看護師が行う簡単で効果的な口腔ケア「基礎編」：看護師が行う簡単で効果的な口腔ケア「基礎編」（平成22年9月17日、看護師、歯科医師等、横浜市立大学附属病院）／口腔ケア基本と口腔アセスメントの実践：口腔ケア基本と口腔アセスメントの実践（平成22年11月5日、看護師、歯科医師等、群馬大学病院看護部）／摂食・嚥下リハビリテーション院内認定看護師研修会：食べることにつながる口腔ケア（平成22年11月30日、看護師、歯科医師等、札幌西円山病院）／札幌市立大学専門講座看護師による口腔ケアの実践：看護師による口腔ケアの実践（平成23年2月3日、看護師、札幌市立大学）／看護研究の研究指導（平成22年4月1日～平成23年3月31日、看護職員、札幌徳洲会病院）
＜マスメディア掲載実績＞ミニ大通りお散歩祭りで札幌市立大学看護学部学生がイベント参加（平成22年11月号、北海道医療新聞社、ベストナース）／ミニ大通りお散歩祭りで札幌市立大学看護学部学生がイベント参加（平成22年11月号、北海道医療新聞社、ケア）／苫前町での健康調査をもとに歯と口の健康についての報告会（平成23年1月号、北海道医療新聞社、ベストナース）

山内　まゆみ

＜学会発表＞看護系大学卒業生の実務に関する実態調査　第1報　（共同、平成22年8月、第36回日本看護研究学会学術集会）／看護系大学卒業生の実務に関する実態調査　第2報　（共同、平成22年8月、第36回日本看護研究学会学術集会）／ B医科大学医学部看護学科で助産師基礎教育を受けた卒業生の「基本的助産業務に必須な能力（国際助産師連盟、ICM、1999）」の実態報告（共同、平成22年9月、第40回北海道母性衛生学会学術講演会）／助産師基礎教育における卒業時の到達目標の検討　第1報（共同、平成22年11月、第51回日本母性衛生学会学術集会）／助産師基礎教育における卒業時の到達目標の検討　第2報（共同、平成22年11月、第51回日本母性衛生学会学術集会）／分娩施設までの長期間の移動を要する妊婦への施設勤務看護職による保健指導（共同、平成22年11月、第51回日本母性衛生学会学術集会）／ A report on a trial evalution of the degree of difficulty of Objective Structured Clinical Examination（共同、平成23年2月11日、14th East Asian Forum of Nursing schlars）／北海道における妊婦への出産準備に関する保健指導の実施状況と指導内容（共同、平成23年3月、日本助産学会第1回（第25回）学術集会）

＜所属学会・研究会等＞日本母性衛生学会／北海道母性衛生学会／日本看護研究学会／日本母性看護学会／日本地域看護学会／日本看護科学学会／日本助産学会／北海道母乳の会

＜専門職支援・セミナー講師等＞平成22年度地域保健関係職員研修「母性に関する研修」講師：「母性に関する研修：母乳育児を支援する」（平成22年12月27日、札幌市地域保健関係職員、札幌市）／新生児の蘇生に関する職員研修（共同運営）：「新生児の蘇生」に関する研修会（平成22年9月3日、愛産婦人科の職員、東豊グループ）／北海道勤労者医療協会　教育支援　（北海道勤医協札幌病院）6月22日～ 3月16日まで計7回実施　看護室9部門の研究活動支援：研究活動支援（平成22年度6月～ 3月、勤医協札幌病院看護職、北海道勤労者医療協会）

山本　真由美

＜所属学会・研究会等＞日本母性衛生学会／日本看護科学学会／日本助産学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞看護研究研修会：看護研究の査読指導（平成22年8月4日、研究担当者、北海道がんセンター）／看護研究研修会：看護研究発表会の講評（平成23年3月2日、研究担当者、北海道がんセンター）／北海道看護協会研修会企画、運営：フィジカルアセスメント研修会、他3件（平成23年、北海道看護協会教育委員）／職員研修会：看護に必要な情報と記録　電子カルテ導入に向けて（平成23年3月7日、全職員、旭川医療センター）

渡邉　由加利

＜実践報告書＞教育GPSP養成等部門3年間の成果と課題（平成22年度報告書）（共著、平成23年3月、札幌市立大学）／教育GPSP養成等部門報告（最終報告書）（共著、平成23年3月、札幌市立大学）

＜学会発表＞看護OSCE実施前後における模擬患者の心身の状態に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／ 3年次成人看護OSCEにおける 模擬患者の心理・身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）

＜学会の抄録査読＞第25回日本助産学会学術集会（2件、日本助産学会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本助産学会／日本看護教育学会／日本人間工学会／看護人間工学部会／母性衛生学会／北海道母性衛生学会

＜地域貢献諸活動＞模擬患者組織の支援（平成22年5月・7月・9月・11月・平成23年3月、札幌市立大学模擬患者養成等部門、札幌市立大学模擬患者「桑の会」）

＜専門職支援・セミナー講師等＞臨床指導者研修会：臨床指導者に望むこと（平成22年5月26日）／看護師研修会：看護過程（平成22年11月11日）

太田　晴美

＜著書＞救急外来トリアージ実践マニュアル（共著、平成22年7月、メディカ出版、pp.161-179）

＜学会発表＞当院における院外持ち込み褥瘡の現状報告（共同、平成22年10月、第49回自治体病院学会）／

SSMベースのアクションリサーチを用いた災害看護教育－参加者の思いをもとにした教育（訓練）からの学び－（単独、平成23年2月、第16回日本集団災害医学会学術集会）／SSMベースのアクションリサーチを用いた災害看護教育－ニーズに基づいた教育（訓練）の実践－（単独、平成23年2月、第16回日本集団災害医学会学術集会）／大学教員との連携を体験した看護師が捉える大学看護教員の持つべき臨床実践能力（共同、平成23年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護管理学会／日本医療マネジメント学会／日本集団災害医学会／日本災害看護学会／日本臨床救急医学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞教育委員への教育支援、教育委員研修会講義：北海道大野病院看護部教育支援（平成22年4月～平成23年3月、北海道大野病院看護職、北海道大野病院）／北海道大野病院看護部教育委員研修（平成22年12月9日、看護部教育委員、北海道大野病院）／看護倫理研修：看護倫理研修（平成23年1月、看護師長、札幌厚生病院）／東日本大震災医療支援派遣看護師への教育･支援（平成23年3月、北海道民医連看護職、北海道民医連）

神島　滋子
＜その他の論文＞脳卒中患者の服薬アドヒアランスとは？（単著、平成22年11月、肥満と糖尿病、9巻、6号、pp.893-894）
＜書評＞看護に生かせる海外文献この1本－ストロークユニットにおける看護ケアの組織的背景－ケーススタディによる検討（単著、平成22年8月、ブレインナーシング、26巻、7号、pp.692-692）
＜学会発表＞脳損傷患者のための認知機能評価尺度（LOCFAS）の構成概念妥当性の検討（共同、平成22年8月、第36回日本看護研究学会学術集会）／術後せん妄を発症した患者の体験（共同、平成22年6月、第6回日本クリティカルケア看護学会学術集会）／認知機能評価スケールLOCFASの臨床活用の可能性の模索　脳卒中2事例の経過から（共同、平成22年5月、第4回日本慢性看護学会学術集会）／筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者のケアがバーンアウトに影響を及ぼす要因（共同、平成22年5月、第4回日本慢性看護学会学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発への取組－周手術期看護OSCE課題の作成と実施評価－（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会－成人看護Ⅰ）／3年次看護OSCEにおける模擬患者の疲労に関する研究（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会－成人看護Ⅰ）／老人クラブに参加する高齢者の血圧に影響する主観的要因（共同、平成22年5月、第4回日本慢性看護学会学術集会）／看護学部の人材育成連携活動の中間評価～臨床看護師の批判的思考と自律性に及ぼす影響（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／臨床看護師の「看護過程・カンファレンス研修」受講後の思考過程の変化（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／筋萎縮性側索硬化症患者をケアする看護師のバーンアウトとの関連－看護師の経験年数に焦点をあてて－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価のプログラムの検討－OSCE課題の反復練習による達成度の変化－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／3年次成人看護OSCEにおける模擬患者の心理・身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／A report on a trial eveluation of the degree of difficulty of Objective Structured Clinical Examination（共同、平成23年2月、14th East Asian Forum of Nursing Scholars）
＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本高次脳機能障害学会／日本脳神経看護研究学会／日本クリティカルケア看護学会／日本救急看護学会／国際リハビリテーション研究会／日本慢性看護学会／日本女性医学学会／日本看護学教育学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞看護職者に対する講演：「食べることを支える」（平成22年11月27日、看護職、日本脳神経看護研究学会北海道地方部会）／保健師助産師看護師実習指導者講習会:「看護過程」（平成22年9月10日、看護職、北海道・医療制作局地域医師確保推進室）

河村　奈美子
＜学術論文＞帝王切開産婦のバースプランの検討:出産のイメージやバースプランに対する意見より（共

著、平成23年2月、第41回日本看護学会論文集母性看護、41巻、pp.108-111）／動物園飼育体験における参加者の認知的・心理的変容とその要因の解明（共著、平成23年3月、SCUジャーナル、5巻、1号、pp.45-52）

＜実務関係報告書＞平成22年度札幌市立大学看護学部　キャリア支援委員会活動報告書（共著、平成23年3月、看護学部キャリア支援委員会）／平成20-22年度「質の高い教育推進プログラム（教育）GP」採択事業　学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討　平成22年度最終報告書（共著、平成23年3月、公立大学法人札幌市立大学）

＜学会発表＞Animal-Assisted Therapy for Maltreated Japanese Children（共同、平成22年9月、XVIII ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect）／ Group Therapy for Children at Risk of Child Maltreatment in Japan（共同、平成22年9月、XVIII ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect）／ Support Nrtwork for Youth over Eighteen Years Old who have been Abused in Japan（共同、平成22年9月、XVIII ISPCAN International Congress on Child Abuse and Neglect）／帝王切開産婦のバースプランの検討：出産のイメージやバースプランに対する意見より（共同、平成22年7月、第41回日本看護学会　母性看護）／動物園1日飼育体験による大人と子供の動物に対する心理的変化（共同、平成22年6月、第51回日本人間工学会）／看護大学4年生に対する就職前 スキルアップコースが与える影響（共同、平成22年6月、第20回一般社団法人日本看護研究学会　北海道地方会学術集会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）による学生の評価と今後の課題（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学会学術集会）／精神看護学客観的臨床能力試験（OSCE）トライアルOSCE実施に対する評価（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学会学術集会）／精神看護学客観的能力試験（OSCE）実施に向けた準備および模擬患者との調整（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学会学術集会）／地域自立高齢者の安静時唾液分泌脳とOAGとの関連（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学会学術集会）／社会不安障害をもつ子どもに対する乗馬療法の試み（共同、平成22年11月、第3回日本動物介在教育・療法学会）／動物園1日飼育体験の満足度に影響する要因（共同、平成23年2月、第51回動物園水族館教育研究会）

＜所属学会・研究会等＞日本精神看護学会／日本看護研究学会／日本看護科学会／ヒトと動物の関係学会／日本看護学教育学会／日本動物介在教育・療法学会／日本うつ病学会

＜専門職支援・セミナー講師等＞看護師への研究支援

＜マスメディア掲載実績＞研究室訪問「動物の力医療現場に」にて掲載（平成22年4月1日、読売新聞北海道支社　学生プロジェクト「学STREET」vol.7）

櫻井　繭子

＜学術論文＞北海道の地域包括支援センターに勤務する保健師の職業性ストレスと職務満足度（共著、平成23年3月31日、北海道公衆衛生学雑誌、24巻、2号、pp.49-56）

＜調査研究報告書＞道内地域包括支援センターで勤務する社会福祉士の抑うつ症状とその関連要因（共著、平成23年3月31日、北海道公衆衛生学雑誌、24巻、2号、pp.111-116）／北海道内の地域包括支援センターに勤務する3職種の抑うつ症状とその関連要因（共著、平成23年3月31日、北海道公衆衛生学雑誌、24巻、2号、pp.117-124）

＜その他の論文＞シンポジウム「働きがいのある職場環境を考える～看護の専門性から～」（共同、平成23年3月1日、日本産業衛生学雑誌、53巻、pp.50-51）

＜シンポジウム＞産業看護部会企画「働きがいのある職場環境を考える～看護の専門性から」座長（共同、平成22年10月16日、第20回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本産業衛生学会／日本地域看護学会／日本公衆衛生学会／日本看護研究学会／日本産業精神保健学会／日本精神保健看護学会／北海道公衆衛生学会

＜地域貢献諸活動＞こころの健康相談事業の相談員活動、NPO法人理事・庶務担当として組織運営（平成22年4月1日～平成23年3月31日、NPO法人こころ、NPO法人こころ）

＜専門職支援・セミナー講師等＞産業看護職を対象とした実務研修会の企画・運営・インストラクター：特定保健指導に関してⅢ　実践してあれこれ～具体的な事例を通して～（平成23年2月4日、産業看護職、

日本産業衛生学会北海道地方会産業看護部会）／研究教育支援　（教育GP：大学・病院人材育成協力連携部門）：心臓血管センター北海道大野病院　研究教育支援（平成22年度、看護職、心臓血管センター北海道大野病院）

多賀　昌江

＜その他の論文＞妊娠24週未満の死産児を安置する棺の基礎的研究（共著、平成22年8月、北海道母性衛生学会誌、39巻、1号、pp.40-42）

＜学会発表＞A Report on a Trial Evaluation of the Degree of Difficulty of Objective Structured Clinical Examination（共同、平成23年2月、14th East Asian Forum of Nursing Scholars）

＜所属学会・研究会等＞日本助産学会／日本助産師会／文化人類学会／北海道民族学会／日本渡航医学会／国際看護研究会／日本母性衛生学会／北海道母性衛生学会／日本人間工学会／看護人間工学部会／日本看護科学学会／日本看護教育学会

＜マスメディア掲載実績＞医療ルネスサンス№4839 続・赤ちゃんを亡くして⑤（平成22年5月17日、読売新聞、朝刊）

照井　レナ

＜学術論文＞在宅分野の看護技術に関する学生の実習経験状況と臨地指導の諸要因（共著、平成23年3月、札幌市立大学研究論文集、5巻、1号、pp.53-60）

＜調査研究報告書＞IT活用による遠隔看護システム（E-KANGO）の汎用性向上を目的とする調査研究（共著、平成23年3月、公立大学法人　札幌市立大学、pp.30-34）

＜その他の論文＞長期人工呼吸器装着患者のケア　第16回職種別心構え③訪問看護師（単著、平成22年10月、『呼吸器ケア』メディカ出版、8巻、10号、pp.2-8）

＜学会発表＞看護職の倫理的感受性を高める事例検討会の取り組み　第一報（共同、平成22年6月、日本看護倫理学会第3回年次大会）／看護職の倫理的感受性を高める事例検討会の取り組み　第二報（共同、平成22年6月、日本看護倫理学会第3回年次大会）／在宅ケア従事者の自立型継続学習モデル構築に向けての基礎調査（共同、平成22年7月、日本看護学教育学会第20回学術集会）／在宅ケア従事者の自立型継続学習モデル構築に向けた教育支援（共同、平成22年7月、日本看護学教育学会第20回学術集会）／E-KANGO　北海道における訪問看護利用者を対象とした遠隔看護ニーズとIT環境調査（共同、平成22年9月、日本ルーラルナーシング学会第5回学術集会）／E-KANGO　北海道における訪問看護事業所を対象とした遠隔看護ニーズとIT環境調査（共同、平成22年9月、日本ルーラルナーシング学会第5回学術集会）／大学教員との連携を経験した看護師が捉える大学教員の持つべき臨床実践能力（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会）／下腿骨折により入院した中年期にある患者の退院に向かう心理過程 －折り合いという概念に着目して－（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会　地域看護）／Electronic distance nursing system-E-KANGO－model simulation and assessment-（共同、平成23年3月、11th National Rural Health Conference）／ITを活用した遠隔看護システム（E-KANGO）に対するシミュレーション後の利用者評価（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会学術集会）／日本と中国河北省における高齢者在宅ケアの比較（共同、平成23年3月、第15回日本在宅ケア学会学術集会）

＜学会の抄録査読＞第18回　日本精神障害者リハビリテーション学会集（11件、日本精神障害者リハビリテーション学会）

＜所属学会・研究会等＞日本公衆衛生学会／北海道公衆衛生学会／日本地域看護学会／日本在宅ケア学会／日本看護科学学会　第30回学術集会事務局／日本人間工学看護人間工学部会／日本人間工学会／日本プライマリケア学会／日本医療病院管理学会／日本看護教育学学会／北海道医療大学看護福祉学部学会／日本看護倫理学会／日本ルーラルナーシング学会

＜地域貢献諸活動＞認定NPO申請・取得（平成22年4月～平成23年3月、認定NPO法人　飛んでけ車いす柳生一自、認定NPO法人飛んでけ車いす）

＜専門職支援・セミナー講師等＞定例会運営、領域部会運営、会計：定例会運営、領域部会運営、会計（平成22年4月～平成23年3月、北海道医療大学　CNSの会会員、北海道医療大学　CNSの会）／研修企画運営：

研修企画運営（平成22年4月～平成23年3月、夕張市在宅ケア従事者、ゆうばりねっ！とまなび隊）／看護研究支援：看護研究支援（平成22年4月～平成23年3月、勤医協札幌病院看護職、勤医協札幌病院）

原井　美佳

＜その他の論文＞特別豪雪地帯に居住する高齢者の主観的幸福感に関する研究－人生の振り返りについての分析－（共著、平成23年3月、札幌市立大学、5巻、1号、pp.77-88）

＜実務関係報告書＞札幌市立大学平成22年度 成果報告会　OSCE3年目の取り組み－成果と展望（共著、平成23年3月、GP公開企画班）／学年別OSCEの到達度評価と教育方法の検討　平成22年度最終報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学看護学部）

＜学会発表＞JICA青年研修にて研修員が「成果」として捉えたもの（Outcome which were presented by participants at a JICA training program for young leaders）（共同、平成22年9月、国際看護研究会第13回学術集会（第58回 国際看護研究会））／札幌・福井における冬季入浴時の室温変化に対する高齢者の血圧変化（共同、平成22年9月、平成22年度空気調和・衛生工学会学術講演会）／地域自律高齢者の安静時唾液分泌とOAGとの関連（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／札幌・福井における高齢者の冬季入浴時の室温変化に対する血圧変化（共同、平成22年10月、第69回日本公衆衛生学会総会）

＜所属学会・研究会等＞日本老年看護学会／日本看護管理学会／日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本公衆衛生学会／愛知排泄ケア研究会／日本コンチネンス協会／日本産業カウンセラー協会／札幌市介護支援専門員連絡協議会／福祉住環境コーディネーター協会／日本死の臨床研究会／日本褥瘡学会北海道地方会／日本老年泌尿器科学会／日本女性骨盤底医学会

＜社会における活動＞第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会実行委員／第30回日本看護科学学会学術集会懇親会員／日本建築学会北海道支部特定課題研究委員会 住環境影響の実態把握研究委員会委員／第16回日本看護管理学会学術集会準備委員

＜地域貢献諸活動＞学生に対する広報・取りまとめ・団体および学生との調整・行事参加（平成22年5月17日～ 10月17日、桑園地区連合町内会、桑園地区連合町内会）／桑園ふれあい登山（平成22年6月13日、桑園地区連合町内会）／桑園地区運動会（平成22年9月5日、桑園地区連合町内会）／行事への学生ボランティアの参画調整（平成22年5月17日～ 10月17日、17名、桑園連合町内会）／桑園ふれあい登山（平成22年6月13日、6名、桑園連合町内会）／桑園地区運動会（平成22年9月5日、10名、桑園連合町内会）

＜専門職支援・セミナー講師等＞講義：認知症看護について　大学教育の立場から考えること－認知症の方を前になぜ困惑するのか－（平成23年2月28日、看護師をはじめとする全職員100名）／研究支援：外来患者の満足度調査から見えたもの－より良い質の向上・サービスの充実を目指して－（平成22年4月1日～平成23年2月17日、札幌中央病院看護師、札幌市立大学教育GP）

渕本　雅昭

＜その他の論文＞看護師が実践する脳を活性化させる口腔ケア（単著、平成22年11月、日総研出版、17巻、6号、pp.63-69）／ソニックケアーを用いた口腔ケアによる患者のQOL向上を目指した取り組み（単著、平成22年7月、Dent Prod News、183巻、p.3）／決定版！ Q&Aでわかる長期人工呼吸器装着患者のケア・職種別心構え（1）看護師（共著、平成22年8月、メディカ出版、8巻、8号、pp.2-6）／決定版！ Q&Aでわかる長期人工呼吸器装着患者のケア・職種別心構え（2）理学療法士（共著、平成22年9月、メディカ出版、8巻、9号、pp.2-6）／決定版！ Q&Aでわかる長期人工呼吸器装着患者のケア・職種別心構え（3）訪問看護師（共著、平成22年10月、メディカ出版、8巻、10号、pp.2-8）／決定版！ Q&Aでわかる長期人工呼吸器装着患者のケア・実践報告（1）長期人工呼吸ケア：成人編（1）（共著、平成22年11月、メディカ出版、8巻、11号、pp.2-6）／決定版！ Q&Aでわかる長期人工呼吸器装着患者のケア・実践報告（2）長期人工呼吸ケア：成人編（2）（共著、平成22年12月、メディカ出版、8巻、12号、pp.2-8）／決定版！ Q&Aでわかる長期人工呼吸器装着患者のケア・実践報告（3）長期人工呼吸ケア：小児編（共著、平成23年1月、メディカ出版、9巻、1号、pp.2-7）／決定版！ Q&Aでわかる長期人工呼吸器装着患者のケア・実践報告（4）在宅人工呼吸ケア（共著、平成23年2月、メディカ出版、9巻、2号、pp.2-8）

＜学会発表＞クリティカルな状況にある意識障害患者の意識回復に向けた実証的研究～複数の感覚刺激を用いた口腔ケア～（単独、平成22年7月、第6回日本クリティカルケア看護学会）／3年次成人看護OSCEにおける模擬患者の心理・身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／成人看護OSCEにおける模擬患者の疲労に関する研究（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会成人Ⅰ）／虚血性心疾患患者の発作時の自己対処を支援するフローチャート式退院指導資料の検討（共同、平成22年7月、第6回日本クリティカルケア看護学会）／看護OSCE実施前後における模擬患者の心身の状態に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの検討－OSCE課題の反復練習による達成度の変化－（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護学部の人材育成連携活動の中間評価～臨床看護師の批判的思考と自律性に及ぼす影響（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／臨床看護師の「看護過程・カンファレンス研修」受講後の思考過程の変化（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜シンポジウム＞クリティカルケア領域で倫理的感受性を育むためには ～基礎教育を活かし現任教育を考える～（単独、平成22年7月、日本クリティカルケア看護学会）
＜学会の抄録査読＞第6回日本クリティカルケア看護学会学術集会（12件、日本クリティカルケア看護学会）
＜所属学会・研究会等＞日本クリティカルケア看護学会／日本救急看護学会／日本集中治療医学会／日本臨床救急医学会／日本脳神経看護研究学会／日本看護科学学会／日本看護教育学会／日本医療教授システム学会／ Society for Simulation in Healthcare
＜専門職支援・セミナー講師等＞心肺蘇生技術講習：AHA-BLS Healthcare provider course（平成22年8月7日～8日、医師、看護師、American Heart Association）／救急医療における多職種連携に関する講義：第4回救急撮影講習会（平成22年11月21日、診療放射線技師、日本救急撮影技師認定機構）／急変時の対応に関する講義：急変時の対応（平成22年11月30日、看護師、大野病院）

三上　智子
＜学術論文＞Molecular evolution of vertebrate Toll-like receptors：Evolutionary rate difference between their leucine-rich repeats and their TIR domains（共著、平成23年3月、札幌医科大学）／ A nested leucine rich repeat（LRR）domain：The precursor of LRRs is a ten or eleven residue motif（共著、平成22年9月、BMC Microbiology）
＜実践報告書＞札幌市立石山小学校における「地域・保護者と連携した健康･安全教育の推進」（共著、平成23年3月、札幌市立石山小学校・札幌市立大学）／札幌市立桑園小学校における「地域・保護者と連携協議した健康･安全教育の推進」（共著、平成23年3月、札幌市立桑園小学校・札幌市立大学）
＜学会発表＞脊椎動物のトール様受容体Toll-like receptorにおける分子進化（共同、平成22年6月、第10会日本蛋白質科学会年会）／新生児型感性教材モデル一次試作品のホールディングの分析（共同、平成22年6月、日本看護研究学会 第20回 北海道地方会学術集会）／ e-Learningを用いた小児看護学領域の自己学修教材の利用状況からみた有効性の検討（共同、平成22年6月、日本小児看護学会 第20回学術集会）／ Toll-like receptorにおける分子進化（共同、平成22年7月、第47回日本生化学会北海道支部例会）／新生児型感性教材モデルの開発（共同、平成22年9月、第12回日本感性工学会大会）／客観的臨床能力試験（OSCE）へ参画する模擬患者からみた学生の看護実践能力（共同、平成22年12月、第30回 日本看護科学学会学術集会）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回 日本看護科学学会学術集会）／ OSCEを用いた小児看護実践能力の評価－平成21年度課題の実施状況と成績の分析－（共同、平成22年12月、第30回 日本看護科学学会学術集会）／ OSCEにおける学生の認識－参加学生の面接調査より－（共同、平成22年12月、第30回 日本看護科学学会学術集会）／ OSCEの評価基準に影響を与える要因の検討（共同、平成22年12月、第30回 日本看護科学学会学術集会）／新生児型感性教材モデルの開発に関する基礎的検討 第4報 試作モデル表面温度と被験者の手の表面温の関係（共同、平成22年12月、第30回 日本看護科学学会学術集会）／脊椎動物Toll-like receptor（TLR）の分子進化の研究（共同、平成22年12月、第83回 日本生化学会大会）／ A report on a trial evaluation of the degree of difficulty of Objective Structured Clinical Examination（共

同、平成23年2月、14th East Asian Forum of Nursing Scholars（EAFONS））
＜所属学会・研究会等＞日本看護科学学会／日本看護学教育学会／日本看護研究学会／日本生化学学会／日本母性衛生学会／北海道小児保健研究会／日本小児看護学会／日本タンパク質学会
＜地域貢献諸活動＞小樽市最上地区ボランティア清掃活動（平成22年6月、小樽市最上小学校エコクラブ、イオンチアーズクラブ）／盲導犬支援活動（平成22年9月、小樽市最上小学校エコクラブ、イオンチアーズクラブ）
＜専門職支援・セミナー講師等＞中央区健康フェスタへのポスター展示：札幌市立大学活動紹介（平成22年9月、札幌市民、「けんこうフェスタ2010inちゅうおう」実行委員会）

工藤　京子
＜実務関係書＞キャリア支援委員会活動報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.43-44）
＜学会発表＞看護大学4年生に対する就職前スキルアップコースが与える影響（共同、平成22年6月、第20回日本看護研究学会北海道地方会学術集会）／在宅酸素療法を行っている夫と共に生活する妻の体験（単独、平成22年6月、第4回日本慢性看護学会学術集会）／看護OSCE実施前後における模擬患者の心身の状態に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／3年次OSCEにおける模擬患者の心理･身体的疲労に関する研究（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの開発への取り組み（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会成人看護Ⅰ学術集会）／3年次看護OSCEにおける模擬患者の疲労に関する研究（共同、平成22年10月、第41回日本看護学会成人看護Ⅰ学術集会）／OSCEを用いた成人看護技術実践能力評価プログラムの検討（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護学部の人材育成連携活動の中間評価（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／臨床看護師の「看護過程・カンファレンス研修」受講後の思考過程の変化（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜所属学会・研究会等＞日本創傷治癒学会／日本呼吸ケア・リハビリテーション学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本慢性看護学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞看護研究指導：看護研究（平成22年4月～12月、臨床看護師、札幌中央病院）／患者会の役員会出席、相談など：低肺の会の運営（1年間、患者会会員、北海道低肺の会）

鶴木　恭子
＜学術論文＞重曹による清拭が皮膚表面に与える影響（単著、平成22年12月、日本看護技術学会誌、9巻、3号、pp.50-55）
＜実務関係書＞キャリア支援委員会活動報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.5-24）
＜実務関係報告書＞教育GP評価実践部門活動報告書（共著、平成23年3月、札幌市立大学、pp.54-60）
＜学会発表＞炭酸水素ナトリウム（重曹）使用による清拭が皮膚表面に（単独、平成22年8月、第36回日本看護研究学会学術集会）／重曹使用による清拭が皮膚に与える影響（単独、平成22年8月、第18回看護人間工学研究会研究発表会）／OSCEの評価基準に影響を与える要因の検討（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／OSCEにおける学生の認識ー参加学生の面接調査よりー（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／看護OSCEにおける課題の特徴と教員・模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）／客観的臨床能力試験（OSCE）へ参画する模擬患者による評価の関係（共同、平成22年12月、第30回日本看護科学学会学術集会）
＜所属学会・研究会等＞日本看護研究学会／日本看護科学学会／日本看護技術学会／日本人間工学会看護人間工学部会／日本看護学教育学会
＜専門職支援・セミナー講師等＞専門職講座の企画・運営「臨床看護師のための「指圧マッサージ実践講座」」：臨床看護師のための「指圧マッサージ実践講座」（平成22年9月6日、看護職、札幌市立大学）

檜山　明子

＜学術論文＞看護師の転倒予防ケアにおける倫理的問題とクリティカルシンキングの関係（単著、平成22年10月、看護総合科学研究会誌、12巻、2号、pp.3-13）

＜学会発表＞看護師の転倒予防ケアにおける倫理的問題の解決と個人特性の関係（共同、平成22年8月、第36回日本看護研究学会学術集会）

＜所属学会・研究会等＞日本看護研究学会／日本看護倫理学会／日本看護学教育学会／日本看護科学学会／看護総合科学研究会

＜専門職支援・セミナー講師等＞研究教育支援活動（2部署の研究指導）：研究教育支援活動（平成22年4月1日～平成23年3月31日、看護職、札幌徳洲会病院）

編集後記

平成22年度札幌市立大学年報第5号は、デザイン学部と看護学部の完成年度後、昨年度に開設された札幌市立大学大学院デザイン研究科と看護学研究科、及び助産学専攻科に関わる内容を加え、これまでの学部だけの内容より教育・研究活動等も一層発展させたものである。目次は基本的に変更してはいないが、教育情報等の公式HP上での公開等で記載内容はより精査され、平成22年度における本学の教育・研究・社会・キャリア支援・アドミッション活動、図書館活動、役員会等の運営活動などの全体を一目で俯瞰できる内容となっている。

昨年度総務委員会から担当を引継いだ時に、教員に関わる研究活動と社会活動の項目を教員評価制度特別委員会が定めた教員活動実績申告書の項目に準じたものに変更したが、今年度は、さらに教員の個人業績及び活動を巻末に集約するレイアウトに変更した。昨年度から広報委員会年報チームで内容の充実を目指しながら、教員や担当事務職員の負担軽減を図り、作成期間の短縮を目指しているものの明確な結果を残せてはいない。しかし、内容の精度は確実に向上していると思われる。

次年度の平成23年度札幌市立大学年報第6号は、基本的には公式HP上での公開を中心とするよう検討が進められている。公表・公開方法が時とともに変化するのは致し方ないけれども、本学年報が社会に対して伝えなくてはならない内容は大きく変わることはないであろう。

開学精神を踏まえて、開学から現在までの歩みをできるだけ多くの方々に見ていただけるように内容の充実には努力を惜しまない覚悟である。

最後に、年報編集にあたり、ご多忙の中、原稿を執筆いただきました教職員の方々にお礼を申し上げたい。

平成23年12月

広報委員会委員長　羽　深　久　夫

「札幌市立大学のシンボルマークについて」
札幌市立大学のシンボルマークは、
英国の著名なクリエイティブグループtomatoの
ジョン・ワーウィッカー氏によってデザインされました。
雪の結晶のイメージは、札幌の自然環境を特徴づけると共に、
大学での学習過程を図像的にあらわしたものです。（登録商標）

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学年報　平成２２年度　第５号

編　　集　広報委員会
編集責任者　羽深　久夫（広報委員会委員長）
発　行　日　平成23年12月27日
発　　行　札幌市立大学
〒005-0864　北海道札幌市南区芸術の森1丁目
TEL：011-592-2300　FAX：011-592-2369
URL　http://www.scu.ac.jp
E-mail：nenpo@scu.ac.jp

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY